カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】キリスト者同士の対話と尊敬
【布教の意向】平和の源泉・ご降誕の神秘
【日本の教会の意向】二〇〇〇年の大聖年

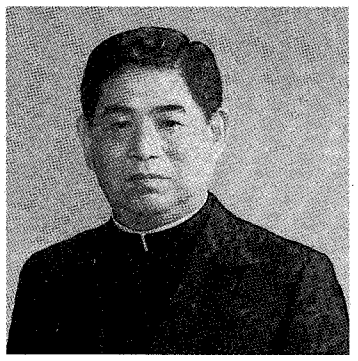
年間テーマ

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる

キリスト降誕から2000年

新しい時代の始まりに 司教メッセージ

神の働きに協力する者となろう



1月1日

福岡教区長松永久次郎司教は、二〇〇〇年大聖年の年頭に当たってメッセージをおくり、全教区民が最高の礼拝であるミサと聖体を大切にし、そこからエネルギーを汲みとって神の国の建設に励むべきことを述べられた。

新年の到来おめでとうございます。今年は西暦二千年で、大聖年です。この一年間のために神様の特別のお恵みをお祈りいたしましょう。

一、ご聖体の秘跡の記念

この大聖年は特に、ご聖体の記念がなされます。ローマでの「聖体大会」も予定されています。そこで先ずわたしたちは、ご聖体の秘跡の持つ豊かな意味合いを考えてみることにいたしましょう。

教会の基本的任務の一つは、神への礼拝です。そしてミサ聖祭とご聖体拝領がカトリック教会の基本的・公的礼拝です。

ミサとご聖体を通して礼拝が行われるとき、神に最も相応しい礼拝が捧げられ、わたしたちはこの礼拝に参与する者となります。この基本的礼拝の意味合いを、わたしたちは最も大切にすべきです。

神は天地の創造主であり、総てのものはその支配下にあります。大自然の総ての営みも、人間の総ての活動も、時の歩みも、最終的にはそのみ手の中にあります。そして神は万物に対して、特に人間に対して、父としての力強い取り計らいをしてくださいます。この神を相応しく尊ぶことは人間の最も重要な務めであり、最高の行為なのです。

キリストは十字架の犠牲によって神に対する最高の礼拝を完了されました。そして、それをミサ聖祭によって、続行するよう弟子たちに命じられました。わたしたちはご聖体を相応しく受けることで、この礼拝行為に深く参加いたします。このことを良く認識して、特にこの大聖年の間、相応しく参加する様に努めなければなりません。

二、新しい時代の始まり

わたしたちは二千年を迎えます。二千年といっても一つの新しい年の初めでしかありませんが、平凡な時の流れの中で、やはり記念すべき年となります。キリストの誕生から数えて二千年が終わり、第三千年期が始まるからです。歴史上の一つの大きな区切りです。キリストの救いの時が始まり、神の国建設の働きが正式に開始されて、二千年になるのです。お恵みに欠けることはありませんでしたが、わたしたちの努力には、欠けることがしばしばだったのではないでしょうか。与えられた新しい年に当たり、今度こそわたしたちは忠実にその働きに協力する者とならねばならないのです。

キリストの肉と血は、わたしたちの命の糧です。エネルギーの源です。わたしたちはご聖体拝領によって、キリストの命に与り、力を汲み取って、神の国建設の重大な使命を忠実に果たしていかねばなりません。年頭に当たり心を引き締めねばならない所以です。

三、聖母マリアに委ねる

この一年の間に種々のことが起こりえます。懸命に準備し、起こるかもしれないことに用意する必要があります。しかし、わたしたちは前もって総てを見通すことはできません。そこで、わたしたちの母である聖母マリアのみ手にすべてを委ねて、護ってもらいましょう。

聖年は発想の上で、旧約時代のヨベルの年とつながりがあるという。借金で土地を手放した者も五十年目になると、無条件でその土地を返してもらえる。レビ記にあるこの制度のありがたいところは、その借金が何の理由でできたかは問われないしいということである。

病気の親を世話し続けて積もった借財も、博打と酒の果てに首が回らなくなったのも区別がない。皆、土地を返してもらって、そこで全く新しく生活を始めることができるのである。

司祭としての十一年を振り返ると、ずいぶん借金がたまってしまったという気がする。首が回らなくなったという感じさえある。失敗の記憶のことである。宣教に司牧に、自分なりにいろいろなことに手をつけてみた。しかし、人間同士の評価はともかくも、神の国のための実りということになれば、多くのことが失敗か中途半端に終わった。神様はそれをさえ善く用いてくださったとは知っているが、自分の中にはうずく古傷としてある。実りがなかった理由をあれこれ挙げることはできるが、私自身が「神のことを思わず、人間のことを思っていた」ことが大きな原因の一つであると認めざるをえない。だから、それは罪の記憶でもある。司祭仲間ならば同感してくださる方もあるだろうと思う。

その失敗の記憶が私を縛って、新しくまた何かに手をつける清新な意気を殺いでしまっていると感じる。つまり、働く土地が狭められて、押し込められてしまっているのである。そこでこの大聖年に、失ってしまった土地を返していただいて、その土地で新たに修道者として、司祭として生活を始めることができるとすれば素晴らしいことだと思う。

日本の教会全体にも失敗と挫折の記憶が積み重なって、企画はいろいろあっても、実は足取りが重くなっているような気がする。働くための広い土地を返していただいて、新たに宣教を始めたいものである。

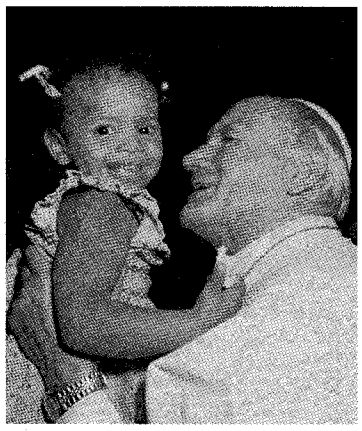
御受難会司祭（福岡黙想の家）

時の話題

ヨベルの年　新たな宣教を始めたい

来住　英俊

地にはみ心にかなう人に平和



これは二千年前にイエス・キリストの降誕に立ち会った天使たちが高らかに宣言した言葉です。大聖年が開幕するクリスマスの夜、私たちはこの言葉を聞くのです。

平和は、神からの恵みとして請い願わねばならないだけでなく、日々築き上げなければならないものです。

戦争は人類の敗北

二十世紀は、戦争や紛争、難民、飢餓、低開発、環境破壊など多くの苦しみに直面しました。そして、戦争は問題の解決ではなく、さらなる戦争の原因となることを教えました。一方、人類の名誉は平和のために働いた人々によって保たれました。

一つの家族となるよう召され

人類全体が一つの家族となるように召されていると気づく時のみ、平和が実現します。

人類に対する犯罪

人権に対する攻撃は、人類の良心そのものへの攻撃であり、人類自体に対する攻撃です。人類に対する犯罪を一国の内政問題と見なすことはできません。

人道的支援を受ける権利

すべての紛争においてどんな場合でも、苦しんでいる市民や難民に人道的支援を受ける権利があります。また、紛争当事者間の交渉が、国際的、地域的組織による適切な仲介と和平工作を通して行われることが最も重要です。

人道的介入

明らかに一般市民が不当に攻撃され、政治努力や非暴力の抵抗がほとんど役に立たない時、攻撃者を武装解除するために人道的な介入をすることは正当なことです。しかし、それは国際法に従い、国際的な組織の保証のもとに行われるべきです。

連帯のうちに平和

平和は、戦争がないだけでは十分でなく、地球資源の普遍的用途の原理に基づく公正さや真理・正義・連帯なしに真の平和はあり得ない。数えきれないほどの人が貧困の中にあります。

経済構造再考の緊急な必要性

経済や財政の専門家、また政治指導者に、経済活動や関連する政策の目標として、倫理的側面も省みながら、すべての人と人類全体の利益が据えられるようお願いします。

開発モデルの形態？

いまだに十四億以上の人々が極貧の状態にある事実は、開発政策を緊急に再考する必要性を示すものです。特に、貧困国の対外債務を解決しつつ、飢餓や疾病、低識字率、環境破壊と闘うための財政確保をしていくことが必要です。

イエス、平和の恵み

イエスは私たちの平和であり、すべての人のための平和の恵みお恵みの導きを必要とします。そのための総てのお恵みを年頭にお祈りすることは、真に必要で望ましいことと思います。神の母聖マリアにすべてを捧げ、そのみ手に委ねましょう。

年頭に当たり、信頼の心を込めて、すべての方々に幸せを願い、それぞれが与えられた使命を、それぞれの場で忠実に果たして行かれるよう祈ります。そして年の終わりには、快い充実感を恵まれるよう祈念いたします。

地にはみ心にかなう人に平和

要約

明らかに一般市民が不当に攻撃され、政治努力や非暴力の抵抗がほとんど役に立たない時、攻撃者を武装解除するために人道的な介入をすることは正当なことです。しかし、それは国際法に従い、国際的な組織の保証のもとに行われるべきです。

連帯のうちに平和

平和は、戦争がないだけでは十分でなく、地球資源の普遍的用途の原理に基づく公正さや真理・正義・連帯なしに真の平和はあり得ない。数えきれないほどの人が貧困の中にあります。

経済構造再考の緊急な必要性

経済や財政の専門家、また政治指導者に、経済活動や関連する政策の目標として、倫理的側面も省みながら、すべての人と人類全体の利益が据えられるようお願いします。

開発モデルの形態？

いまだに十四億以上の人々が極貧の状態にある事実は、開発政策を緊急に再考する必要性を示すものです。特に、貧困国の対外債務を解決しつつ、飢餓や疾病、低識字率、環境破壊と闘うための財政確保をしていくことが必要です。

イエス、平和の恵み

イエスは私たちの平和であり、すべての人のための平和の恵みです。教会はキリストのうちに「秘跡」となり、世界のうちにあって平和のしるしと道具になる召命と使命を受けています。

平和のために寛大に働く

平和を築き上げていくには、家庭の両親、教職者たち、働く人たち、政治指導者、国際機関、非政府組織、信仰ある人たちの貢献が必要です。いつも平和が、すべての人のために、すべての人と共にあるように祈ります。

一九九九年十二月八日
バチカンにて

「世界平和の日」教皇メッセージ　要約

地にはみ心にかなう人に平和

みちくさ

年賀状を書く季節になって前にいただいた年賀状をしらべていたら、「賀正」のゴム判上に「新年あけましておめでとう」と書いてあるのが見つかった。うっかりしたのか、賀正だけでは素っ気ないと思ったのか、完全なダブリ。つまり不要な重ね言葉である。書き言葉に限るが、「賀正」もりっぱに独立した新年のあいさつだ▼この二重語、日常生活ではそう珍しいことではなさそうだ。「皆様方」は選挙運動での演説や、あいさつの中でもひんぱんに耳にする。気づく度にメモしていたら、たちまち数十語になった。けさの朝刊、今夜の夕食、女の婦警に白い白球、まるい丸薬などは漫才のネタにすぎない。おれのマイカーに私の自宅、若いヤングマンや老いの老醜などは、マアご愛嬌といったところか▼「車内の中では携帯電話のご使用はご遠慮ください」とは最近聞いたばかり。だれも笑わなかった。気をつけていると、新聞・雑誌・テレビなどでもこの種の二重語を見聞する。一つの変化として「被害をうける」が「被害にあう」となっているのが目立つ▼マスコミの世界で時たまあるのは、「満天の星空、先ず第一に、一ばん最初に、第一回目、従来から、目下のところ、○年間のあいだ、轍のあと、各県ごと、犯罪を犯す…」など。原稿を読むアナウンスの場合は問題ないが、いわゆるテレビリポーター、キャスターたちのトークには、「後で後悔する」ことになるであろう二重語は珍しくない▼あげ足とりみたいなことを書いていたら、詩編の「新しい歌を歌おう」だの聖パウロの「われよい戦いを戦い…」というのも、なんとなく、二重語が変な日本語に聞こえてくるから妙だ。〈H〉

主のご降誕と新年のお慶びを申しあげます

二〇〇〇年大聖年元旦　神の母聖マリアの日に

教区長　松永　久次郎司教

〈福岡地区〉

司教館　青木　悟
松井　忠之
田中　重治
山川　辰幸
黒川　博
杉原　寛信
平田　三郎司教
中浜　一男
堤　敏雄
森山　信三
牧山　勝美
三村　邦明
浦川　務
W・マヘル
乾　盛夫
T・ドワイヤー
堤　要吉
浦口　均
牧山　美好
小池　如安
片岡　哲夫
山田　成章
平田　敬

糸島
今村
大楠
大牟田
小郡
久留米
古賀
笹丘
浄水通
大名町
高宮
茶山
西新

箱崎
光丘
二日市
本郷
吉塚
老司
大神学院
M・ジラード
T・リシャール
J・バイヨ
H・キニュウ
山元　眞
岩永　義人
硫黄　隆二
畠山　七郎
大山　悟
Z・イエール
高木　善行
高見　三明
牧山　強美
櫻井　尚明
白浜　満
中村　彰
永富　久雄
百村　等
塩谷　恵策
梶山　義夫
G・ケルクマン
A・セトアイン
浦　善孝

神学院
聖パウロ会
イエズス会
ファミリーセンター

御受難会　S・ライル
鈴木　忠一
来住　英俊
M・ヴェッター
C・ブレシュット
司牧センター（美野島）
M・コース
カルメル会　N・タッサン

〈北九州地区〉

飯塚　山下　正
黒崎　L・ベリオン
C・バスチ
小倉　平田　寛
平田　三好
新田原　竹森　勇
天神町　M・ラバルタ
戸畑　深堀　勝人
直方・田川　中村　信哉
水巻　J・ガイヤール
門司　下町　豊重
（門司港）牧山　重光（管理者）
湯川　浦　俊雄
行橋　川上　惣一
若松　山頭　原太郎
八王寺（パリ外国宣教会）
L・デシャンブ

〈佐賀地区〉

伊万里　C・ガザルディ
鹿島　L・マネルバ
唐津　V・チェリッツア
佐賀　G・フェラーラ
多久　F・マスフォルダ
武雄　A・テムペリーニ
鳥栖　A・ベッラ
馬渡島　R・マグリン
呼子　田川　清美
シトー会　伊東　成晃
ロザリオの園　C・ミケレーナ
A・アレグリーニ

〈熊本地区〉

荒尾　K・オマホニ
大江・崎津・本渡　川添　猛
川原　拓也
帯山　V・ヤングキャンプ
菊池　R・オウエンス
鵜野　泰年
島崎　F・カロール
玉名　D・グリフィン
手取　W・カリー
M・マッコンネル
H・オッカロール
M・コーフィールド
水俣・人吉　E・ホーガン
武蔵ケ丘　F・マッケイ
八代　J・ノーリス
生命山　F・ソットコルノラ
園田　善昭
在米国　渡辺　隆義
パストラルケア　W・キッペス

キリスト降誕2000年 カトリックフェスティバル

松永司教から励ましのメッセージ
フェスティバル開催によせて

大聖年を祝い、その実りを豊かにするため、福岡教区では「カトリック・フェスティバル」が計画されている。信仰を同じくする者が、一つ場所に集まり、神を共に賛美することと自体に特別の意義を見いだすことができる。大聖年はそのための良い機会ともいえるのである。また、大聖年のテーマであるご聖体の秘跡を思い、ご聖体賛美の誠を示すことは大切であり、これに召命促進の運動を加えて神の国建設の一助ともするなら、その意義は更に大きなものとなるであろう。

それに加えて、共に食べ共に遊ぶバザー・運動会形式もまた有意義である。互いに睦み合い食事を共にすることは、人間社会にとって大切な要素の一つであるからである。近くに、そして遠くに住む友と知り合い、語り合うことは、人生の仲間・信仰の仲間であるわたしたちにとって、思いがけない交わりの出発点になるかもしれないからである。集まりにおいてだけでなく、その後に真の実りが期待されることも少なくないのである。聖なる交わりの霊・聖霊のお出ましをお祈りする次第である。

あるイベントが企画されると種々の具体的任務を果たす者が必要であり、また一部では好ましくないトラブルも起こり易いものである。そのような場合には、キリスト者的寛容をもって対処し、事が円満に運ぶようにして欲しい。土台を支える者がいてこそ、成功は美しく輝き、実りは堅固なものとなるのである。

大聖年を記念し、その豊かな実りのために企画された「カトリック・フェスティバル」が信者の一致の美しい証しとなり、確かな実りの一つとなって欲しいと思う。

開催趣意書

川島　晋二

キリストが降誕してから2000年、この節目の年に福岡発福音宣教のメッセージを送ろうと、福岡教区信徒使徒職協議会では大聖年の記念行事計画の検討を進めてきました。その結果、2000年11月3日（金・文化の日）久留米信愛女学院において「～キリスト降誕2000年～　カトリック・フェスティバル」を開催することに決定いたしました。西暦2000年という節目を通して、現代社会に起こっているさまざまな問題に目を開き、新しい時代の福音宣教に向けて、これから目指すところを考えていきたいと企画しました。

大聖年の大きなテーマの一つに「和解」があります。私たちの身近な生活の場で、また広く世界に向かってお互いが赦し合い、理解し合うことを求められています。親と子、世代の違い、異宗教との関わり、在日外国人との関わり等、私たちの身の回りに目を向ける時、そこに見過ごすことのできない問題が多くあります。フェスティバルではこれらの問題に視点を合わせ、二十一世紀に向けて共に考えてみたいと思っています。

千年に一度の機会、信徒が一堂に会してお祭りをすることにも意義があると思いますが、私たちはともすれば自分の殻に閉じこもりがちで、外に向かって働きかける積極性に欠けているのではないかという反省がありました。ご聖体のイエス様の中に活力を求めながら、フェスティバルをその良い機会にしたいと考えています。

教区の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

カトリック・フェスティバル
実行委員長

テーマソング募集中

カトリックフェスティバルの開催趣旨にそったテーマソングを募集しています。

問合先：水巻教会・松尾隆
☎・FAX093-293-4981
締切り：２０００年３月３１日
※入選者には賞品を用意しています。

福岡教区大聖年巡礼指定教会

福岡教区長　松永　久次郎　司教

左記の要綱で大聖年期間中、全免償、並びに部分免償が受けられる。

（期間　一九九九年十二月二五日～二〇〇一年一月六日）

教会の恩典を利用して多くの免償を受けるように努めること。

記

一、通常の様式による赦しの秘跡を受けること、およびミサ聖祭への参加の条件は存続する。また全免償を受けられるのは一日に一回である。

二、巡礼（聖体訪問を含む）と指定の祈り

◎**指定教会**

(1) 大名町のカテドラル
(2) 小倉教会
(3) 手取教会
(4) 佐賀教会
(5) 伊万里の聖母修道院聖堂
(6) カルメル山の聖母修道院聖堂
(7) 聖クララ修道院聖堂
(8) 花岡山殉教者墓地

◎**指定された祈り**

(1) 主の祈り
(2) 信条（公認された形式による信仰宣言）
(3) 天使祝詞（聖母マリアを呼び求める祈り）
(4) 教皇様の意向の幾らかの祈り（教会との交わりのうちに）

指定の祈りのほかに、福岡教区のために、「召し出しを求める祈り」を加えることが勧められる。

三、病人、独居老人、障害者など、貧困、あるいは特別な困難の中にある兄弟たちを、その中におられるキリストへの訪問として、巡礼とみなすことができる。

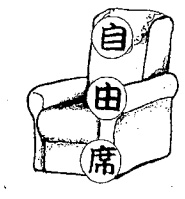
四、以上の条件を満たす者は全免償を受けることができる。そのほか、犠牲・苦行、施し（上記の人々への寄付）などにより、部分免償をいただくことができる。

以上

一九九九年十二月十五日

奉仕者たち

井下　洋介



西日本宣教司祭大会が開かれて、はや一ヶ月が過ぎようとしています。私たち神学生は、典礼や案内などのボランティアをしながら、いわば少し身を引いたかたちで、（『司祭』大会であることですし…）それでも将来の司祭ということで、大部分のプログラムに参加させていただきました。その内容が素晴らしいものであったこと、今後の動向に関心が持たれることなどはさまざまな機会に語られてきましたので、ここでは、少し個人的な感想をお話したいと思います。

あの三日間は、突如として成ったものではないことはご存じだと思います。話が持ち上がったのが二年前、それから、参加各教区からそれぞれ委員が選ばれ、折を見つけては会議を重ねている姿をよく目にしました。というのも事務局がこの大神学院だったからなのですが、委員の皆さんも自分の任地を持ちながら、本当によく準備してこられたと感心します。一人ひとりが自分の能力を出し合って一致し、一つの目的へと向かって行く姿は、端から見ているだけの私にとっても、司祭は奉仕職である、と神学の講義で百万言を費やすより、雄弁にそのことを教えてくれたように感じました。


奉仕の内容など説明を聞く大神学生たち

一人の司祭が話してくれたことを覚えています。「今からこうやって宣教を見つめ直しても、その実りに私は間に合わんやろ。受け取るのはあんたたちの時代たい。」その司祭は笑っていましたが、私は厳粛に受け止めました。彼ら奉仕者の働きの実りを、座して食らうだけの者には決してなるまい、と心に願いつつ、先輩方に学んで行きたいと思います。

大分教区大神学生

黙想会の予定・ご案内

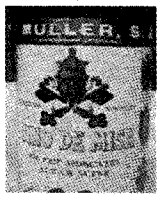
① 3月10日（金）16：00～12日（日）15：00／四旬節の黙想
② 4月　1日（土）16：00～　2日（日）15：00／四旬節の黙想
③ 　　8日（土）16：00～　9日（日）15：00／四旬節の黙想
④ 　14日（金）16：00～16日（日）15：00／四旬節の黙想
⑤ 　20日（木）16：00～23日（日）昼食／聖なる3日間と主の復活を祝う

＊　＊　＊

★問合せはお電話でどうぞ、0940－32－3222（9：30～17：00）

福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）

ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰

〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

11月23日

信徒使徒職協議会各地で研修会
明日の教会を考える

北九州地区

明日の教会に向けて ～そのあり方～

北九州地区信徒使徒職協議会（会長川島晋二氏）は十一月二十三日、戸畑教会（主任深堀勝人神父）で研修会を開催。司祭五名を含む信徒約一五〇名が参加した。

北九州地区では一昨年より、「明日の教会に向けて―そのあり方」をテーマに研修会を重ねてきており、データから見た教会の現状と予測される将来像について、また司祭や信徒の役割などについて研修してきた。

同テーマで四回目となる本研修会では、上野秀国さん（直方教会所属）が、鹿児島で八月に行われたザビエルサマーキャンプの体験を述べてから、前回も講師をつとめたL・ベリオン神父（黒崎教会主任）がテーマに沿って講演した。



ベリオン神父は、予測される教会の将来はきびしいという認識にたって、自分たちの足元をよく見つめることが大切で、これからは「福音を中心に生きる教会」を目指すべきこと、そのためには発想の転換、つまり初代教会の精神にもどる必要があること、教会とは何か、司祭と信徒の関わり合い、の二つを中心に語った。講演後の質疑応答では多くの意見が交わされ、いつものように熱気あふれる研修会となった。

松尾　隆（水巻教会信徒）



ベリオン神父と、熱心に話に聞き入る参加者

熊本地区

明日の教会を考える
⇩熊本の教会に明日はあるか⇧

十一月二十三日、十時よりカトリック健軍教会において「明日の教会を考える　熊本の教会に明日はあるか」というテーマで信徒の集いが行われました。

テーマにドキリとされた方もあったかもしれませんが、熊本地区信徒協が大聖年を前に私たち足元の教会の現状認識を分かち合うと共に、新しい世紀に向けて私たちが何をしていけばよいのか、共に考えましょうという主旨のもとに開かれた信徒の集いです。

午前中は基調講演をいただいた山元眞神父、信徒の深堀純氏のお話をもとに、提起された問題について考え討論し、午後はフリーの質問等についてシンポジウム形式での討論会が行われました。若者の教会離れについてもいろいろな意見交換がありましたが、「一番身近にいる家族が考えるべきです。家族の中での祈りから教会のミサに結びつけねばならないと思う」という、積極的な若者からの提言もありました。

日曜日のミサの大切さについては、お二人の基調講演のポイントでもありました。社会の激変の中で、私たちは日曜日のミサを通して派遣されることを自覚し、多くの人がこの恵みに与れるよう、その対策が課題のようです。

久野　薫（健軍教会信徒）



白熱した質疑が続いた会場

新しい福音宣教

「開かれた教会」「信仰と生活の遊離」などと叫ばれるようになって久しい。十年以上も前から教会の変革を求めて全国的に議論されたり、さまざまな研修会が開かれたにもかかわらず一体何が変わったのだろうと思う。何も変わっていないと判断するのは、非観的すぎるだろうか。ひょっとすると最も変わっていないのは、聖職者の意識かもしれない。教会、つまり神の民の中心である信徒の方々と出会うとき、その意識や考え方の新しさ、深さにそして熱心さにこちらの方が勇気づけられる。自分の時間や労力を惜しまずに提供し、ただひたすら他者のために尽くして下さる方々。彼らをつき動かしているものは一体何だろう。

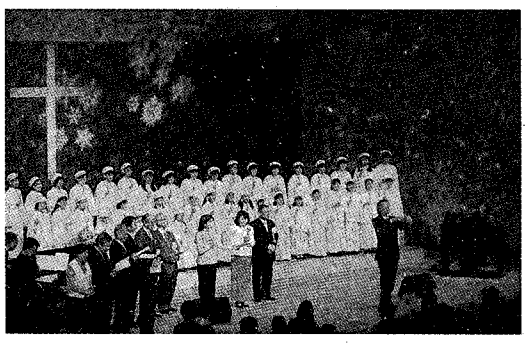
人の一生のほぼ大半は、自分自身のために時間が使われている。朝起きてから、夜やすむまで、自分のため、自分の家族のため、会社のために人は動き、働く。教会はどうだろう。教会は、本来、その存在の目的を自分自身のために持つものではない。イエスは「友のために自分の生命を捨てること、これほど大きな愛はない」と言われた。教会も同じく自己のために存在していない。教会がそれぞれの地域で意味を持つためには、いかに他者のために、その地の人人のために生きようとしているかが問われるであろう。そう考えて、司祭として自分がやっていることを反省してみる。結婚式、バザー、幼稚園など。それらは、しばしば借金の返済のためであったり、単に効率よく組織を運営するためであったりする。つまり多くの時間を自己目的のために使っていることに気づく。

最近日本では、人々がいかに神に渇いているか、より真実で正しいものを求めているか、そんなことを表している事件が多発しているように思う。その飢え渇きに対して、私たち教会共同体は、どう答えようとしているのか、あるいはその答えを持っているのか、あるいは少なくとも、その意識を持っているのか、そんなことを自問してみるのである。物質主義、金銭至上主義、飽食、それらだけでは、決して幸福になれないということを数多くの人々が気づき始めている。いや、もう気づいている。そんな中で、もし教会が、相変わらず自己目的のためだけに時を重ねていくならば、やがて日本の社会では無用の組織体となり果てるのではないだろうか、そんな危惧を持つのである。福音宣教とは、教会の宣伝をすることではない。私たちが伝えなければならないことは、自分たちの素晴らしさや建物の立派さでもない。キリストによってあらわされた神のあわれみ、ゆるし、そして愛である。新しい世紀に向けて、私たちの教会は、いま一度、このことを再確認すべきではないか。

大牟田教会主任
森山信三神父

第52回 市民クリスマス 福岡

十二月十三日（月）午後六時半から福岡市民会館において恒例となった福岡市民クリスマスが行われた。プロテスタント、カトリックの教会員が福岡市民に本当のクリスマスのメッセージ、喜びを知ってもらおうと一年かけて毎年準備している。参加者は約四百名。



メッセージは美野島司牧センターのコース・マルセル神父で「イエス様は私たちの心の中に生まれてくださる」と題して話された。自分の幼い頃のフランスでのクリスマスの経験から話され、現在美野島司牧センターで関わっている移住労働者、DARC（ダルク）の青年、野宿労働者たちとの心の交わりを分かち合われた。

また、ムーゼンクランツ福岡少年少女合唱団が、世界のクリスマスソングのメドレーを、続いて、ゴスペルシンガー本田路津子さんが聖夜を歌い、楽しい心のこもった時間を分かち合った。最後にアンケートの抽選で十名の方に聖書のプレゼントがあった。

メッセージが良かったという参加者の声が多く聞かれた。

二〇〇〇年を目の前にして
美野島司牧センター

美野島司牧センターは、皆様の暖かい御協力によって、二〇〇〇年を迎えることができました。心から感謝したいと思います。現在の当センターはあふれんばかりの人々で賑わっています。薬物依存者のダルクの青年と南米からの移住労働者あわせて十五人ぐらいがセンターで共同生活をしています。

しかし、この明るさとは裏腹に、社会の不安と不況のための厳しさをも反映しています。特に言葉がよくできない外国人労働者に対しては「下請け」を申し付け、労働法の保護をはずして、彼らをぼろ雑巾のように酷使し、少しでも文句をいえば、使い捨てている現状です。

現在、美野島司牧センターには、7名のペルー人が生活しています。一生懸命生きている彼らは不況の影響を受け、仕事は年々きびしくなっています。

日曜日のスペイン語のミサには相変わらず南米人が集まりますが、彼らは定住化がどんどん進む中で、一般の日本社会の風潮に染まり、自分の文化と信仰を守りにくい状況があるようです。しかし、彼らは自国の貧困に苦しんでいる人々を忘れず、グループを作ってチャリティーコンサートを続けています。

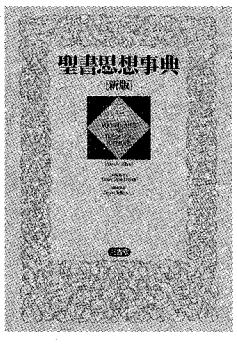
野宿労働者のために十二月から毎週金曜日炊出しを行っています。二月は大名町教会で炊出しをします。皆さんの御協力をお願いします。

使徒ヨハネ山元才蔵様

二日市教会主任、山元眞神父の尊父。十二月十八日行橋市の病院で帰天。十二月二〇日（月）新田原教会で葬儀ミサが執り行われた。享年91歳。

BOOK 読みは専科

★聖書思想事典［新版］
編集　レオン・デュフール
翻訳監修　Z・イエール



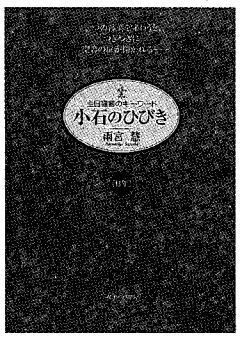
一九七三年に邦訳第一刷が出て以来四半世紀、数版を重ねてきたが、この度二十一世紀に通用する新版が刊行された。

フランス語圏の聖書学者七十人の協力により完成し、世界的に高い評価を得た聖書事典のベストセラー。旧約から新約にかけて三三一のキーワードを選んで解明し、聖書の全体像を浮き彫りにし、聖書の面白さと深さを味わわせる座右の書。

三省堂　税込六五一〇円

◇◇◇

★小石のひびき
主日の福音のキーワード
雨宮　慧　著



新しい典礼暦B年の主日に読まれる福音書の中でポイントとなるものを選び、その原語のもっている本来の意味を明らかにしながら、そこに含まれている福音的な捉えかた、キーワードとなっているものを、簡潔にわかりやすく教えてくれる。

大聖年という特別の恵みの年の中で、みことばを深く味わい信仰、希望、愛を強めながら大きな喜びを分かち合っていくのに是非お勧めしたい一冊。

女子パウロ会　税別一一五〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材　石他
　　理影の
　　大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

福岡教区2000年行事予定

1月
1日（土）　新年ミサ［カテドラル10：00］
18日～25日　キリスト教一致祈祷週間
18日（火）　司祭新年の集い［浄水通11：00］
30日（日）　カトリック児童福祉の日献金
2月
1日（火）　司祭評議会［司教館10：30］
11日（金）　世界病者の日
26日（土）　今村信徒発見記念日
3月
7日（火）　司教霊名の祝い［浄水通11：00］
8日（水）　灰の水曜日
四旬節愛の献金運動
20日（月）　聖ヨセフ　松永司教霊名の祝日
２０００年度
4月
2日（日）　花岡山殉教祭
9日（日）　司教座教会献堂記念特別献金日
13日（木）　司教座聖堂献堂記念日
16日（日）　受難の主日・世界青年の日
18日（火）　聖香油ミサ［カテドラル15：00］
21日（金）　聖金曜日・聖地のための献金日
23日（日）　復活祭［カテドラル10：00ミサ］
5月
21日（日）　召命祈願日
6月
4日（日）　世界広報の日・献金
広報の集い
6日（火）～8日（木）　司祭研修会
11日（日）　聖霊降臨
合同堅信式［カテドラル14：00］
14日（水）　助祭・司祭候補者認定式［大神］
25日（日）　聖ペトロ使徒座への献金日
8月
6日（日）～15日（火）　カトリック平和旬間
6日（日）　平和を祈る集い［カテドラル13：00］
15日（火）　教区墓地ミサ［和田墓地14：00］
26日（土）　福岡地区婦人会感謝ミサ
9月
5日（火）　司祭評議会［司教館10：30］
15日（金）　福岡地区信徒協研修会
24日（日）　カトリック国際協力の日
１０月
9日（月）　むなかたTENTENまつり［黙想の家］
22日（日）　世界宣教の日・献金
１１月
1日（水）　諸聖人
2日（木）　死者の日
3日（金）　カトリックフェスティバル
5日（日）　教区墓地ミサ［和田墓地14：00］
21日（火）　神学院祭
23日（木）　豊津教会50周年祭
１２月
3日（日）　待降節第１主日
世界宣教の日・献金
8日（金）　福岡カトリック神学院創立記念日
2001年1月6日（土）　大聖年の閉幕

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　1月

◇6日(木)～12日(水)　休館
◇14日(金)～16日(日)　日本カトリックセンターコース
2月
◇4日(金)～6日(日)　福岡黙想の家後援会・会員の黙想会
◇11日(金)～13日(日)　在世カノッサ会全国大会
◇19日(土)～20日(日)　山口島根地区信徒養成研修会
◇26日(土)～27日(日)　聖母カテキスタ会

※自然の中での十字架の道行き、静かな木漏れ日の中のルルドでの祈り、ステンドグラスの柔らかな明かりの中に佇む大十字架の前での神との語らい。お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。

［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく黙想会を計画いたしました。ご参加ください。
※祈りの集い
年間テーマ：
「私を見たものは、父を見たのである」
・1月13日（木）10時～15時
・2月10日（木）10時～15時

※諸宗教対話活動
日時：2月11日(金) 14時～16時
場所：熊本手取教会
内容：教皇庁大聖年委員会主催の諸宗教ヴァティカン会議の報告
指導：園田善昭神父
シスター　マリア
［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。

1月のこよみ

1日（土）　元旦／神の母聖マリア《守るべき祝日》
世界平和の日ミサ（カテドラル10時）
†G.ドロー［人吉教会1950］
2日（日）　主の公現
†J.ドノフ［菊池教会1985］
†ヨセフ牧山藤房［司教館1993］
4日（火）　†E.モーゼ［八王寺1998］
9日（日）　主の洗礼
カトリック看護協会福岡支部例会
10日（月）　**「十字架の道行き」（崎津教会）祝別式とミサ■**
成人の日
16日（日）　年間第２主日
18日（火）　キリスト教一致祈祷週間［～25日］
司祭新年の集い［浄水通教会11：00］
†J.M.マルタン［1975］
19日（水）　†J.ツルデル［大神学院1999］
†L.ガルニエ［1941］
21日（金）　聖アグネスおとめ
23日（日）　年間第３主日　**大名町教会堅信式**
福岡ホスピスの会［カテドラル14：00］■
25日（火）　聖パウロの回心
30日（日）　年間第４主日
カトリック児童福祉の日（献金）
福岡生と老い・死を見つめる会［カテドラル］
2月
1日（火）　**司祭評議会**［司教館10：00］
炊出し［カテドラル２月中の火・金曜日］■
5日（土）　日本２６聖人殉教者

■印は本面に詳細説明あり

◇福岡

■パストラルケア研究会
［日時］1月9日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］大山悟神父様のお話［参加費］無料［次回］2月6日

■福岡教区修道女連盟研修会
［日時］1月10日（月）9時30分～15時30分［場所］カテドラル大名町教会1階講堂［テーマ］21世紀の修道者像［講師］溝部脩師（長崎コレジオ院長）［参加費］1000円［申込先］師イエズス修道女会Sr.関口律子☎FAX092・526・9176

■キリスト教一致祈祷会
［日時］1月22日（土）
［場所］カテドラル大名町教会

■福岡ホスピスの会
［日時］1月23日14時～16時
［場所］カテドラル大名町教会
［内容］グリーフケアー［講師］波多江伸子氏［問合先］☎092・512・8723・8011・5351（小林・深堀）

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］1月23日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は2月27日（毎月第4日曜日）

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］1月30日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］福岡市におけるホスピスへの動き［講師］三木浩司医師（小倉記念病院神経診療科部長）小林計子氏（福岡ホスピスの会代表）

召命祈願ミサ

日時：2月3日（木）
時間：19時30分～21時
場所：サン・スルピス大神学院
問合先：青木悟神父（司教館）
※ 厳寒の中ですが26聖人に思いを馳せながらご一緒に祈りましょう。

■第79回福岡結婚準備セミナー
［日時］2月19日（土）～3月15日（水）毎土曜日と水曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■美野島司牧センターよりお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします［問合先］コース神父☎092・431・1419

◇北九州

■ムジークバローク in 北九州
［日時］1月25日18時30分開場
［パイプオルガン］福田のぞみ氏［場所］カトリック小倉教会
［入場料］全席自由3000円［問合先］小倉カトリック教会☎093・922・0963

◇佐賀

■聖書を読む会
［日時］毎月初木曜日・朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～20時30分［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［内容］ヨハネの第一の手紙［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754

◇熊本

■第61回熊本結婚準備セミナー
［日時］1月18日（火）～2月14日（月）の毎月曜日・火曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030

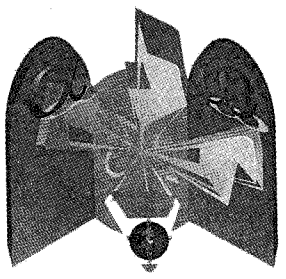
天草の崎津に新しい巡礼地
根引山に十字架の道行き
ミサと祝別式
日時：1月10日11時
主催：崎津教会
司式者：松永司教

◇その他

■若者のための聖地巡礼
［日時］2月26日（土）～3月11日（日）［参加費］235,000円［主催］真生会館カトリック学生センター［申込み締切］1月21日［問合先］シュガレ神父☎03・3350・6117

一致祈祷週間

2000年　キリスト教一致祈祷週間
（1月18日～25日）



神はほめたたえられますように
神は　わたしたちをキリストにおいて
祝福で満たしてくださった
（エフェソ1・3）

このテキストは、世界キリスト教協議会と教皇庁キリスト教一致推進評議会が指名する国際グループによって準備されたものです。

熱いスープの会

2月中の火曜日・金曜日「野宿労働者の方」の越冬支援のために『熱いスープの会』を今年も企画します。
おにぎりやスープを作る人、配る人を待っています。材料の支援も大歓迎です。カテドラルが会場です。
問合先：佐田一兵（07054971978）

編集後記

新年おめでとうございます。本年も「教区報」をよろしくお願い致します。
この新聞を新年のミサでお配りできれば、と中村彰編集長（神学院院長）はじめ、スタッフの百村等神父（聖パウロ会）、深堀事務局員で努力いたしました。
記念すべき大聖年に「教区報」が皆様と各地の教会をもっと親密に結ぶリボンになればと思っています。
備蓄した方も、しなかった方も、今ほっとして笑っていられることを祈りながら…。ニュースをたくさん送ってください。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】キリスト教共同体と奉献生活への召命

【布教の意向】よきおとずれの使者である巡礼者

【日本の教会の意向】日本の殉教者と信仰

＝新たな決意で、司祭新年の集い＝
「ご聖体の秘跡を大切に」

1月18日

福岡教区では一月十八日（火）、浄水通教会、司教館で恒例の司祭新年の集いを開催。福岡、北九州、佐賀、熊本の各地から一堂に会した司祭たちは、ミサを共にし、平田司教の乾杯の発声で昼食会を共にし、互いの親睦を深め、大聖年を祝い、新たな宣教に向って決意を新たにした。

十一時、浄水通教会でのミサは、松永久次郎司教司式で平田司教他約五十名の司祭と近隣の修道者・信徒が参加して行われた。教区長と司祭団、そして教区民の一致の、見えるしるしである。

説教の中で松永司教は、年頭メッセージ（既報）をくり返し強調するように語った。

「大聖年に当たり、特に私たち司祭はご聖体を何よりも大切にし、ミサ聖祭をふさわしく、美しく行い、聖体からいのちを汲みとらねばならない。」

また、当日はキリスト教一致祈祷週間の初日であったこともあり、外的に目立った成果は見られないにしてもエキュメニカル運動を、（生命山のような所に）他人まかせにせず、共に祈り働くよう諭した。

最後にヨベルの年に多くの恵みを受け、神の国のために働くために、われらの母なる聖マリアのみ手にすべてを委ね、取り次ぎを願おう、と励ました。

祝賀会

司教館の新館五階で行われた祝賀会では、まず新しく福岡教区に加わった司祭・修道者、また来福中の司祭の紹介があった。

聖パウロ会に新院長として永富久雄神父が、また小川孝志修道士が東京より転属。


新しく福岡教区に加わった司祭・修道者が紹介される

司牧体験のため、杉原寛信神父（聖パウロ会）が一年間福岡教区で奉仕。

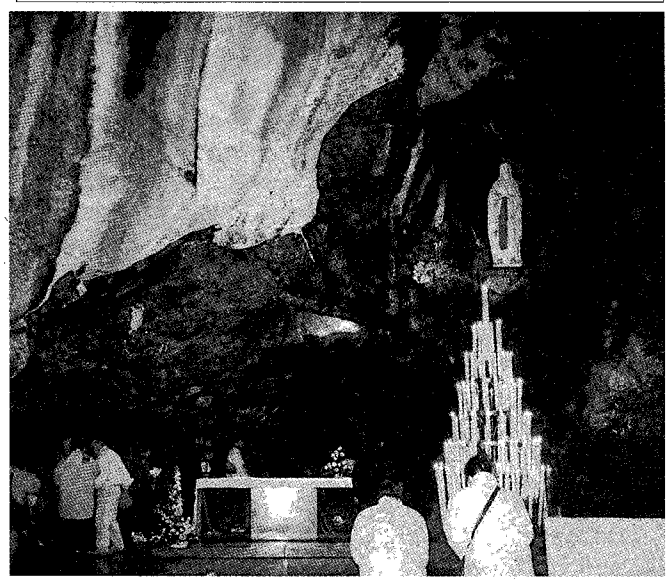
生命山カトリック別院に、鎌倉仏教の専門家である園田善昭神父（コンベンツアル聖フランシスコ会）が滞在、活躍中。

韓国の光州（クワンジュ）教区から、休暇を利用して帯山教会に滞在中の金敏秀（キム・ミンス）神父。

美野島司牧センターには、信徒宣教者のエルベ・ルクセル氏がパリ外国宣教会より二年間の契約で派遣され滞在中。

次に、司祭団を代表して堤要吉神父（浄水通教会主任）が、司教を中心として神の働きに協力する決意を述べた。続いて、平田司教の乾杯で祝賀会は始まり、共ににぎやかなひと時を過ごし、新たな気持ちで散会した。

2月11日　ルルドの聖母の記念日
第8回 世界病者の日



毎年二月十一日、ルルドの聖母出現の日に、教会は「世界病者の日」を記念する。この日は教皇ヨハネ・パウロ二世が一九九二年に制定したもので、全世界のカトリック信徒が、心身に苦しみを持つ人々の痛みを分かち合い、黙考し、祈ることを目的としている。

「世界病者の日」の記念式典は、フランスのルルド、ポーランドのチェストコーワ、レバノンのベイルートなど聖母ゆかりの地で行われ、今年はローマで行われる。この日のために教皇は毎年、全世界に向けてメッセージをおくっている。（2面にメッセージの抜粋を掲載）

テーマ
二十一世紀の修道者像
福岡教区修道女連盟研修会
カテドラル

去る一月十日（月）、福岡教区修道女連盟の研修会がカテドラル大名町教会で行われた。空模様が気遣われながらも、約百三十名の参加者に恵まれた。講師に長崎コレジオの院長・溝部脩神父（サレジオ会）をお迎えし、豊かな経験を分かち合っていただいた。テーマは「二十一世紀の修道者像」。教皇の使徒的勧告「奉献生活」とマタイ福音書を引用しながら、分かりやすく話された。



「奉献生活の本質は、キリストとその弟子の、特別の結び付きの中にあり、キリストに従って変容し、十字架から復活へと導かれていく。洗礼によってキリストのいのちに結ばれ、ご自分の側近くに招いてくださる、それに徹底的に応えていくことの中にある。徹底的にキリストに生きる者として人々の中に入るとき、おのずと人々のアニメーター（魂）となることができる。これこそ使徒的活動の根本である。今、修道会はいずれも、なぜこの生活をしなければならないか、という根源的な問いかけの答えがない。自分たちの修道奉献の意味をはっきり見せていない。私は神と一対一で出会うその日を、前もって生きようとする、これが奉献生活の根源である」と、日々、神のことばを味わい、念祷を通してキリストの姿を見つめ、徹底的に従っていく必要を指摘された一日であった。身も心も新たにされた一日であった。

司祭職志望者が湯布院で集い



一月二日から三日まで湯布院の扶助者聖母会の研修の家で司祭志望者の集いが行われた。参加者は、召命担当司祭の青木悟、中村彰神父と大神学生も含めた五名。みな大学生以上で司祭職を目指して、それぞれ福岡、兵庫、東京と離れた地で勉強している。小神以来の再会の人や今回が初対面の人もいた。同じ司祭職を志望しながら顔も名前も知らないではなく、互いに知り合い励まし合えるように、まずは顔合わせから始めてみようと計画された。

福岡カトリック神学院からの行き帰りの車中、食事の間の楽しい語らい、近くの露天風呂での裸のつき合い、夜の分かち合い、教会の祈り、ミサにあずかったりと互いの親交を深め合った。大学、生活、アルバイト、教会活動と違う状況が分かち合われてこれからの励みとなった。

時の話題
私の大聖年への挑戦
吉田　豊博

記念すべき大聖年を迎え、私の新たなる挑戦を①職場②家庭、教会③個人に分けて述べます。まず職場ですが、一人ひとりが「今、何をなすべきか」を考え、この一年の目標と行動を明確にします。童話の「桃太郎」に例えますと、問題解決作戦の目標は「鬼ケ島の鬼退治」です。

①情報担当の「キジ」がまず空から鬼ケ島全体の様子を偵察します。目標、ライバルの規模、エリア、動き等を具体的に調べ、本部「桃太郎」に報告します。②企画担当の「サル」は木から木へ動き回る。サルの目の高さで見る攻撃方法、いわゆる「猿知恵」、「根回し」を考え報告します。③行動担当の「イヌ」は人間の何百倍も臭覚が効き、危機管理と予知を持ち得ております。攻撃も撤退も足が速い。また犬の目の高さで見るため、人間には見えない、見たくない所まで見ることができ、攻略方法を教えてくれる。キジ、サル、イヌから寄せられた情報、提案等を主である桃太郎が判断力と決断力をもって最終的に「鬼退治」の意志決定をする。そしてバザー、ボランティア、困ったことを扶けあって「仲間」です。兄弟姉妹です。この仲間作りが教会の活性化に繋がります。家庭でも家族の一人ひとりを深く知り、共に学び合い、何でも相談できる扶け合う雰囲気作りに徹します。

最後に個人ですが、マザーテレサの言葉に「愛の反対語は、憎しみではありません。それは無関心です。憎しみは愛に変わるが、無関心は愛にも憎しみにも変わらない。決して無関心であってはならない」とあります。そうです隣人と地域社会に「あてにし、あてにされる関係」を構築します。まずは言葉から「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」を意外と家庭でも教会でも言っていません。大聖年を「大声年」に置き換え、大きな声でお互いに挨拶をしましょう。ハーイ。

（笹丘教会信徒）

みちくさ

いよいよ大聖年が始まった。教区内外を問わずたくさんの巡礼が計画されているし、計画をしていきたい。一月十日はさっそく崎津教会の根引山に行ってきた。十字架の道行きの祝福式とミサにあずかった後、大江教会、天草殉教公園、千人塚、アダム荒川の殉教推定地に立ち寄った。同行したキリシタン史に詳しい信者さんの説明を聞きながら、自分の勉強不足を感じていた▼旅をするにあたって事前に綿密に調べるときもあるし、何の予備知識もなく現地に行って見聞きするときもある。自分が引率するときは前者で一参加者のときは後者のようだ。引率するときは、グループの方々を気遣い、スケジュールのスムースな進行に気が回り、旅を楽しむ余裕が生まれない。一方、一参加者になると、余裕がでてむしろ思わぬ出会いやアクシデントを楽しんでいたりする▼旅の思い出は残るが、その詳細は忘れ易く、メモや写真が必要だ。以前、ルルドに巡礼に行った時、帰ってから信者さんに巡礼の話をしながら写真だけではどうしても雰囲気が伝わらない気がした。それでビデオを購入した。このビデオはザビエルの聖腕がやってきたときに活躍した。実際に現地に行くに勝るものはないが、代用品で仕方なしとするしかないようだ▼今年は大聖年に当たり、巡礼も恵み多いものとなる。できればローマに巡礼したいが、少なくとも教区内の指定された教会、修道院、殉教地に行きたいものだ。それでも行けない場合は、霊的巡礼や身近な困っている人に関わることが勧められている。せっかく巡ってきた特別な年をしっかりと心に刻んで過ごしたいものだ。〈N〉

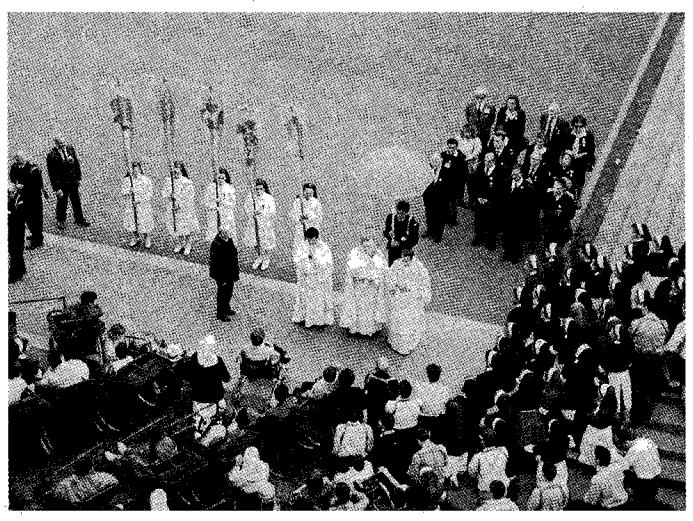
世界病者の日

よきサマリア人であるイエスを模範に！
わたしが…病気の時に見舞ってくれた

教皇メッセージ

1　この日は、キリスト者の共同体が神の子の受肉の神秘という視点から病気と苦しみの現実を深く再検証する日となるでしょう。それはこの自然界の力を超えた受肉という出来事から、病気と苦しみという人間の基本的な経験を照らし出す新しい光を引き出すことにつながるのです。

キリスト暦二千年期の終わりにあたり教会は、苦痛を和らげるための治療法や医療活動改善の分野における人類の進歩を賞賛の目をもって眺めているので、医療分野で取り上げられるさまざまな問題に関心を払い、この状況の中で教会がどうあるべきかを見直し、時代の差し迫った挑戦により適切に応えたいと考えています。


ルルドの広場で病者と共に行われる聖体行列

2　わたしは、多くの病者が臥せている病院のベッドのことばかりでなく、難民、肉親を失った子どもたち、社会悪や貧困による多くの犠牲者の苦しみにも思いを寄せています。そして、ことにこの世俗化した世界において、人々が信仰を失い、苦しみをさらに深刻化させるような原因が存在していることを悲しく思っています。つまりこの苦しみとは、もはや救いにおける痛みの意味を悟り、終末的希望の慰めを得ることはできなくなっているという苦悩なのです。

3　あらゆる時代の人々の喜びと希望、悲しみと苦悩を分かち合いながら、教会は、痛みを克服するための闘いや健康を促進するための活動において、絶えず人類と共に歩み、支え続けてきました。また教会は、苦しみの意味と救い主キリストによってもたらされたあがないの豊かさを人類に提示するために、苦闘してきました。貧しい人々や苦しんでいる同胞への深い愛をとおしてキリストに倣いたいという望みに促され、社会的援助活動に着手した偉大な人々のことが歴史に記録されています。

教父たちや修道会の創立者たちだけではなく、多くの場合は英雄的ともいえるほど、沈黙と謙遜のうちに、病気の隣人への奉仕にみずからの生涯を捧げた無数の人々のことを、驚嘆と敬慕の念をもって思い起こさずにはいられません。

以上のような教会のあり方は、医療の世界に今なお存在しているあらゆる不平等や矛盾の問題などに心を配りながら、かけがえのない人間の健康のために、継続し、奨励されるべきものなのです。

4　わたしはここで、特に医療の入手・利用に関する深刻な社会的不平等のことを考えています。その不平等は、世界の広大な地域に、特に南の国々に今なお存在しています。この不正な不平等は、劇的といえるほどの勢いで人々の基本的人権を侵害しています。全人口が初歩的、基礎的な薬を手に入れることができない地域がある一方で、別の地域では高価な薬が浪費され誤用されています。

5　これらの事柄については、不幸にも多くの場合、経済的、科学的、技術的な発達は、人間とその侵すことのできない尊厳に焦点を当てた、真の進歩をもたらしはしなかった、ということを認めなければなりません。

一方、延命のためや人工的な生殖のためにさえ涙ぐましい努力がなされているというのに、他方では、すでに妊娠している胎児が生まれ出ることを許されず、もはや役に立たないとみなされた人々の死がせき立てられています。

これらすべての矛盾と逆説的状況は、一方では福祉の論理と技術的進歩の追求との不調和から生じ、他方では、すべての人間の尊厳に基づく倫理的価値の論理と技術的進歩の追求との不調和から生じているのです。

6　新たな千年期の前年にあたり、「記憶の聖化」が苦しみや健康の分野でも奨励されることを希望しています。それは「キリスト者と名乗っていた、また名乗っている人々が犯した過ちを認める」ことにつながっていくでしょう。教会共同体はこの分野でも、聖年の祝いと密接に結びついている回心への招きを受け入れるよう呼ばれているのです。

7　こうした状況の中で、わたしたちは特に苦しみを受けて復活したキリストに視線を移してみたいと思います。神の子は人間の境遇を引き受けられる際、痛みや死を含め、あらゆる側面で人間として生きることを受諾されました。

苦しむ僕・イエスに倣うことで、偉大な聖人たちも一般の信者たちも、自らの病気や苦しみを自分自身と他者の聖化や救いの源泉に変えてきました。キリストとその多くの弟子たちは、病によってその人が聖なる者となり、世の救いのために共に働くことができるようになる、という展望を開きました。

8　大聖年はまた、わたしたちがイエスの御顔を思いめぐらすよう招いています。

身体や心の病にある人に委ねられた奉仕の意味を、聖体祭儀の中に、その源泉のみならず模範として見いだすことができます。イエスが聖体祭儀と奉仕とを結びつけたこと、言い換えれば、自分の記念として「パンを割く」だけでなく「足を洗う」ことも永遠に続けるよう弟子たちに求めたことは、けっして偶然ではなかったのです。

9　よきサマリア人であるキリストの模範は信者に、尊敬、理解、寛容、やさしさ、哀れみ、感謝の気持ちを持って、苦しんでいる兄弟姉妹に「近づき」、接する姿勢を促すに違いありません。

ですからわたしは、保険衛生の分野に専門家としてあるいはボランティアとして携わる人々に、聖なるサマリア人であるイエスをしっかり見つめるよう心からお招きしたいと思います。なぜなら、その働きが、決定的な救いの前触れと「義の宿る」新たな天と地を宣言することになるはずだからです。

10　イエスは、ただ病人を治療し癒しただけではなく、救いをもたらす存在として、絶えず人人の「健康を育てるため、教え、行動した」方でもありました。

イエスの人に対する愛は、人間性に満ちた人との関わりの中に現されています。相手を理解し、慰めをもたらし、さらにやさしさと力強さとを結び合わせます。

イエスは、この調和のとれた生の豊かさを現代の人々にも伝えたいと思っておられます。

イエスの福音宣教を継続するよう招かれている教会は、すべての人が豊かで秩序ある生活を送ることができるよう努めなくてはなりません。

11　健康維持と生活の質的向上の問題を正しく理解したとすれば、キリスト者として特に以下の二つのことに気を配る必要があります。

第一は、「生命を守ること」です。今日の世界では、多くの人々は、生活そのものの観点からより良い生活を獲得しようと努力しており、また今日の文化に時おり見うけられる価値観の混乱を拭い去るために生命倫理についての考察をしています。しかしその一方で、残念ながら多くの人が、死の文化を助長し、自己中心主義や快楽主義的唯物論、また生命への抑圧を社会的にも法律的にも是認するような物の考え方、メンタリティーを広げていくような動きに加担しているのです。

12　このような状況のもとで、信者たちは、たとえそれがもろくて傷つきやすく見える時でさえ、生命という崇高で神秘的な価値を見つめながら、信仰による洞察力を培っていくよう招かれています。

この課題は特に、医者、薬剤師、看護婦、チャプレン、男女修道者、管理者、ボランティアといった医療関係の専門家たちに関わるものです。彼らはその職業のゆえに、特別な立場で、人間の生命の守護者になるよう招かれています。

13　キリスト者が回避してはならない第二の責務は、「人間にふさわしい健康の促進」にかかわる問題です。わたしたちの社会では、他のどの価値をも補助的なものとして見下し、健康を偶像に祭りあげてしまう危険性があります。人間の霊的、社会的次元を顧みないこの考えは、その人の真の善さを危険にさらすことになってしまいます。

単に病気がないかどうかではなく、その人の人格全体を重視する人間学に基づいて健康を眺めるこの分野では、肉体的、心理学的、霊的、社会的レベルでより豊かな調和とバランスを得るための努力がされています。

14　この健康に関する見方のもとでは、教会と社会は「人間にふさわしいエコロジー」を創り出すことを求められます。事実、環境は個人や人々の健康にかかわりをもったものです。環境は、人間の「住まい」と人間の世話と奉仕に委ねられている資源の総体で構成されています。

全体として考えてみると、人間の健康は生命の特質であり、隣人への奉仕と救いへの開きにつながっていきます。

15　主の愛の大聖年にあたり、わたしたちは、司教、司祭、修道者、信徒、善意の人々が苦しみと健康の世界を脅かすような挑戦に勇気を持って向き合うよう招きます。

わたしは、キリスト者であるすべての兄弟姉妹の貢献を通して、二〇〇〇年の大聖年の祝いが、すべての人に具体的な愛の道による一致をあかしするために、病者に愛をもって奉仕するエキュメニカルな協働活動を発展させる機会となることを切望します。

特に、世界のあらゆる地域に存在する国際的な政治・社会・医療機関に対して、具体的な活動団体が人間の尊厳と健康を損なうあらゆるものに対して立ち向かうための説得力のある推進者となってくれるよう、訴えたいと思います。

おとめマリアが、病気の兄弟姉妹の生を積極的に分かち合う道程をわたしたちと共に歩んでくださいますように。十字架のもとで、御子の苦しみを共有されたマリアは、苦しみの体験の熟練者として、人間的な限界や傷の痛みなどで心身ともに苦しんでいる人々に、変わることのない愛情あふれる保護の手を差し伸べられます。

わたしは「病者を力づけてくださる方、平和の元后」であるマリアに、病者とその周りにいるすべての人々を委ねます。マリアは、母のような慈愛あふれる取り次ぎをもって、彼らが愛の文明を築き上げる手助けをしてくれるに違いありません。

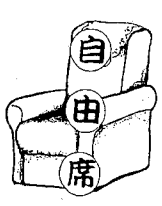
カステルガンドルフォにて
ヨハネ・パウロ二世

テーマソング募集中

カトリックフェスティバル
日　時：2000年11月3日（祝）
テーマ：語りかけよう心を開いて
問合先：水巻教会・松尾　隆
☎・FAX 093-293-4981
締切り：２０００年３月３１日
※入選者には賞品を用意しています。

五日間の黙想会

岸　晴美



十一月二十九日から十二月三日まで連続五日間、大聖年準備のための黙想会がオカロール神父の指導によって手取教会で行われました。一日目は「十字架ー神の愛」世の始めから世の終りまでの罪そのものになられたキリスト。その苦しみと私たち。二日目は「ご聖体」まことに現存されている「愛」が愛されていない！　三日目は「共贖者、マリア様と私たち」聖母がその生涯の苦しみを耐えられたのは私たちのため。四日目は「命の尊さ」創造のみ業が行われる性の領域は聖なる神の領域。それを害する中絶や避妊は神への冒涜。五日目は「人間になるとは」神にハイと言う、手離す、委ねる、霊的巡礼の旅。などという言葉が心に残りました。

連続五日間、しかも思いがけない角度からの深いお話、それに続く一時間の聖時間は本物の黙想会を体験したという満足感がありました。ロウソクだけのあかりと沈黙の準備時間、そして一回一回テーマのシンボルが飾られていたことは印象深かったです。毎日一二〇名以上が参加する恵みの黙想会でした。

（手取教会信徒）

黙想会の予定・ご案内

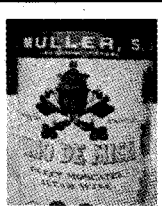
①	3月10日(金)	16：00 ～	12日(日)	15：00／四旬節の黙想
②	4月　1日(土)	16：00 ～	2日(日)	15：00／四旬節の黙想
③	8日(土)	16：00 ～	9日(日)	15：00／四旬節の黙想
④	14日(金)	16：00 ～	16日(日)	15：00／四旬節の黙想
⑤	20日(木)	16：00 ～	23日(日)	昼食／聖なる３日間と主の復活を祝う

＊　＊　＊

★問合せはお電話でどうぞ、０９４０－３２－３２２２（９：３０～１７：００）

福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

根引山　一八五年前の宣教師の思いが　いま、十字架の道行きに

崎津・大江

　一月十日十一時より、崎津教会（主任　川添猛神父）の根引山にできた「十字架の道行」の祝福式が松永司教司式のもと行われた。地元天草を始め熊本地区から集まった信徒約二百名と司祭八名、地元のキリシタン研究者らが参加した。２mほどの木の十字架を先頭に十字架の道行きをしながら、祝別が一留ずつなされた。祝福式の後、山上に作られた祭壇で聖年のミサの祈願文を使ってミサが捧げられた。説教の中で司教は、歴代の宣教師らのご恩に感謝し、信仰を形にして証しする者となるよう語られた。



参加者と共に各留の祝別をする松永司教

　その後、会場を崎津の富津公民館に移し、祝賀会が行われた。挨拶の中で川添神父は、「今日担いだ十字架は宣教師が植えた木から作られた。わざと腐るよう木で作った。腐る度に宣教師を思い起こし、信仰を持って新しい十字架を作って欲しい」と語った。

　根引山の歴史をみると、一八一五年大江・崎津教会に赴任したパリ外国宣教会のフェリエ神父は天草での孤児救済に取組んだ。それを引き継いだガルニエ神父が福祉事業として根引に、土地の人が「小部屋」と呼んだ孤児院を経営した。それは一九〇七年まで続き、閉鎖された。

　その後、その跡地にコロンバン会のダイヤモンド神父が聖母像を建立した。

　今回、そこまでの約1キロにわたる山道に川添神父の寄進と信徒有志の献金で十字架の道行が建立された。大江、崎津、高浜の山境にあって、そのどの地区からも約4キロ離れた山境にあり、絶好の祈りの場所である。

　この度、松永司教は大江教会を大聖年巡礼指定教会としたがこの十字架の道行きをする事で大江教会の巡礼に代えられる。

若者が超教派で祝ったクリスマス！

大神学院

　一千年代最後のクリスマス、一九九九年十二月二十五日、福岡サン・スルピス大神学院で行われた、ROCK（熊本市の超教派の青年信徒同志が交流を目指して集まった団体）主催の、クリスマスキャンドルサービス&パーティに参加させていただいた。



奉仕者に光をわたす牧山神父と岡田牧師

　一時間半にわたって聖堂にて行われたキャンドルサービスでは、牧師と司祭の共同司式で、私は初めて牧師さん（女性）の説教なるものをお聞きした。宗派は違うとはいえ、心にすんなりと染みわたる、好感の持てるお話だった。私の中にずっとあった、カトリックとプロテスタントの間に立ちはだかる「壁」がガラガラと崩れる音がした。



超教派でクリスマスを祝った青年たち

　平和のあいさつでは、席を立ってたくさんの人と握手を交わし、新たな出会いにみんなの顔はほころんでいた。また、数多くの聖歌を交えて進められたわけだが、キャンドルの炎を見つめながら最後に歌った「もろびとこぞりて」。聖堂の寒さを吹き飛ばすかのごとく力強いハーモニーがこだましていた。

　その後のパーティー。おしゃべりに花を咲かす者、オカリナを吹く者、ギターをかき鳴らす者、歌う者ありと、にぎやかなひとときだった。果たして何時までつづいたのやら？

　最後に、八十人を超える九州各地の宗派も異なる大勢の若者が、同じ時、同じ場所、同じ形でひとりの幼子の誕生を共に祝ったこと、この日を単なる思い出に終わらせるのではなく、むしろこれからの交わりを大切にしたい。目指せ「主にあって我らは一つ」！

（老司教会信徒　中間　多恵）



茶髪、ピアス組と祈りたい…。

　二日市教会の近くには、由緒ある神社仏閣がたくさんある。祈る若者の姿を見てみたいと思ったので、元旦の夕方、近くの神社、寺を訪れた。

　戒壇院、観世音寺の参拝客は少なかったが、天満宮には正月三が日で二百万人が訪れるというから驚きである。

　近辺の道路は終日渋滞。神殿の前にも長い行列ができ、何時間もかけてやっと参拝できる、といった具合。その様子を遠巻きに見る。老若男女、さまざまな人が真剣に祈っていた。

　理想のミサがある。それは、若者たちといっしょに、真剣に祈るミサ。若者が教会に来ないと嘆いたり、半ばあきらめているきらいもあるが、若者の側にだけ責任を押し付けて、それでいいのだろうか。ほんとうに、「来てほしい」と思うなら、もっと何か工夫がいるのではないだろうか、と思う。「行って、よかった」と思えば、「来い」と言わなくても来るはず。説教台から「ミサは大切なつとめです」とか「この掟を守らなければ、地獄に行きます」とか、いくら叫んでも彼らの心には響かない。

　月に一度、土曜日の夜七時から「若者のミサ」をしている。日頃、ご無沙汰している人も歓迎。過去は問わない。とにかく、参加してみて、ミサのすばらしさを味わってほしい。これが主旨。「月一度ではダメだ、主日のミサのつとめは毎週だ」と言っても始まらない。とにかくミサに「来て、見て」もらわなければ…。

　その日には若者たちが自分で典礼を準備、担当する。歌の伴奏はいろんな楽器でする。ご聖体になるパンは自前で準備する。聖体拝領は両形色でする。

　説教にビデオを使うときもある。たまには、座席の位置も変えてみる。いつも一時間半はかかるので、ゆっくり祈ることができる。ミサ後には、信徒有志が準備してくれたカレーをみんなで食べる。すべて終わるのは十時になる。

　先日は「合格祈願ミサ」をした。

　参加者は、若者だけではない。ゆっくりとミサを味わいたい人、若者といっしょに祈りたい人が集まって来るので三十人から四十人になる。

　茶髪やピアスをした若者たちもたくさん集まれば、最高のミサになるのだが…。

　その日を夢見ている。

二日市教会主任　山元　眞　神父

「カトリックいのちを大切にする会」発会

熊本

　一九九九年十二月十二日、手取教会信徒会館において「カトリックいのちを大切にする会」の創立総会が行われた。

　創立総会にあたり、この会の顧問でもあるH・オカロール神父から、「今この時代、私たちは死の文化から大きな攻撃を受けています。妊娠中絶を支持する人は、お母さんのお腹の中の子を認めていません。今から四五〇年前、メキシコで出現されたマリアさまは『グアダルーペの聖母』として崇められています。当時その土地で行われていた、たくさんの子供や大人のいけにえの儀式は、聖母のご出現後なくなりました。マリア様は今も妊娠中絶をなくすために戦われています。グアダルーペのマリア様の旗印を掲げて、恐れず戦いなさい」と励ましのことばがあった。



　また、カトリック・ファミリーセンターのライル神父よりこの会に「グアダルーペのマリア様の聖画」が、画家の石原千代子氏より「楽園の季」と題する胎児の画が寄贈された。

　総会の後、カトリック・ファミリーセンターのSr吉永ユリによる創立記念講演が「神の賜・尊いいのち」という演題で行われた。講演の中で「命を大切にする運動は、縦の関係だけではなく、横の連携を持ってすすめることが大切です。ピルの解禁はカトリックの教えに反しています。自然受胎調節法（頚管粘液法）を多くの人に教えてください」と語られた。

　この会の代表は帯山教会信徒の旅井端代さん。現在の会員数は一七〇人。これからは、いのちについての啓蒙活動や学習活動に取組んで行くことになる。

（健軍教会信徒　久野　薫）

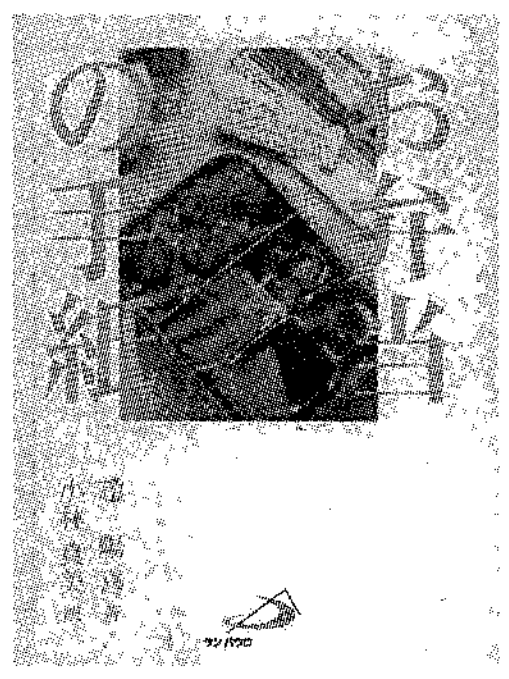
御寄付御礼

　故使徒ヨハネ山元才蔵様の御香典返しに代えて山元静香様より多大なご芳志を賜りましたことをご報告し、故人のご安息をお祈りし、厚く御礼申し上げます。

福岡カトリック神学院
院長　中村　彰

BOOK 読みま専科

★お弁当の手紙
趙　陽喜　著
小林真美　訳



　作家であり主婦である趙陽喜さんが、四年間続けて娘と息子の弁当に添えた一三〇〇余通の短い手紙と、それを書いている時の気持ちや家族の様子について書いた一〇〇〇通以上のエッセイをまとめたもの。早朝に弁当をつくりながら、からだの健康より精神の健康を大切にする母親が書いた手紙には、子供に対する母の愛情が感じられ、感動する。学校給食に慣らされた子供たち、特に母親必読の書。

サンパウロ　税別七〇〇円

◇　◇　◇

★ふりむけば恵みの軌跡
東　敦子自伝



　世界のオペラハウスで拍手喝采を浴びたプリマ・ドンナの音楽への情熱と地道で人間味あふれる人生が語られている。惜しくも昨年十二月に帰天された。恵まれた家庭で音楽に目覚め、芸大を経て、イタリアに留学し、首席で卒業。受洗、彫刻家二田原氏と結婚。芸術を創造し続ける厳しさの中で忘れられない人々の人柄とその出会い、帰国後、大病してオペラの舞台から退いた。歌に生き、歌に結ばれた人の感動的な本。

女子パウロ会　税別一三〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

IUBILAEUM A.D. 2000

大聖年を意義深く活きるために！

巡礼に出かけよう！

◎カテドラル大名町教会（中央区大名2-7-7）
◎小倉教会（小倉北区香春口1-3-1）
◎手取教会（熊本市上通町3-34）
◎佐賀教会（佐賀市中央本町1-17）
◎大江教会（天草町大江1782）又は、根引山の十字架の道行き（天草郡河浦町今富）
◎伊万里の聖母修道院（二里町大里甲1-41）
◎カルメル山の聖母修道院（福岡市西区今宿）
◎聖クララ修道院（小郡教会に隣接）
◎花岡山殉教者墓地（熊本市春日4丁目）

※各巡礼地についての問合せは、教区事務所の青木悟神父まで。☎ 092-522-4059

たくさんの召命を祈ろう！

☆第11回召命を祈る徹夜祈祷会

場　所：福岡カトリック神学院（小神学校）
　　浄水通教会聖堂
日　時：3月19日（日）19時受付から
　　20日（月）7時の朝食で解散
参加費：1,000円
主催と問合先：「召命を共に祈る会」
　　青木　悟 神父（☎ 092-522-5139）

※聖堂での祈りと並行して神学校や修道会の紹介、ビデオ観賞なども準備しています。どなたでも多数の参加を期待しています。

信仰生活を深めよう！

日　時：2月7日（月）14時から
場　所：師イエズス修道女会聖堂
　　（典礼センターピエタ）
テーマ：ご聖体と私たち
講　師：牧山　強美神父
対象者：どなたでも参加できます。
問合先：☎ 092-526-9176（Sr.関口）

※信仰生活を深めるために、教会用語や信仰生活の基礎をもう一度学ぶために…。

次　回：3月10日（金）

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　2月

◇4日（金）～6日（日）　福岡黙想の家後援会・会員の黙想会
◇11日（金）～13日（日）　在世カノッサ会全国大会
◇19日（土）～20日（日）　山口島根地区信徒養成研修会
◇26日（土）～27日（日）　聖母カテキスタ会

◇3月11日（土）～12日（日）　四旬節黙想会（マテオ神父）
◇　13日（月）～15日（水）　御受難会共同体の日
◇　17日（金）～19日（日）　JETプログラム

※自然の中での十字架の道行き、静かな木漏れ日の中のルルドでの祈り、ステンドグラスの柔らかな明かりの中に佇む大十字架の前での神との語らい。お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく黙想会を計画いたしました。
ご参加ください。
※祈りの集い
年間テーマ：
「私を見たものは、父を見たのである」
・2月10日（木）10時～15時
・3月9日（木）10時～15時

※諸宗教対話活動
日時：2月11日（金）
　　14時～16時30分
場所：熊本手取教会
内容：「世界諸宗教平和集会」に参加して
指導：園田善昭神父
　　F.ソットコルノラ神父
［問合先］生命山カトリック別院
　　☎ 0968・85・3100
　　FAX 0968・85・3186
＊個人、又はグループでの黙想常時受け付けています。

2月のこよみ

6日（日）　年間第5主日
　　福岡カトリックパストラルケア研究会■
11日（金）　ルルドの聖母　世界病者の日
　　炊出し・熱いスープの会［大名町教会］■
　　建国記念日
13日（日）　年間第6主日
　　行橋教会堅信式
　　典礼を学ぶ集い［カテドラル大名町教会］■
14日（月）　†J.オマラ［荒尾教会1974］
15日（火）　†J.ボア［黒崎教会1957］
20日（日）　年間第7主日
22日（火）　聖ペトロ使徒座
　　†F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（水）　聖ポリカルポ殉教者
　　†パウロ糸永武男［今村教会1992］
26日（土）　今村信徒発見記念日
　　†F.ドルエ［八王寺教会1983］
　　†G.オーブリ［大神学院院長1985］
27日（日）　年間第8主日
　　老司教会堅信式
　　福岡生と老い・死をみつめる会■
28日（月）　†マルチノ青木保［浄水通教会1997］
3月
2日（木）　†R.ミケレ［鹿島教会1988］
　　†J.オブライエン［手取教会1959］
5日（日）　年間第9主日
　　福岡パストラルケア研究会［大神学院］■
7日（火）　松永司教霊名の祝い［浄水通教会11時］

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■福岡パストラルケア研究会
［日時］2月6日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］傾聴について［講師］井上重子氏［参加費］無料［次回］3月5日

■典礼を学ぶ集い
［日時］2月13日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］大聖年を学ぶII［講師］白浜満神父（大神学院）［参加費］600円
［問合先］☎ 0940・33・8122井上

■第25回典礼聖歌研修会
［日時］2月13日（日）13時～15時半［場所］光丘教会［内容］四旬節・聖週間の聖歌［講師］深堀純［問合先］☎ 092・621・2673有馬［参加費］無料

■第79回福岡結婚準備セミナー
［日時］2月19日（土）～3月15日（水）毎土曜日と水曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎ 092・541・6207 FAX 552・5022

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］2月27日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は3月26日（毎月第4日曜日）

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］2月27日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］遺言書の書き方と語り合い。死別体験者グループの語り合い［講師］三浦啓作弁護士［問合先］☎ 092・713・8523大山・092・607・6992村尾

■福岡ホスピスの会
［日時］3月12日14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］ホスピスボランティアとして［講師］大山悟神父・平田芙美子氏［問合先］☎ 092・512・8723・880

今年もやってます 熱いスープの会

日　時：2月中の火曜・金曜日
　　おにぎりやスープを作る奉仕：14：00～16：00
　　配る奉仕：20：30～22：30
「野宿労働者の方」の越冬支援のために『熱いスープの会』を今年も企画します。熱いスープを作る人、配る人を待っています。材料の支援も大歓迎です。カテドラルが会場です。
問合先：佐田一兵（070－5497－1978）

北九州

■第16回お母さんの集い
［日時］2月28日（月）10時30分～12時30分［場所］カトリック小倉教会［テーマ］マイナス思考・プラス思考［内容］講話・リコーダー演奏・歌［講師］Sr今泉ヒナ子（コングレガシオン・ド・ノートルダム）［参加費］500円［問合先］☎ 093・962・1395福吉

■第5回ラ・ヴォーチェ・オルフィカ公演会
［日時］3月26日（日）18時30分開場［場所］カトリック小倉教会［内容］イタリア初期バロック音楽の夕べ［入場料］前売3000円、当日3500円
［問合先］☎ 093・583・1802猪瀬

佐賀

■聖書を読む会
［日時］毎月初木曜日・朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～20時30分［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［内容］ヨハネの第一の手紙［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎ 0952・23・4754

■平和をともに考える集い
［日時］2月11日（金）14時～16時［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［演題］歴史から何を学ぶか［参加費］無料［問合先］☎ 0952・30・9015森内

編集後記

一月は行く月、二月は逃げる月、三月は去る月といって、年度末は日が早く過ぎていくように感じる。ちょうど年度末のまとめの季節でもあるし、新年度の準備の季節でもあるからだろうか。

教区報も新年度は新しい企画を考えたいが、忙しさにかまけてなかなかいいアイデアが出てこない。大聖年にちなんでの巡礼や黙想会などの企画や参加しての感想など読者の方々の原稿を首を長くして待っています。

オペラ 募集中

“忘れられた少年”
合唱メンバー募集

練習：毎日曜日13時～15時半
場所：小倉カトリック教会
※時間的に都合の悪い方は、金曜日夕方、個人練習ができます。ご相談ください。
公演予定：今年6月3日（土）
会　　場：九州厚生年金会館
連 絡 先：北九州公演実行委員会
☎ 093-921-0093（小倉教会）
※年齢、性別、学歴一切不問です。歌うことの好きなあなた待ってます。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 大森　周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】悔い改めとゆるしの時である聖年

【布教の意向】宣教者の保護者聖母マリア

【日本の教会の意向】女性の使命と役割

第3回司祭評議会開催

司祭評議員選挙・司祭研修会・小神学校一時閉鎖など

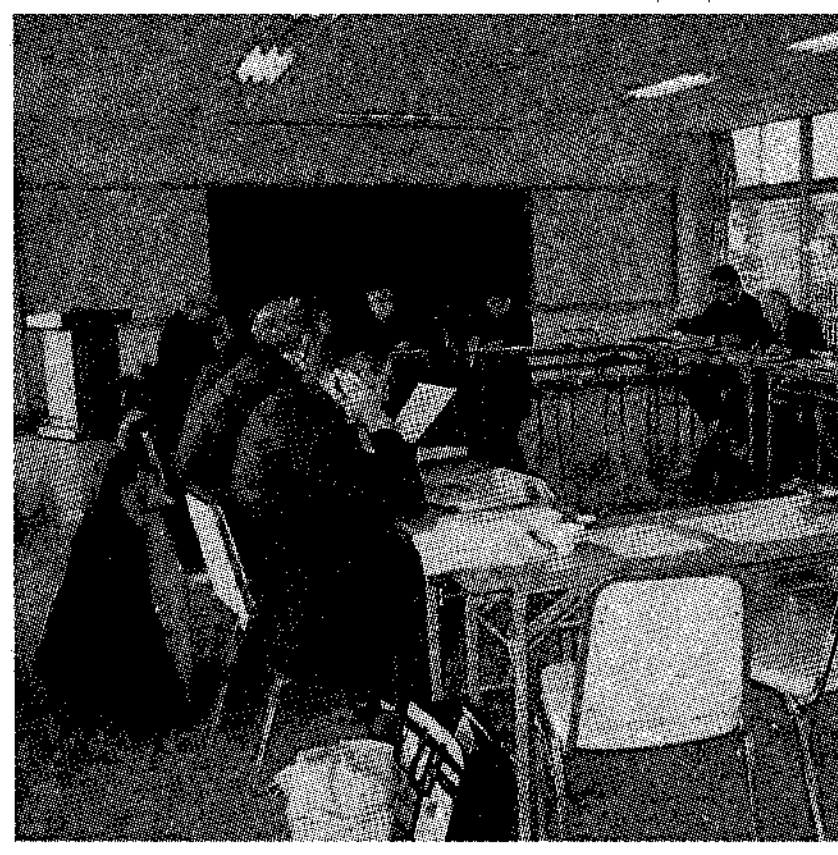
大聖年中の重要議題を討議

2月1日

一九九九年度第三回司祭評議会が、二月二日（月）司教館会議室において開かれた。新年と大聖年の始まりに当たり、この年を有意義に過ごすため、新評議員選出、小神学校閉鎖、司祭研修会、聖体拝領の形式、カトリックフェスティバルなど、いくつかの重要事項が検討された。

二月二日（月）十時半より司教館会議室において、司祭評議会が開かれた。（写真）初めに教区長松永司教から、大聖年の第一回目の評議会なので、大聖年の心に従って有意義に議事を進行していってほしいと挨拶があった。

議事の前にいくつかの報告事項が行われた。まず評議員の任期がこの三月で終るので、三月七日（火）の松永司教霊名の祝いのときに選挙が行われること、邦人教区司祭から世代を二つに分けてそれぞれのグループから三名ずつ、パリ・ミッション会から一名、ミラノ会、コロンバン会から二名、修道会から二名選出される。また、今年も聖霊降臨の主日にカテドラル大名町教会で合同堅信式が行われるので、洗礼・堅信の準備をそれに合わせて欲しいこと。また、福岡カトリック神学院が今年の三月で閉鎖になり、名称を「召命の家」と改称し、青少年の信仰育成、召命活動の拠点にすること、教区の各地区の主な教会を回って召命の集いをすることの報告がなされた。



司祭研修会について

次に議題として六月六日（火）～八日（木）に行われる司祭研修会の内容とテーマが話し合われた。大聖年にちなんでご聖体について、昨年の西日本宣教司祭大会のアンケート結果を踏まえたものを、生き生きした喜びを感じるミサについて、キリスト者の霊性を深め高めるためのものを、生命倫理について、ミサの説教について、など多数の意見が出されたが、まとめとして「みことばに生き、伝える司祭―聖体祭儀―」というテーマで講師を大神学院の教授にお願いすることになった。

聖体拝領について

二番目にご聖体拝領の形式について、教区で統一する必要があるかどうかが話し合われた。小教区によっては聖体に対する尊敬心を養成するため小学生のあいだは口でしか拝領させないところや、逆に積極的に手で拝領させるところと分かれていて、年令で拝領の形式を限定しないことになった。ただどちらを選択するにしろ、乱雑さや粗野な心や動作でしないよう指導していくことが求められる。また、各小教区で聖体賛美式、聖体行列をすることが勧められた。

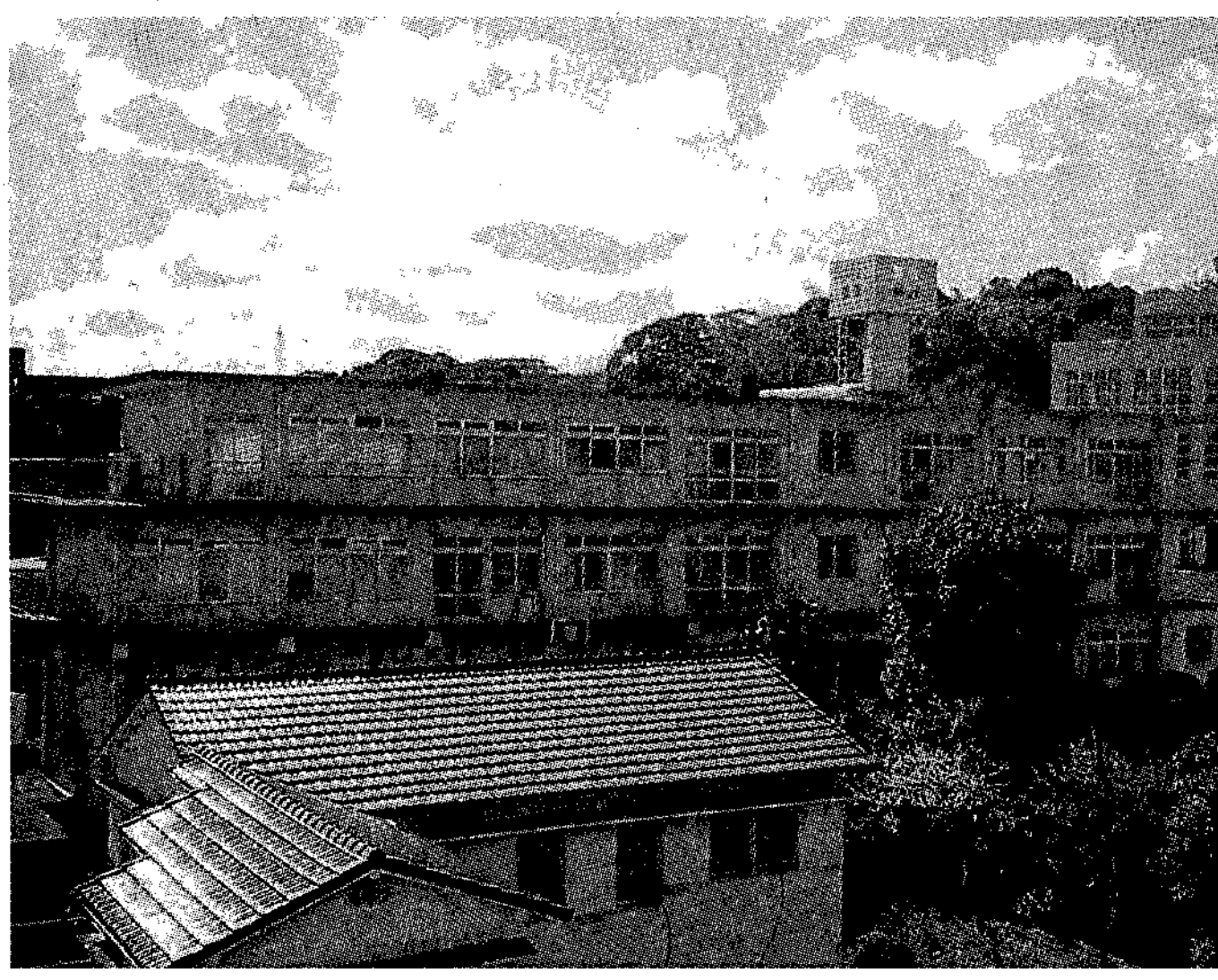
その他の議題として、新評議員選出に当たり臨時司祭評議会を四月二十五日（火）に開くこと、十一月三日（祝）に行われるカトリックフェスティバルの進行状況の説明がなされた。テーマが「語りかけよう心を開いて」に決まり、テーマソングは引続いて三月まで募集すること、各地区やグループでの取組み状況が報告された。

四旬節教書でご聖体への尊敬を示唆

二〇〇〇年の四旬節を迎えるに当たり、松永久次郎司教は恒例の教書を発布した。その中で司教は、信仰の要であるご聖体の秘跡の根本的な特質について述べ、聖体拝領によってキリストの命にあずかるわれわれが、もう一人のキリストとして働くよう呼びかけている。（全文は2面掲載）

福岡小神学校６８年の歴史を一時閉鎖

「召命の家」として再び！



この度二〇〇〇年三月をもって、福岡カトリック神学院（小神学校）を一時閉鎖することになりました。

これをもちまして、一九三二年以来、六十八年間の歩みを、一時的に停止することになります。今までのご理解・ご協力・ご支援くださった方々に心よりお礼申しあげる次第です。

一九九七年に福岡サン・スルピス大神学院の制度改革により、入学資格者が、原則として、大学卒業者以上とされるようになったことが、その大きな理由です。また同時に、現代の社会では、中学入学時に、司祭養成の過程を人格的判断をもって選択することは不可能にちかく、また、好ましくないとされ、中学・高校・大学の過程を、あるいは実社会の生活を体験して後、人間的にもある程度成熟した者となってから、司祭召命の道を自発的に選ぶ方が望ましい、とされるようになったからです。

小神学校がなくなれば、大神学院に到るまでの期間にある子供たちの召命を育てることは、非常に困難になることが予想されます。各家庭でそのために必要な配慮をしてくださり、司祭の召し出しのお恵みが充分与えられるよう、祈って欲しいと思います。司祭の誕生は信仰の証しとさえも言えます。

司祭の召し出しが福岡教区には減少している状況を思い、その方面に充分意を用いてくださるようお願いいたします。

福岡カトリック神学院は今後「召命の家」と名称を改め、福岡教区司祭召命促進運動の拠点としたいと考えています。司祭召命のための祈りの集い、召命学校なども計画していきたいと思っています。また、各地域に召命担当の司祭を選び、召命活動を展開していきたいとも願っております。関係者の方々のご理解とご協力を心よりお願いいたします。

福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎

召命を祈る徹夜祈祷会

場　所： 福岡カトリック神学院
日　時： 3月19日(日)　19時受付～20日(月)朝
参加費： 1,000円
主催と問合先：
「召命を共に祈る会」
青木悟神父
（☎092-522-5139）

※どなたでも多数のご参加をお待ちしています。

時の話題

人を生かし成長させるもの

間瀬　雅夫

数年前のこと、勤務していた学校の中学三年生の卒業練成会で、保護者に一つの協力を願いました。それは、その子どもが生まれたときからその日まで、本人にまつわる家族の喜び、心配や苦労と共にさまざまな思いや期待を本人あての手紙の形で記してもらい、直接担任に送っていただくというものでした。

練成会の当日、最初の講話の後に手渡された自分あてのその手紙を、思い思いに教室やチャペルなど静かなところで読んでいた生徒の多くは、目にハンカチを当てていました。あらためて自分が親（「育ての親」も含む）や周りの人々からどれほど大切にされてきたかを身にしみて感じたからでしょう。

その生徒たちは、今は立派に成長し、それぞれの場で励んでいると聞き及びます。

大地にしっかり根をおろした木のように、子どもは親の深い愛に養われてこそ、人として安定し成長を遂げるのです。このことを考えるとき、今日見られる子どもたちの学力低下とさまざまな問題行動の最大の原因が、親の愛情をふさわしく受けなかったことにあると指摘されているのは十分にうなずけます。

実際、私たち自身も家族や周りの人々に認められ、支えられてこそ日々喜びのうちに生きていくことができるのです。

人に真の喜びを与えその人を生かし伸ばすもの、それは「あなたが居てくれて私は本当に嬉しい！」と、自分の存在が肯定され、喜ばれていると分かったときではないでしょうか。

私たちはこの心で自分の子どもや周りの人々に接し、共に生き、共に成長をはかりたいと思うのです。それは、すばらしい父である神ご自身が私たち一人ひとりにそう言ってくださり、私たちの存在を喜び、幸せを望み計らっていてくださるからなのです。（久留米教会信徒）

司祭異動

若松教会主任（健軍教会主任）鵜野泰年［若松天使園幼稚園園長兼任］▼鳥栖教会主任（小倉教会助任）平田三好［鳥栖カトリック幼稚園園長兼任］▼健軍教会主任（福岡カトリック神学院院長）中村彰［カトリックさゆり園園長兼任］▼小倉教会助任（聖パウロ会福岡修道院）杉原寛信▼召命の家担当者＝青木悟［教区事務局長兼任］▼召命の家（若松教会主任）山頭原太郎▼久留米信愛女学院短期大学学長＝高木善行［大神学院教授兼任］▼広島教区（武雄教会主任）A・ベッラ▼教区報編集長＝田中重治［司教秘書兼任］▼任命は原則として四月一日付

みちくさ

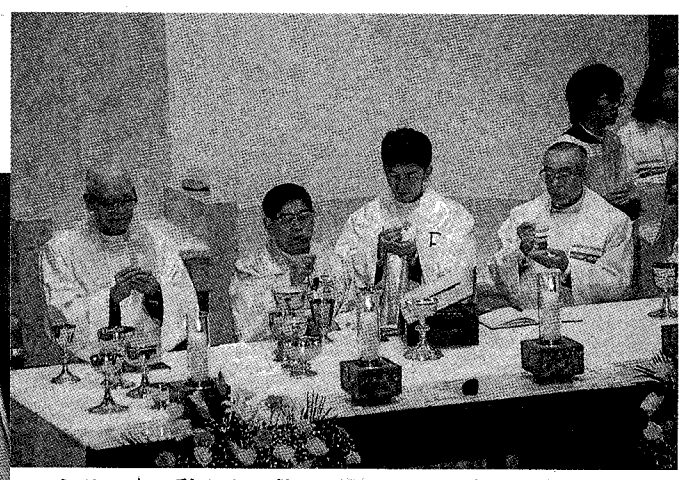
書道、茶道、武道など、道と名のつく日本文化のなかには、形から心に入るものが少なくない。理屈はともかく形をひたすら整えておくと、自然にその道の境地になるのである。「一張羅を着れば、子供は畏まり」とかは良く見たものである▼その反面、心があってこそ意義あるものも少なくない。尊敬とか感謝の心を表す言葉遣い、その他、礼儀作法など、その心こそ大切で、心が本物であれば、形はともかく何とか相手に伝わるものもある。それぞれの場合を充分考えるべきであろう▼ところで、ご聖体拝領の場合はどうであろうか。むかし、口でご聖体拝領をしていた。あの受け方は今思えば、余り好ましくないと思うが少なくとも、何か特別のもの、普通の食物と違うものを受けるという気持ちがはっきりしていた。それが現在、手で受ける様になり、飴玉でもいただく様な形になって、（ご聖体拝領のときに、子供たちには飴玉を配る教会も実際にある）状況が全く変ってしまった▼形が飴玉を貰うのと同じになると、心も飴玉を貰うのと同じになるのである。ところで、飴玉をいただくのと同じ心で、ご聖体をいただくのは相応しいことではない。ご聖体より飴玉の方が欲しいという子供も出てくるほどである▼右手の上に左手をきちんと置いて、胸の適当な高さで尊いものをいただく態度が正式なのに、乱雑な形になってしまった。そして形が乱雑・粗野になってしまえば、心もあるべき状態から全く離れて尊敬心など全く見る影もないほどである▼ご聖体は尊いものであるともいえる。カトリックの信仰の姿に、形を正しく整えることを学びたいものである。〈M〉

二〇〇〇年四旬節教書
ご聖体の秘跡について

二〇〇〇年の大聖年において特にご聖体の秘跡の記念が行われます。わたしたちもこの機会にご聖体のことを、特に学ぶようにいたしましょう。ご聖体はわたしたちの信仰の要であり、カトリックの宗教活動の中心であると言えるからです。

一、キリストの現存

まず、初めに、ご聖体の秘跡のもとに、キリストのおん体とおん血が、真におられるという教えを信じます。聖母マリアから生まれ、十字架の苦しみと死を体験され、復活なさったキリストのおん体とおん血が、秘跡的な形のもとに、実際におられるのです。これは信仰の神秘ですが、現実的なものです。わたしたちの信仰は空虚なものではなく、秘跡的とはいえ、パンとブドウ酒という姿と形に示される現実性を持っているのです。この特徴を、わたしたちは強く自覚する必要があります。


ミサの中で私たちの救いが示され、お恵みが実現する

二、キリストの過ぎ越しの記念
—ご受難、ご死去とご復活の記念—

「わたしの記念としてこのように行いなさい（ルカ22・19）」のみ言葉によって、ご聖体の秘跡のもと、キリストの過ぎ越しの記念が行われます。ご聖体は救いのための、ご受難およびご復活の記念です。そこには、キリストの救いの苦しみとその勝利の栄光が提示されています。そこにはわたしたちの救いが示され、お恵みが実現するのです。それは単なるお祭りではありません。人間の救いを示しているのです。わたしたちはこのことを正しく自覚する必要があります。


ご聖体によって私たちはもう一人のキリストとなる

三、キリストの命に与かる

「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちのうちに命はない。……わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである（ヨハネ6・53～55）」と書かれてあるように、わたしたちはご聖体を拝領して、キリストの神の命に与かります。わたしたちは、いわばキリストに接ぎ木されるような様式で、キリストの命そのものに、参加させていただきます。わたしたちはキリストと同一の命を生きる者となるのです。この崇高な品位をわたしたちカトリック者は忘れてはならないのです。

四、キリストの働きに与かる

ご聖体の秘跡によってキリストの命に与かるわたしたちは、その使命・その働きに参加いたします。キリストは福音宣教、この地上における神の国の建設と発展を望んでおられます。ご聖体をいただき、その心に生きるカトリック者は、同じ働きに駆り立てられます。生活の証によって、また、言葉の宣言によって、人々を真理の教えに導き、愛の行いを押し広げることによって、総ての人に父なる神のお心の実行者となり、神の国の実現に協力する者となるのです。

五、もう一人のキリストとなる

ご聖体によって、キリストの命に与かる身となり、キリストの使命に合わせられたキリスト者は、いわばもう一人のキリストとして生きる者となります。これは「キリストのように考え、キリストのように愛し、キリストのように行う人」となるということを意味します。個人の分野でも社会人としても、幸せを分かち合うときも、苦しみを共に耐え忍ぶときも、聖なる道を進むときも、罪人の回心を働きかけるときも、それぞれの立場で最善を尽くします。いわば、もう一人の「救い主」となるのです。今の社会の、もう一人のキリストとしての使命を果たすのです。こうして教会全体が、霊的な新しさに生かされる頼もしい活力体になることが期待されるのです。

ご聖体について学ぶべきことはまだ沢山あります。しかし、この「もう一人のキリスト」とならねばならないということを何時も思い、信者として、この大聖年と今後の一生を送るように心掛けましょう。

この大聖年に神様の特別の祝福をお祈りいたします。

二〇〇〇年三月十二日

福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎

玉名市伊倉のキリシタン墓地巡礼

上野　佐代子

玉名カトリック教会では一月二日のミサ後、玉名市伊倉唐人町にあるキリシタン墓地に巡礼しました。この墓地は通称「唐人町西屋敷の墓地」と呼ばれ、高台にあります。そこには蒲鉾型の墓があり、墓石の正面に花十字架が刻まれています。墓の横には案内板が立てられて、一五六五年頃、宣教師アルメイダ神父の布教によって始まり、キリシタン迫害にいたるまでのことが説明されています。

アルメイダ神父（当時修道士）は、元はポルトガルの貿易商で、外科医の免状も持っていた。活発な布教活動と共に、病人の治療や捨て子の世話もし、東奔西走の宣教師であった。また四五〇年前、フランシスコ・ザビエルと共に来航し、ザビエルがインドへ旅立った後に、日本布教長を任されたトルレス神父も、一時、伊倉で布教活動をされていた。一五六四年四月、シルヴァ修道士が骨のように痩せ細った重病人で伊倉に連れて来られると、トルレス神父は最後の十日間を看取り、手厚く葬ったとされる。シルヴァ修道士は「日本の土」となられた最初の外国人宣教師であった。

日本のために苛酷な布教活動をされ、祖先を神の民へと導いてくださった司祭がおられた。その後、江戸幕府の禁教令によって多くの信者が迫害にあい、墓も土中に埋められ、隠されていた。殉教者も葬られたであろう。私たちは四五〇年の時を経た今日、グリフィン神父様と共に祈りを捧げて先人たちを偲んだ。私たちの信仰が強められますように。

玉名教会信徒

炊き出し

中垣　泰彦

炊き出しという活動をご存知の方は必ずしも多くはないと思います。正直いうと、僕は最初こんな見返りを望むことのできないことをやって何になるのだろうかと思っていました。今ですら炊き出しをやることの真意は分かりません。ですが、炊き出しをやっている中で様々な方方と会って話し、多くの意外なことを知らされることも、また、時には学ぶことさえあります。

僕たちが炊き出しの対象としている方々は、僕よりも多くのことを経験なさっている方ばかりで、気を使うことが度々ありますが、おにぎり、豚汁、ゆで卵、カイロを1セットで配った後に返ってくる「ありがとうございます」という言葉には喜びと、時には感動すら覚えたことがあります。しかし、やはり気になるのは周囲の目で、僕たちがやっていることを周りはどう思っているのだろうと考えたりします。露骨に、冷たい視線を送ってくる人も少なくありません。最近ではホームレスの人たちに対する風当たりも強く、僕の行っている博多駅でも、追い出しが行われているようです。ホームレスの方の中には怪我や病気の方もいて、その方が追い出されていくのを考えると、少しつらく思ったりします。

炊き出しというのはすごく地味な活動だと思います。それをやっている僕たちがホームレスの救世主だなんてことは、僕そして他のみなさんも少しも思っていないと思います。炊き出しをやっている中で最も強く思うことはホームレスの方々が一刻も早く定職を見つけ、この寒い冬をあたたかく暮らしていけるといいなあということです。いつの日か僕たちが炊き出しをしなくても済む日がくることを祈って、僕はこれからも続けていこうと思います。

泰星高校二年

道標

田代　一真

四月で高校三年生になるが、毎年僕は二月に行われている炊き出しに参加していた。初めて参加したのは中学一年生のときで、当時その炊き出しをしている人のことを聞いたとき感激した。小神学校に入る以前から、ホームレスと呼ばれている人たちの助けとなれればな、と思っていたからだ。

初めのうちは緊張し、周りの通行人の目が気になっていた。回数をこなすうちに、そんなことは全然気にならなくなった。

毎年、炊き出しに参加していくうちに少し分かったことがある。ホームレスの人たちは、お金がない、仕事がない、家がない人というイメージがあるが、そうでない人もいる。自らホームレスの道を選んだ人もいる。「僕はね、今の現状についていけないんだ」と話した四十代ぐらいの元大学教授という人もいた。僕は彼らのことをホームレスではなく、「鋼鉄の人」と呼んでいる。最近は経済的に追い込まれたら、自殺する人が多いが、彼らはその試練を乗り越え、何が何でも生きる、という強い信念を貫いている。

時は二〇〇〇年、状況はこれからもっと厳しくなっていくだろう。僕はこの厳しい現実とこれから闘わなくてはいけない。挫けてしまうときがあっても、この「鋼鉄の人」たちを思い出しながら、頑張っていこうと思う。苦しんでいるのは自分一人ではなく、いろんな人たちが苦しみや悲しみを体験しているのだから。僕は、後悔のない人生を歩んでいきたい。

福岡教区小神学生

※投稿のお願い

［内容］信仰生活上の喜びや気付きの体験　［字数］四百字程度　［送付先］司教館広報室

テーマソング募集中

カトリックフェスティバル

テーマ：語りかけよう心を開いて
日　時：2000年11月3日（祝）
場　所：久留米信愛女学院
問合先：水巻教会・松尾隆
☎・FAX 093-293-4981
締切り：２０００年３月３１日
※入選者には賞品を用意しています。

※キリスト降誕２０００年という節目を通して、現代社会に起こっている親と子、世代の違い、異宗教との関わり、在日外国人との関わりなど、さまざまな問題に目を開き、新しい時代の福音宣教に向けて、これから目指すところを考えて行きたいと企画しています。

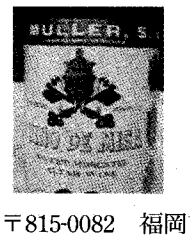
四旬節とご復活・黙想会のご案内

① 3月11日(土) 16：00 ～ 12日(日) 15：00／〈マテオ神父〉
② 4月1日(土) 16：00 ～ 2日(日) 昼　食／〈ガブリエル神父〉
③ 8日(土) 16：00 ～ 9日(日) 15：00／〈マテオ神父〉
④ 15日(土) 16：00 ～ 16日(日) 昼　食／〈ガブリエル神父〉

※聖なる三日間と主の復活を祝う
4月20日(聖木曜日) 16：00 ～ 23日(復活の主日) 昼食／〈鈴木神父〉
会費：①～④　6000円／※18000円　◎問合せはお電話でどうぞ〈9：30 ～ 17：00〉

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

行橋教会
豊津教会

22人喜びの堅信式

二月六日（日）、行橋教会では、松永久次郎司教様をお迎えして、行橋・豊津両教会合わせて二十二名が堅信の秘跡を授かりました。そのうち十四名の子供たちを私が担当して、約一年間、堅信に向けて共に準備してきました。私の不手際で十分だとは言えませんが、子供たちは堅信が近づくにつれて、真剣さもまし、よくやってくれたと思っています。


松永司教の質問に答える受堅者

「いよいよ堅信式です。私は不安と緊張とうれしさで、複雑な気持ちでした。そして質問があたらずにホッとしました。司教様から按手された時には、とても心が落ち着き、うれしくなりました」。これは受堅者のひとりの感想文の一部ですが、私もドキドキしました。司教様の質問に「わかりません」と答えた子供に「うまく言えないだけで、本当はわかっているのです」と、やさしく、さりげなくフォローしてくださった司教様の深い心にマリア様のお心にふれた気がしました。

二十二人の受堅者には、七つの賜物という聖なる武器をもって学校の中で、社会の中で力強くキリストを証しして行ってほしいと思います。

大聖年の今年、私たちは豊津教会創立五十周年記念式典を十一月に予定しており、豊津教会そのものも新築の予定で、準備を進めています。どうぞ教区の皆様のお祈り、その他の御援助をお願い致します。

最後になりましたが、松永司教様、これからも私たちのためにお祈りください。私たちもお祈り致します。ありがとうございました。

（行橋教会信徒　追立　泰治）

シリーズ 1

信仰を深めよう

ピエタ

二月七日（月）師イエズス修道女会聖堂において、信仰を深めよう！シリーズ第一回が開かれた。講師にサン・スルピス会の牧山強美神父を迎えて、三十八人が集まった。（写真）



「受洗後のあなたの信仰生活は？」という質問に、主日の説教、本を読む、教区報、司教様の話しなど、参加者それぞれの答えを受けて、牧山神父は、信仰の形には二通りあり、大木のような根をしっかり張った信仰と、柳のような信仰があり、前者は何かことがある時に倒れると立ち上がれない。後者は柔軟な信仰、いろんなことに耳を傾けてより柔軟に育てていく。

参考になる本を紹介しながら、信仰を深めていくために、いろいろな助言をくださった。入信の秘跡「洗礼、堅信、聖体」から始めて、秘跡そのものについて神学的に考察し、分かりやすく、ときにはユーモアも交えて、信仰生活の原点であり、頂点である聖体・ミサについてまでお話しくださった。

聖体はイエズス様の体であると同時に、わたしたちの体でもある。バランスのとれた生活であるためにはどうしたらよいか。聖体のメッセージを聞きなさい」と。これからのお話しが楽しみになった。

（師イエズス修道女会）

星

かつて、豊かさと希望を胸に多くの先人たちが大海原を渡って行きました。人工衛星を用いて正確に自分の位置と目的地を把握できるようになったのはつい最近のことで、それ以前は羅針盤を頼りにしていたようです。また、この羅針盤も歴史的には新しいほうで、それ以前には、夜空に輝く星を唯一の頼りに困難な旅をしていたそうです。

ところで、私たちのこの人生も時として航海に喩えられます。私たちが頼りにしているものは何なのでしょうか。何を道しるべにこの世の荒海を渡ればよいのでしょうか。

人々はそれぞれに持っている価値観を頼りに物事を判断し生きています。しかし、個人がそれぞれ自分のものと思っている価値観も、コマーシャルなどによって作られたものであることが多く、他人によって踊らされていることが現実なのかもしれません。

さて、私たちキリスト者は何処に価値観を置き、何を頼りにこの人生という荒海を渡って行くべきでしょうか。いうまでもなく、決して移り変りも、滅びもしないものに価値観と道しるべを求めなければなりません。では、それは一体何なのか。信仰と神様。これ以外に見出すことは困難を極めています。なぜなら、この世のものは私たちにとってあまりにも魅力的で、大きな力で私たちに迫ってくるからです。私たちは日々、神様と信仰とは全く無縁のものからの誘惑に遭っていて、それでもそのことに気づくことさえないまでに生活しています。それほどこの世の事柄は私たちの中に深く根差しているのです。

このような状況にある私たちが神様と信仰を見出す方法は、主イエズス様がそうであったように、祈りの中で静かに求めること以外にはありません。日々の喧噪から心を引き離して神様の御前に自分を置くこと。それはちょうど大海原を渡っていた先人たちが昼間の眩しい太陽のもとにではなく、夜空に輝く星の光に歩むべき方向を見出していたのと同じなのではないでしょうか。始めは光りがあまりにも弱くてよく見分けられなくても、時間と共に目が慣れて良く見えるようになるように。最初は祈ることも、神様の前に自分を置くことさえできなくても時間と機会を重ねるごとに落ち着いていくことでしょう。

神様との親しい交わりの中で祈ることができなくても、まずは静かな時間と空間を作ることから始めましょう。御聖体のイエズス様はいつも待っておられます。

（久留米教会助任司祭）

2月11日

平和をともに考える集いを開催

佐賀

二月十一日（金）佐賀カトリック幼稚園講堂において、佐賀カトリック正義と平和協議会主催による「平和をともに考える二月十一日佐賀の集い」が開かれた。（写真）

日本カトリック正義と平和協議会の木邨健二事務局長が「歴史から何を学ぶか」と題し講演した。カトリック中央協議会福音宣教研究室編『歴史から何を学ぶか』『大日本帝国下の一信徒の歩み』（岩瀬孝著）などの資料を駆使しながら講演。



「日本では現在、戦後日本の平和と民主主義、人権尊重を蹂躙する新ガイドライン関連法、盗聴法、日の丸・君が代法、住民基本台帳法、憲法調査会設置法などの法律を成立させ、また「自由主義史観」による天皇制ナショナリズムの高揚、新しい戦争の「英霊」のために「靖国神社特殊法人」化を進めようとしている事など、保守勢力の危険な状況を直視し、忘れてはならない。ここにおいて、私たちは、キリスト者として改めて過去の真実の歴史を学び、進むべき道を「見張り役」「警鐘を鳴らす者」として、誤りのないように努めなければならない。「主の平和」を実現するため、正しいことを信仰を、把持して行えば、キリストはいつも側におられるし、必ず最後には勝利する」と力強く訴えた。

参加者ともども、将来に対する責任を担う心に刻む充実した「大聖年」の一日であった。

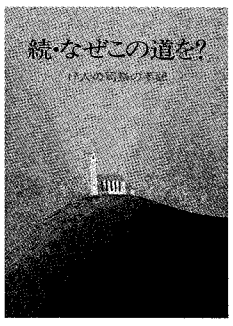
ことの重さ、大切さを痛感し、

第39回クルシリヨ開催

場　所：福岡黙想の家
日　時：５月２日（火）19時から
　　５日（金）16時まで
指導司祭：下町豊重神父
参加費：１２、０００円
（宿泊・食事・用品代として当日受付）
携行品：ロザリオ・寝間着・洗面具
問合先：大谷真造
（☎092・661・0120）
申込締切：４月25日（火）
主　催：福岡教区クルシリヨ事務局
※キリストはあなたに期待をかけています・・・！

BOOK 読みは専科

★続・なぜこの道を？
―十七人の司祭の手記―
石神忠真朗ほか十六名　著



神はそれぞれの歩調に合わせてともに歩まれる。人生のあこがれ、不安、喜び、涙、病、ざせつ、そしてさまざまな出会いは、人の歩みの中でかならず意味があることに気づきながら、自分がここに今、生かされていることの喜びと感謝をこめて語る自らの救いの物語。

笑いと涙をさそい、心を打つ、著者一人ひとりの神さまに向う感動的な手記。多くの人々にぜひ読ませたい本。

女子パウロ会　税別　七〇〇円

◇　◇　◇

★日本人と神―生活・人生編―
福田　勤　著



さまざまの宗教と、それ以上の神々が混在する日本は、一方では「無神論者の天国」ともいわれる。大半の人が「信仰をもっていない」と言いながら、実生活では多くの宗教行事に関心をもち、また豊かな宗教情操をもつ、という事実もある。その根底には神概念についての「あいまいさ」がある、ともいう。

本書は、そんな日本の社会と日本人の現実、西欧社会とは異なる日本人の宗教理解とその生き方を探ろうとする。

サンパウロ　税別一六五〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096－352－2417



大聖年を意義深く活きるために！

大聖年巡礼指定地

◎ **カテドラル大名町教会**（中央区大名2-7）
◎ **小倉教会**（小倉北区香春口1-3-1）
◎ **手取教会**（熊本市上通町3-34）
◎ **佐賀教会**（佐賀市中央本町1-17）
◎ **大江教会**（天草町大江1782）又は、**根引山の十字架の道行き**（天草郡河浦町今富）
◎ **伊万里の聖母修道院**（二里町大里甲1-41）
◎ **カルメル山の聖母修道院**（福岡市西区今宿）
◎ **聖クララ修道院**（小郡教会に隣接）
◎ **花岡山殉教者墓地**（熊本市春日4丁目）

◆病人、独居老人、障害者、あるいは貧困や特別な困難の中にある兄弟姉妹を、その中におられるキリストへの訪問として訪れる時、巡礼となります。

※各巡礼地についての問合せは、教区事務所の青木悟神父まで。☎092-522-4059

ヤング　花岡山巡礼募集

日　時：4月1日(土) 15時　浄水通教会集合
　　2日(日) 18時　浄水通教会解散
内　容：花岡山殉教祭参加と熊本地区青年との交流（喜んで待ってます…熊本青年）
対　象：青年男女（高校生以上）
定　員：25人
参加費：2、500円
申込先：福岡カトリック神学院
　　中村彰神父　☎092-531-6821
締切日：3月26日(日)

イタリア大聖年巡礼の旅

日　時：5月9日(火) ～ 18日(木)
行き先：ローマ、アッシジ、フィレンツェ、シエナ、ピサ、ミラノ
　　5月10日(水) パパ様に謁見
　　4大聖堂の『聖なる扉』訪問
定　員：30名
団　長：伊東成晃神父（呼子教会主任）
申込先：カトリック呼子教会　伊東神父
　　☎0955-82-3126　FAX82-4746
主　催：(株)阪急交通社　博多支店
　　☎092-472-2243　FAX411-4574

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　3月

◇8日(水)　ミカエル会
◇11日(土) ～ 12日(日)　四旬節の黙想会
◇13日(月) ～ 15日(水)　御受難会共同体の日
◇14日(火) ～ 15日(水)　聖パウロ女子修道会
◇17日(金) ～ 19日(日)　ＪＥＴプログラム
◇19日(日)　典礼聖歌研修会
◇24日(金) ～ 27日(月)　オブレート会研修会
◇27日(月) ～ 31日(金)　オブレート会黙想会

※自然の中での十字架の道行き、静かな木漏れ日の中のルルドでの祈り、ステンドグラスの柔らかな明かりの中に佇む大十字架の前での神との語らい。お一人でもグループでも大聖年に相応しい四旬節をお手伝いいたします。

［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく黙想会を計画いたしました。
ご参加ください。
※祈りの集い
年間テーマ：
「私を見たものは、父を見たのである」
・3月9日(木)　10時～15時
・4月13日(木)　10時～15時

※諸宗教対話活動
日時：4月29日(土)
　　14時～16時30分
※研修会
・テーマ「座禅と聖体礼拝」
　日時：3月31日(金)～4月2日
・テーマ「茶道とミサ」
　日時：4月7日(金)～9日(日)
［問合先］生命山カトリック別院
　☎0968・85・3100
　FAX0968・85・3186
＊個人、又はグループでの黙想常時受け付けています。

3月のこよみ

5日（日）　年間第9主日
　福岡カトリックパストラルケア研究会■
6日（月）　†H.ジョリ［久留米教会1966］
7日（火）　**松永司教霊名の祝い［浄水通教会11：00］**
8日（水）　灰の水曜日：大斎・小斎
　四旬節愛の献金運動月間
12日（日）　四旬節第1主日
　福岡ホスピスの会研修会［カテドラル14：00］■
　†F.ヴェイヨイ［唐津教会1973］
16日（木）　†L.M.ベリボ［箱崎教会1977］
17日（金）　長崎の信徒発見記念日
19日（日）　四旬節第2主日
　†J.ベラス［水俣教会1990］
　†M.ボア［新田原教会1959］
　召命を祈る徹夜祈祷会■
20日（月）　聖ヨゼフ
　松永司教霊名の祝日　春分の日
26日（日）　四旬節第3主日
　福岡生と老い・死をみつめる会■

4月
2日（日）　四旬節第4主日
　花岡山殉教祭
16日（日）　受難の主日［枝の主日］
18日（火）　**聖香油ミサ［カテドラル15：00］**
20日（木）　聖木曜日
21日（金）　聖金曜日
22日（土）　**聖土曜日［復活徹夜祭カテドラル19：00］**
23日（日）　復活の大祝日

■印は本面に詳細説明あり

◆福岡

■ミレニアムの出会い
［日時］3月5日（日）10時30分～16時［場所］カテドラル大名町教会［対象］20歳以上の独身男女［会費］2000円昼食代共［主催］福岡教区カナの会

■福岡パストラルケア研究会
［日時］3月5日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］みことばと医療［講師］大山悟神父［参加費］無料［次回］4月2日［内容］体験の分かち合い「東チモールでの病人訪問」

■第2回　信仰生活を深めよう
［日時］3月10日（金）14時～16時［場所］師イエズス修道女会聖堂（ビエタ）［テーマ］秘跡［講師］牧山強美神父（大神学院）［参加費］無料［問合先］☎092・526・9176（シスター関口）［次回］4月14日（金）14時

■福岡ホスピスの会
［日時］3月12日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［内容］体験の分かち合い「ホスピスボランティアとして」［講師］大山悟神父（大神学院）・平田芙美子氏（手取教会信徒）［参加費］700円［問合先］☎092・512・8723・801・5351（小林・深堀）

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］3月16日（毎月第3木曜日）9時20分～10時30分［場所］高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・533・2326小田部

■第79回福岡結婚準備セミナー
［日時］2月19日（土）～3月15日（水）毎土曜日と水曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■典礼・聖歌と祈りの集い
［日時］3月19日（日）14時～17時［場所］黙想の家［内容］四旬節・聖週間の典礼［お話］鈴木忠一神父［聖歌］深堀純

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］3月26日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は4月23日（日）

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］3月26日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］ビデオ鑑賞「未知なる生命」と語り合い。死別体験者グループの語り合い［会費］500円［問合先］☎092・713・8523大山・092・607・6992村尾

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。男の赤ちゃん用品も［問合先］コース神父☎092・4

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］毎月初木曜日・朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～20時30分［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［内容］ハネの第一の手紙［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754

◆熊本

■コンサートと記念講演会
［日時］4月8日（土）13時30分～16時30分［場所］熊本県立劇場コンサートホール［講師］山崎章郎（聖ヨハネホスピス長）［内容］ホスピスケアのめざすもの［参加費］1000円申込が必要［問合先］西合志病院☎096・242・2745［担当者］石田・中村

◆北九州

■第5回ラ・ヴォーチェ・オルフィカ公演会
［日時］3月26日（日）18時30分開場［場所］カトリック小倉教会［内容］イタリア初期バロック音楽の夕べ［入場料］前売3000円、当日3500円［問合先］☎093・583・1802猪瀬
31・1419

お知らせとお願い

教区報二・三・四面下欄の広告の新規契約を受け付けています。一マス（5センチ×6・5センチ）。広告料は、年間（11回）五万五千円です。申込は3月15日（水）までに司教館広報部まで。☎092・522・4059

編集後記

三月は各教区とも司祭転任の発表の時期です。今月号の一面に司祭異動を掲載しました。それぞれの小教区で出会いと別れが、また喜びと悲しみが繰り返されることでしょう。

ところで、教区報編集長も交代になりました。やっと編集作業になれ、これからという時期でしたが、一年間でバトンタッチすることになりました。

この一年間、原稿依頼を快く引き受けてくださった方々、取材協力をしてくださった方々、読者の皆様、発送作業をしてくださった方々、そして編集員の百村神父、深堀さんに感謝申し上げます。新しい編集長に期待を込め、エールを送って筆をおきます。

募集中

オペラ
“忘れられた少年”
合唱メンバー募集

練　習：毎日曜日13時～15時半
場　所：小倉カトリック教会
※時間的に都合の悪い方は、金曜日夕方、個人練習ができます。
ご相談ください。
公演予定：今年6月3日(土)
会　場：九州厚生年金会館
連絡先：北九州公演実行委員会
☎093-921-0093（小倉教会）
※年齢、性別、学歴一切不問です。
歌うことの好きなあなた待ってます。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森　周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

日本カトリック
と聖公会共通訳

天におられるわたしたちの父よ、…
新しい「主の祈り」決定

◇日本の司教団は、長年の懸案となっていた、口語訳の「主の祈り」をこの一月の臨時司◇
◇教総会において承認した。これは聖公会でも唱える共通訳となっている。これによって◇
◇一九九三年に出された「天の父よ…」で始まる主の祈りにかわって、公式の祈りの中で◇
◇唱えることができ、また、新たにミサの中でも用いられる祈りができたことになる。◇

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしください。
わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。アーメン。

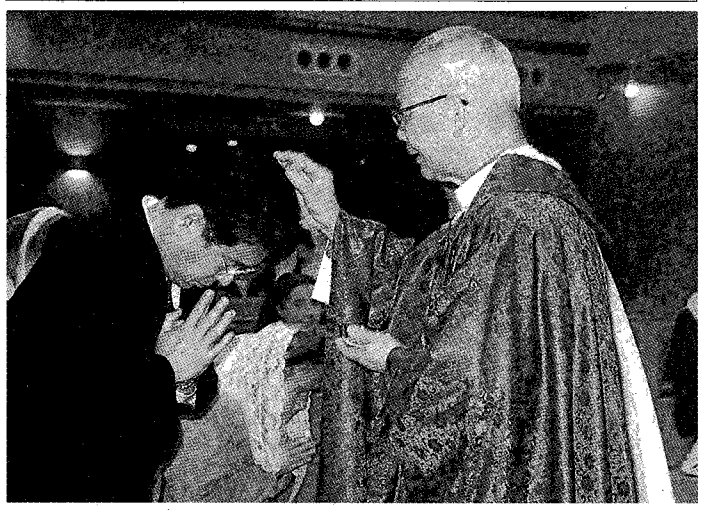
徐々に口語訳に移行していくことも確認された。新しい口語訳を歌唱するための曲については今後の検討課題となり、歌唱ミサの場合に口語訳を用いる時は、しばらく「主の祈り」だけ唱えることで対応することになる。なお、『日々の祈り』に掲載されている口語訳の「聖母マリアへの祈り」（天使祝詞）と「栄唱」については、これを公式の口語訳とすることも再確認された。

慣れ親しんだ文語訳「主祷文」に対する愛着もあるだろうが、信者としての大切な祈りである「主の祈り」が相応しく祈られ、黙想され、その心を今の世代に正しく伝えるための口語訳であると同時に、教会一致への大きな一歩でもあることをふまえ、新しい「主の祈り」に親しんでいって欲しい。

なお、各教会に在籍信徒数を踏まえて新しい「主の祈り」のカードが配布される予定。各自が身近において唱えるよう強く勧められている。

二月に開催された臨時司教総会に於いて、新しい口語訳の「主の祈り」が承認された。この「主の祈り」は聖公会でも唱えられる共通訳で、ミサ中をはじめいろいろな典礼行事、集会等で唱えることができるものである。今後、公式の祈りとして徐々に定着させていくことになった。これに合わせて、『日々の祈り』に掲載されている口語訳の「主の祈り」（天の父よ～）は公には唱えないことになった。従来唱えられてきた文語訳の「主祷文」については、引き続き使用できるものとするが、

四旬節愛の献金
すべての貧しい状態におかれている兄弟姉妹の“叫び”にこたえよう！


回心して福音を信じなさい。あなたは塵から出て塵に帰って行くのです。

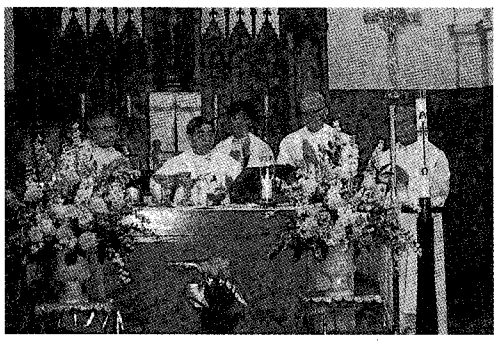
今年の教皇四旬節メッセージの中で教皇は、聖年は恵みの時であり「聖年を通して、主は私たちが愛の火を再び燃え立たせるよう、求めておられます」と呼びかけています。同時に、聖年の和解と回心は、キリスト者だけでなく、全世界の善意ある人が体験できる貴重な一年になるはずですと述べています。

四旬節中に行われる愛の献金は、回心して愛に目覚めるという意味があります。個人的な回心とともに、全ての貧しい状態におかれている兄弟姉妹の叫びに答え、神様の望まれる愛のある世界造りへの協力として、大聖年の四旬節愛の献金・聖地献金が奨励されます。

ヨセフ松永司教霊名の祝日を祝う

教区としての司教霊名のお祝いが、今年は奇しくも司教の七十才の誕生日に当たる三月七日に行われた。

十一時から浄水通教会で行われたミサには、五十人余りの司祭と修道者・信徒がともに祭壇を囲んだ。説教の中で司教は、教区は一つであり、自分はその中の一つの小さな道具に過ぎないが、皆さんが司祭として一つの祭壇を囲んでミサを共にささげることは美しく、天の父のみ心にかなうことだと感謝を述べた。続いて、聖ヨセフについて、大聖年について触れられた後、過去、現在そして未来が一緒になって、一つの教区として立派に神様の栄光を表していけるようにと述べられた。



時の話題
入管法改定の中で

堀　スミ子

入管法の一部がまた改定となった。改定内容は①不法在留罪の新設②再上陸拒否期間の伸長③再入国許可期間の伸長の三点である。③はともかく①②は非正規（いわゆる不法）外国人への規制と罰則の強化である。この六年、移住労働者支援で何かと入管に係わってきた私ども美野島司牧センターが一番危惧したのが②である。何らかの理由（たとえば超過滞在）で国外退去させられた人が日本に再上陸するには最低一年待てばよかったのが、五年に延長されてしまった。日本にいる間、結婚などで家族を構成した（あるいはしようとした）人がその手続きを完了しない内に国外へ五年も退去となったら、家族は長期間ばらばらにされてしまう。

全国の外国人支援組織（NGO）の懸命の反対運動の結果、「法の運用に際しては家族の結合に十分配慮する」という付帯決議がつけられた上で、国会で昨年八月成立し、今年二月施行となった。時をほぼ同じくして東京入管に超過滞在外国人二十一人が集団出頭した。十年近い滞在で日本に生活基盤があることを理由に法務大臣の在留特別許可を申請したのだが、今までなら不許可であった。当事者たちの捨て身の決断をNGOが支え、その支援は海外にまで広がりマスコミも大いに注目した。

出頭から五ケ月後の今年二月、四家族十六人に許可がおりた。法を超えて外国人の基本的人権が保証された画期的な出来事であった。

経済格差がある以上、国を超えた労働力の移動を止める事は出来ず、入管法の規制や罰則を強化しても解決にはならない。今までも移住労働者は日本経済を底辺で支えてきたが、今後も少子、高齢化、人口減少が進めば、海外から大量の労働力を求めざるをえない。移住労働者を受け入れる政策に転換し、国際人権規約に批准している国としては、彼らを単に労働力として扱うのではなく、人間として向き合う事を今こそ考えねばならない。

（美野島司牧センター）

召命を共に祈る会の徹夜祈祷会
2000年の光に向かって

召命を共に祈る会（代表・青木悟神父）主催の「召命を祈る徹夜祈祷会」が三月十九日・二十日、浄水通教会とカトリック神学院を会場に行われた。神学生、修道者を始め、福岡、北九州、熊本から来られた信徒の方など、延べ六十人近くの参加者を得た。

夜八時から浄水通教会で聖体が顕示され、一同で教会の祈りを歌唱しながら永久聖体礼拝に入った。その中で、山頭原太郎神父は「召命を祈るという時、まず、現在活躍中の司祭・修道者が自分の本当の使命を自覚して、それに忠実に生きることを祈ること。次に、若者がたくさん司祭・修道者への召し出しに応えることができるように祈ること。後継者の養成をする専門家を作ること。召命の苗床は朝夕、神への祈りを捧げるキリスト者の家庭である」と語った。

参加者は大聖年の扉を開く式や聖地巡礼のビデオを見たり、聖体の前での合同の礼拝やロザリオの祈りをした。そして、顕示された聖体の前では、信徒を始め修女連のシスターやパウロ会、司教館の神父が交代で祈った。夜には軽食もでた。

朝五時十五分からは松永司教司式でミサが捧げられ、司教は、神様は何もない所から創造することができる方であり、徹夜での祈りは神様の前で力あるものだと感謝を表わした。

また、二十日は松永司教の霊名の祝日であったので、ミサの終わりに一同で作成した霊的花束と花輪を司教に贈呈し、希望のうちに散会した。


夜を徹して召命を祈る参加者

司祭異動

田川カトリック幼稚園園長川上惣一［行橋カトリック幼稚園園長兼任］▼武雄教会主任・武雄カトリック幼稚園園長Ｌ・マネルバ［鹿島教会主任・鹿島カトリック幼稚園園長兼任］

今月の意向

【一般の意向】神の慈愛のしるしである難民受け入れ
【布教の意向】アフリカにおける諸国民の間の和解
【日本の教会の意向】移住者、難民への援助
教皇様の意向のために祈りましょう

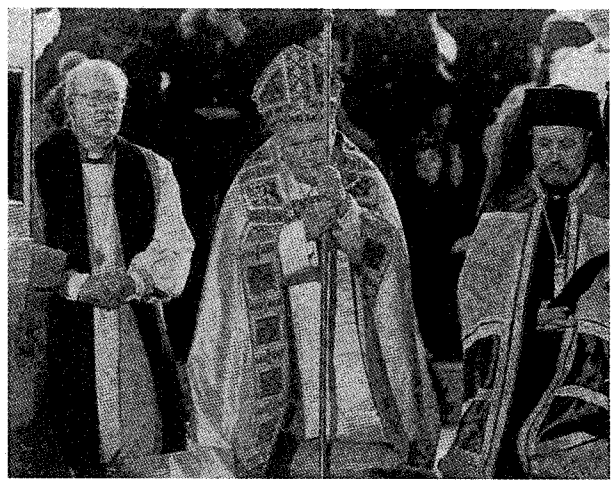
みちくさ

消しゴムーその他修正液など、われわれの犯した誤りを訂正できる仕組みのすべてーこれこそ過去二〇〇〇年間で最大の発明である。なぜなら一度つくったものを抹消したり訂正できなければ、科学理論のモデルの確立や、政治・文化・倫理を発展させることはできなかったであろう、という▼「二〇〇〇年間で最大の発明は何か、その理由は」この質問に第一線の科学者、思想家たち一〇八人がインターネットを通じて寄せた機知あふれる回答集が、一冊の本になった（ジョン・ブロックマン編『二〇〇〇年間で最大の発明は何か』草思社刊）▼ただし、最も重要な発明は印刷機である、とするのが一般常識であり、どの国の学校でもそう教えられている。この本でも一〇八人中六人が印刷機を挙げている。「紙に言葉を並べるだけで生活できる人びとを生んだから」という、ひねった理由をもちだした人もいるが…▼「消しゴム」を挙げたダグラス・ラシュコフは言う。「消去装置はわれわれの罪の告白を聴いてくれる司祭であり、罪を赦してくれる法官であり、タイムマシンなのだ。」言い得て妙である。「過ちは人の常」われわれには消してしまいたい過去がたくさんある。なにも神奈川や新潟の県警に限らない▼時まさに回心の季節の真っ最中！神の手にある消しゴムはゆるしの秘跡であり、神の最大の発明の一つ、といえる。告白による罪の消去なしには、われわれの霊的向上も救いも考えられないであろう。神の消しゴムの性能は保証つき。大いにこれを利用しよう。論語に言う。「過ちては則ち改むるに憚ることなかれ。」また言う「過ちを改めざる、これを過ちという」〈H〉

教皇様

「回心と和解の日」ミサを行う

教会の過去の罪を七つの分野で謝罪



教皇ヨハネ・パウロ二世は、四旬節第一主日に当たる三月十二日を「回心と和解の日」と大聖年のスケジュールで発表していたが、この日、「回心と和解」のミサを捧げ、カトリック教会が歴史の中で犯してきたさまざまな罪と過ちのゆるしを願った。

このミサに先立って、教皇の熱心な依頼を受けて教皇庁国際神学委員会は、長期にわたって検討を重ねた結果、三月七日『記憶と和解ー教会の過去の過ち』と題する公文書を発表していた。

十二日、教皇は聖ペトロ大聖堂において約一万人の参列者、多くの枢機卿、大司教とともにミサを捧げた。教皇は説教の始めに、「キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちは、その方によって、神の義を得ることができたのです」（Ⅱコリ5章20～21節）を引用し、「このあわれみの年、教会がその主から受ける聖性の力に強められて神のみ前にひざまずき、自分の子らの過去の罪、現在の罪のゆるしを請う」ように語った。そして、わたしたちの罪を告白する一方で、わたしたちに対して他の人たちが犯した過ちをゆるすように語った。

共同祈願において、七つの分野に分けて罪を公に謝罪して、ゆるしを願った。その七つの分野とは、①一般的な罪②真理への奉仕において犯した罪③キリスト者とその教会の分裂の罪④イスラエルの民に対して犯した罪⑤愛と平和、諸民族の人々の権利と、彼らの文化と宗教に対する尊敬に反する行為の中で犯した罪⑥女性の尊厳と人類の一致に対して犯した罪⑦基本的人権に関する罪を指している。

教皇は「私たちは、キリスト者の間の分裂について、真理を求める奉仕において、あるキリスト者たちが用いた暴力について、他の宗教の信者に対し、しばしば向けられた不信や敵意といったふるまいに対し、ゆるしを願います」と祈った。「真理を求める奉仕における暴力」という表現は、異端裁判、十字軍、先住民族に対する強制改宗などを意味している。

教皇は、しばしば、大聖年はカトリック信者が教会として共同体として犯した罪も含めて、過去に犯した罪のゆるしを願う絶好の機会であると言われていたが、今回、特に、このようなゆるしを願うことは「記憶の聖化」につながると言われている。

このミサには、教皇庁の各省の長官である枢機卿や評議会の議長たちが、自分の関係機関の犯した過ちについて共同祈願をした。浜尾文郎大司教も、「わたしたちキリスト者がその高慢さ、嫌悪、他者を支配しようとする欲望、また他宗教の人や移民、移動者のように社会で最も力の無い集団の人々に対して向けられる敵意からでた、言葉と行いを悔い改める」よう祈った。

「記憶と和解ー教会の過去の過ち」を発表

三月七日、教皇庁はバチカンで文書『記憶と和解ー教会の過去の過ち』を発表した。この文書は、教理省の国際神学委員会が、四旬節第一主日の三月十二日に、教皇が、教会のメンバーが犯した罪について、神にゆるしを願うことに合わせて作成されたもので、教会の過去の過ちの列挙は同じ。

ラッツィンガー枢機卿（教理省長官）は「私たちがここに告白するのは、誰かを非難するためでもなく、裁くためでもありません。それはかえって、私たち自身を知り、過去の記憶の清めと私たち自身の真の刷新のために、心を開くためなのです」と説明した。

深い祈りの香が漂う教会！

新しい福音宣教①

鈴木忠一神父

ヨッパライが叫びました。「神さま、私をあわれんでください！あの教会の神父さんも信者さんももう来るなと私を追い出すんです。」すると神さまの声。「ああ、あの教会か。実は私も追い出されているんだ！」

教会は、神さまの愛と慈しみ、ゆるしといやしがあふれているところです。もし、教会に神さまがいなければなんにも出来ません。存在価値も意味もありません。

ましてや、教会が福音（神さまの愛）を宣べる時、教会の中に新鮮さと活力と能力を保つためには、教会自身はいつも回心と刷新によって福音化される必要があります。

日本のカトリック教会が、新しい心で福音宣教を！と旗印を掲げてからずいぶんたちます。

一九七二年、日本の司教団は「社会に福音を」を発表。一九八四年には「日本の教会の基本方針と優先課題」をまとめて、福音宣教の強化と社会・文化の福音化を最優先するとの姿勢を明確に示し、八七年に第一回、九三年に第二回の「福音宣教全国会議」（NICE）を開きました。第一回が「社会に開かれた教会づくり」、第二回は「家庭の現実から福音宣教のあり方を探る」と適切な魅力的なテーマで日本の教会の課題と姿勢を確かめました。

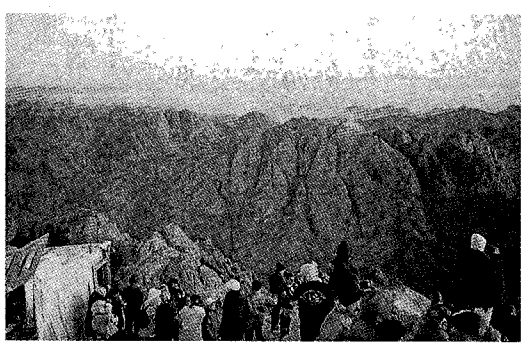
喜び、生活、社会の現実、家庭、小さい人びと、共に、などという言葉を繰り返し使って、ワクワクしながら福音宣教に向かう教会の新しい方向性をみんなで探してきました。

さて、大聖年の今年、ここ福岡教区で新しい福音宣教に何をしたらいいでしょうか。まず、神さまと小さい人びとを追い出さない教会を！そして、いつも深い祈りの香りが漂う教会。そして神さまの暖かさと優しさと明るさが感じられる教会になりたいですね。

「教会は神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具、いわば秘跡」（第二バチカン公会議『教会憲章』）だからです。

シナイ山に登った

中村　彰神父



三月二日より十一日まで十日間、出エジプト記・シナイ山と聖地巡礼に行ってきた。エジプトでは考古学博物館、三大ピラミッド、コプト教会を見て、シナイ半島をバスで下り、いよいよ楽しみにしていたシナイ山登山となった。ふもとの聖カタリナ修道院を午前二時に出発。八合目までだらだらの登り道なので、ラクダで行く人もいる。八合目からは急な石段となる。頂上は風が強く、寒さを堪えて、日の出を待つ。日の出とともに空の色が変り、回りの岩山も朝焼けの赤色になったりと素晴らしかった。



イスラエルでは死海とクムラン・エリコを通り、ガリラヤへ行く。受胎告知からカナの婚姻、ペトロの家など公生活ゆかりの地を見て回る。最後にベツレヘム・エルサレムに行き、降誕と受難のゆかりの地を訪ねた。砂漠や岩山の死海、緑豊かなガリラヤ、城壁の町エルサレムといった印象を受けた。

今回、聖地巡礼に参加して頭の中で描いていた地形を本物と重ねることができた。駆け足で回ったのでゆっくり味わうことができなかったが、これからもっと聖書の理解を深めていきたいと思った。

（福岡カトリック神学院院長）

ある大聖年に小倉教会が企画して下さった巡礼団の一人として参加出来たことを、本当に幸せだと思っています。

巡礼のスタートは、ヴァチカンの地下聖堂の御ミサの感激に始まり、翌日は、教皇様の謁見の栄に浴しました。サンピエトロ広場を埋める世界各国からの六千余人の巡礼団の中で、場内アナウンスで「日本の小倉の巡礼団」と紹介されるや日の丸の小旗を手にした小倉教会の巡礼団は一斉に立ち上がり、「バンザイ、バンザイ、パーパ」と二唱し、教皇様のお目にとまった事と思いました。

次の日は、アッシジ、フィレンツェ、ミラノを回り、ルルドに着きました。

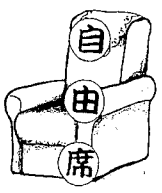
早朝六時に聖母マリアの洞窟の御ミサは気温二度、身も心も痺れる中で、今迄に経験した事のない、心より敬虔な気持ちに浸りました。

今回の巡礼で得た事を糧として今後の信仰の道を歩みたく思います。

（小倉教会信徒）

ヴァチカン巡礼

守山　敬



生涯に一度はぜひ訪れたいと思っていたヴァチカン、その願いがこんなに早く、しかも意義もに、大変評判のよい年中行事の一つであります。

指導してくださるアレグリーニ神父は、毎年一つの大きなテーマを設け、それに関係のある聖書の中の言葉を、参加者全員がよくわかるように懇切に教えてくださいます。

次の「聖書を読む会」で一緒に味わう聖書の章・節を、あらかじめお知らせいただきますから、そこのところを何回か下読みしますが、私一人ではよくわからない言葉や文章が出てきますので、今度の読む会で質問しようと思って出席します。

ところが、その日の神父のお話を聞いていますと、いつの間にか、わからなかったところがすーっとわからされてゆきますのが不思議なほどです。神父は「ただわかっただけにとどめないで、それを日常生活の中に実際に生かしてゆくことが大切ですよ」と必ずつけ加えて励まされます。



この会に出席する喜びが、私を支えていることに感謝せずにはいられません。

（葉隠研究会初代会長）

聖書を読む会

古賀　秀男

佐賀の代表的古典であり、日本思想史上の名著の一つでもある『葉隠』の研究をきっかけとして、知り合ったアレグリーニ神父のおすすめを受け、私は佐賀カトリック会館で開かれている「聖書を読む会」に平成五年から出席しています。

この会は佐賀カトリック教会の一般の人々にも参加を呼びかけられている「人生講座」とともに、信徒だけでなく、信徒以外が、

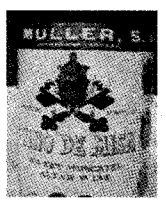
四旬節とご復活・黙想会のご案内

① 4月1日(土) 16：00 ～ 2日(日) 昼　食／〈ガブリエル神父〉
② 8日(土) 16：00 ～ 9日(日) 15：00／〈マテオ神父〉
③ 15日(土) 16：00 ～ 16日(日) 昼　食／〈ガブリエル神父〉

※聖なる三日間と主の復活を祝う
4月20日(聖木曜日) 16：00 ～ 23日(復活の主日) 昼食／〈鈴木神父〉
会費：① ～ ③　6000円／※18000円　◎問合せはお電話でどうぞ〈9：30 ～ 17：00〉

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

おにぎりにぎって ミレニアムの出会い

カナの会

三月五日（日）、カテドラル大名町教会でカナの会による第二十一回『出会いの集い』が催された。

今回は、北九州、熊本、長崎、佐賀と遠方からの方も含めて参加者は男性十六人、女性十七人であった。

指導司祭の浦口神父様の慈味溢れる開会の挨拶に続いて、社交ダンスインストラクターの吉川信雄氏（光丘教会信徒）のアットホームな雰囲気作りの内に、簡単なステップからダンスが始まった。互いに、手を取り合って自己紹介をしあいながら次々とステップを進め、体も心もリラックス…。

ひとしきりダンスを楽しんだ後『おにぎりタイム』である。これは、前もって準備しておいたホカホカのご飯やのり、ふりかけで、参加者の方々におにぎりを作っていただこうと、計画したもの。男性も女性も厨房でエプロン姿となり、和気あいあいの内にでき上がったおにぎりがサンドイッチやオードブルと共に食卓に並び、ゆっくりと歓談しながらの昼食となった。その後、お互いについてのインタビュー形式のゲーム等もあり、今回の集いは、参加者の方々の、お互いをよく知りたいというご要望に少しでも添うことができたのではないかと思う。

スタッフの声＝カナの会の出会いで誕生したカップルからの、結婚式のお知らせは「労多く、実り少なし」と思いがちな私たちを勇気づけてくれます。今回も実りを祈っています。

最後に、カナの会を支えて下さる神父様方、いつも寛大に協力して下さる吉川氏に心から感謝致します。



仲良くおにぎり作りをする参加者

福岡ホスピスの会事務所を開所

将来は、ホスピスホットラインも可能に！

三月十二日（日）、カテドラル大名町教会において福岡ホスピスの会の一九九九年度最後の研修会が行われた。昨年五月から二ヶ月一回の研修会で、地域の在宅医療や福岡市内のホスピス医療の状況、遺族の方々との関わりなど多彩な講師を迎えて行われてきた。毎回の参加者は三〇人前後であったが、毎回、市内はもとより北九州からも参加があり「医療ボランティアとして働きたい」という人、ガンの体験がある人、自分の老後のためにという人まで多彩である。今回は、ホスピスの会の顧問でもある大山悟神父（サンスルピス大神学院院長）から、ホスピスボランティアとしての心得などについて話があった。

続いて、聖心ホスピス（熊本）のスタートの時からボランティアとして歩んでいる平田悠貴子（手取教会信徒）さんは、ホスピスボランティアとして、ガン末期だったH.さんとの関わりの体験から、その困難や戸惑い、不安、喜びなどを語った。講話の最後に、二人ずつになって自己紹介し、続いて一〇人になって他己紹介をすることで、相手のことをよく聴くことの大切さや難しさにも気付くチャンスになったと参加者に好評だった。

また、福岡ホスピスの会では、福岡市内に現在二軒の緩和ケア病棟を有する病院が出来たが、これからもできるだけ公的な緩和ケア病棟の設立を求めて行きたいと話している。

また、今回ホスピスに関する電話での相談も受けられるように、四月二日から事務所を開所することになった。場所は、大名町教会の裏手にある「松尾歯科ビル」4階になる。「医療に関する問い合わせなどは、数名の協力して下さる医師に回答をもらい、後日、相談者にファックス、あるいは電話で回答するようにしています」と話している。

当分、週に三日間の対応になるが、ボランティアの養成と協力をすすめて、早く毎日の対応にしたいとも話している。事務所の☎とFAXは092・737・3701

介護保険など、私たちの周りは難しい医療の問題が山積みです。新年度も、奇数月の第三日曜日には、今まで通りカテドラル大名町教会で勉強会が持たれることになっているそうです。



相手を聴く大切さと難しさにチャレンジ

第16回お母さんの集い

北九州

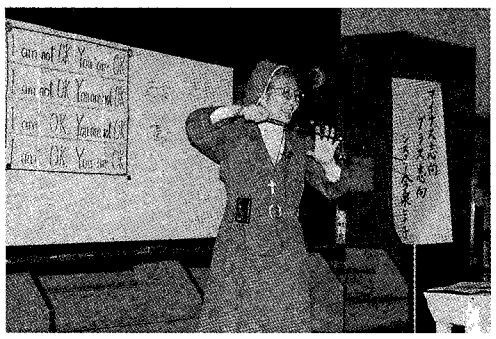
二月二十八日（月）北九州地区の「お母さんの集い」が小倉教会で開催された。第16回目の集いは八〇人余りの参加者。テーマは「マイナス志向・プラス志向」。講師はシスター今泉ひな子（コングレガシオン・ド・ノートルダム）。

講話の間にシスター自身のリコーダー演奏で、雰囲気を和らげ、私たちの心の中にひそむ四つの志向（構え）とどのように向き合い克服し、プラス志向に変えていくかといった、現代人にとって、また、子育て中のお母さん方にとっても一番興味深い話があった。

六年前の教区報で「ヤングマ黙想会」という集まりを知ったお母さんの呼びかけで、この集いが誕生。参加者の大部分である若いお母さん方が家庭、教育、社会など身近なところで出会う問題を気軽に分かち合い、耳を傾け、話し合える場を教会の中で、という経緯もある。

毎月一回の家庭ミサと分かち合い、年三回の講演会を行っている。

参加者の声＝この頃、こんなに飢えていました。また、新しい気持ちで子育てしていこうと思います。四月の新しい出発の時に、このようなお話を聞くことが出来とても感謝しています。



第39回クルシリヨ開催

場　所：福岡黙想の家
日　時：5月2日(火) 19時から
　　5日(金) 16時まで
指導司祭：下町豊重神父
参加費：12,000円
(宿泊・食事・用品代として当日受付)
携行品：ロザリオ・寝間着・洗面具
問合先：大谷真造
(☎092・661・0120)
申込締切：4月25日(火)
主　催：福岡教区クルシリヨ事務局
※キリストはあなたに期待を
かけています・・・！

若い人たちが…

司祭に叙階されて、七年が過ぎ、アッという間に八年目を迎えてしまった。先輩の神父様方にくらべれば、まだまだ「ひよっ子」なのかもしれない。しかし、最近いろんな面で自分もずいぶん年をとったなあと思うようになった。

最近、ある信者さん方とこういう話をしていたら、「何を言っているんですか神父様。まだお若いのに…」と言われた。確かに教区の司祭団の中では、下から数えても五本の指に入る程だから、そうなのかもしれない。だから、自分でももっと頑張らなくてはと思っている。

しかし、納得できないこともある。小教区内でも、また司祭団の中でも、何か役員（お世話をする人・責任者）を決めたりする時に、必ず聞くのが「若い人たちにお願いします」という言葉だ。若いのだから、いろんな可能性を秘めているし、年配の方々をサポートするのは当然だろう。しかし、今の日本社会では、御存知のように高年齢化が進み、若い人たちよりも年配の方のほうがよっぽど多いのである。それは、教区でも、小教区でも同じことがいえる。

昨年四月から二つの小教区の主任司祭をさせていただいているが、一方の教会は若い人と年配の方が半々で、他方の教会はほとんどがお年寄りである。『若い人が、若い人が』と言っている時ではないと思う。小教区でも教区でも、みなが一つになって、力を合わせてみ国の建設のために、力を注いでいかなければならない時なのではないだろうか。

教会が、そして神様が求めていらっしゃることは、若い人による教会づくりではないと思う。若い人だけでなく、私たち一人ひとりが教会であり、福音宣教者である。年寄りも、若者も、子ども達も皆一人ひとりが神様の子どもなのだ。信仰の恵みを受けて、ともに信仰の道を歩んでいる同志なのである。祈り、奉仕活動、典礼など、「わたし」にできる何かを見つけて、この二千年の大聖年という恵みの年をともに過ごしてまいりましょう。皆が年寄りになるのではなく、一人ひとりが若い心をもって。

直方・田川教会主任
中村　信哉神父

BOOK 読みは専科

★きかせてくださいマリアさま

メリー・ジョスリン作
アリソン・ワイセンフエルト絵
青木　久子訳



この絵本では、年配のマリアさまが、自分の生涯を振り返って、子どもたちに、はかり知れない神さまの愛について語ります。神さまの言葉を信じ、すべてを受け入れたマリアさまの生涯は、それだけに限りない愛と喜び、苦難と悲しみに満ちたものでした。聖書に基づいて描かれた、清々しく格調の高い美しい絵と文。

女子パウロ会　税別一四〇〇円

◇　◇　◇

★スピリチュアルケア

W・キッペス著



人間尊重の基礎は身体の健康ではなく、心です、と著者W・キッペス師は言う。現代の医学は、身体の健康よりも、人間の心とその心を動かすパワーを認識し、それを中心課題にすべき時、教育も頭脳を中心にした育成から、心の教育に焦点をあてる時である。

本書は、特に病む人とその家族・友人や医療スタッフのために、心のケアを中心課題とする「スピリチュアルケア」を日本の社会に紹介する。

サンパウロ　税別二三〇〇円

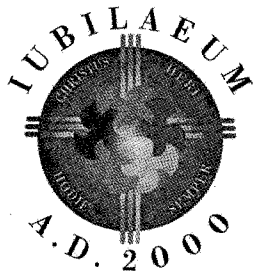
ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！



キリストは
きのうも
きょうも
永遠に！

大聖年巡礼指定地

◎カテドラル大名町教会（中央区大名2-7-7）
◎小倉教会（小倉北区香春口1-3-1）
◎手取教会（熊本市上通町3-34）
◎佐賀教会（佐賀市中央本町1-17）
◎大江教会（天草町大江1782）又は、
根引山の十字架の道行き（天草郡河浦町今富）
◎伊万里の聖母修道院（二里町大里甲1-41）
◎カルメル山の聖母修道院（福岡市西区今宿）
◎聖クララ修道院（小郡教会に隣接）
◎花岡山殉教者墓地（熊本市春日4丁目）

◆病人、独居老人、障害者、あるいは貧困や特別な困難の中にある兄弟姉妹を、その中におられるキリストへの訪問として訪れる時、巡礼となります。

※各巡礼地についての問合せは、教区事務所の青木悟神父まで。　☎092-522-4059

聖地巡礼と受難劇観賞

期　　日：8月31日～9月13日(14日間)
主な巡礼地：ド　イ　ツ…ミュンヘン、オーバーアマガウ(受難劇観賞)
イスラエル…ナザレ、エルサレム、ベツレヘム、死海
エ ジ プ ト…シナイ山、カイロ
旅　　費：498,000円（福岡発着）
申 込 先：近畿日本ツーリスト福岡支店
☎092・473・5655；FAX413・1510

※福岡教区司祭が同行します。

カトリックフェスティバル

テ ー マ：語りかけよう心を開いて
日　　時：2000年11月3日(祝) 10時開始
大会ミサ：14時30分
場　　所：久留米信愛女学院
主　　催：カトリック福岡司教区
問 合 先：水巻教会・松尾隆
☎・FAX 093-293-4981

※多彩な催しの中で、パネルディスカッションを企画中。パネラーは、4地区の司祭代表と男女信徒。
※テーマは「これから目指す、教区のあり方」。
※キリスト降誕2000年という節目を通して、さまざまな問題に目を開き、新しい時代の福音宣教に向けて、これから目指すところを考えて行きたいと企画しています。

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　4月

◇1日（土）～2日（日）　四旬節黙想会〈ガブリエル神父〉
◇1日（土）～2日（日）　塩谷神父聖研グループ
◇3日（月）～7日（金）　聖コロンバン会研修会
◇8日（土）～9日（日）　四旬節黙想会〈マテオ神父〉
◇15日（土）～16日（日）　四旬節黙想会〈ガブリエル神父〉
◇20日（木）～23日（日）　聖なる三日間の典礼と主の復活を祝う〈鈴木神父〉
◇28日（金）～30日（日）　祈りの会〈マテオ神父〉
◇29日（土）～30日（日）　塩谷神父聖研グループ
5月
◇2日（火）～5日（金）　福岡教区クルシリヨ
◇10日（水）　ミカエル会

※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく黙想会を計画いたしました。
ご参加ください。
※祈りの集い
年間テーマ：
「私を見たものは、父を見たのである」
・4月13日（木）10時～15時
特別黙想会
①日時：3月31日（金）15時～4月2日（日）13時
テーマ：「十字架の神秘と座禅」
②日時：4月7日（金）15時～9日（日）13時
テーマ：「ご聖体の神秘と茶道」
指　導：園田善昭神父
F.ソットコルノラ神父
岩元治美氏
[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100　FAX 0968・85・3186
＊個人、又はグループでの黙想常時受け付けています。

4月のこよみ

2日（日）　四旬節第4主日
花岡山殉教祭
福岡カトリックパストラルケア研究会■
5日（水）　†F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
7日（金）　†C.シュミッツ［黙想の家院長1988］
9日（日）　四旬節第5主日
司教座教会献堂記念特別献金日
12日（水）　†パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（木）　福岡教区司教座聖堂献堂記念日
15日（土）　†J.ドレル［直方教会1984］
16日（日）　受難の主日［枝の主日］
18日（火）　**聖香油ミサ［カテドラル15：00］**
20日（木）　聖木曜日
主の晩餐の夕べのミサ［カテドラル19：00］
21日（金）　聖金曜日（大斎・小斎）
聖地のための献金日
22日（土）　聖土曜日
復活徹夜祭［カテドラル19：00］
23日（日）　復活の主日
25日（火）　**司祭評議会［司教館10：30］**
†A.レウトル［新田原教会1944］
30日（日）　復活節第2主日（白衣の主日）
福岡生と老い・死をみつめる会■
5月
2日（火）　クルシリヨ［～5日］
5日（金）　†F.ルマリエ［八代教会1945］
7日（日）　復活節第3主日

■印は本面に詳細説明あり
ゴチック字は司教予定

◆福岡

■福岡パストラルケア研究会
［日時］4月2日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］東チモールでの病人訪問体験［講師］シスター亀崎善江（聖母訪問会）［参加費］700円［次回］5月7日

■SE・CO～奉仕と分かち合い～ボランティア・グループ総会
［日時］4月8日（土）10時30分［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会会議室［内容］講話、報告と新年度計画［講師］松井忠之神父［参加費］1、000円（昼食代共）［申込先］龍☎092・581・6838：山下092・574・3787：白壁092・552・1879：Sr高取092・512・0033

■第3回　信仰生活を深めよう
［日時］4月14日（金）14時～15時30分［場所］師イエズス修道女会聖堂（ピエタ）［テーマ］秘跡［講師］牧山強美神父（大神学院）［参加費］無料［問合先］☎092・526・9176（シスター関口）［次回］7月14日（金）14時

■典礼を学ぶ集い
［日時］4月16日（日）14時～16時［場所］大名町教会［講師］白浜満神父［テーマ］典礼行為のコミュニケーション的構造［参加費］600円［問合先］☎0940・33・8122井上［次回］7月16日（日）14時

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］4月23日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は5月28日（日）

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］4月27日（木）［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・533・2326小田部

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］4月30日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］平成十一年度総会［会費］500円［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■第80回福岡結婚準備セミナー
［日時］5月10日（水）～6月3日（土）毎水曜日と土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■福岡ホスピスの会
［日時］5月21日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［内容］地域が求めるホスピスとは［講師］江頭啓介医師（さくら病院院長）［参加費］700円［問合先］☎092・512・8723：80

◆北九州

■オペラ『忘れられた少年』
［日時］6月3日（土）予定［場所］九州厚生年金会館（北九州）［連絡先］北九州公演実行委員会☎093・921・0093（小倉教会）＊合唱メンバーを募集しています。［練習日］毎日曜日13時～15時30分

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。男の赤ちゃん用品も［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］毎月初木曜日・朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～20時30分［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［内容］ハネの第一の手紙［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754

◆熊本

■コンサートと記念講演会
［日時］4月8日（土）13時30分～16時30分［場所］熊本県立劇場コンサートホール［講師］山崎章郎医師（聖ヨハネホスピス長）［内容］ホスピスケアのめざすもの［参加費］1000円申込が必要［問合先］西合志病院☎096・242・2745［担当者］石田・中村

■スピリチュアルコンサート
［日時］4月29日（土）17時［場所］手取教会聖堂［内容］復活祭ミサ曲、その他［入場料］500円［問合先］グレゴリーナ☎096・322・0254坂田

■第62回熊本結婚準備セミナー
［日時］5月8日（月）～5月30日（火）毎月曜日と火曜日19時～21時30分［場所・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX 352・1515

福岡地区婦人会総会と講演会

日　　時：2000年4月4日（火）
場　　所：カテドラル大名町教会
総　　会：10：00～
講 演 会：13：30～
講　　師：大山悟神父（大神学院院長）
テ ー マ：いのち　この頂きもの！
会　　費：1,000円（昼食代含む）

■教区報に原稿を送って！
［日時］毎月10日締切り［内容］自由席（500字）、小教区やグループ活動の案内（できるだけ早めに）と報告。

編集後記

本号の編集作業に協力しながら、改めて大変な役を頂いたと痛感しております。言葉（文字）は人を生かしも殺しもできる力を持っているということを忘れずに、編集委員の方と協力して編集に携わって行きたいと思います。

大聖年ということで、本号より「新しい福音宣教」というテーマのもと、シリーズ連載を企画しました。一年を通して三人の神父様に寄稿していただく予定です。トップバッターを引き受けて下さったのは御受難会の鈴木忠一神父様（黙想の家）です。どうぞお楽しみに。

（田中）

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

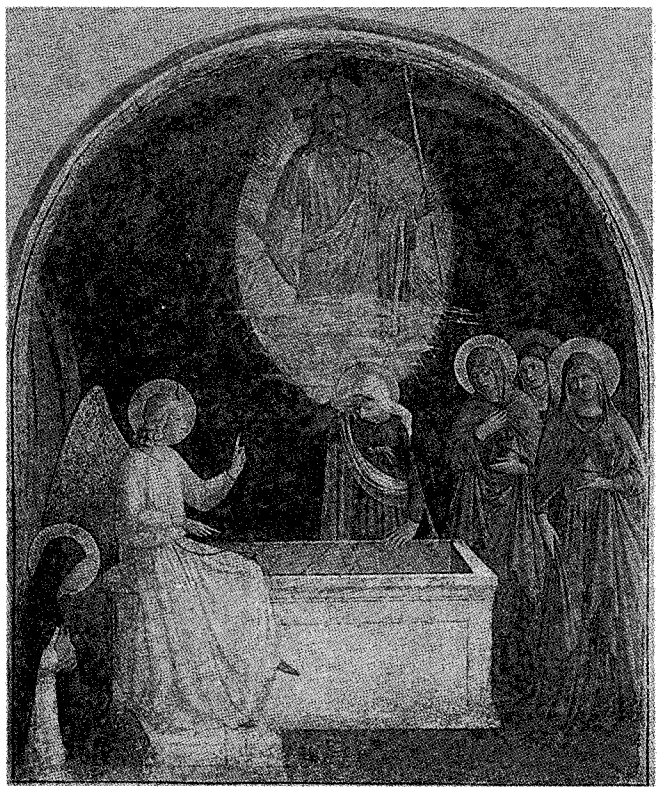
今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】キリストに従う者の模範である聖マリア

【布教の意向】教会にとり新しい春のしるし新殉教者

【日本の教会の意向】科学の進歩



（フィレンチェのサンマルコ美術館蔵フラ・アンジェリコ画）

私たちの希望
キリストは復活された！
アレルヤ！

聖香油ミサ

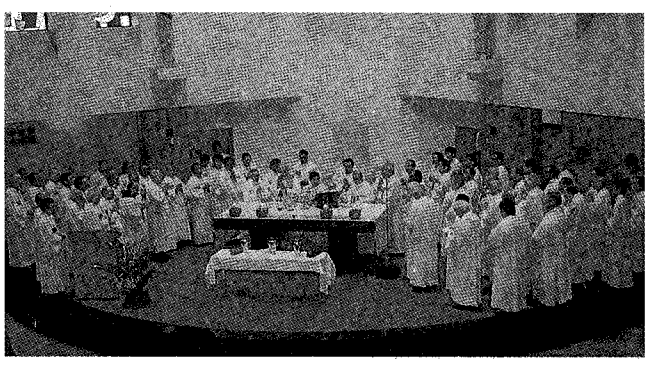
70人の司祭と2人の司教が司祭職更新

司祭職制定の記念
ご聖体と司祭職は教会の力

「主はわたしに油を注ぎ…、あなたたちは主の祭司と呼ばれ、わたしたちの神に仕えるものとされる…。」四月十八日聖火曜日、カテドラル大名町教会で、司教と司祭団の一致を示す聖香油ミサが行われ、司祭職60年、50年を祝う集いがもたれた。

十八日午後三時、多くの修道者や信徒たちが見守るなか、七〇人の司祭団が入堂、松永司教司式でミサが始まった。一つの祭壇を囲む二人の司教と司祭たちの姿は、司教と司祭との固い絆を如実に示すものであった。

松永司教はミサ中の説教で、ヨハネ・パウロ二世教皇が大聖年の記念に聖地を訪れ、司祭職に関わりの深いあの最後の晩さんの高間で、聖木曜日に恒例の「司祭への手紙」に署名されたことを述べ、そのメッセージを紹介しながら話された。



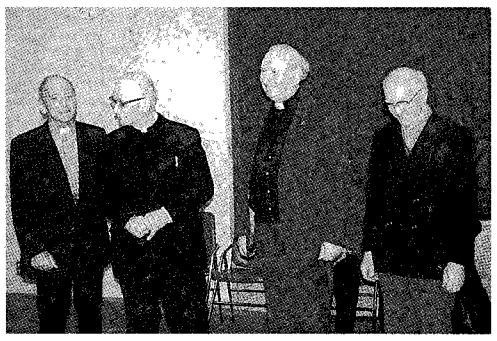
「主が神と弟子たちの一致を祈り、最高の愛の掟を与えたあの高間から司祭たちに送る教皇の言葉に耳を傾けよう。

主は司祭職、ご聖体という最も良きものを土器のような弱い人間に与えた。新約の司祭職はいけにえでもある。司祭がふさわしい生活をし、自ら犠牲となって人々の糧となるように。そのために孤独や苦しみに耐える内的力をご聖体から汲みとり、司祭に対する教会の心を心として、与えられた道を忠実に歩むことを誓いたい。」

司祭職の成立を記念するこのミサでは、司教を始め全司祭の約束の更新が公式に行われ、病者の油、洗礼志願者の油、香油が聖別された。

ダイヤモンド・金祝の四宣教師をたたえる

ミサ後、一階ホールで司祭職60周年50周年祝賀会が開かれた。ダイヤモンド祝のN・タッサン神父（カルメル会付）C・J・ミケレーナ神父（トラピスト会付）、金祝のC・ガザルディ神父（伊万里教会）M・ラバルタ神父（天神町教会）が紹介され、堤要吉神父の祝辞の後、松永司教より記念品が手渡された。四人からは異口同音に「神に感謝、皆さんに感謝。最後まで頑張りたい」と、支援と祈りを願う返辞があった。



新しく転入転出する神父たちの紹介の後、平田司教の乾杯の音頭で祝賀会に入り、和やかな雰囲気のうちに散会した。

皇二つの教皇メッセージ
聖体―教会における召命と役務の源
メディアを通してキリストを二〇〇〇

世界召命祈願日

復活節第四主日は司祭職および奉献生活への召命について共に考え、分かち合う「召命祈願日」です。教皇はこの日に当たり「聖体―教会における召命と役務の源」というテーマでメッセージを発表されました。その中で教皇は、今もイエス様がご聖体から人々にご自分の弟子になるようにと絶え間なく招いており、あらゆる召命は御父からの賜物だが、これはいろいろな人の手を経て届けられるものだと述べています。そのためにも、すべての司祭、奉献生活者が、大聖年に当たり自分の召命の素晴らしさを再び見いだし、召命の恵みに喜んで生き、これを聖体との出会いのうちに毎日養い育み、周りの人々に証するように促しています。また、すべての信徒も聖体が全ての中心であることをわきまえ、聖体の役務者が必要であることを理解し、召命を育てる人になって下さいと促しています。

世界広報の日

今年も復活節第六主日は世界広報の日。今年のテーマ「メディアを通してキリストを二〇〇〇」のもと、教皇は最初の弟子たちが受けたイエスの死と復活、私たちの人生における救いの存在としてのイエスを証する命令は今日も同じように私たちに義務と特権として存在していることを述べています。そのため、特に現代はメディアのもつ役割は大きく、暗に主を示すだけでなく、はっきりと十字架につけられて復活し、罪と死に対する勝利を収めたイエスを示す方法を相手の理解力にあわせつつ見つけだすべきだとも述べています。今年も、教区では広報研修会が開かれ、世の中にあって正しく証するため、広報における伝達手段である言葉そのものが持つ力を考えます。

小笠原玄也とその一族の列福を祈る
熊本・花岡山

熊本の殉教者十五人が眠る墓地広場にて、四月二日午後一時より、松永久次郎司教の司式のもと、恒例の花岡山殉教祭が挙行された。今年は雨の中、地元熊本及び教区の各地から、司祭、修道者、信徒約四百人が、ここに集った。式典は先ず、小笠原玄也とその妻加賀山マリアみや一族十五人の殉教者が眠る「聖域」へ行列が行われ、墓前にて、司教による献香、散水式、ついで、参列者一同、心を一つにして、十五人の殉教者たちの列福を求める祈りが唱和された。

殉教ミサは松永司教と地元の各小教区の司祭ら十人の共同司式で捧げられた。



司教はその説教の中で、地道に生きて、そのまことを神に捧げた殉教者たちの生き方について力強く説かれた。

式典は雨の中で挙行されたが、四時過ぎに無事終了した。

なお、今年から、殉教者一人ひとりの名を心に刻み、霊的交わりを深めるため、ミサ中新たな典礼として、一人ひとりの名を銘記した十字架が奉納されることになった。

時の話題

畠山　春秋

イエスの五つの変容

四旬節第二主日の福音で、山上でのイエスの栄光に輝く変容の物語を読んだ。しかしイエスの変容には五つあると思う。一つはイエスの降誕で、広大無辺の神が、小さな赤ちゃんとなった変容、第三は真善美の神が、傷だらけ血まみれの無残な屍となった変容、第四は死者から生者への復活の変容、第五はパンとブドウ酒の形色の聖体への変容である。この五つの変容は、どれも神の側では全く必要のない変容で、神の人間に対する絶大な愛に基づくものである。そして聖体は神の究極の愛の結晶みたいなものだ。自然界では一般に力の強いものが、弱いものを食して生きている。

しかし大いなる権力者である神は、塵の如き人間の食べ物となられた。愛は神でさえ盲目にするのだろうか。イエスは言われた。「私の肉を食べ、私の血を飲む者は、永遠の命を得る」（ヨハネ六章）と。だがいくらイエスの肉を食べよと言われたって、赤ちゃんのイエスではかわいそうで食べられはしない。山上の栄光に輝くイエスだったら、食べるどころか使徒たちのように失神してしまうだろう。ゴルゴダのイエスはあまりむごくて食べるどころではない。復活のイエスも崇高すぎて食べられたものではない。だから全能の神は人間にたやすく食べてもらえる方法を採用された。パンなら誰でも平気で食べられる。思い出してみよう。ミサ中何度よそ見をし、何度気を散らしながら聖体をいただいたことだろう。それでもなお神は人間に食べられたいのだ。何と感動すべき事だろう！　貧しく卑しいしもべが主人を食べるなんて！

教区の年間テーマも四旬節教書も、共に聖体の秘跡についてであった。聖体拝領で私たちはイエスと共生することになる。共生の原理は、受けそして与えることである。世情を眺めると贈収賄、不正融資、横領、保険金殺人、覚せい剤など、他人などどうでもいい、のようだ。いまこそ聖体に学ぼう。

（二日市教会　信徒）

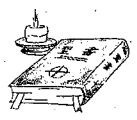
みちくさ

「こういう言葉は何気なく使っていますよ。」一月号本欄の重ね言葉について反応があった。自分の記事に何らかの反応があると、ああ、読んでくれてるんだ、と嬉しいというか励みになるものだ。小生の場合、豚もおだてりゃ木に登るとかで、調子にのって重ね言葉（二重語）をさらに追跡・集録に励んだ▼まずよく見るテレビから。スポーツニュースで野球解説者が「まっすぐなストレート」をほめるかと思えば、有珠山噴火の報道では、予報的中で噴火の前に「住民の人たち」は全員避難ずみ、とアナウンサー。ワイドショーではデヴィ夫人が「彼らたち」こそパラサイトとかなんとか、まなじりを決して発言▼身の周りでは最近「車の車検」があり、修道会にも「いろいろな諸問題」があることを知らされた。自らもテレビ番組表を見ながら「録画を録っておこう」とついうっかり…▼世の中「一見みた」だけで「違和感を感じ」たり、雄大なパノラマを「一望のもとに眺め」たり、「自分のマイペース」で事を運んだりする人が多いようだ。久留米教会裏の商店街を歩いていたら「なんでもオール一〇〇〇円」の立看板有り▼話し言葉に多い二重語は、言う人も聞く人も、ほとんど気づかないものらしい。長年なんの抵抗もなくおみおつけ（御御御付）おみ足（御御足）おみ堂（御御堂）と言いなれてきたせいか。二重語にいちいち目くじらを立てる小生が異常なのか、校正のくせが身についてしまったための悲しい性か▼二重語ではないが、三月ルルド巡礼の折飛行機の中で「機内の座席では…」とアナウンス。まさかとは思うがそう聞こえた。機外にも客席が?と一瞬思った小生は、やはりへそ曲がりなのだろう。ならば本領を発揮してご挨拶。「御復活のお喜びをお祝い申しあげます。」（H）

愛を込めて、燃え続くランプを！

新しい福音宣教②

鈴木忠一神父



マザー・テレサは小柄な聖女。でも「神の愛のブルドーザー」でした。

メルボルンで孤独な老人を訪ねたときのこと。部屋に使っていないランプに気づき、なぜつけないのかと聞くと「誰のためにつけるのか。誰も会いに来やしない」と答えた。翌日からシスターを老人宅にやり、掃除や話し相手をさせた。やがて老人からの言づてがあった。「あなたのつけてくれたランプはいつまでも燃え続けている」と。

福音を伝えるためには、このように力強い熱意が、あたたかい愛が、どんな障害をものともしない勇気が大切です。宣教者の模範と言われている聖パウロは言います。「ちょうど母親がその子どもを大事に育てるように、わたしたちはあなたがたをいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく自分の命さえ喜んで与えたいと願ったほどです」（テサロニケの信徒への手紙一）。母の愛、命がけのこの愛こそ、キリストの福音を全世界に告げ知らせ、初代教会を立ち上げた聖パウロの原動力だったのですね。

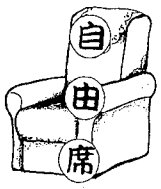
「今日の最も重い病気は、人から愛されていない、だれからも見捨てられていると感じることなのです。」二度も日本に来たマザー・テレサは「貧しい人がいないのに、重い病気に悩んでいる豊かな国・日本」において、愛の不在を嘆かれました。

今日、日本の社会で、新しい福音宣教に大切なのは、教え導く「教師の愛以上のもの。父の愛、母の愛です。……愛のしるしの一つは、真理を与え、人びとを一致に導く配慮。そしてキリストを宣べるために、献身的に働くことです」（パウロ六世「福音宣教」）。愛のしるしは、その外、第一に、人びとの宗教的、霊的環境を尊敬し、やさしく関わること。第二に、信仰の弱い人びとの心を傷つけないように注意すること。迷いとつまずきに苦しんでいる人びとをあたたかく支え、包むこと。さらに第三は、神のことばにしっかりと根を下ろした堅固な確信を持つことです。生半可な知識から生まれる不安や疑いをさけて本当のことをしっかりした言葉で明るく語ること。福音化の愛はハンパであり得ません。

片隅でもいい、どうかこの国のどこかに燃えつづける福音のランプをともせますように！

（福岡黙想の家司祭）

召命徹夜祈祷会に参加して



江口　スズ子

三月十九日、福岡カトリック神学院で「召命を共に祈る会」が開催され、小倉教会からは神学生二名を含む六名で参加しました。私は初参加でした。

夜を徹して翌朝の司教様による召命祈願ミサまで、青木神父様の指導によるオリエンテーションで始まり、聖体顕示のあと合同礼拝、ロザリオの祈り、自由時間、軽食タイムなど盛りだくさんのプログラム。夕の祈りと山頭原太郎神父様の講話があり、お祈りは熱心に目的をもって祈って下さい、そして良い苗床作りが大切です、とのお話。

昨今は子どもが少なくなっているとは言え、召命の良い苗床がなく、芽が出ないのでは？その時、「種を蒔く人」のたとえを思い出しました。参加者の中に若い人がいました。種はあります。参加者全員シスターと共に心を合わせ、夜通し祈りました。翌朝、司教様から、皆様の祈りに感謝しますとのお言葉。開始と中村彰神父様の巡礼のビデオを見たり、楽しい有意義な徹夜祈祷会でした。

眠い時もありましたが、大聖年

（小倉教会信徒）

福岡教区の現在と過去（5年間隔の教区現勢）

福岡教区現勢5年間隔の推移（1989・1994・1999）　*司祭・修道者・神学生の数は含まれません。

小教区名	信徒数			幼児洗礼			成人洗礼			求道者			不明			死亡	主日のミサ参加者		
	1999	1994	1989	1999	1994	1989	1999	1994	1989	1999	1994	1989	1999	1994	1989	1999	1999	1994	1989
糸島	330	258	0	1	2	0	0	1	0	1	3	0	30	0	0	2	100	100	0
今村	992	988	1,007	14	14	16	8	7	9	1	2	6	0	0	0	12	700	700	700
大楠	341	303	278	6	6	8	1	9	2	21	1	1	12	63	40	3	130	154	116
大牟田	233	200	196	6	2	1	4	2	6	6	1	9	17	20	22	3	100	70	75
小郡	390	370	347	3	5	6	1	0	1	0	3	2	31	7	10	4	70	130	120
久留米	1,261	1,250	1,067	12	7	22	2	2	10	13	8	9	0	0	89	12	600	480	400
古賀	893	797	603	0	4	4	4	5	1	9	6	10	8	0	0	7	220	275	240
笹丘	904	773	667	3	14	11	7	4	12	5	20	19	21	3	1	5	230	350	310
浄水通	551	440	321	2	8	5	18	13	12	150	20	19	16	5	50	1	141	250	150
大名町	1,645	1,548	1,185	6	15	21	15	22	32	30	38	9	110	71	446	13	500	500	650
高宮	471	503	570	2	2	0	4	3	8	4	6	14	77	28	25	6	130	110	110
茶山	565	566	524	6	2	4	1	1	1	1	7	0	0	0	4	3	250	267	300
西新	1,230	1,213	1,303	9	5	13	1	6	8	5	9	3	0	0	34	9	400	422	450
箱崎	287	287	290	2	3	1	8	1	8	7	4	5	0	0	30	1	90	100	120
光丘	1,177	1,209	997	10	11	12	9	9	9	8	10	7	85	0	95	3	280	350	260
二日市	657	443	407	8	5	4	10	5	2	18	7	7	60	11	11	0	250	240	200
本郷	682	653	646	11	0	8	5	1	4	8	4	4	11	22	35	5	350	380	450
吉塚	758	683	680	5	4	9	4	1	6	5	7	4	0	0	2	7	210	250	240
老司	675	545	577	20	11	8	16	3	3	12	6	3	0	36	0	7	130	150	200
小計	14,042	13,029	11,665	126	120	153	118	95	134	304	162	131	478	266	894	103	4,881	5,278	5,091
飯塚	243	258	255	3	3	6	4	0	0	4	5	4	0	0	0	1	70	90	75
黒崎	1,132	1,098	1,334	6	7	12	14	12	16	12	17	10	0	0	0	8	400	400	350
小倉	2,055	2,661	2,600	9	18	19	6	18	32	14	19	0	372	238	28	17	500	590	645
新田原	1,874	1,863	1,809	8	10	22	0	2	1	2	0	0	0	0	0	20	850	800	700
田川	152	151	168	1	1	0	1	1	0	1	0	0	26	26	26	3	30	30	66
天神町	338	315	310	0	2	2	2	0	1	0	1	2	0	0	0	3	80	88	80
戸畑	772	894	891	2	3	6	1	5	4	2	8	9	3	0	0	5	200	210	280
直方	186	131	113	3	3	0	2	2	0	2	0	0	6	18	7	2	45	40	30
水巻	757	703	594	3	3	6	5	5	0	3	0	12	0	0	13	7	150	200	250
門司	507	534	550	0	4	5	9	0	6	1	11	5	4	3	10	13	180	162	230
湯川	1,214	1,192	1,142	6	9	18	1	10	9	4	4	4	15	65	127	4	300	400	400
行橋	726	649	586	9	8	9	8	3	3	2	6	4	2	0	52	9	260	250	250
若松	275	335	330	4	4	2	0	1	4	4	8	0	0	0	0	0	80	75	60
小計	10,231	10,784	10,682	54	75	107	53	59	76	51	79	50	428	350	263	92	3,145	3,335	3,416
合計	24,273	23,813	22,347	180	195	260	171	154	210	355	241	181	906	616	1,157	195	8,026	8,613	8,507
伊万里	258	242	223	2	4	2	2	1	2	5	12	4	11	2	9	4	60	60	45
鹿島	52	48	86	1	1	1	0	0	0	2	1	1	0	0	41	0	12	10	12
唐津	471	394	375	6	5	6	1	9	4	2	0	0	20	3	18	3	120	70	85
佐賀	662	661	650	5	5	5	15	25	32	3	2	10	26	0	4	17	180	150	160
多久	118	116	116	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	30	40	25
武雄	86	78	79	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	20	20	15
鳥栖	384	340	298	1	4	1	2	8	6	9	9	8	2	0	2	2	120	120	100
馬渡島	375	346	328	6	4	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	335	185	150
呼子	301	373	351	7	3	7	4	0	0	3	1	2	34	0	0	6	150	350	300
合計	2,707	2,598	2,506	28	27	28	27	46	44	25	26	27	93	5	74	35	1,027	1,005	892
荒尾	148	134	130	1	1	2	2	2	4	4	12	13	9	0	3	2	50	50	55
大江	326	318	348	2	7	3	0	3	0	0	0	0	0	0	26	5	150	130	160
帯山	310	277	335	3	0	5	6	0	6	4	0	5	7	0	49	2	86	50	120
菊池	77	84	70	1	0	2	2	0	0	0	0	7	33	28	0	2	20	30	20
健軍	443	434	494	3	2	1	2	5	2	4	8	5	0	75	0	5	100	100	200
崎津	240	235	279	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	70	70	90
鳥崎	359	346	368	1	3	0	3	4	0	2	10	4	0	0	4	4	180	180	160
玉名	128	106	111	1	2	1	0	0	0	0	0	4	0	5	2	2	60	50	50
手取	1,053	1,292	1,191	6	8	8	21	47	16	41	27	20	34	114	117	22	350	500	376
人吉	188	199	194	2	4	1	2	1	0	2	1	6	0	2	2	7	45	70	90
本渡	97	146	100	1	2	4	4	1	1	3	1	0	0	1	35	1	30	30	20
水俣	101	98	101	5	0	4	1	0	0	3	0	0	8	4	0	2	30	28	30
武蔵ケ丘	379	357	406	1	2	0	3	9	6	8	3	27	0	27	10	9	200	200	150
八代	139	147	128	1	0	0	1	1	0	7	4	3	0	0	26	0	80	80	70
合計	3,988	4,173	4,255	28	32	34	47	73	35	78	66	94	91	256	274	64	1,451	1,568	1,591
総計	30,968	30,584	29,108	236	254	322	245	273	289	458	333	302	1,090	877	1,505	294	10,504	11,186	10,990

福岡教区現勢

共同体を活かす聖体祭儀主日のミサ

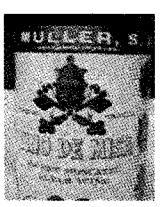
今年の現勢報告は、信徒数や洗礼者数などを五年間隔でみている。この統計を見る時、確実な少子化社会が教会の中にもあることを見ることが出来る。小教区の教会学校でもこの現実は歴然としていることだが、やはり寂しさがある。

数年前、オーストラリアを旅行した友人が、日曜のミサに参加しようと思ってホテルの近くを歩いてみると、教会が軒を列ねるようにあるのに気づいた。片っ端から入ってみる。祭壇が違う。司式者の服装が違う。やっと祭壇もそれらしい様子の教会があったので入って祈ろうと思ったがどこか違和感があった。そこも出て、次の教会に入ってやっとここだと確信した。その教会は子どもの声でうるさいくらいだった、と話してくれた。子沢山だった友人は、むずかる子どもに気を取られている内に気がつくと、別の子が祭壇に上がって行き、あろうことか司式中の司教様に自分のチョコレートを差し出しているのを見た時は、足がすくんで連れ戻しに行けなかったと言っていた。走り回る子どもの姿、泣きながら神をたたえる幼子の声は共同体が活きている証だろう。

地方の教会の朝のミサに参加した。平日であったが大勢の子どもと高齢者が参加していた。おじいさん、おばあさんが孫を連れて来ているのである。ミサ後、境内の日溜まりでお年寄りはおしゃべりをし、子どもたちは走り回り、ひとしきり楽しんで帰っていった。家では、お嫁さんがゆっくりと朝の支度を済ませていることだろう。

この統計で15年間ほとんど変らないのが「主日のミサ参加者数」である。三割の壁を撃ち破る必要があることを「声」にしたい。「子どもと高齢者が参加しやすい教会」になれば五割は堅いだろう。

ASIPA：プログラム　参加募集！！
＊生活の中で聖書を読むために＊
■対　象：信徒・修道者・司祭
■日　時：グループA；5／12(金) ～ 14(日) ／ グループB；5／19(金) ～ 21(日)
A・B共に開始時間は午後7：30→午後4：30　参加費：19,800円
■場　所：福岡黙想の家
■持参品：自分の聖書／新・旧（続編付）　洗面具　寝間着等
※詳細はお電話で！
福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

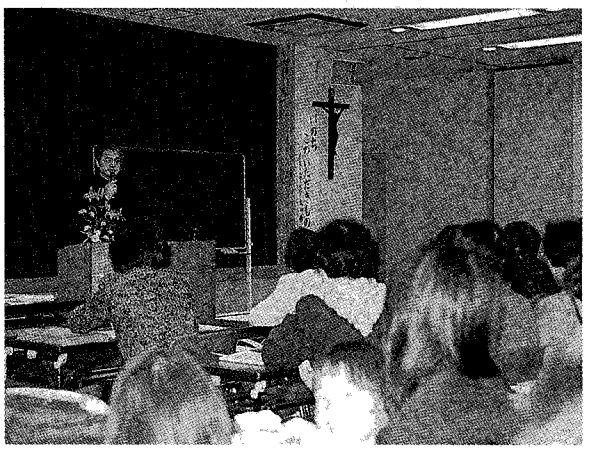
ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

第17回福岡司教区福岡地区婦人会総会と講演会開催

「いのち、このいただきもの」を学ぶ！

四月四日（火）十時から十五時まで、カテドラル大名町教会で福岡地区婦人会（会長＝河野美智子茶山教会信徒）が総会と講演会を開き、「いのち」についての学びを行った。



午前中の総会では、活動報告や予算・決算の審議など活発な活動の様子が確認された。福岡地区婦人会が、長年にわたり奉仕活動としている「ボランティア・モニカ会」の報告が行われその確実な奉仕がどこでも歓迎され、期待されている様子が参加者に伝えられた。しかし、ボランティア活動にも高齢化の傾向が著しく、若い方の参加が課題である。

続いて、担当司祭の松井忠之神父（教区会計）司式の感謝のミサが行われた。松井神父は、地区婦人会の教区行事への奉仕、司教館や小神学校（召命の家）の清掃奉仕などへの積極的な取り組みに感謝すると語った。

昼食を挟んだ午後、テーマ「いのち、このいただきもの」と題して、大神学院院長の大山悟神父による講演が行われた。

この講演会は地区婦人会が属する日本カトリック女性団体連盟が昨年より取り組んでいる「4・25いのちの日＝いのちを守る運動」からの呼び掛けに連帯するものとして行われた。

講師の大山神父は、いのちとは何か・いのちの危機の時代・いのちの原理・いのちに対する人の態度といった展開で、聖書や教皇回勅「いのちの福音」等を紹介しながら私たちがいのちの福音宣教に招かれていることを強調。また、昨今の事件にも見られるいのちの軽視、暴力から「人間は…いのちに関して、最終審判者ではない。いのちは、浪費してはならない宝、活用すべき天与のものとして人間にゆだねられている。」（いのちの福音52）と語った。

福岡カトリックパストラルケア研修会

東テイモールでの医療奉仕体験

四月二日（日）、福岡カトリックパストラルケア研究会の定例会が、二十三人の参加者を迎えてサン・スルピス大神学院で行われた。講師は、「アフメット東ティモール医療友の会」に連携して長年医療奉仕を続けている聖母訪問会のシスター亀崎善江医師。

シスターは、我々と同じアジア圏にある小さな貧しい国、東ティモールの大きな苦しみと、小さな光の体験をスライド等を使って話した。

昨年の、独立へ向けた住民投票の後に起こった残虐行為と、余りにも大きな悲しみと犠牲。現在、なお続く貧しさの増大。さらには結核・マラリア・皮膚病などの蔓延による苦しい現状がスライドに写し出された。シスター亀崎は、そんな中にあって医療奉仕で出会った現地の人々の「自分たちは貧しく何も出来ないが日本の皆様のために



いつも祈りを捧げています」という言葉に感動しましたと語った。

今、彼らの支えは「日本の教会」による民間支援が、大きく期待されているということである。荒れたままで道がない等、思うようにならない奉仕団の悩み。しかし治療は受けられないが、家族に見守られながら安らかに逝かれる病人を支えているのはカトリックの信仰である。

日本の医療とはほど遠いが、善意に満ちた現地の人々の医療は、病にある人を孤独にしない最高のパストラルケアだと、参加者の誰もが感じた。

東ティモールへの支援を望まれる方は、新田原聖母病院内科（☎09302・3・1006）シスター亀崎善江を通して参与できます。

教区広報研修会

場　所：司教館 新館５階
日　時：５月28日（日）14時～16時
テーマ：広報における言葉のちから
参加費：500円
携行品：各小教区で出している広報紙
問合先：田中重治神父
（☎092・522・4059）
申込締切：５月21日（日）
主　催：福岡教区広報部
※今年の世界広報の日のテーマは「メディアをとおしてキリストを２０００」です。

セ・コの会総会

真のボランティアとは

四月八日（土）聖心のウルスラ宣教女修道院で、松井忠之神父を迎え「奉仕と分かち合い」のボランティア・グループ、セ・コの会総会が開かれた。講話の中で松井神父は、ただ、一方的に奉仕するだけでなく、相手の人にとって一番大切で良い



▼セ・コの奉仕活動

ことを常に学ぶ心、ボランティアは、まず最初に自分の家庭から始めるように心掛けること、奉仕をした後、自分の内面に豊かさが残るボランティアの心等、ご自分の体験を交えてボランティアの真髄に迫る話をされ、参加者一同、セ・コの霊性の原点に立ち返ることができた。

セ・コの会の霊性は「奉仕と分かち合い」（Servicio Condivisione）略してセ・コの会の名称が示す如く、奉仕と共に常に会員の霊的な養成を大切に培い、日々の生活の中で主のみ言葉によって養われ豊かに高められ、分かち合うことを大切にしている集いである。主な奉仕活動であるフィリピンへの援助（修道会を通じての援助）も、今後もっと暖かい配慮で、そして援助活動を通して私共に響いてくる感動・感謝を更に深め大切に心に留めてゆきたい。松井神父の人柄から滲み出る心温まる講話によって、今日ややもすれば活動のみに流されてしまう私共を静かに軌道修正して下さったことに心から感謝。

六月十八日（日）聖心ウルスラ幼稚園にて、第十回セ・コバザーを計画中の今、セ・コの会創立当初の初心に返り、会員共に集い暖かい協力のうちに開催できるように願い祈っている。

新任地熊本にて

今年の四月に熊本の健軍教会に転任となりました。小神学校に一年間いたので久しぶりに現役復帰のような感覚です。司祭に叙階されて、初めて赴任地の教会で働き始めたときを思い出します。

今まで教区の青少年担当をしていたので、熊本地区に若い司祭を送って欲しいと思っていました。熊本地区では青年会の動きが活発なので、若い司祭が行って結んでいません。

まだ転任したばかりで、何も分かりませんが、若い司祭ということで、たくさんの期待が寄せられているようです。「若い」という形容詞に、可能性がある、体力がある、受容性がある、何でも出来るという期待が込められているようです。体力だけは自信がありますが、他は疑問です。

今回、教会と幼稚園の他、マリスト学園の高校一年生の宗教を担当することになりました。教会では少ない高校生にキリスト教や聖書の話をするのは、面白いのですが、まだ慣れていないので大変です。

個人的には熊本には山と温泉がたくさんあるので、期待して来ました。一日一泉、一月一山を目指していますが、どうでしょうか。その代わり霊的な泉、霊的な山はたくさん体験できそうです。

健軍教会主任　中村彰神父

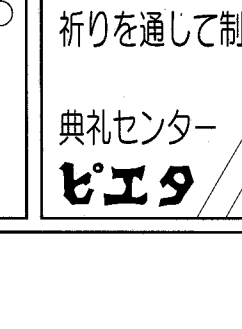
今回、熊本地区は初めてとなります。

それぞれの地区で宣教会が異なるので、教会の雰囲気が違っていて学ぶところがたくさんあります。

熊本地区では、五年前から永久聖体礼拝が健軍教会で始められ、今でも熱心に続けられています。地区信徒協で人生講座やサマーキャンプ、聖霊刷新運動、花岡山殉教祭、司祭の生活費支援など活発な活動がなされています。司祭召命の祈りも早くからなされていますが、まだ実を

BOOK 読みは専科

★おたあジュリア
田村襄次・平田都共著



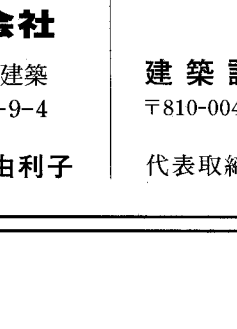
毎年5月になると神津島でジュリア祭が行われ、多くの巡礼団がつめかける。そのジュリアとは一体何者?

十六世紀末、豊臣秀吉による朝鮮侵略の折、キリシタン大名小西行長が、捕虜となった一人の幼子・おたあを日本に連れ帰った。やがて受洗してジュリアと名乗り、熱心なキリシタンとなった。キリスト教弾圧のため島流しになりながらも、ひたすらキリストを愛し続けた一人の女性の姿を描く。巻末に田村氏による調査報告書付き。

サンパウロ　税別七八〇円

◇　◇　◇

★人間を見る
もう一つのまなざし
モーリス・ズンデル著
ポール・ドウバン編
福岡カルメル会訳



ズンデル神父について教皇パウロ六世は「彼は詩的天才、神秘的天才、著作家であって、それらすべてが溶け合って光を放っている人だった」と讃えた。詩人の感性と博学が捉えた全く新しい神と人間の姿についての講話から抜粋し、編集した一冊。大事なのは「愛」について説教することでなく「愛」になることを話す。

女子パウロ会　税別二〇〇〇円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・ＲＣ工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092－526－9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！

IUBILAEUM A.D. 2000

キリストは
きのうも
きょうも
永遠に！

カトリックフェスティバル

テーマ：語りかけよう心を開いて
日　時：2000年11月3日（祝）10時開始
大会ミサ：14時30分
場　所：久留米信愛女学院
主　催：カトリック福岡司教区
問合先：水巻教会・松尾隆
☎・FAX 093-293-4981

※多彩な催しの中で、パネルディスカッションを企画中。パネラーは、４地区の司祭代表と男女信徒。
※テーマは「これから目指す、教区のあり方」。
※キリスト降誕２０００年という節目を通して、さまざまな問題に目を開き、新しい時代の福音宣教に向けて、これから目指すところを考えて行きたいと企画しています。

聖地巡礼と受難劇観賞

期　日：８月31日～９月13日（14日間）
主な巡礼地：ドイツ…ミュンヘン、オーバーアマガウ（受難劇観賞）
イスラエル…ナザレ、エルサレム、ベツレヘム、死海
エジプト…シナイ山、カイロ
旅　費：498,000円（福岡発着）
申込先：近畿日本ツーリスト福岡支店
☎092・473・5655；FAX413・1510
※福岡教区司祭が同行します。

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　5月

◇2日(火) ～ 5日(金)　福岡教区クルシリヨ
◇11日(木)　聖公会婦人の集い
◇12日(金) ～ 14日(日)　ASIPAプログラム（グループA）
◇17日(水)　ミカエル会
◇19日(金) ～ 21日(日)　ASIPAプログラム（グループB）
◇27日(金) ～ 28日(日)　山口・島根地区信徒養成研修会
◇29日(月) ～ 2日(金)　那覇・鹿児島・大分三教区司祭黙想会

※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく黙想会を計画いたしました。

※祈りの集い
主眼目：
「イエス・キリストは神の御子、人の子」
・5月11日(木) 10時 ～ 15時
・6月8日(木) 10時 ～ 15時

黙想会
日　時：8月1日 ～ 10日
8月17日 ～ 25日
指　導：F.ソットコルノラ神父
園田善昭神父

※中国への巡礼
日　時：11月5日 ～ 15日
日中戦争犠牲者の慰霊のため、北京・南京等を訪れる巡礼。
［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

5月のこよみ　聖母月

7日（日）	復活節第3主日 福岡カトリックパストラルケア研究会■
10日（水）	†F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
11日（木）	召命祈願ミサ［大神学院19：15］■
14日（日）	復活節第4主日（聖マチア使徒） 召命祈願日 **茶山教会堅信式** 司祭召命への集いミサ［カテドラル9：00］■
15日（月）	†ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
21日（日）	復活節第5主日 **手取教会堅信式** 福岡ホスピスの会［カテドラル14：00］■ 南粕屋教会バザー
28日（日）	復活節第6主日 世界広報の日（献金） 広報研修会［司教館5階14：00］ **福岡地区信徒協研修会［カテドラル13：00］**■ 福岡生と老い・死をみつめる会■
30日（火）	司祭研修会［～6月1日］
31日（月）	聖母の訪問
6月	
4日（日）	主の昇天 †ミカエル西田邦洋［若松教会1996］ 福岡パストラルケア研究会■
11日（日）	聖霊降臨 **合同堅信式［カテドラル14：00］**

■印は本面に詳細説明あり
ゴチック字は司教予定

◆福岡

■福岡パストラルケア研究会
［日時］5月7日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］詳読会　病人訪問［参加費］無料［次回］6月4日

■第80回福岡結婚準備セミナー
［日時］5月10日（水）～6月3日（土）毎水曜日と土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022次回は9月

■召命を共に祈る会
［日時］5月11日（木）19時15分～［場所］サン・スルピス大神学院［内容］大神学生と共に捧げる召命祈願ミサ［問合先］召命の家☎092・531・6821青木神父・次回6月8日

■司祭召命への集い
［日時］5月14日（日）ミサ9時・集い10時30分［場所］カテドラル大名町教会［内容］司祭召命への旅＝ミサと集い＝［対象］信徒・修道者・司祭

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］5月18日（木）9時20分［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・533・2326小田部

■福岡ホスピスの会
［日時］5月21日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［内容］地域が求めるホスピスとは［講師］江頭啓介医師（さくら病院院長）［参加費］700円・会員500円［問合先］福岡ホスピスの会事務局☎FAX092・737・3701（火曜日・金曜日）小林

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］5月28日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］未知なる生命＝老齢＝ビデオ［会費］500円［問合先］☎092・713・8523大山・092・607・6992村尾

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］5月28日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は6月25日（日）

■教区広報研修会
［日時］5月28日（日）14時～16時［場所］司教館新館5階［テーマ］広報におけることばの力［申込・問合先］司教館広報室☎092・522・4059田中神父

■福岡地区信徒協地区研修会
［日時］5月28日（日）13時～16時［場所］カテドラル大名町教会講堂［テーマ］ご聖体の秘跡に親しみ、ご聖体の心を活きる［講師］松永久次郎司教［会費］500円［申込］☎092・923・6344杉本

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。男の赤ちゃん用品も［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■聖マルグリット・ブールジョワ帰天三〇〇年ミサ
［日時］5月28日（日）9時［場所］戸畑教会［内容］コングレガシオン・ド・ノートルダム会創立者帰天三〇〇年記念とシスター22名の誓願更新［問合先］仙水町修道院☎093・871・1166

■オペラ『忘れられた少年』
［日時］6月3日（土）17時30分開場・18時30分開演［場所］九州厚生年金会館（北九州）［問合先］北九州公演実行委員会☎093・921・0093（小倉教会）

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］5月11日（木）朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時次回から毎月第一木曜日［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754

◆熊本

■第62回熊本結婚準備セミナー
［日時］5月8日（月）～5月30日（火）毎月曜日と火曜日19時～21時30分［場所・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX352・1515

2000年の大聖年に
聖霊による信仰生活刷新セミナー



"ご聖体の心を活きる"

週	日時	テーマ	講師
第1週	5月8日(月)午前10時～12時	神の愛	マテオ神父
第2週	5月15日(月)午前10時～12時	救いのみわざ	山元真神父
第3週	5月22日(月)午前10時～12時	新しい生命	青木into神父
第4週	5月29日(月)午前10時～12時	神の賜物の受領	ドフィヤ神父
第5週	6月5日(月)午前10時～12時	聖霊の満たし	マッケイ神父
第6週	6月12日(月)午前10時～12時	聖霊のうちでの成長	小池如安神父
第7週	6月19日(月)午前10時～12時	《ミサ》キリストの証人	松永司教様
顧問	ライル神父、ガブリエル神父	会場	カテドラル
主催	聖霊による刷新セミナー実行委員会	問い合わせ先	でんわ 092-522-6139 Br.床島

教区事務所のお知らせ

「福岡ハンドブック2000」が発行されました。各小教区にも配布されていますが、教区事務所にも在庫がありますのでお尋ねください。一家に一冊携帯し活用してください。

編集後記

主の復活おめでとうございます。喜びの時に教区報の功労者百村神父様の転任の報を聞き、不安になっています。神父様に心から感謝しながら、教区報頑張りたいと思います。（田中）

歴代編集長の下町神父様、山元神父様、中村神父様、そして井久保さん、深堀さんと共に、数年教区報にたずさわってきました。発行日を気にしながらも和気藹々の編集部でした。新編集長の田中神父様とはたった一か月の出会いで、まさに一期一会の感。時期外れの人事で大阪へ赴任するに当たり、たくさん勉強させていただいたことを感謝し、すばらしい教区報であり続けるよう祈ります。（百村）

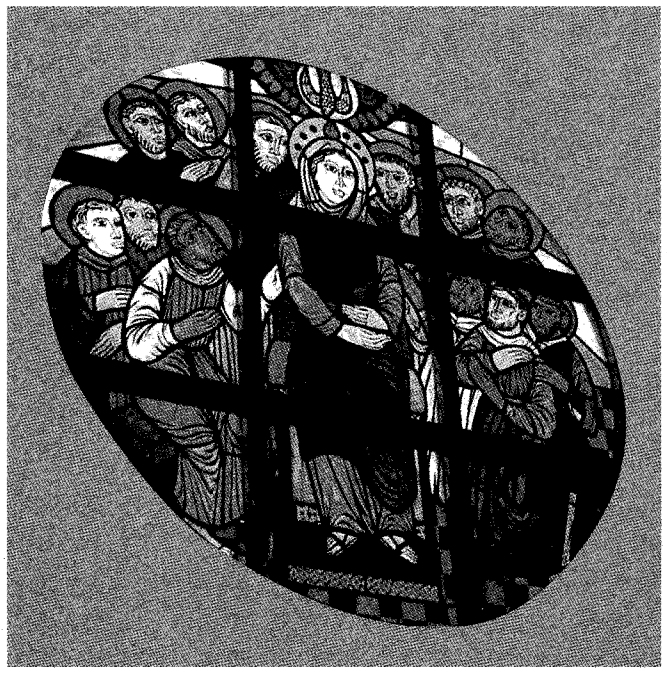
COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木 67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森　周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円



浄水通教会祭壇うえの聖霊降臨を描いたステンドグラス

合同堅信式

日　時：6月11日　14時から
場　所：カテドラル大名町カトリック教会

※聖霊降臨は教会誕生の時でした。この聖霊降臨を、福岡教区全体で祝おうとカテドラルでミサがささげられ、聖霊の秘跡である堅信が授けられます。ぜひ時間をとって参加し、教会誕生を共に祝いましょう！

世界召命祈願日に司祭養成への集いを開催

5月28日 カテドラル

大名町小教区で召命祈願ミサ
隣の人の召命ではなく 私のうちの召命を祈る

五月十四日（日）復活節第四主日・世界召命祈願日に、初めての「司祭養成への集い」が大名町教会で行われ、ミサと懇談会の中で現在の福岡教区の司祭召命の様子と問題について考える一時がもたれた。

復活節第四主日は、朗読される福音の内容から「良き牧者キリストの主日」とよばれ、世界召命祈願日に定められている。今年の第四主日である五月十四日、召命の家担当の青木悟神父を迎え、大名町教会で「司祭養成の集い」が開催された。この集いは、現在の司祭召命の養成の現状と問題を、広く信徒の方に知ってもらい、意識してもらうために企画されたものである（詳細は次面）。



召命の恵みを願って捧げられるミサ

九時から始まったミサの説教の中で青木神父は、神様は羊を大切にしているだけでなく、羊を世話する協力者も求めていることを強調した。そのために、神様はまず先に、ある人を招くことが聖書の中でも強調されていることを指摘した。

また、今までの小神・大神学校という養成システムでは、旧約聖書のモーセやエレミヤのように、人間的な目で自分を見ると、こんな私が、と思う自分に、神はそれ以上に大きな声で招いてくださっていることに重きがおかれてきた。しかし、小神学校を一時閉鎖した現在、青年の召命が求められている。これはイザヤのように、自分の弱さを認めながらも、神様の恵みによって「私を遣わして下さい」と答える人が求められている、と強調した。また、召命のために祈る時、神学生や司祭のために祈ることも大切だが、自分の子・孫など、身近な人の中に召命の恵みを静かに、忍耐強く祈ることが求められる。そのひとつの機会として、ミサの中で唱える感謝の賛歌は、イザヤが召し出しに答えたときにセラフィムが歌った「聖なるかな、万軍の神なる主」であり、そのことを思えば、ミサの中でも意識して祈ることが出来ると述べた。

ミサに引き続いて、司祭養成についての懇談会がもたれた。

ここで、具体的な司祭召命の養成についての話があった。小神学校を閉鎖した理由や現在の司祭への養成過程の仕組みと問題点、今後の召命に関する課題などが説明され、参加者からは、本当に大変な時代になったと実感したとか、家庭、共同体における役割がとても重大になったという声が聞かれた。

しかし、初めての開催だったためか、青年や若い親たちの参加が少なかった。これこそ召命問題への関心の低さであり、問うべきことではなかろうか。

福岡教区修道女連盟総会と研修会を開催
福岡教区内25の修道会から6人の新役員を選出

福岡教区修道女連盟は去る四月二十九日カテドラルセンターに於て二〇〇〇年度総会と研修会を行った。九時五〇分より第一部講話とミサ、午後一時より総会を開催、百人が参加した。

第一部で「大聖年　聖体の秘跡を生きる」と題して松永司教様が講話。司教様は講話の中でご聖体について概ね次のように語られた。

聖体の秘跡は七つの秘跡の中心、恵みの源である。聖体の秘跡は人となられた神がパンとブドウ酒に分けられ（死の意味）イエス様が犠牲となられるのである。崇高な十字架の犠牲を再現し神への最高の礼拝・賛美・感謝・懇願である。ミサでイエス様がパンとブドウ酒の形でご自分を与えて下さるのである。

ミサは教会のすべての行いの中で有効な力ある礼拝。これに参加することは、カトリック教会がカトリック教会であること



を示す力ある行いに参加している。私たちはイエスの十字架の死・復活を思い、聖体をいただくことにより恵みで一杯になる。聖体のイエス様に対する最高の行為は、私たちがふさわしく受けること。聖体の恵みは、それぞれの必要に応じて特別の力をいただく豊かな恵みの秘跡である。

司祭評議会評議員改選に伴い
各委員会委員長や担当者を任命

四月に司祭評議員が新たに任命されたのに伴い、教区の各種委員会・担当者も新たに任命された。任期は原則として三年。

（敬称略）

青少年担当　中村　彰
信徒使徒職担当　平田　敬
教区典礼担当　青木　悟
教区家庭担当
国際協力担当
G・ブレシュト
滞日外国人と
連帯する会
諸宗教関係
エキュメニズム
正義と平和担当
部落問題担当
S・ライル
M・コース
M・コース
G・ブレシュト
ソットコルノラ
青木　悟
中村　彰
中村　彰

紹介などがあった。

新会長＝大野恵子（聖母訪問会）
副会長＝井上正子（福音の光）
会計＝吉兼笑子（ショファイユの幼きイエズス会）
書記＝谷口シズヨ（宮崎カリタス会）・佐藤雅子（マリアの宣教者フランシスコ会）
監査＝渡部瑪利子（カノッサ修道女会）

社会福祉（カリタス・ジャパン）　中村信哉
広報担当　田中重治
教区報編集長　田中重治
司祭生涯養成　平田　敬
召命育成　青木　悟
信仰弘布会　松井忠之
児童福祉会　松井忠之
聖ペトロ会・祈祷の使徒会　松井忠之
宣教地司祭育成　松井忠之
教区修道女連盟　平田三好
福岡地区婦人会　松井忠之
クルシリヨ　下町豊重
信仰教育担当　伊東成晃
聖書使徒職担当　森山信三
教区殉教者顕彰推進　深堀勝人

今月の意向

【一般の意向】教皇様の意向のために祈りましょう
【布教の意向】世の救いのためのいのちのパンである、イエス・キリスト
【日本の教会の意向】中国の教会のための使徒的、カトリック的精神
国際聖体大会開催

時の話題

Sr.今泉ヒナ子

「ゆとり」と「生きる力」

初等・中等教育界にも流行語がある。しばらく前は「ゆとり」であった。ここ数年は「生きる力」である。いずれも中央教育審議会から、文部省を経て出されたものだ。

どちらを取っても、普通の人々の普通の生活にある概念である。戦後の日本はこんな根本的なことも忘れて、物的繁栄を追って夢中で走ってきたのだ。その事実を、だれか特定の人たちのせいにするよりも、むしろ歴史の中の貧しいわれわれの現実の姿として受け止め、主のまなざしのもとに置きたい。

最近の教育関係刊行物を見ると、「総合的学習の時間」の紹介記事が目立つ。子どもたちに「生きる力」をつける有効な方法として編み出された新設コースである。中身を見ると、どれも、古代からつい何十年か前まで、家族だの村だので人々が自然に代々伝えてきたような技法を、何だか大変な遠回りをして自分で発見させ、身につけさせようとしている、つかみ所のない授業のように見える。そのプロセスの意味が理論化できていなかったら、とんでもない誤解をしそうである。しかし、飽食の時代の消費社会で、ほとんど人工的な生活環境に育ってしまった子どもたちには必要な教育内容と頷ける。

数を教えたり、言葉を効果的に使ったり論理的に考えたりする訓練の時間を割いてまで、「ゆとり」や、「生きる力」の習得のために、こうしてかなりの手間暇をかけるカリキュラムが、今の時代の要求ならば、それもよい。

ただ、真の「ゆとり」は、神から愛されている自分が、他人と優劣を比較しなくても平和な心でいられることから生まれ、真の「生きる力」は、いかなる状況下においても、自分は命の源であるお方に生かされている、という実感から最終的に湧いてくるものであって、本来どちらも無償で「いただくもの」であることを、心に刻んでいたい。

（コングレガシオン・ド・ノートルダム修道女）

みちくさ

「キリストのからだ」「アーメン」。聖体拝領はミサの中で、また一週間の生活の中で最高の瞬間である。二〇〇〇年の大聖年はご聖体の年ともいわれ、ご聖体について様々な文書が出され、行事も行われつつある。▼司祭評議会でもご聖体の尊敬について問題が取り上げられた。ご聖体への尊敬心を養うためにはご聖体を手で受けるべきか、口で受けるべきかという事に議論が集中したという。果たして、それだけのことなのだろうか。▼信者は聖体をいただくために行列する。聖体のうちに共同体が一つとなることを表すと同時に、一人ひとりの心を徐々に聖体へ向けて高めていく行列。それを助け、良くあらわすための聖歌やオルガン伴奏。口で受けるにせよ手で受けるにせよ、「アーメン」と一人づつが司祭の示す聖体に信仰を力強く宣言する。聖体をいただいて静かに席に戻りながら、イエス様と共同体と一つになったことを感謝する間。どれをとっても大切な要素だ。▼実際には、有名だが、オルガンだけが飛び出してしまうような曲の演奏、空いているところに来るようにと行列を崩してあわただしく司祭の前に来させるような行列、次から次にと、まるで紙をぱっぱと配るような聖体の渡し方、最後に受けた人が沈黙のうちに祈る間もなくせわしく次の動作へ。理想と現実には差が大きい。▼たとえ聖体を受ける人は大多数でも、聖体を受ける一人ひとりにとっては唯一最高の瞬間。この瞬間を司祭も典礼奉仕者もすばらしく演出していけば、大人はもちろん、子どもにも自然とこの瞬間が、そしてこの瞬間にいただく聖体の特別さが伝わっていくのではないだろうか。（T）

教区召命担当が新しい取組
各地の小教区を訪ねて懇談会
召命の家

三月号でもすでに報じたが、今年の三月をもってカトリック神学院（小神学校）が一時閉鎖となり、「召命の家」と名称を変え、青木悟神父が担当者となり、教区の司祭召命促進の拠点として活動し始めている。大学生への直接のアプローチ、子どもたちの召命学校などが企画されているが、その一貫として今月より開始されたのが「司祭養成への集い」である。

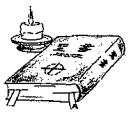
この集いでは、青木神父が毎月各地の教会を回り、司祭召命を祈ってミサをともにささげ、引き続いて、どうして小神学校を閉鎖したのかと言った今までの司祭への養成システムの問題と現在のシステムへの移行、今後の取り組みなど、召命の問題等を詳しく説明する集まりを開く。これは、信徒も司祭自身も、現在の召命養成の方法の変化を良く理解していない上、現在の司祭召命において、今までの以上に家庭、そして教会共同体の役割が大きくなり、一人ひとりが司祭召命を自分の問題として強く意識することが求められるようになったためである。集いを通して現状を理解した上で、家庭と小教区の連帯のもとに、それぞれが司祭への養成に関わる意識を持つためである。

たくさんの方の参加が切望される。次回は六月十八日、新田原教会となっている。


召命の家担当の青木悟神父


召命養成への新たな取組みの説明を聞く参加者

主を喜び祝うことは力の源（ネヘミア書）
新しい福音宣教③
鈴木忠一神父



一人暮らしの女性信徒Yさん（59）が交通事故で、かかとにひびが入り、少し経ってから家で転んで同じところが骨折で一本足の暮らし。「でもおかげさまで、いろいろステキな体験をしました」と先日、私に手紙をくれました。

市の福祉のおかげで、格安の車椅子をレンタル。借りるときも、電話一本で根ほり葉ほりの追求もなく、スムーズにお世話を受け、ホッとひと安心。

でも、軽いけがと思っていたのにギブスが取れず、回復は先送りの状態。落ち込んでいる彼女の味方は以前そっけなかったご近所の人たちの明るい笑顔とさりげない助けの手。

松葉杖をつきながらごみ出しの時、通りがかりのご近所の人がニッコリ笑って持ってくれた。翌日からは玄関の中にゴミ袋を置いておくだけ。ベルも鳴らさずそっとゴミを出してくれる、新聞をポストから取り出してくれる…「私にとっては、まるであの良いサマリア人みたいです」と彼女。

「教会のお友達はいるけれど、近くに頼める人がいないので、甘えています。（創価）学会さんでした。その人自身も68歳で、病気持ち。でも六人家族だから、家には誰かがいる。朝早くても夜遅くてもいいから電話してと言ってくれます。選挙間近です。それはそれ。でも知らなかったら…学会に入ったら生活しやすそうです。」

いろいろときびしいことが多い世の中ですが、人のお世話をすることがうれしくてたまらないという人びともいますし、さりげなく小さな親切を惜しまない方もいます。

教会の中で生きる私たちにとって、福音宣教を鈍らせているのは、一体なんでしょうか。私は、たわむれに「福音宣教の敵」には三つのシイがあると言い続けています。

①いそがシイ（ともかく時間がない。バザーや教会役員会で手一杯、忙しい疲れた）

②はずかシイ（こんな私がお祈るミサ」が五月十一日大神学院にてささげられた。今回は、ローマから帰国し、4月より大神学院の聖書の教授となった湯浅神父がミサを熱意を込めて司式し、自らの体験を通して、召命について熱く説教で語った。また、聖母月でもあったので、ミサに引き続いて全員で聖母像の前に行列し、ろうそくを手に聖母への祈りがささげられ、それぞれの願いを込めてロザリオをマリア様の前にささげる式を行った。参加者には、本当に落ちついた雰囲気の中で召命を祈ることが出来たと好評だった。

召命を祈るミサは、大神学院と「召命をともに祈る会」の共催で始められた。今年度より、毎月第二木曜日の夜に開催され、毎回、神学生たちが様々な工夫を凝らしたミサや典礼儀式が執り行われ、ミサを司式する司祭が召命について体験をふまえて語りかけている。その後に神学生たちと参加者の交流が茶菓子をいただきながら和やかに行われている。

次回はみこころの月である六月八日に開催される。残念なことに、会を追うごとに一般の参加者が減っているように感じられ、今回はほんの一握りの一般の信徒の参加しかなかった。時間的な問題もあるのだろうが、もっと多数の一般の信徒、そして特に小教区の司祭たちの積極的な参加が切望されている。


マリア様の取り次ぎを願って祈る参加者

召命学校参加者募集中

日　時：7月28日（金）15時受付
　　7月30日（日）昼食後解散
対　象：小学4年生～中学3年生男女
場　所：召命の家（浄水通38）
問合先：☎092-522-4059青木神父
※高校・大学生のサポーターも募集！

夕暮れの大神学校では召命を祈るミサ

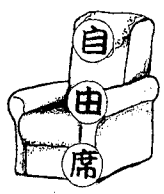
すでに恒例となった「召命を祈るミサ」が五月十一日大神学院にてささげられた。今回は、ローマから帰国し、4月より大神学院の聖書の教授となった湯浅神父がミサを熱意を込めて司式し、自らの体験を通して、召命について熱く説教で語った。また、聖母月でもあったので、ミサに引き続いて全員で聖母像の前に行列し、ろうそくを手に聖母への祈りがささげられ、それぞれの願いを込めてロザリオをマリア様の前にささげる式を行った。参加者には、本当に落ちついた雰囲気の中で召命を祈ることが出来たと好評だった。

召命を祈るミサは、大神学院と「召命をともに祈る会」の共催で始められた。今年度より、毎月第二木曜日の夜に開催され、毎回、神学生たちが様々な工夫を凝らしたミサや典礼儀式が執り行われ、ミサを司式する司祭が召命について体験をふまえて語りかけている。その後に神学生たちと参加者の交流が茶菓子をいただきながら和やかに行われている。

次回はみこころの月である六月八日に開催される。残念なことに、会を追うごとに一般の参加者が減っているように感じられ、今回はほんの一握りの一般の信徒の参加しかなかった。時間的な問題もあるのだろうが、もっと多数の一般の信徒、そして特に小教区の司祭たちの積極的な参加が切望されている。

マリア様の取り次ぎを願って祈る参加者

初めてのルルド



百村　等神父

イスラエルへ、ローマへと、人みななびく大聖年、三月九日から八日間のルルド・パリ巡礼に参加した。総勢三十六人の巡礼団である。ルルド巡礼なのに数名のノン・クリスチャンが混じっているのに驚いたが、自分は日蓮宗だと名乗った人たちが熱心にビデオをとり、感激しているらしいのには、もっと驚いた。

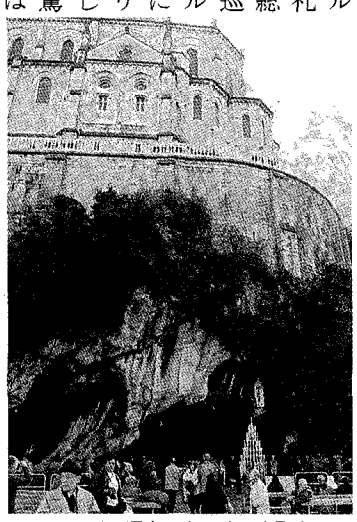
聖人伝や写真集、切手や体験者の巡礼記などで、ルルドならよく知っているという自負心のためか、私にはそれほどの感激はなかったように思える。生半可な知識は感動を殺ぐのだろうか。イスラエル巡礼の時にも同様に感じたことを覚えている。

たまたまシーズンオフとかで、写真で見なれた広場の大群衆や松明行列がなく、閑散としていたという事情もあるが、全体として感動的な巡礼に違いなかったが、ルルド大聖堂をはじめ、ハビエル城、不思議のメダイ教会、ヌベール修道院でのミサでは、まるで初ミサのような気分を味わった。叙階三十六年、毎日のミサも機械的になりがちな自分にとっては、こんなに気持ちが高揚したことは大きな驚きであり、うれしい発見であった。

電柱や電線のないパリ市街の美しさをうらやましく思い、ルーブル美術館見学に一日を費やしたかったが、ならず。観光旅行ではないのだから、けじめはつけなければ……。

全体にハードなスケジュールであったが、共に巡礼に参加した人々との出会い、交歓が疲れをいやしてくれた。よい仲間に恵まれたことに感謝。

聖パウロ会司祭


ルルドの洞窟の上に建つ大聖堂

列聖された神のいつくしみの聖女

教皇はファティマで聖母出現

ファティマの姉弟列福

教皇　神のいつくしみのファウスティナ修道女を列聖
ファティマの姉弟を列福・第三の秘密も公開へ

教皇はポーランドのファウスティナ・コバルス修道女を四月三十日列聖した。

聖女に現れた特に有名な幻は、一九三一年に現れたイエス様の幻で、イエス様は白い服を着て、右の手で祝福のしるしを示し、左手を当てた胸からは二筋の光が輝き出ていた。イエス様はこの時、見たままの姿を絵に描き、それを復活祭の次の日曜日に祝福してもらうようにと彼女に語った。この絵が彼女の死後世界中に広まった。この絵を祝福してもらった復活節第二主日を、今日では「神のいつくしみの祭日」とも呼んでおり、「この日にゆるしの秘跡を受け、聖体を拝領する人々に、完全なゆるしを与えたい」とイエス様は聖女に語ったとされている。

ファティマで聖母出現を受けた三人の牧童のうち、すでに帰天したフランシスコ・マルトとジャシンタを、最初の出現を受けた一九一七年と同じ日である五月十三日に列福した。ミサの終わりに、教皇は教皇庁国務省長官のソダーノ枢機卿に、ファティマでの聖母のメッセージのうち「第三の秘密」と呼ばれ、歴代の教皇と一部の側近だけしか知らされていなかったメッセージを荘厳に発表するように依頼、一時間後、枢機卿によって発表された。

枢機卿は、秘密のメッセージは特に、無神論体制による教会とキリスト者に対する攻撃に関するものだったと述べ、その中には、一九八一年のこの日、教皇自身がバチカンで狙撃された事件への言及もあったことを明らかにし、三人の牧童の残りの一人であるルシア修道女が教皇と会い、このことを確認したことも語った。また、教皇が教理省に、メッセージの注釈を作成し、メッセージと注釈を合わせて公表するように依頼したことも明らかにした。

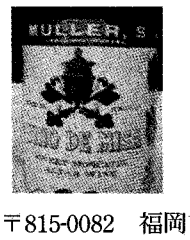
『福岡黙想の家』をご存知ですか？

黙想の家は、みなさまのための祈りの家です。
日常生活からひとまず退き、離れ、独りになって静かに祈りの時を待つ。
そして、こころに語りかけて下さる神のことばに耳をすまします。
聖堂や集会室の他に、宿泊施設も整い、屋外は小鳥のさえずりが待つ、
静かな祈りの森があります。

火曜日は『祈りの日』として一般にも開放されています。（参加費無料）
午後11時からミサが始まります。詳しくはお問い合わせください。

福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

聖母月

田園風景と新緑のルルドでロザリオ

新田原

新田原教会では、五月の聖母月と十月のロザリオの月には、毎日夕方に、教会庭のルルドで、ロザリオの信心を行っている。



夕暮れのルルドでロザリオを捧げる信徒のみなさん

恒例になっているこの集まりも、以前までは、夜七時から行われていたが、十月のロザリオの月などは、ロザリオの祈りが終わる頃には、日も暮れて暗くなり、特に、子どもたちが参加しにくい時間帯だったが、昨年からは、子どもたちが参加しやすいように、夕食前の『明るい時間帯』へと変更している。

今年、五月の聖母月は、夕方六時から三十分ぐらいまで、ロザリオと夕の祈りをルルドの聖母像の前で捧げている。

毎日、子どもたちは、幼児から小中学生まで四十人から五十人、大人も三十人から四十人程、合わせて七十人から八十人位で、熱心にロザリオの信心業を大切にしている。

隣接の宮崎カリタス修道会と聖母訪問会のシスター方の協力を得て、子どもたちに先唱をさせたり、毎日、『ロザリオカード』に出席のシールを貼ってもらい、最終日には出席状況に応じて『参加賞』が与えられる。また、もう一つの最終日の楽しみは、全員で『打ち上げ』を行って、子どもたちの励みにしている。

こうして小教区挙げて、ロザリオの信心を大切にしている。

聖霊による信仰生活刷新セミナー



恒例の聖霊による刷新セミナーが、五月八日から七週に渡って、午前十時から十二時までカテドラル大名町教会で行われている。

指導司祭は、V・マテオ神父（御受難会）、山元眞神父（二日市教会）、青木悟神父（召命の家）、T・ドワイヤ神父（笹丘教会）、F・マッケイ神父（武蔵が丘教会）、小池如安神父（高宮教会）の順に行われ、六月十九日松永司教様の「キリストの証人」としての派遣ミサで終わる。

主は言われる。「来なさい、疲れた者、重荷を負う者はだれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。飢えた者に食べさせ、乾いた者に飲ませてあげよう」と。この大聖年の節目に、ご聖体の前に座し、神殿から流れ出る聖なる水に浸り、清められ、癒され、満たされて、賛美と感謝の歌を捧げましょう。聖霊の豊かな注ぎを傘をさして流し捨てるなんてもったいない。今日も心の扉を叩き続ける主を外に待たせておくなんて……

総てを主に委ねて、ただひたすら神を賛美して生きること。これが私たちの一回限りの人生なのでは？

大名町

手話で主の平和

第二日曜日

わたしたちサラの会が大名町教会で一九九八年十月から毎月第四日曜日にミサの手話通訳を行うようになってから、たくさんの励ましの言葉をいただきました。「お疲れさまです。」「手話を見ていると暖かい気持ちになります。」など。大名町教会で手話通訳ミサが定着してきたようで、うれしい限りです。

でも、手話通訳が出来る人が少なく、月一回の手話通訳ミサをするのがやっとの状態です。手話通訳が出来るみなさん、手話に興味をお持ちのみなさん、いつでも大歓迎です。

また教区にお住まいの、聴覚に障害をお持ちのみなさん、ご家族、友人のみなさん、ぜひ一度ご参加下さい。お待ちいたしております。

みなさん、音のない世界を想像してみたことがありますか？

たとえば、音を消してテレビを見てみて下さい。何を言っているのかさっぱり分からないと思います。手話は聴覚に障害をお持ちの方が情報を得たり、自分の意思を自由に表現できる貴重な手段なのです。だれもが手話を使えるようになり、ミサの中で「主の平和」が手話とともにあいさつできるようになれたら、もっと優しい教会に出来るのではと思います。

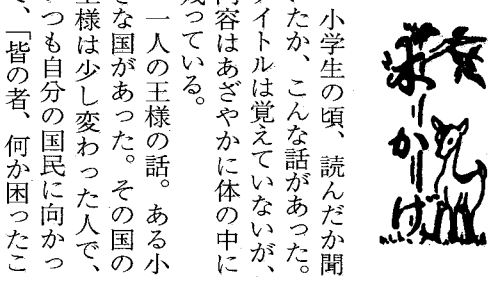


▶手話奉仕中の柚木さん

思い切って、あなたも手や体を動かして見ませんか？

なお、五月から大名町教会での手話通訳ミサは第二日曜日に変わりました。

真の王様に仕える者になりたい



小学生の頃、読んだか聞いたか、こんな話があった。タイトルは覚えていないが、内容はあざやかに体の中に残っている。

一人の王様の話。ある小さな国があった。その国の王様は少し変わった人で、いつも自分の国民に向かって、「皆の者、何か困ったことはないか。心配事はないか。相談したいことがあれば、いつでも私のもとに来なさい」と呼びかけていた。威張りちらしたり、暴君のような態度をとらない、きさくな王様だったので、宮殿は、毎日たくさんの訪問客でにぎわっていた。王様は、訪れた一人ひとりに対し心から相談にのり、生活に困っている者には、自分の財産から何かを与え、作物の収穫時に人手が足りないと言えば、家来を引き連れ自ら手伝いに行き、時には黙って国民の話に耳を傾けた。そんな生活が続いて行く中で、ふと自分を振り返ってみると、王宮の財産は人々に与え尽くし、身体は弱りはて、自分の持てる全てを与え尽くしていた。

そして、何もかもなくなった宮殿の中で、人知れずひっそりと死んでいった。

子ども心に、そんな王様にあこがれたものだった。今でもそのあこがれは続いている。

十数年前、司祭に叙階される頃、「私がしあわせでいられるのは、誰かのために生きる時だとわかった。自分だけのしあわせを求めた時、私は傷つきふしあわせだった」と、ある年輩の方が言われるのを聞いたことがある。

今、小教区司牧をさせてもらっている。毎日の生活の中で、自分がしあわせでいられるために、ある王様から真剣に学び、生きたい。真の王様に仕える者となりたい。

様々な辛苦を乗り越え、「道」を極めたある芸術家が言っておられた。

「本物を習うってのはたのしいこと」

本物を習い生きる人生。自分の召し出しを真剣にたのしませてもらいたいものだ…。

小倉教会助任
杉原寛信神父

大聖年を記念し二つの新聖堂

豊津教会

今年、豊津教会は創立五十周年を迎えます。現聖堂は老朽化も激しく、この機会に新聖堂を建設することになり、去る五月七日、松永司教様をお迎えして、司教ミサ・新聖堂新築起工式を行いました。豊津教会は六十戸足らずの小さな教会ですが、先祖のほとんどが五島出身です。

幾多の困難や苦労を乗り越えて、私たちに信仰という宝物を残してくれた先祖を顕彰し、その尊い遺産である信仰をかけがえのないものとして、生き、伝えるー新聖堂建設は、まさしくその証しです。司教様は説教の中で、召命を呼びかけられ、起工式の中では、「がんばるように。期待してます。」と励ましのお言葉を下さいました。十一月二十三日の豊津教会五十周年記念式典に合わせて献堂式が行われる予定です。兄弟姉妹の皆さん、どうぞ、私たち共同体のために、今後ともお祈り下さい。神も、感謝。

（豊津教会　山口和成）

小郡教会

小郡教会は、古くなった聖堂や集会室、司祭館を解体して、新たに聖堂と司祭館を立て直すことになった。また、聖堂には納骨堂も併設し、先祖との交わりを大切にした教会づくりが行われる予定である。大聖年中の完成を目指し、一刻も早く建設工事に入りたい所だが、教会の下には広大な遺跡が埋まっており、五月現在では、その発掘調査がまず行われている。この調査が終わり次第、工事に入ることになる。教会建設を主任司祭牧山勝美神父と信徒一同が一丸となって取組み、建物だけでなく、共同体自体の交わりも深める時としたいと語っている。

BOOK 読みは専科

★永井　隆

永井　誠一著



永井隆が没して五十年が過ぎ去った。本書は永井隆五十年記念として著者、永井誠一が父・永井隆の生涯を綴ったものである。第一部「島根時代」第二部「医大生時代」第三部「物理療法科勤務時代」第四部「原子爆弾被爆」第五部「復興の時代」第六部「病床における文筆活動」第七部「最期の時」第八部「灯は消えず」を年代順に取り扱っている。

報道記者として培った著者の洞察力で父・永井隆の生きざまを見事に描いている。

サンパウロ　税別二八〇〇円

◇　◇　◇

★テレーズ

その生涯における
苦しみと祈り

フランシス・キーガン著
山口カルメル会訳



リジューのテレーズが、幼年期から最期まで、その生涯にたえまなく襲った苦しみを、どのように受けとめ、祈り、神と人びとへの愛のために捧げていったかを、洞察したもの。

誰もが倣え、その後に続くことができる真の喜びと平和と愛への道を、ここに、キリスト者は見いだすことだろう。

女子パウロ会　一二〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター
ピエタ
祭服，聖器具，聖像
信心用品，ベール，
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！

IUBILAEUM A.D. 2000

キリストは
きのうも
きょうも
永遠に！

カトリックフェスティバル

テ ー マ：語りかけよう心を開いて
日　　時：2000年11月3日（祝）10時開始
大会ミサ：14時30分
場　　所：久留米信愛女学院
主　　催：カトリック福岡司教区
問 合 先：水巻教会・松尾隆
☎・FAX093-293-4981

※多彩な催しの中で、パネルディスカッションを企画中。パネラーは、4地区の司祭代表と男女信徒。
※テーマは「これから目指す、教区のあり方」。
※キリスト降誕2000年という節目を通して、さまざまな問題に目を開き、新しい時代の福音宣教に向けて、これから目指すところを考えて行きたいと企画しています。

聖地巡礼と受難劇観賞

期　　日：8月31日～9月13日（14日間）
主な巡礼地：ドイツ…ミュンヘン、オーバーアマガウ（受難劇観賞）ミュンヘン（ナチスによって聖職者が多く殉教したダッハウの収容所跡へ）
イスラエル…ナザレ、エルサレム、ベツレヘム、死海
エジプト…シナイ山、カイロ
同行司祭：鵜野泰年神父（若松教会主任）
旅　　費：498,000円（福岡発着）
申 込 先：近畿日本ツーリスト福岡支店
☎092・473・5655；FAX413・1510

※受難劇観賞は350年前からドイツの小さな村「オーバーアマガウ」で村民によって10年に一度上演されるキリストの受難劇です。
また、今年は大聖年にあたり、2000年前にキリストが宣べ伝えられた福音に耳を傾けると共に、そこに暮らした日々を少しでも体感できることを念頭に企画しました。

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　6月

◇3日(土) ～ 4日(日)　聖霊降臨・祈り会
◇14日(水) ～ 16日(金)　イエズス会・4校合同職員研修会
◇17日(土) ～ 19日(月)　聖母カテキスタ会
◇21日(水)　ミカエル会
◇23日(金) ～ 25日(日)　ユースフルライフ・カウンセリングワークショップ
◇25日(日)　典礼聖歌と祈りの集い

※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
今、新緑に囲まれ一番美しい黙想の家です。ルルドのマリア様も皆様を待っていらっしゃいます。

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。
※祈りの集い
主眼目：「イエス・キリストは神の御子、人の子」
・6月8日（木）10時～15時
・7月13日（木）10時～15時
黙想会
日　時：8月1日～10日
8月17日～25日
指　導：F.ソットコルノラ神父
園田善昭神父
※諸宗教対話活動
仏教者との交流　6月25日(日)
※中国への巡礼
日　時：11月5日～15日
日中戦争犠牲者の慰霊のため、北京・南京等を訪れる巡礼。
[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

6月のこよみ　みこころの月

4日（日）　主のご昇天
†ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
5日（月）　聖霊による信仰生活刷新セミナー■
8日（木）　召命を祈るミサ［大神学院19：15］■
11日（日）　聖霊降臨の主日
合同堅信式［カテドラル14：00］
14日（水）　助祭・司祭候補者認定式［大神学院16：30］■
18日（日）　三位一体の主日
司祭養成への集いとミサ［新田原教会］
福岡カトリックパストラルケア研究会■
21日（水）　†ドミニコ深堀仙右衛門司教［第3代教区長1985］
†トマス平田好［門司港教会1938］
24日（土）　洗礼者聖ヨハネの誕生
25日（日）　キリストの聖体
聖ペトロ使徒座への献金日
西新教会堅信式
聖体大会［新田原教会］
聖体行列［島崎教会］
29日（木）　聖ペトロ・聖パウロ使徒
30日（金）　イエスのみ心

7月
1日（土）　聖母のみ心
2日（日）　年間第13主日
福岡パストラルケア研究会
9日（日）　司祭養成への集いとミサ［久留米教会］

■印は本面に詳細説明あり
ゴチック字は司教予定

◆福岡

■聖霊による信仰生活刷新セミナー
⑤［日時］6月5日（月）10時～12時［テーマ］聖霊の満たし［講師］F・マッケイ神父⑥［日時］6月12日（月）［テーマ］聖霊のうちでの成長［講師］小池如安神父⑦［日時］6月19日（月）［テーマ］ミサ・キリストの証人［講師］松永久次郎司教［問合せ先］☎092・522・5139ブラザー床島

■助祭・司祭候補者認定式
［日時］6月14日（水）16時30分から［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［候補者］寺濱亮司神学生（久留米教会出身）・内藤恵介神学生（大分教区）［司式］松永久次郎司教

■福岡パストラルケア研究会
［日時］6月18日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］死について…聖書的立場から［講師］高見三明神父（サンスルピス大神学院）［参加費］500円・次回7月2日

■召命を祈るミサ
［日時］6月8日（木）19時15分～［場所］サン・スルピス大神学院［内容］大神学生と共に捧げる召命祈願ミサ［問合先］召命の家☎092・531・6821青木神父・次回7月8日

■司祭養成の集い
［日時］6月18日（日）ミサ9時・集い10時30分［場所］カトリック新田原教会［内容］司祭召命への旅＝ミサと集い＝［対象］信徒・修道者・司祭

■第26回典礼聖歌研究会
［日時］6月18日（日）13時から［場所］カトリック光丘教会［指導］深堀純氏（大神学院）［連絡先］☎092・661・2673有馬

■聖書を読む会
［日時］6月1日（木）朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時・毎月第一木曜日［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［テーマ］福音書の歴史的な価値［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754

◆佐賀

■第63回熊本結婚準備セミナー
［日時］9月5日（火）～10月2日（月）毎月曜日と火曜日19時～21時30分［場所・問合先］手取教会☎096・352・3030FAX352・1515

◆熊本

第10回 SE・CO バザーのお知らせ

日　時：6月18日(日) 11時～14時
場　所：聖心のウルスラ幼稚園にて
☆SE・CO（セコ）の会では、バザー活動を通してフィリピンの人々の中で最も援助を必要としている人々、飢えと病気に苦しんでいる子どもたちに少しでも幸せを運べるようにと、願っています。是非、お待ちしています。

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］6月15日（木）毎月第3木曜日9時20分［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・533・2326小田部

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］6月25日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会［内容］未知なる生命＝老齢＝ビデオ［会費］500円［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992

■典礼・聖歌と祈りの集い
［日時］6月25日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［お話］鈴木忠一神父［聖歌指導］深堀純氏［連絡先］☎0942・32・3222黙想の家

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］6月25日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は7月23日

■在世フランシスコ会集会
［日時］6月25日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って福音に生きる為に。ミサと学習・分かち合いなど［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎・次回7月23日

■福岡ホスピスの会
［日時］7月16日（日）14時～16時［テーマ］ホスピスボランティアの活動現場から［講師］沼野尚美氏（神戸六甲病院チャプレン）［参加費］会員500円一般700円［問合先］☎092・737・3701ホスピス事務所・次回9月17日

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。男の赤ちゃん用品も［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■オペラ『忘れられた少年』
［日時］6月3日（土）17時30分開場・18時30分開演［場所］九州厚生年金会館（北九州）［問合先］北九州公演実行委員会☎093・921・0093（小倉教会）

■第17回お母さんの集い
［日時］6月19日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会［テーマ］来なさい、重荷を負うもの［内容］聖歌指導・ごミサ［講師］深堀純氏（大神学院）［参加費］500円［問合先］☎093・962・1395福吉

編集後記

編集後記を書こうと思ったら、こんなに欄が空いていました。編集が下手なのはもちろんですが、お知らせも少ないかなと感じます。私を含め編集者が皆福岡にいるため、福岡地区以外の情報がなかなかつかめず、いつも福岡のお知らせが大半を占めています。北九州・熊本・佐賀の皆さん、お知らせがありましたら、どしどしお寄せ下さい。行事がわからないので、原稿も頼めないでいますので…
パウロ会の百村神父様が転任し、深堀さんと二人だけで不安の内に編集を始めました。が、大物助っ人が登場しました。パウロ会に来られたブラザー牧山です。本当に大助かりです。イエス様は明日のことを思い悩むなと言われましたが、本当にその通りだと実感しています。

OMIオブレート会 サマーキャンプ

テーマ：もう一つの巡礼に出かけよう
日　時：8月1日（火）昼食から
8月3日（木）昼食後解散
場　所：古賀教会暁の星幼稚園
参加費：8000円
申込先：〒468-0014名古屋市天白区中平2-2627　オブレート会名古屋修学院

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】正義と平和に奉仕する宗教

【布教の意向】世界の回心のために苦しみをささげる

【日本の教会の意向】家庭と信仰教育

平和を祈る集い



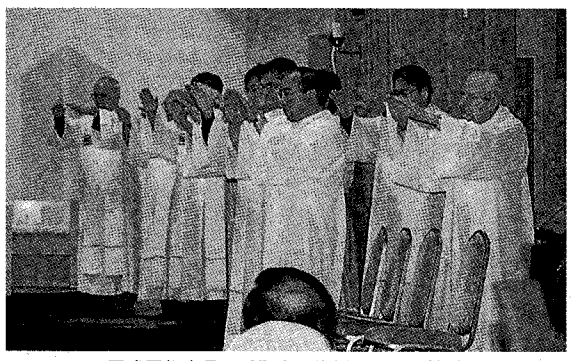
日時：8月6日（日）13：00～16：00
第1部：「アジアの平和への道のり
～東ティモールを中心に～」
講　師：林　尚志神父（下関労働教育センター・イエズス会司祭）
第2部：平和を祈るミサ
場所：カテドラル大名町カトリック教会
※自家用車での参加はご遠慮ください。

合同堅信式 カテドラル

聖霊に照らされ新しい証人64人が誕生

洗礼の秘跡の完成に与って
愛のある行動で証に立ち向かおう

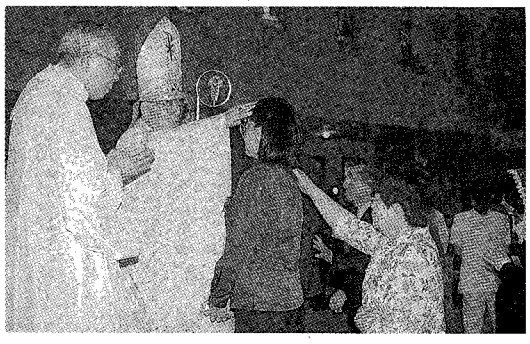
六月十一日（日）聖霊降臨の祝日、午後二時から福岡教区は恒例の合同堅信式を行った。今年は、十一の小教区から六十四人が堅信の秘跡を受けた。松永司教をはじめ、六百人以上の参列者が受堅者と共に、教会の誕生の日であるこの祝日を祝った。



司式司祭全員で受堅者に聖霊を願って按手

イエス様の復活後、五十日目――事は、ミサの祈願の中でも述べられているように、教会誕生の時ともされている。この、私たちの教会誕生の時を、福岡教区の民全員で祝おうと始められた合同堅信式が今年もカテドラルである大名町教会で行われた。

午後二時、鐘と聖歌の音の中を、松永司教と二十人近くの司祭が、六百人の信徒が集まっている大聖堂に入堂し、ミサが始められた。今回は毎週四時より行われている大名町教会英語ミサに集まる滞日外国人のことも配慮しようと、福音や



行われた堅信式では、十一小教区の六十四人が司教に紹介され、緊張の面持ちのうちに洗礼の時にかわした約束と信仰宣言を更新した。続いて聖霊を求めて司教と司祭団が一同で按手のうちに祈った後、司教から一人ひとり聖香油を額に力強く塗られ、教会の使命である宣教のために、キリストの証人となるよう聖霊が豊かに注がれ、喜びのうちにミサが続けられた。

ミサに引き続いて、一階講堂で教会誕生と堅信の秘跡を受けられた方のお祝い会が催された。受堅者をはじめ、たくさんの参加者で身動きもとれないようなにぎわいの中、堅信を受けた人に記念品と堅信証明書が手渡され、終始和やかな雰囲気の中で喜びを共にして散会した。

教区内司祭の研修会
司祭職の泉・頂点である聖体について学ぶ

二〇〇〇年度の福岡教区内全司祭研修会が五月三十日から六月一日、唐津シーサイドホテルを会場に開催された。全体のテーマ「ご聖体の秘跡に親しみご聖体の心を活きる」のもと、講師に大神学院の大山悟神父と白浜満神父を迎え、教区で働く五十人近くの司祭が集まった。

一日目はそもそも司祭とは何なのかと、司祭自身のアイデンティティを見つめる講話が大山神父からなされた。師は現教皇の使徒的書簡「現代の司祭養成」に基づきながら、司祭は神と人々の間にあって交わりの人であることを示し、司祭の生活の中心はミサであり、「ミサをするのではなく、ミサに生きること」が全てであると述べた。

二日目からは白浜神父が具体的にミサの原点である最後の晩餐について説明した後、ミサの流れに従って、各部の詳しい説明や動作の意味、工夫できることなどを説明した。参加したある老司祭は、ミサの各部の意味について、神学校では習っておらず、初めて詳しく説明を聞いたと喜んでいた。



それぞれの場で働いている司祭団が集い、自分の生活の原点を見つめながらお互いの親睦を深める機会となった。

時の話題

「タテマエ」と「ホンネ」

鈴木　明朗

世の中「タテマエ―人としてあるべき心」で生きられれば問題はないのだが、「ホンネ―欲するままの心」が頭をもたげる。多くの場合、「タテマエ」はそうだが、「現実はどうも」となる。

最近ほとんど使われることがなくなった言葉に「良心に恥じる」という言葉がある。「良心」は「タテマエ」に照らして、自分の行為を反省する力だと思う。しかし今日の社会はその力を失いつつあるように感じられる。指導的立場にある人々が「タテマエ」をごまかしたり、「ホンネ」を隠したりするようになって久しい。そして、いつの間にか「タテマエ」が軽視され、「ホンネ」が容認され、優先される社会になってしまった。そのような社会では、人間としての自制心は弱められ、例えばストーカー現象に見られるように、人を思いのままの行為へと駆り立てることへの抵抗感を失わせる。その結果が、最近の保険金殺人・ミイラ事件・放火殺人などの異常な出来事だと思う。

子どもの社会は大人社会の鏡である。子どもたちはそれぞれの年齢でのやり方で「ホンネ」を表現する。今日の青少年の事件がそれであると私は思っている。「タテマエ」と「ホンネ」のギャップのが小さいほど、信頼のおける社会だと思う。子どもたちが安心して「タテマエ」を大切にして生きることの出来る社会であって欲しい。

最近の科学技術、特に生命科学の著しい発展は、私たちの「信仰のタテマエ」をも揺さぶりかねない。人工臓器・人工授精・遺伝子操作など現代社会の価値観とのギャップに悩むことがますます多くなった。悩むのはまだしも、そのギャップのあまりの大きさに信仰のことは教会内だけのこと、現実生活とは別だと割り切らざるを得なくなることが恐ろしい。バーチャル（仮想）信仰にならないためにも、このギャップを埋めるための努力が今日の教会に求められていると、私は思うのだが。

（手取教会信徒）

四つの教区で
司教の引退と新任

教皇ヨハネ・パウロ二世は六月十二日正午のお告げの祈りの時、日本の三人の司教の引退と四教区の新司教を発表した。

引退される司教

東京大司教区の白柳誠一大司教（72）は健康上の理由で今回引退することが受理された。なお、教区長は退くが、枢機卿としての任を果たして行く事になる。あわせて、森一弘補佐司教（62）も、大司教の引退により、教区の責任ある職務を退きたい旨が受理され、引退となった。

大分教区の平山高明司教（76）は、司教の定年（75）に達したため、引退が受理された。

新任された司教



東京大司教区
ペトロ岡田武夫司教（58）
一九九一年六月に浦和教区司教に任命され、九月に司教叙階式は九月十五日。（司教任命



（日）東京大司教区に着座する。

浦和教区
マルセリーノ谷大二被選司教（47）
一九九三年から浦和教区事務局長を務めていた。司教叙階式は九月十五日。（司教任命を受けてから叙階されるまでは被選司教と言われる）

仙台教区
フランシスコ・X溝部脩被選司教（65）
サレジオ会員で、一九九八年からは長崎コレジオの院長を務めていた。仙台教区は、一九九八年に佐藤司教が引退して以来二年間空位だった。九月九日司教叙階式。

大分教区
ドミニク宮原良治被選司教（45）
長崎教区で一九八九年より教区裁判所法務長官を務め、今年の四月に大神学院に着任していた。十月一日司教叙階式。

みちくさ

大聖年の実りであろうか、それともそのまとめであろうか、ご聖体について深く話され、多く勉強され、種々の行事が行われるようになった。お恵みの出来事である▼あちこちで、ご聖体行列など、盛大な儀式の噂が伝わって来る。何も計画していない者には、寂しい気持ちがするほどである。しかし、どこかで素晴らしいことが行われていることを知るのは嬉しい▼真に、ご聖体祭儀は「教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である」と言う文言が典礼憲章のなかにある。この文言を信者は相応しい心遣いで受け止めなければならない▼およそ、ご聖体には三つの大きな意義がある。その一つは、この秘跡の下にキリストが実際に現存される、と言うことである。キリストはいわば第二の受肉をなされたのである。私たちは、私の間にキリストを言わば、仲間の一人として有しているのである。これがいかに力強いことであるかは、このような神を共にもっている民が他にないことで分かる▼ご聖体はまた、十字架の再現である。十字架上で捧げられた父なる神に対する最高の礼拝が新たにされるのである。この礼拝に勝る礼拝はこの世に存在し得ない▼ご聖体はそして、豊かな秘跡である。ご聖体から、全ての恵みがあふれ出る。全ての者をその務めに強めるお恵みが豊かに与えられる。日々の力を支え、困難を打ち破る力が与えられるのである▼こうして神の礼拝と人々の救いと言う教会の本来の目的が全うされる。救い主キリストの再来とも言えるのである。この秘跡を私たちは本当に大切にしなければならない。信仰の心で、受け止める心を持たなければならないと思う。（M）

大会趣旨

大聖年にあたり、いま直面している問題を認識し、新しい時代の福音宣教を考えましょう。

ご降誕二〇〇〇年の記念すべき年に、教区信徒が一堂に会し、お祝いしようというのが出発点。次代を担う若者と、年を追う毎に増えている、滞日外国人とに留意し、祝いではあってもその場限りのものではなく、信徒の養成を組み込み、新しい出発に備えたいと考えています。

この行事にたくさんの方が進んで参加し、歓びを分かち合っていただきますようお願いいたします。

福岡教区大聖年行事実行委員会

大聖年記念行事……主催カトリック福岡司教区

カトリックフェスティバル

テーマ　語りかけよう心をひらいて

日時　11月3日

会場　久留米信愛女学院

◆テーマソング

○大神学生吉田剛さん作詞・作曲の『キリストを見つめて』に決定
○オープニング曲
　宗像市の三谷尚さんのオルガン曲

◆催しもの

多彩なプログラムが準備され、四つの会場で次の催しものが進められます。

☆パネルディスカッション
『これから目指す教区のあり方』
　司祭四人と二人の信徒をパネラーとして計画中。二十一世紀への旅立ちのための、重要な企画と位置づけています。
☆子どもの広場（召命の集い）
　これまで大神学校で行ってきた召命の集いの劇とレクレーション
☆講演会
『召命について』
　大神学生による講演
☆信仰体験報告
　現実の生活を信徒としてどう生き、乗り切ったか、体験を伺いましょう。
☆ベートーベンミサ曲
　北九州記念混声合唱団
☆歌とトーク
　本田路津子コンサート
☆各地区の出し物

◆ミサ

今回のカトリックフェスティバルの中心行事はミサです。

サン・スルピス大神学院の白浜神父を中心に、記念となる意義深いミサとなるように計画中です。ミサは私たちのあらゆる活動・生活の頂点であり、泉です。大会の締めくくりとして、全員参加のミサを目指します。

具体的には、福岡教区にいる滞日外国人の方の事を考慮し、聴覚に障害のある方のために手話通訳ミサとします。

そして、何よりも次世代の教区を担う子どもたちの心に残るミサとなるよう、各教会の子どもたちも様々な役割を果たせるようにしています。

☆時間　十四時三〇分から
　十四時から聖歌の練習などが行われます。
☆場所　晴天時　グランド
　雨天時　大ホール
☆形態　司教ミサ
　司祭、修道者、信徒が一つになって捧げましょう。

☆休息コーナー
　疲れたらお立ち寄りください
☆相談事コーナー
　ゆるしの秘跡を受けることもできます。
☆バザー、書籍コーナー
　カトリック関係の施設が出店する予定です。
☆食事コーナー
☆PRコーナー
　修道会、団体の活動状況が展示されます。

格好いいスローガンで終わらないために！

新しい福音宣教④

L.ベリオン神父

◆大会のテーマ

『語りかけよう心をひらいて』

◇込められたメッセージ

(1)姿勢の転換

「待つ、守る」から「語りかける」へ。

この姿勢の転換が、今後の福音宣教に必要なのではないでしょうか。

(2)関わりの希薄さを埋める

傷つくのではないか、傷つけてしまうのではないかとの恐れをキリストへの信頼に置き換えて、語りかけましょう。

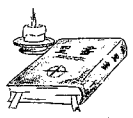
(3)互いの理解を深める

家庭内、小教区内、世代間、滞日外国人、他宗教の人、地域の人との理解を深めましょう。

◆日時　十一月三日

受付　九時
開会　一〇時

◆会場　久留米信愛女学院



『ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。』（フィリピの信徒への手紙1・27）

そのパウロの言葉は福音宣教への出発点を指していると思います。私たち一人ひとりが、キリストの福音を重点にして生活をしていなければ、福音を証しする事は、まず有り得ないことでしょう。

教会全体のことを考えると尚更のことです。教会はこの地上で旅する神の民、キリストを証しし、福音宣教を行う神の民であるからです。

「教会は正に福音を宣教するために存在しています」。（教皇パウロ六世「福音宣教」1・14）

福音宣教。福音宣教とは何ですか。私たち一人ひとりが、それをまず、はっきりと把握するために努力しなければ、しっかりしたものが生まれて来ないと思います。

知識と信仰とは異なると主張する方がおられますが、無知であればある程、信仰が厚くなり、キリストへの証しは確かなものになるわけではありません。

福音宣教とは何か。それに対する知識が必要です。その知識を得るための資料はあふれる程、私たちの手元にあります。

第二バチカン公会議の文章（教会憲章、現代世界憲章、教会の宣教活動に関する教令、信徒使徒職に関する教令など）を始め、一九七五年十二月八日「現代社会における福音宣教」をテーマに、三年余り前にローマで開かれたシノドス（世界司教代表者会議）のまとめとして、教皇パウロ六世が発表した「エバンジェリィ・ヌンチアンディ」（福音宣教）、一九八七年の第一回福音宣教推進全国会議（NICE1）に当たり、出された文章や、その後カトリック中央協議会から出版された多くの小冊子などを読めば十分に知識を得ることができます。その資料が、本棚の中で埃をかぶっているとすれば、再び引き出しては如何でしょうか。

NICE1で日本の教会は、開かれた教会づくりを目指して「社会と共に歩む教会」となるために、「教会が生活と社会の現実とその諸問題を把握し、分析し、そこに福音の光りを与え、福音の光りに基づいた問題解決の指針を教会と社会に広く伝達するための機関を充実する」事を提案しました。その時以来、私たちの教区において、具体的に何が成し遂げられたのでしょうか。

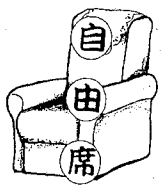
二十一世紀を目の前にして、小教区、地区、教区のレベルで福音書と並行して、今日のための神の言葉である教会の文章を、もう一度読み、研究してはと思います。それと同時にその運動を推進し、まとめ、方針を定め、実行する段階まで導く委員会を設立する必要があるのではと考えています。教会の存在に関わる問題だけに、教区として真剣にそれと取り組む事を避けては通れないような気がします。

（つづく）

黒崎教会主任司祭

鳥栖教会の大聖年

黒田　京子



五月十四日五月晴れの日曜日、鳥栖教会では、マグリン神父様のお別れと新任の平田三好神父様の歓迎バス旅行が行われました。この旅行には鳥栖教会の信徒の皆さんのほかに久留米教会、大名町教会の信徒の方々、ショファイユ幼きイエズス修道会のシスターたちと総勢百人が参加し、大型バス二台に分乗して、島原へ出発しました。道中「ロザリオの祈り」を捧げ、聖体にささえられすべてをささげた島原半島の殉教者（長崎教区テキスト「まるちれす」より）について勉強しました。

島原教会は二年前に建て替えられ、聖堂の入り口近くにはルドのマリア様とベルナデッタ像が、教会の中は殉教者や少年使節のステンドガラスで飾られています。

島原では、少年使節がローマから持ち帰った印刷技術で印刷された「どちりなきりしたん」が、二百五〇年もの間使われたそうです。ミサの中で、島原教会はキリスト教信者にとってはふるさとになります、と神父様は話されました。

ミサに与った後、昼食を取り、島原城を見学し、一行は雲仙へと向かいました。

雲仙教会で祈りを捧げた後、雲仙の殉教記念碑へと……。一番足取り速く、先頭をきって登って行かれたのは、76歳のマグリン神父様でした。

イタリア人のマグリン神父様にとって外国から宣教に来て殉教した人々への思いは、格別のものがあった事と思います。参加者全員で深い黙祷を捧げ、巡礼の旅も無事終わりましたが、帰りのバスの中で、マグリン神父様とお別れする日がもうすぐだということを実感しながら、夕日を眺めました。

（鳥栖教会　信徒）



オペラ「忘れられた少年」に参加して

安藤　眞由美

六月三日六時三十分開演のオペラ「忘れられた少年」は、豊かな主の恵みを受け千二百人の観客と共に四人の少年たちの人生に大きな感動を味わうことができました。幕が上がる前、神父様を囲んで皆が祈ったこと、なんと幸せな一日だったでしょう。

この数ヶ月の間、私たちは練習の中で四百年前の少年たちに出会い、その喜びと悲しみを共に味わい大きな変化を心の中に感じています。

四百年前、天正使節団として旅立った少年たち、ヨーロッパでの夢のような歓迎、しかし八年後、帰国した彼らを待っていたのは悪夢のような禁教令。しかし司祭となった彼らは苦しみの中で信仰を証してゆく。オペラの最後の場面では、年老いた中浦ジュリアンが小倉で捕えられ、長崎に連れていかれ穴吊りの刑で殉教します。私たちは、「神父様！」「ジュリアン様！」と叫びながら、舞台の上で泣いていました。きっと四百年前にも神父様を慕ったたくさんの人びとが泣いたことでしょう。

大聖年を迎えるに当たり、教皇様は、この千年紀を振り返るように呼びかけられました。

九州に住む私たちは、このすばらしい殉教者たちをいただいている幸せな信者です。この土地には、キリシタンの汗と涙と血がながれ染み込んでいるのです。私たちには振り返るカトリックの歴史があるのです。

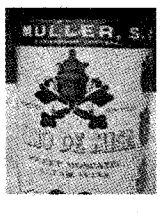
この度のオペラの公演を成功させるために献身的にご奉仕下さった信徒会の皆様、お忙しい中おいで下さいました松永司教様、また、応援下さいましたたくさんの方々に心から御礼を申し上げ、主に感謝をささげます。

主よ、私の神よ
心を尽くして　感謝をささげ
とこしえに　御名を尊びます。
神に感謝！

（小倉教会　信徒）



宗像・ASIPA（アシパ）　＊生活の中で聖書を読むために＊
第2回
グループA／9月　8日(金) 19:30 ～ 10日(日) 16:30
グループB／9月15日(金) 19:30 ～ 17日(日) 16:30
【指導】松田　清四朗　神父　【会費】19,800円
第1回目が好評の内に終了いたしました。
9月には第2回目を行います。初めての方も参加できます。
どうぞ、お気軽にお問い合わせ下さい。
福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

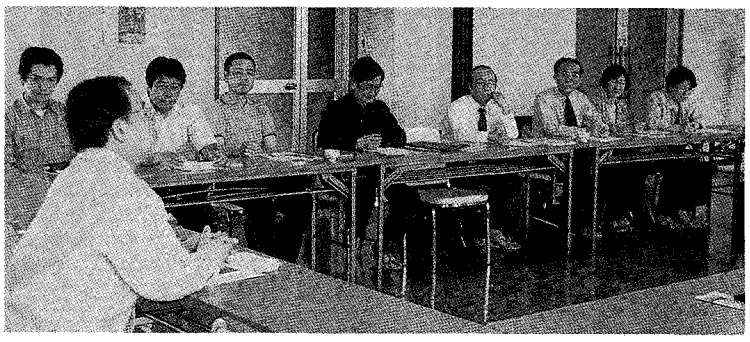
ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

広日世界報の

教区広報研修会に23人が参加
言葉の魅力、力強さと恐さを学ぶ

司教館



五月二十八日（日）、世界広報の日に福岡教区広報委員会では各小教区の広報担当者や関心のある人のための研修会を行った。テーマは「広報における言葉の力」、福岡地区、北九州地区、佐賀地区などから二十三人の参加があった。講師は、元門司港教会の信徒で現在、大分朝日放送取締役報道制作局長であり、大分教会の信徒会長でもある西川正義氏を招いた。

西川氏は、長年の敏腕記者としての体験から言葉の持つ恐さと力強さを語った。無意識に使っている差別的言葉。この無意識が持つ恐ろしさ。生かし、力づける言葉の一方で読者を怒らせ、悲しませ、不安にさせるのも言葉である。広報に関わる者が、もっと言葉に注意深くなり、読者とのよいコミュニケーションを結ぶために学ぶこと、書かれたものを読むことも、自分の言葉を豊かにできる。また、よい言葉も差別的と思われる言葉も、その文章の流れの中で、生かす言葉にもなり、殺す言葉にもなる。さらに、文章を書く中で差別用語を生みだしてしまう怖さも指摘。書くという行為が持つ責任の重要性を学ぶ研修会になった。これからも、互いの情報交換が期待される。

戸畑教会の大聖年行事
ノートルダム…ミサの中で修道誓願の更新

年間スローガンを『大聖年を迎え神の子として愛のうちにひとつになろう』と掲げた戸畑教会は、今年のうちに三つの日曜日を小教区として特別に心を一つに祝う日と定めた。五月二十八日は、この小教区に二つの修道院を持つコングレガシオン・ド・ノートルダム修道院の創立者、聖マルグリット・ブールジョワ帰天三〇〇年の記念日。六月二十五日は、ご聖体に捧げられた戸畑教会として、一致して祈る日。十一月十九日は、戸畑教会で働かれた後、神のみもとに召された司祭・修道者を思い起こして、感謝のうちに祈るというプランである。

五月二十八日のミサは、主任の深堀勝人神父とパリ・ミッション会レオン・デシャンブー神父の共同司式で捧げられた。ミサには、シスターたちと戸畑の全信徒、近隣の教会の信徒や明治学園の卒業生、知人など二二〇人の会衆で、いっぱいであった。ミサの中で同修道会のシスターズ二十一人が祭壇前に整列し、修道誓願を更新した。この光景は多くの信徒たちにとって珍しい体験であり、奉献生活の意味が深く印象づけられたと思われる。

説教で、深堀神父は「様々な教会で主任司祭をしてきたが、自分の担当小教区に修道会があるのは初めて。しかも、この会は、囲いの中に納まっていてくれないで、小教区の中に入ってくるのだから」と笑いを誘いながら、信徒と修道者が祈りあい、愛しあう神の家族であることを力説された。



請願を更新するシスターズ

このミサを通じて、奉献生活の存在意義が実存的に伝えられたとの実感を、参加者のすべてが味わえたのではなかろうか。

日本福音ルーテル二日市教会
エキュメニズムで聖霊降臨合同礼拝式

六月十一日（日）、午後四時から聖霊降臨の祝日にROCK（キリストを礎とする熊本青年会）主催による聖霊降臨合同礼拝式が日本福音ルーテル二日市教会で開催された。参加した青年は熊本、福岡、北九州からカトリック、ルーテル、バプテスト合わせて約五十人であった。大神学生四人の参加もあった。

合同礼拝式は、開会の部、みことばの部、分かち合いの部、奉献の部、閉会の部の順序で二時間かけて行なわれた。みことばの部の説教は中村彰神父と笠井均牧師で聖霊の働きに心を開き、神から遣わされた者としての使命に生きようと語った。分かち合いは一時間近くかけて、八人程のグループに分かれてなされた。自己紹介から始まり、みことばと説教を聞いて感じたこと、キリストとの出会いや神の働きを感じたことなどを分かち合った。

熊本ではカトリックとプロテスタントの青年が、同じキリストを信仰する者として昨年より復活祭、聖霊降臨祭、クリスマスに合同礼拝式を行っている。これからもキリストを信仰する者が教派の違いを超え、共に祈りを捧げていければとスタッフの青年は話していた。

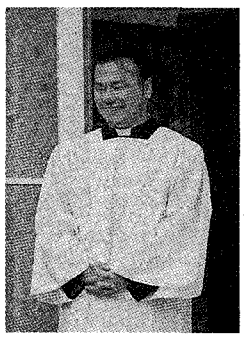
（取材協力＝健軍教会信徒　三原直輝）

寺濱神学生　助祭・司祭候補者に認定

六月十四日（水）、サン・スルピス大神学院において、松永司教司式のもと、助祭・司祭候補者認定式が行われた。この式において、大神学生をはじめ、福岡・大分教区の司祭・修道者や信徒・家族関係者など多数の参列者が見守る中で、福岡教区からは久留米教会出身の寺濱亮司神学生、大分教区からは内藤恵介神学生が認定を受けた。

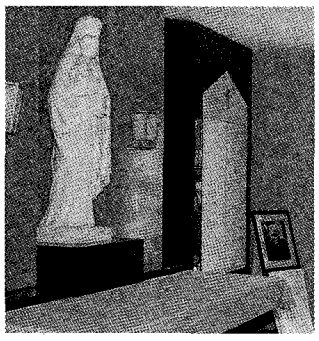
この認定式とは、将来助祭・司祭になることを志す者がその意向を皆の前で表明し、司教が教会の名によってその意向を受け入れ、将来助祭・司祭になる候補者として認めるものである。この時点より、認定を受けた者は教会の正式な神学生となる。福岡の大神学院では、そのしるしとして黒色のスータンとその上から着用する白色のスルプリを着用する伝統がある。

ミサ後に行なわれた祝宴で、真新しいスータンをまとった寺濱神学生は、感謝の意を表し、早く教区のために役立ちたいと決意を新たにしながら、自分のため、そしてすべての神学生のため、また教区の召命のためにも今後も祈ってくださいと挨拶していた。



故J・ツルテル神父
聖堂の中に納骨堂完成
福岡サン・スルピス大神学院

六十二年間、福岡で司祭養成のために献身し、昨年一月にカナダにて帰天されたJ・ツルテル神父。このほど、大神学院聖堂のマリア像横に納骨室が増築され、師の遺骨が安置された。普通、カナダでは火葬することはないのだが、日本の土になりたいと願っていた師の意向を尊重し、特別に火葬したうえ、遺骨のすべてを日本に持ち帰り、安置されたものである。



聖堂で、時折頭を抱えながら毎日祈る師の姿は、何よりも神学生に訴えるものがあり、今でも多くの人の心に焼き付いていると思う。師が愛して止まなかった神学校の聖堂で、それ以上に愛して止まなかった神学生のため、天の父に取りなしてくださっているようである。

日中なら、いつでも師に会いに来て、お祈りしてほしいと大神学院は願っている。

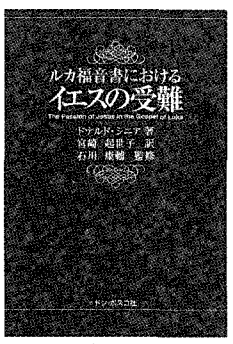
私と関わってください！

「ソンザイカン　ホシイ」

あの高速バスジャック事件の17歳の少年がインターネット上の掲示板に残していた言葉だそうである。最近「存在の意味」「生きる意味」「命の意味」といったキーワードをよく耳にする。その答えはこれまで、人に必要とされる人間になることや、人に何かをしてあげること、あるいは何かをこの世界に残すといったようなことで見つけていけるものだと教えられてきた。そして、そのためには、能力、権力、経済力などの「力」を身につけなければならない、と言われてきた。はっきりと口には出さないまでも、いわゆる「役に立たない人間」は存在価値がないという考え方が常識であった。だが、さまざまな理由から、人の役に立つような生き方をしたいと思っても、できない人がたくさんいる。そのような人は「自分には、生きている意味がない、と思わなければいけないのだろうか。役に立つか、立たないかで、存在の価値を判断するのはかと思う。悲しいことだが、今の社会は、はっきり表現してもらわないと人の気持ちが理解できない社会である。関わろうとしない人には、こちらから関わる必要もないという社会なのだ。すべての関わりをなくしてしまったとき、私たちの存在の意味は本当に消える。だからこそ、「助けてください」「赦してください」と素直に言えるようになりたい。弱いこと、罪深いことは恥ずかしいことではない。それを認めようとしない態度こそが、恥ずべき態度なのだ。本当の自分の姿を認めて、それを相手に伝えられなければ、本当の「関わり」は生まれない。人に必要とされることも、人を必要とすることも、同じように大切な関わりなのだ。

本渡・崎津・大江教会助任
川原拓也神父

BOOK 読みは専科



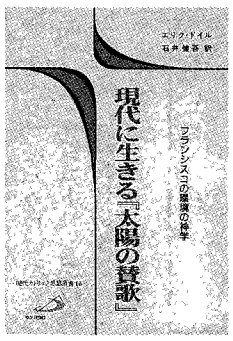
★ルカ福音書における
イエスの受難
ドナルド・シニア著
宮崎起世子訳
石川康輔監修

ルカ福音書の記述全体がみごとに〈受難物語〉に関連づけられている事実が、明らかにされる。疎外されている貧しい人々の声に耳を傾けるイエス、預言者的な激しさで正義のメッセージを宣言するイエスを示している。この本は、福音書をいかに読み、解釈し、実生活に適用すべきかを教えてくれる。

ドン・ボスコ社　一七〇〇円

◇　◇　◇

★現代に生きる
『太陽の賛歌』
エリク・ドイル著
石井健吾訳



一人の歌い手とその人が作ったと言われる歌について書かれたものである。歌い手とは、アシジの聖フランシスコのことで、歌とは『兄弟なる太陽の賛歌』のこと。自然をこよなく愛した彼のすばらしい環境感覚を神学的に表わしている。

彼の生き方と教えが、神がいかに我々を助けて下さるかを示そうとしている。また、彼が愛し、宣言した清貧についても、そのヴィジョンが忠実に要約されている。

サンパウロ　税別二八〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！

IUBILAEUM A.D. 2000

キリストは
きのうも
きょうも
永遠に！

イタリア大聖年巡礼の旅

日　　時：11月21日（火）～30日（木）
同行司祭：伊東成晃神父（呼子教会主任）
主な巡礼地：ローマ、アシジ、フィレンツェ、シエナ、ピサ、ミラノ
参加費：２４８,０００円
申込先：伊東神父（呼子教会）
阪急交通社（担当：安藤）
☎092-722-0808：FAX092-734-2350
※この聖年の間、25年に一度開かれる4大聖堂の「聖なる扉」を訪れて祈りを捧げることは、非常に恵み深いことです。かつてこの日本にキリストの福音をもたらしてくれた宣教師たちの旅の出発点となった地をこの私たちが訪れることは、意義深く、「新世紀」を迎える私たちの信仰の船出ともなると思います。

聖地巡礼と受難劇観賞

期　　日：８月31日～９月13日（14日間）
主な巡礼地：
ド　イ　ツ…ミュンヘン、オーバーアマガウ（受難劇観賞）ミュンヘン（ナチスによって聖職者が多く殉教したダッハウの収容所跡へ）
イスラエル…ナザレ、エルサレム、ベツレヘム、死海
エ ジ プ ト…シナイ山、カイロ
同行司祭：鵜野泰年神父（若松教会主任）
旅　　費：498,000円（福岡発着）
申 込 先：近畿日本ツーリスト福岡支店
☎092・473・5655；FAX413・1510
※受難劇観賞は350年前からドイツの小さな村「オーバーアマガウ」で村民によって10年に一度上演されるキリストの受難劇です。
また、今年は大聖年にあたり、2000年前にキリストが宣べ伝えられた福音に耳を傾けると共に、そこに暮らした日々を少しでも体感できることを念頭に企画しました。

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　７月

◇１日(土)～２日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇８日(土)　宗像　和善の集い
◇９日(日)　カナの会
◇12日(水)　ミカエル会
◇16日(日)　プロテスタント折尾教会修養会
◇25日(火)～27日(木)　援助修道会研修
◇29日(土)～８月７日(月)　幼きイエズス修道女会

※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
力強く生きる木々と深い緑の中で十字架の道行きは心をいやしてくれます。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

園田善昭神父

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。

※祈りの集い
テーマ：私は永遠のいのちのパン
７月13日(木)10時～15時

黙想会
日　時：８月１日～10日
８月17日～25日
指　導：F.ソットコルノラ神父

※第４回宗教者平和の祈り集会
日時：10月８日(日)　午後

※中国への巡礼
日時：11月５日～15日
日中戦争犠牲者の慰霊のため、北京・南京等を訪れる巡礼。

［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

７月のこよみ

２日（日）　年間第13主日
福岡カトリックパストラルケア研究会■
３日（月）　聖トマ使徒
†F.ザビエル平田正喜［老司教会1994］
９日（日）　年間第14主日
司祭養成への集いとミサ（久留米教会）
16日（日）　年間第15主日
福岡ホスピスの会研究会［カテドラル14：00］
20日（木）　†ヤコブ平田勇［西新港教会1980］
†W.シュルツ［吉塚教会1987］
22日（土）　マグダラの聖マリア
23日（日）　年間第16主日
25日（火）　聖ヤコブ使徒
†J.ラグレブ［門司天使園園長1982］
†J.ブルトン［呼子教会1957］
26日（水）　聖ヨアキムと聖アンナ
27日（木）　†L.ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（土）　聖マルタ
30日（日）　年間第１７主日
生と老い、死を見つめる会［カテドラル14：00］
31日（月）　聖イグナチオ・ロヨラ
†ヨハネ平田惣五郎［浄水通教会1989］
８月
４日（金）　聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
†M.ボンカス［田川教会1991］
６日（日）　主の変容
日本カトリック平和旬間～15日まで
平和を祈る集い［カテドラル13：00］
†E.ベノア［門司港教会1962］
■印は本面に詳細説明あり

◆福岡

■福岡パストラルケア研究会
［日時］７月２日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］診療所におけるスピリチアルケアの実態［講師］シスター三木加津子（カリタス会診療所婦長）［参加費］７００円・次回９月３日

■司祭養成の集い
［日時］７月９日（日）ミサ９時・集い10時30分［場所］カトリック久留米教会［内容］司祭召命への旅＝ミサと集い＝［対象］信徒・修道者・司祭

福岡ホスピスの会勉強会

日　時：７月16日(日) 14時～16時
場　所：カテドラル大名町教会４階
講　師：沼野尚美氏（六甲病院チャプレン）
参加費：会員500円：一般700円
※病気の人を見舞う事の美しさと大切さ、マナー、気づかいを学ばせてもらえます。どなたでも参加できます。

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］７月20日（木）毎月第３木曜日９時20分［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎０９２・５３３・２３２６小田部

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］７月23日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は７月23日

■在世フランシスコ会集会
［日時］７月23日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って福音に生きる為に。ミサと学習・分かち合いなど［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎・次回９月24日（８月は休会）

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］７月30日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会［内容］「ホスピスが私に残された唯一の道」－愛する人を看取ってーと語り合い［講師］中村浩子氏（ひまわりの会代表）［会費］５００円［問合先］☎０９２・７１３・８５２３大山・０９２・６０７・６９９２村尾

■福岡地区納骨堂清掃とミサ
［日時］７月30日（日）清掃８時～ ミサ11時・雨天の場合は８月６日（日）

■福岡地区納骨堂開放
［開放日］８月13日（日）～15日（火）10時～15時

■典礼を学ぶ集い
［日時］８月20日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］典礼用語について［講師］白浜満神父［参加費］６００円［問合先］☎０９２・５４１・６２０７

■第81回福岡結婚準備セミナー
［日時］９月16日（土）～10月11日（水）毎水曜日と土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎０９２・５４１・６２０７ FAX５５２・５０２２

■美野島司牧センターのお願い
☆皆様にご心配と、お祈りをしていただいていましたスペイン語ミサの外国人が無事男子を出産しました。メキシコの人とパナマの人で母子共に元気に成長しています。これからも神様のお守りの中に成長していく幼子のためにお祈りを加えて下さいますようお願いいたします。
続いて、衣類・毛布のカンパをお願いします。男の赤ちゃん用品も［問合先］コース神父☎０９２・４３１・１４１９

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］７月11日（火）13時30分～15時［場所］小倉教会［指導］マテオ神父［テーマ］詩編で祈る［問合先］☎０９３・４５２・１５５６安藤

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］７月６日（木）朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時（八月はお休み）［場所］カトリック佐賀教会信徒館［テーマ］聖パウロについて［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎０９５２・２３・４７５４

ＯＭＩオブレート会サマーキャンプ

テーマ：もう一つの巡礼に出かけよう
日　時：８月１日(火) 昼食から
８月３日(木) 昼食後解散
場　所：古賀教会暁の星幼稚園
対　象：小学５年生以上の男子・女子
参加費：８０００円
申込先：〒468-0014
名古屋市天白区中平2-2627
オブレート会名古屋修学院

◆熊本

■日本カトリック看護協会案内
［日時］奇数月第３日曜日14時半～17時［場所］熊本聖心病院⇩右記のように例会を行っています。７月は巡礼を企画しています。［問合せ］☎０９６・３５２・７１８１熊本聖心病院シスター竹内

編集後記

今回は、カレンダーと時計をにらめっこしながらの編集となり、大変なものだと感じました。でも、一緒に編集に協力してくださっている二人にとってはもっとヒヤヒヤだったと思います。もう少し時間的ゆとりを持って編集作業ができるよう頑張ります。そのためにも原稿も速めに送って下されば幸いです。

召命学校
～イエスさまについていこう～

日　時：7月28日（金）15時30分～
7月30日（日）13時
場　所：召命の家
対　象：小学4年生～中学生男女
参加費：2,000円
持ってくるもの：着替え、洗面道具、タオルケット、水着、ロザリオ
申込先：召命の家（青木悟神父）
☎092-531-6821　FAX531-6903
締切日：7月16日（日）
各小教区に案内・申込を送付いたします

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円



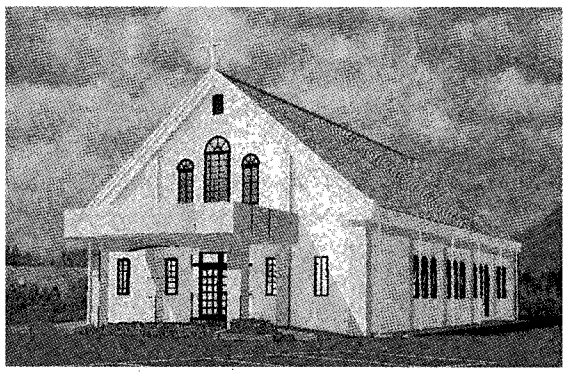
アレルヤ　アレルヤ
マリアは天に上げられた。
天使の群れは喜びに輝く。
アレルヤ　アレルヤ

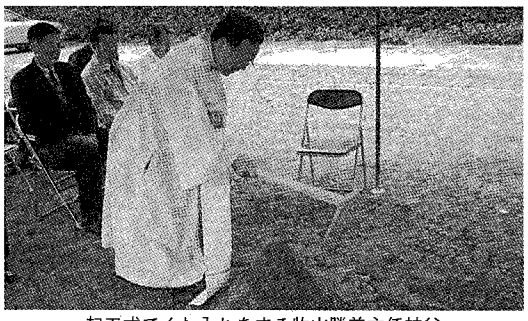
大聖年を記念する聖堂建設

先祖の歴史の上に建つ 聖フランシスコ・ザビエル 小郡カトリック教会

六月十六日（金）、かねてより老築化と聖堂の狭さが問題となっていた小郡教会では、弥生時代の遺跡出土に関する調査で着工が遅れていた新聖堂と司祭館の起工式が、牧山勝美主任司祭司式によって挙行され、工事関係者（鳥越建設）他、信徒五十人ほどが参列して建設行程の照らしと無事を祈った。

聖フランシスコ・ザビエルを保護の聖人としていただく小郡教会では一九九四年十一月の信徒総会で、老朽化した聖堂と司祭館の建て替えを決議。九十五年六月に教会建設委員会を設置し、同年九月より建設基金の積立てを開始。九十九年五月、計画案が具体化した。ただし、小郡教会が建つ地域は、若山遺跡群の遺跡の上にあることがかねてより分かっていたため、小郡市の埋蔵文化財調査センターによる発掘調査を待つ必要があった。昨年十二月試掘が行われ、二ケ所から弥生時代の人々の生活の跡が見つかり、正式な発掘調査が本年五月八日から六月二日にわたって行われた。これによって工事の着手が遅れたが、六月十六日無事起工式の運びとなった。聖堂の完成は今年の十二月中旬を予定しているとのことである。


小郡カトリック教会新聖堂の完成予想図


起工式でくわ入れをする牧山勝美主任神父

小郡教会は、一九六四年一月二十六日に献堂された。初代の主任司祭は岩永義人神父（現本郷教会主任）。久留米教会と今村教会の間の小郡地区と西大刀洗地区を合わせたもので、信徒数が一〇九人、世帯数二十世帯で始まった。現在は、信徒数が三四〇人、世帯数一四〇になっている。

今回の建設規模は、聖堂が鉄筋コンクリート一部鉄骨造りで一階床面積三三〇・六五平米、二階六四・九一平米、延べ面積三九五・五六平米で、従来の聖堂の二倍とはならないまでも広くなることに信徒の誰もが喜んでいる。また、信徒の大きな希望でもあった納骨堂が併設されることになったことも喜びとなっている。


弥生人の生活の跡や道具が発掘される

司祭館は、これまでプレハブ造りであったため、歴代の主任司祭に不自由を強いてきていたが、二階建て延べ床面積二〇八・一三平米の木造建築で事務室、応接室、会議室、厨房など充実したものとなる。

今回の建設委員会委員長の井上氏は、「建設のめどがついたのは、奇しくも昨年のザビエル渡来四百五十年の時で、聖人のお導きを強く感じました。また、大聖年に聖堂と司祭館が竣工できるとは小郡教会にとって大きな恵みです。また、信徒一同心から感謝しています。」と語っている。

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】キリストの現存の証人である青年

【布教の意向】大洋州の教会と神の国

【日本の教会の意向】世界青年大会と世界平和

新田原と久留米教会で司祭養成の集い
家庭における信仰教育の大切さを確認

五月十四日大名町教会から始まった「司祭養成の集い」が、六月十八日に新田原教会、七月九日に久留米教会と行われてきた。この集いは、いわゆる小神学校の一時閉鎖に伴い、閉鎖の理由や今後の方針、信徒からの希望を聞くなど福岡教区の召命に対する方向性を模索するという行動でもある。今後、少倉教会、佐賀教会、手取教会と巡り、教区内の五地区で行われる。

新田原教会では六月十八日の召命祈願ミサ後、百人ほどの信徒が参加し、召命問題への関心の深さが伺える集いとなった。小神学校閉鎖に対する説明、大神学校の神学生受け入れのシステムの変化など召命担当の青木悟神父の話に真剣な質疑が行われた。青少年問題に関して家庭自身が苦慮している現在にあって、神学生育成にもっと別の角度から考えられないだろうか。修道会の神学校にはまだ希望者が出ていることを考えると、教区にはなぜ魅力がないのだろうか。カトリック新聞等を見ていると国内でも外国籍の司祭叙階が多いのはなぜか、など活発な発言があった。また、司祭になるには頭が良くないといけないのじゃないかという発言に対し、神父は、「そんなことはありません、目的をしっかり持っていることの方が大切です」と答えた。

久留米教会では、七月九日のミサ後に四十人ほどの信徒が集まり、熱心な討論が行われた。やはり召命の問題となると、隣の子どもさんには神学校に行ってほしいが自分の子どものことは考えていない。行ってほしくないという考えと、自分の子どもが勤まるわけがないという考えがある。また、地元の繁華街での青年の行動に就労外国人から「日本人の青年はクズだ」と言われたという人は、青少年の価値観が大きく変っていることも考慮すべきではないかと話していた。まず大人が自分、自分の子どもといった考え方から、他の人のためにという価値観に変らなければという意見もあった。また、高齢者から「今の人は司祭を大切にしない。すばらしいことをしてくださる人、という姿勢がない。これでは若者は司祭の道に魅力を感じない」との発言もあった。これを受けて司祭からは、よい司祭にならなければという言葉もあった。

「召命の家」担当の青木神父は、小神学校について一九九七年から三年間かけて議論し、一時閉鎖に踏み切ったが、大神学校の機構改革もあり、現在の共同生活での教育にも限界があることも指摘した。ただし閉鎖はしているが、召命への啓発として青少年への話し掛けは続けるし、中・高生の希望者がいれば召命学校としての集まりを続ける。また、大学生以上の男子の召命を考える集まりも続けて行くと語っている。

時の話題

河井田　研朗

説教は平易に 祈りは荘厳に

第二ヴァチカン公会議以後、典礼用語の各国語化が進み、世界各国の教会はそれを実施してきた。しかし日本の場合は、更に同じ日本語でも文語体を中心とした祈祷文を口語体に置き換えるという、独自の問題にも直面することになった。最近はその転換が遂に主祷文にまで及んできた。勿論、死語や難解な言葉を、ある程度現代風の言葉に置き換えることは必要であろう。しかし口語調に直してしまうことには、大きな問題を感じる。具体的な例を挙げれば、「…し給え」とか、「…すべき」といった口調は現在でも日常会話のなかで用いられている言葉である。祈りの中にはせめてこの程度の表現は残すべきではあるまいか。

神道や仏教の葬儀や法事に列席するたびに聞かされるのは、祝詞やお経の言葉である。それらの言葉を耳で聞いて直ちに理解することは多くの平均的日本人には困難であろうと思われる非日常的なものであってもある程度荘重な言葉で祈りを唱えるとき、人間は心の中に日常を越えた世界を想起することができるのではなかろうか。祈りにおける難解な用語の改変自体には反対しないが、その口語化は最小限にとどめて、できるだけ荘重な響きを残して欲しいと思う。

（茶山教会信徒）

みちくさ

体調が悪く病院に行った時のこと。「仕事場も生活の場も全く同じで、仕事と生活の時間の区別もなく、決まった休みもなければ病気になって当たり前の上に、神父とは精神的に大変な仕事のはずだから、大きな病気にかかっても知りませんよ」と先生に言われてしまった。しかし、これが古今東西、司祭の生活。この生活が出来るのも聖霊の恵みのおかげである。▼司祭が独身であるというのも信じられないと言われることの一つである。タクシーに乗ったとき、不幸な生活だし自分には出来ないことと言われた。しかし、それも聖霊の恵みで可能となっている。▼日本の常識、そして法律に照らしてみると司祭とは本当に規格外で定義が難しい。たとえば、司祭はどんなに年をとっても司祭だし、死んでも司祭であり続けるのだが、給料をもらっているのなら雇用失業保険に加入するように指導される。出勤簿を作成するように指導されるが、何をもって司祭職の時間、していない時間と決められるのかと思う。何をもって休暇?と首をひねる。しかし一方で、司祭館で転んでけがをしたとする。自分の住んでいる家でけがをしたのに労災だと指導される。ということは寝ていても司祭は仕事をしている?などと、理不尽なような事を考えると枚挙にいとまがない▼理解できないような、一般的な人と同じように法律で定義することが出来ないような生活を送る司祭。しかし、このような司祭の生活を可能にしているのが神様の力。そう考えると、確かに人間的に弱点あり、欠点だらけであったとしても、本当に司祭は生きているだけでも神様の証しをしていると感じる。（T）

大会趣旨

大聖年にあたり、いま直面している問題を認識し、新しい時代の福音宣教を考えましょう。

ご降誕二〇〇〇年の記念すべき年に、教区信徒が一堂に会し、お祝いしようというのが出発点。次代を担う若者と、年を追う毎に増えている、滞日外国人とに留意し、祝いではあってもその場限りのものではなく、信徒の養成を組み込み、新しい出発に備えたいと考えています。

この行事にたくさんの方が進んで参加し、歓びを分かち合っていただきますようお願いいたします。

福岡教区大聖年行事実行委員会

日時　11月3日

カトリックフェスティバル

大聖年記念行事……主催カトリック福岡司教区

テーマ　語りかけよう心をひらいて

会場　久留米　信愛女学院

◆大会のテーマ

『語りかけよう心をひらいて』

◇込められたメッセージ

(1)姿勢の転換

「待つ、守る」から「語りかける」へ。

この姿勢の転換が、今後の福音宣教に必要なのではないでしょうか。

(2)関わりの希薄さを埋める

傷つくのではないか、傷つけてしまうのではないかとの恐れをキリストへの信頼に置き換えて、語りかけましょう。

(3)互いの理解を深める

家庭内、小教区内、世代間、滞日外国人、他宗教の人、地域の人との理解を深めましょう。

◆日時　十一月三日
受付　九時
開会　一〇時

◆会場　久留米信愛女学院

◆テーマソング

○大神学生吉田剛さん作詞・作曲の『キリストを見つめて』に決定

○オープニング曲

宗像市の三谷尚さんのオルガン曲

◆催しもの

多彩なプログラムが準備され、四つの会場で次の催しものが進められます。

☆パネルディスカッション

『これから目指す教区のあり方』

司祭四人と二人の信徒をパネラーとして計画中。二十一世紀への旅立ちのための、重要な企画と位置づけています。

☆子どもの広場（召命の集い）

これまで大神学校で行ってきた召命の集いの劇とレクレーション

☆講演会

『召命について』

大神学生による講演

☆信仰体験報告

現実の生活を信徒としてどう生き、乗り切ったか、体験を伺いましょう。

☆ベートーベンミサ曲

北九州記念混声合唱団

☆歌とトーク

本田路津子コンサート

☆各地区の出し物

☆休息コーナ

疲れたらお立ち寄りください

☆相談事コーナー

赦しの秘蹟を受けることもできます。

☆バザー、書籍コーナー

カトリック関係の施設が出店する予定です。

☆食事コーナー

☆PRコーナー

修道会、団体の活動状況が展示されます。

☆国際広場

◆ミサ

今回のカトリックフェスティバルの中心行事はミサです。

サン・スルピス大神学院の白浜神父を中心に、記念となる意義深いミサとなるように計画中です。ミサは私たちのあらゆる活動・生活の頂点であり、泉です。大会の締めくくりとして、全員参加のミサを目指します。

具体的には、福岡教区に居る滞日外国人の方の事を考慮し、聴覚に障害のある方のために手話通訳ミサとします。

そして、何よりも次世代の教区を担う子どもたちの心に残るミサとなるよう、各教会の子どもたちも様々な役割を果たせるようにしています。

☆時間　十四時三〇分から

十四時から聖歌の練習などが行われます。

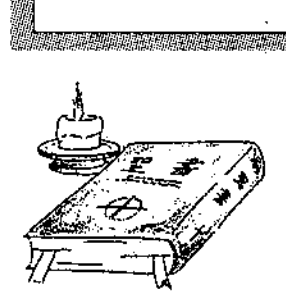
☆場所　晴天時　グランド
雨天時　大ホール

☆形態　司教ミサ

司祭、修道者、信徒が一つになって捧げましょう。

行動に移すための条件!!

新しい福音宣教⑤　L.ベリオン神父



「教会活動を思い切って方向転換する必要があるという信念に達しました。つまり、教会内の行事や活動のみにとどまったり、一方的に公教要理を教授するという形ではなく、地域や自分たちが関わる多くの人々と共にキリストを見い出していく対話の訓練をする事が必要なのではないかと思います。これこそが福音宣教であると言っても過言ではないからです。」（日本の教会の基本方針…カトリック者のキリストを伝える使命より。）

この文章を読むと分かるように、何もかも「福音宣教」と呼んでごまかしてはならないと言う事です。知っているかのように、その言葉を口にする前に、それに対する自分の知識が確実かどうかを確認する必要があるかも知れません。無論、知識を得る目的は、福音宣教を行うためです。それについて求められる大切なことが一つあると思います。それは回心することです。その回心のしるしは反省と改革です。

二十一世紀にはいる前に大聖年を契機にして、教皇ヨハネ・パウロ二世は教会の過去の過ちを認め、神と人との赦しを願い求めました。教区、小教区、個人のレベルにおいてそれを倣う必要があるのではと思います。特に組織としての教会を、反省と改革の的にする必要があるでしょう。教会とは何かと確認した上で。「私はこの岩の上に私の教会を建てる」（マタイ16・18）と。なによりまず教会はイエスのものです。

私たちは旅をする神の民。旅だからいつも歩くように努力しなければなりません。惰性で生きること、いくつかの宗教的な慣習を守るだけでイエスの後について行く事にはなりません。教会の組織にこだわり、その組織を維持すること、過去を重視することにばかり力を入れ、今日と明日の教会を築き上げるための努力が欠乏しているのではと思います。

旅だから要らない荷物を手放し身を軽くする必要があります。旅だから様々な変化を体験します。それは当然の事です。それを恐れてはなりません。

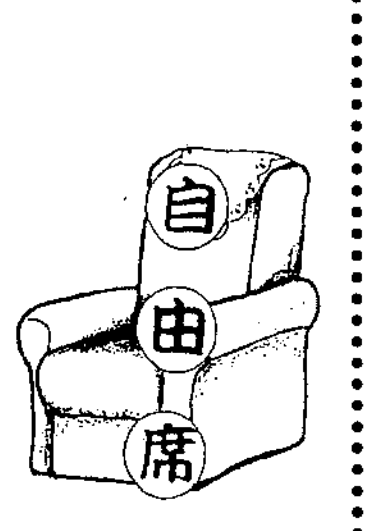
イエス・キリストとその福音は変わりませんが、時代によって文化によってイエスを告げ知らせる方法、証しする方法は変わります。

旅をする神の民。神の民は教義と掟を守る集団である前に人に目をとめ、人と喜び、悩み、悲しみ、人に対して父なる神の憐れみを現わすイエスの共同体です。

教会は神の民だから、イエス・キリストに結ばれる共同体です。企業でも軍隊でもなく上意下達の組織とは違います。その中の関わり合いは封建時代の上下関係、先輩後輩の関係ではありません。

反省と改革は福音宣教への一つの条件であることを認識する必要があると思います。（黒崎教会　主任司祭）

私たちの祈り



福吉　三代子

オペラ「忘れられた少年」のボランティアに係わらせてもらいました。教会がこのオペラのために重い腰を上げたのは四月初め、新しく赴任して来られた助任神父様の「小倉の信者さんはオペラに協力的じゃないんですね。」と言われた一言からだったと聞いています。それから二ヵ月、信者のオペラに向けたエネルギーは並大抵ではなく、まるで休火山が突然噴火したみたいにすさまじいものでした。その祈りと情熱に、さすがの神様も聖霊を送って下さったのか当日のオペラは奇蹟的な大成功。

神様は私たちを見捨てられず、信仰の喜びと元気を思い出させて下さいました。共に祈った主の祈り、「みこころが天で行われる通り地にも行われますように。」神様、私たちの祈りを聞き入れて下さって有難うございます。（小倉教会　信徒）

子ども聖歌隊

大神学校に集まろう！

日時：①9月10日
②10月22日
☆どちらも14時～
対象：小・中学生
目的：11月3日のフェスティバルのミサを盛り上げる。

イスラエル巡礼と国際聖体大会

岩崎　富士男

六月十四日より二十七日までの十四日間、白柳枢機卿を団長とする聖体大会公式巡礼団に参加しました。

九十五人が三班に編成されて出発したが、関空出発班の私たちは機体の遅れで急遽スケジュールを変更して、ミラノ巡礼をした後の三日目にイスラエルのティベリアスで合流しました。

私はイスラエルは初めてであり、ガリラヤ湖畔にある召命教会での野外ミサは、聖地ならではの感慨な思いでした。

聖墳墓教会では聖歌に迎えられての入堂でキリストの墓に詣でました。ここでは思いがけなくも在世会で指導して頂いた春山神父様に再会し、これこそ神の恵みと感激の対面となりました。

悲しみの道で十字架を担って主のご苦難を黙想し、公生活ゆかりの地からベツレヘムへと行って生誕教会を巡り、遅れをとり戻すための強行スケジュールと四十五度を越す酷暑ではありましたが、こうして平和の地で巡礼が出来るのも、多くの人々の犠牲の賜物とイスラエル和平に命を落とされた人たちへの祈りも捧げました。

ローマでは参加者が百六十人に増え、聖マリア教会、聖アルフォンソ教会、アシジの聖フランシスコ大聖堂、ポリチゥンクラがある聖マリア教会と、それぞれの聖堂でのごミサでは「ご聖体が私たちの力となり肉となって霊的に強められ、人々のためにそのエネルギーを使っていくことが使命である。」と、ご聖体に体する深い信仰の指針を頂きました。

二十二日夜の聖ヨハネ教会では、「聖体の祝日」ミサに引き続いて聖体行列が行われ、夕闇の中にローソクの灯が映え、日本では忘れ去られようとしている万国共通の聖歌に祈りに、身の震えるほどの荘厳に感動しました。

閉会式ミサで教皇様は、「全世界の代理者としてここに集っています。ご聖体は私たちが一致するための卵です。キリストはいつも私たちの傍に居り、聖霊を送り勇気を強めてくださいます。ご聖体によって養われた私たちはそれぞれの地で、一人ひとりにキリストの愛を伝え証しましょう。」とメッセージを述べられました。



国際聖体大会に参加した一行

サン・ピエトロ広場を埋めつくした十万の人たちは、拍手と歓声で教皇様の祝福に答え、その姿が消え去っても余韻は静まりませんでした。

今回の旅は暑さと睡眠不足との戦いでしたがそれにも増して人生という巡礼を生き抜くための強い勇気を信仰を頂いた恵み多い巡礼であったことを主に感謝しております。

（西新教会　信徒）

宗像・ASIPA（アシパ）＊生活の中で聖書を読むために＊

第2回
グループA／9月　8日(金) 19:30 ～ 10日(日) 16:30
グループB／9月15日(金) 19:30 ～ 17日(日) 16:30
【指導】松田　清四朗　神父　【会費】19,800円

第1回目が好評のうちに終了いたしました。
9月には第2回目を行います。初めての方も参加できます。
どうぞ、お気軽にお問い合わせ下さい。

福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



VINO DE MISA（ヴィノ デ ミサ）
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草（SOU-EN）苑
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

キリストの聖体の日　各地で聖体行列

島崎教会の聖体行列

六月二十五日（日）、聖体の祝日に、熊本・島崎教会にて、恒例の聖体行列が午前十一時から、主日のミサに引き続き行われた。

今年は、天候にも恵まれ、市内の教会から修道女、信徒、約二百五十人がこれに参列した。

行列は教会の聖堂を出て、その北側に位置するマリアの宣教者フランシスコ修道会の聖堂までの約一キロの行程で、例年通り行われた。その間、ロザリオの祈りと聖歌を交互に唱和し、一般公道を約三〇〇メートル程進んで、修道院内に入り、この敷地内にある待労院、老人ホーム等の各施設では神を賛えるため、子供たちが撒く花びらの舞う中で高齢者の方々への聖体祝福が行われた。その後、修道院の聖堂に参加者全員が集い、聖体降福式が捧げられ、行列は無事終了した。



ところで、当教会の聖体行列は百年程前、救ライ事業のため島崎に設立されたマリアの宣教者フランシスコ修道会の修道院で毎年、行われていたものを、当教会が引き継ぎ、その後、四十年間一度も欠かすことなく、小規模ながら毎年実施され、現在に至っている。

聖体の祝日が、六月の梅雨の時期と重なるにもかかわらず、自然を司る神は、私たちの信仰を強めるため、毎年大きな恵みを与えて下さっている。そして、私たちは、「聖体行列」という典礼を通して、主が、教会から社会の中へ出かけて行き、多勢の人と出会い、そこで「何か」を語りかけようと望んでおられることを、今、確かと、聡りつつある。

ご聖体をもっと身近に

新田原教会では学び

六月二十五日（日）、新田原教会では大聖年のテーマ「ご聖体」を記念して聖体行列を企画した。ところが前夜からの大雨で中止を余儀なくされた。しかし、サン・スルピス大神学院で教鞭を取っておられる宮原良治神父のミサとご聖体についての講話が行われることになった。

直前、大分教区の司教に任命を受けられたばかり、被選司教としての忙しい最中に快諾くださった。宮原被選司教は「ご聖体は愛の結晶であり、神様が私たち人間に大きな犠牲を払われた証である。人の姿としてこの世にお生まれになり、十字架の苦しみと、人間の姿を捨てる死を持って私たちをお救いになり、そしてご聖体の姿をお示しになられた主の愛を私たちは深く受け止めなければならないでしょう。」と教えられた。顕示されたご聖体を前にして、一緒に時を過ごし、聖歌を捧げたり、しばしの沈黙の祈りなどを通して、改めてご聖体の尊さを実感し、最後にご聖体から豊かな祝福をいただいて、参加者一同新たな心で散会した。



ご聖体を顕示し、聖体に付いて話す宮原被選司教

第5回熊本地区聖体大会

テーマ：ご聖体に生きる…殉教者と共に…

9月2日（土）　18時：花岡山でミサ
ミサ後、健軍教会まで徒歩で巡礼
到着後、ベネディクション
9月3日（日）　13時：健軍教会で大会を開会
礼拝と証し
16時45分：ミサ

高い不快指数も　また、良し

汗を拭きながら書いているところです。湿っていてしかも気温が高いからでしょう。不快指数で計ると大体判る状態です。しかし考え方を変えてみればこの指数が高いことは大きなお恵みでもあるのです。稲はそのおかげで立派に成長しておいしいご飯を食べさせてくれるのです。あまり不快指数なんて言うと私共がひどいめにあうことになりかねません。私もこんなことを書かないことにします。本当に不愉快なことはいくらでもありますもの。

雪印の食品はおいしかっただけに今度の事件は多くの人にとって大きな痛手ですね。身体を害する食品はどう見てもひどいことです。毒になるものを売って金をもうけるとは恐ろしい世の中になりました。不快指数では測定できないものです。何と表現したらよいのでしょうか。体の健康も大切ですが心の健康もそうでしょう。快楽を求めて作成されているテレビ番組は、人間の最も大切な心の健康を害していると切ってほしいものです。面白くても有害な番組をまず信者の家庭でカチャッと切ってほしいです。そうすれば不快指数を取り上げて排斥している今の気候が、実は立派な稲の成長の源であるように、楽しそうに見ている我が子がイヤだと反対しても、その辛さを克服したとき立派な人間に成長することを忘れないで欲しいものです。お百姓さんは水田を入念に調べながら稲田を見廻っているではありませんか。そうして初めて稲は育つのです。

我が子のことをこんなに入念に愛情をこめて観察している親の家庭には必ず賢くて心身ともに強くたくましい子供が順調に成長していくことでしょう。そうなった時に不快指数とかいうものが何であったかハッキリなるのだと思います。

（山頭原太郎神父）

からしだね、大きな大きな樹になって

青年

「洗礼を受けたのですが何かすることはないでしょうか?」という一人の青年の発言から誕生したグループがある。

彼らには、お互いの声掛けから始まったのでリーダーもいない。指導司祭もいなかった。福岡市内の小教区で、この二・三年に受洗した男女青年と、幼児洗礼の青年たちが十二人ほど集まった。共同体の大人の紹介で山元眞神父指導の黙想会を開きグループが出発した。三年前だという。彼らはグループの名前を「からしだね」と名付けた。初年度「テンテンまつり」に参加し、手作りの「からしだねコロッケ」を販売した。子どもたちから「これ、辛いのですか」と聞かれたそうである。

お互いの連絡形体はEメール。集いも試行錯誤しながら第二日曜日は聖書の分かち合い、第四日曜日は老人ホームの奉仕日、最終土曜日が「飲み会」だそうである。関西に転勤したメンバーも顔を出すことが多いらしく、インターネット時代の青年の行動の広がりは驚くものがある。

「私もEメールを持たないといけないのかな。連絡が時々入らないのですよ。とにかく新しいタイプの青年会でしょう。」とは最近、指導司祭を引き受けた松井忠之神父の弁である。

名前のように小さな「たね」だが、大きな教会の樹になってくれるのを祈りたい。（編集室）



老人ホームの夏祭りの手伝いをするメンバー

秋風の中でイエス・キリストと語ろう！

召命黙想会



日　時：10月21日（土）15時　浄水通教会集合
22日（日）17時　浄水通教会で解散
場　所：「聖心の祈りの家」…篠栗にあります。
対象者：18歳以上、独身の男女青年（受洗者）
参加費：２０００円　　定員：15名
問合せ：カトリック司教館　青木　悟神父
☎092-522-5139　FAX523-2152

BOOK 読みは専科



★マザー・テレサ日々の言葉
いなます　みかこ訳著
戸田　ヒロコ装丁
女子パウロ会

マザー・テレサがいろいろな機会に、いろいろな人々に話した言葉を集めた三六五日のガイド。現代世界に神から遣わされたマザー・テレサ。彼女を通してどれほど多くの人が愛を知ったことか。この小柄な女性の中にどうしてこれほどの大きなエネルギーがあったのだろうか？その秘訣は彼女自身のことばの中にみいだすことができるだろう。

本体　一九〇〇円
女子パウロ会　出版

◇　◇　◇



★『この道』
牧山　勝美著

「イエスに従う者」であるキリスト者が歩む道、弱さのために迷い、ためらう私たちが如何に「この道」を歩んでいけばよいか。日常生活の身近な問題を取り上げながらわかりやすく述べている。しかも、文章は平易で読みやすい。自分の歩んできた信仰（道）をもう一度振り返り、確認する手助けになるのではないだうか。

小郡カトリック教会
税込み　一七〇〇円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服，聖器具，聖像
信心用品，ベール，ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！

福岡黙想の家　8月・9月

◇29日(土) ～ 8月7日(月)　幼きイエズス修道女黙想会
◇9日(水) ～ 18日(金)　幼きイエズス修道女会黙想
◇20日(日) ～ 21日(月)　日本福音ルーテル教会修養会
◇25日(金) ～ 29日(火)　長崎純心聖母会志願者黙想会
◇29日(火) ～ 30日(水)　カトリック幼児教育連盟　福岡地区・園長、主任研修会

9月
◇3日(日) ～ 8日(金)　オブレート会
◇8日(金) ～ 10日(日)　アシパ（グループA）
◇13日(水)　ミカエル会
◇14日(木) ～ 15日(金)　聖母カテキスタ会
御受難会きょうだい会
◇15日(金) ～ 17日(日)　アシパ（グループB）
◇18日(月) ～ 22日(金)　パリ外国宣教会
◇22日(金) ～ 25日(月)　フランシスケン修練院
◇22日(金) ～ 23日(土)　プロテスタント一麦教会
◇30日(土) ～ 10月1日(日)　在世フランシスコ会兄弟会

※深い緑の中で暑さを忘れ心をいやしませんか！
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。
※祈りの集い
テーマ：私はよい牧者である
・9月14日(木) 10時～15時
黙想会
日　時：8月1日～10日
8月17日～25日
指　導：F.ソットコルノラ神父

園田善昭神父
※第4回宗教者平和の祈り集会
日　時：10月15日(日) 午後
※宣教師のための講座
・日本の文化と福音宣教
日　時：8月12日～8月15日
※日本の福音宣教
・イタリア小教区司祭が来日
日　時：8月31日～9月2日

[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

イタリア大聖年巡礼の旅

日　　時：11月21日(火) ～ 30日(木)
同行司祭：伊東成晃神父（呼子教会主任）
主な巡礼地：ローマ、アシジ、フィレンツェ、シエナ、ピサ、ミラノ
参加費：248,000円
申込先：伊東神父（呼子教会）
阪急交通社（担当：安藤）
☎092-722-0808：FAX092-734-2350
※この聖年の間、25年に一度開かれる4大聖堂の「聖なる扉」を訪れて祈りを捧げることは、非常に恵み深いことです。かつてこの日本にキリストの福音をもたらしてくれた宣教師たちの旅の出発点となった地をこの私たちが訪れることは、意義深く、「新世紀」を迎える私たちの信仰の船出ともなると思います。

案内版　8月のこよみ　会合と催し　9月のこよみ

8月のこよみ

6日（日）　主の変容
平和を祈る集い［カテドラル13：00］■
日本カトリック平和旬間［～15日］
†E.ベノア［門司港教会1962］
8日（火）　聖ドミニコ
†P.マルケシーニ［待労病院付1980］
11日（金）　聖クララおとめ
12日（土）　†A.ブルトン司教［第2代教区長1954］
†J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（日）　年間第19主日
教区墓地開放［～15日］■
14日（月）　聖マキシミリア・マリア・コルベ殉教者
†ミカエル木村義巳［馬渡島教会1967］
15日（火）　聖母の被昇天
教区墓地ミサ［和田墓地14：00］■
平和の巡礼［鳥栖教会］
19日（土）　†ステファノ川口康頼［小神学校校長1991］
20日（日）　年間第20主日
大聖年巡礼［茶山教会］
21日（月）　聖ピオ十世教皇
22日（火）　天の元后聖マリア
24日（木）　聖バルトロマイ使徒
26日（土）　聖アウグスチノ祭［笹丘教会］
27日（日）　年間第21主日
馬渡島教会堅信式
28日（月）　聖アウグスチヌス司教
福岡地区婦人会感謝ミサ［カテドラル10：00］
29日（火）　洗礼者聖ヨハネの殉教

■印は本面に詳細説明あり

9月のこよみ

3日（日）　年間第22主日
熊本聖体大会［健軍教会］
福岡パストラルケア研究会［大神学院］■
†P.コトレル［熊本地区宣教1928］
5日（火）　司祭評議会［司教館10：30］
8日（金）　聖マリアの誕生
10日（日）　年間第23主日
司祭養成の集い［小倉教会］■
箱崎教会創立記念日
14日（木）　十字架称賛
15日（金）　悲しみの聖母
†A.ヒューゼ［司教館1944］
17日（日）　年間第24主日
南粕屋教会40周年記念祭と堅信式
福岡ホスピスの会勉強会［カテドラル13：00］
†P.オジョニ［ロザリオの園1982］
20日（水）　聖アンデレ金と同志殉教者
21日（土）　聖マタイ使徒福音記者
23日（土）　秋分の日
24日（日）　年間第25主日
カトリック国際協力の日［献金］
生と老い、死を見つめる会［カテドラル14時］
20日（水）　聖ビンセンシオ・ア・パウロ
28日（木）　聖トマス西と15殉教者
29日（金）　聖ミカエル・聖ガブリエル・聖ラファエル大天使
†Y.ヴィオン［司教館1969］

10月
1日（日）　新田原教会70周年記念と堅信式
8日（日）　M.ラバルタ神父金祝のミサと祝賀［天神町教会］

福岡

■平和を祈る集い
［日時］8月6日（日）13時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］一部…アジアの平和への道のり～東ティモールを中心に～、二部…平和祈願ミサ［講師］林尚志神父（イエズス会・下関労働教育センター）

教区和田墓地

納骨堂開放日
8月13日～15日
10時～15時
聖母被昇天のミサ
8月15日(火) 14時～
問合せ先
各小教区墓地委員

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］8月17日（木）毎月第3木曜日9時20分［場所］高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・533・2326小田部

■典礼を学ぶ集い
［日時］8月20日（日）14時～16時［場所］大名町教会4階［内容］典礼用語について［講師］白浜満神父［参加費］600円［問合先］☎0940・33・8122井上

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］8月20日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は9月24日

■福岡パストラルケア研究会
［日時］9月3日（日）14時～［場所］聖スルピス大神学院新館［内容］病む人の感性

■第81回福岡結婚準備セミナー
［日時］9月16日（土）～10月11日（水）毎水曜日と土曜日19時～21時30分［場所］大名町教会［申込・問合先］ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］9月17日（日）13時受付［場所］大名町教会4階［講師］古賀さち子氏（久留米聖マリア病院緩和ケア病棟婦長）［内容］ホスピス病棟から（ホスピスケアとは）［参加費］700円・会員500円［問合先］福岡ホスピスの会事務所☎092・737・3701

■日本カトリック看護協会例会
［日時］9月17日（日）奇数月第3日曜日14時半～17時［場所］久留米聖マリア病院［問合せ］☎096・352・7181熊本聖心病院シスター竹内

■在世フランシスコ会集会
［日時］9月24日（日）14時～16時［場所］高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って福音に生きる為にミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］9月24日（日）14時～［場所］大名町教会［内容］ホスピス病棟の現場から［講師］佐藤英俊先生（佐賀県立病院好生館緩和ケア病棟）［会費］500円［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。男の赤ちゃん用品も［問合先］コース神父☎092・431・1419

北九州

■小倉祈りの集い
［日時］8月8日（火）13時30分～15時［場所］小倉教会［指導］V・マテオ神父［テーマ］みことばで祈る［問合先］☎093・452・1556安藤

■小倉教会結婚講座
［日時］8月31日（木）10月5日（木）毎週木曜日19時30分より［申込み・問合せ］☎093・921・0093小倉教会

■司祭養成の集い
［日時］9月10日（日）ミサ9時・集い10時30分［場所］小倉教会［内容］司祭召命への旅＝ミサと集い＝［対象］信徒・修道者・司祭

■第18回お母さんの集い
［日時］9月18日（月）10時～13時［場所］小倉教会［テーマ］焼きつくす 火の神［内容］講話とミサ［講師］松田清四郎神父（コンベンツアル聖フランシスコ会）［参加費］500円［問合先］☎093・962・1395福吉三代子

佐賀

■聖書を読む会
［日時］9月7日（木）朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時（8月はお休み）［場所］佐賀教会信徒会館［テーマ］苦しみと共存［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754

熊本

■第63回熊本結婚セミナー
［日時］9月5日（火）～10月2日（月）毎月曜日と火曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合せ］手取教会☎096・352・3030 FAX352・1515安部

■熊本短期キリスト教講座
①9月16日（土）19時～［内容］「いのちを祝おう！」チャリティーコンサート②9月22日(金)10時30分～と19時～［内容］野宿者との関わりから見えたこと［講師］昌川信雄神父（クラレチアン宣教会・今市教会司祭）③9月29日（金）10時30分～と19時～［内容］少年たちの叫び、社会の叫び…居場所を失った少年たち…［講師］森一弘司教④10月7日（土）14時～［内容］永遠の命を今生きる…いまは、この世のものだけではない…［講師］シスター鈴木秀子（聖心女子大学教授・聖心会会員）⑤10月13日（金）10時30分～と19時～［内容］わたしは神の愛を見た…3人の信徒が「証しびと」となって、神の愛を語る…［講師］高木和夫氏（島崎教会信徒）・有馬純也・美枝子夫婦（手取教会信徒）［場所］手取教会（会館2階ホール）［注意］10月7日（土）のみ、会場は熊本信愛女学院（体育館）［参加費］講座全体で1000円［主催］カトリック手取教会、島崎教会、健軍教会、帯山教会、武蔵ヶ丘教会

編集後記

暑中お見舞い申し上げます
熱さで頭がボーとしながら、記事をどうしようかと悪戦苦闘しました。と言ってもわたしは考えるだけ。実際に記事を作成して下さったFさんは心身共に大変だったと思います。
文字の一点一画すら作者の人となりをあらわすと教えられたわたしにとって、新聞ということで勝手に句読点をいじり、文章に手を入れるのはいささか苦痛を感じています。

お知らせ
9月号は休刊します

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】若い夫婦に対する家庭の支え
【布教の意向】地方教会の間の宣教協力
【日本の教会の意向】第10回世界代表司教会議（シノドス）

10月22日
世界宣教の日



私は小さな者でありながら
全世界を駆け巡って
あなたのみ名を伝えたい
（宣教者の保護者小さき花の聖テレーズ）

司祭評議会 新世紀初年度の教区方針を協議

信徒の高齢化、若者の教会離れなどを考慮した
各小教区それぞれの目標を持つ

今年度第二回教区司祭評議会は九月五日（火）、十六人（全評議員二十人）の司祭が参加して二〇〇一年度の教区の目標や行事について話し合われた。その中で、小教区の活性化を計るために、それぞれが目標を持つ、信徒の司牧活動への協力と参加など多くの意見が出た。また、若者や児童の教会離れと共に、信徒の高齢化も問題となった。

異常なまでに暑かった今年の夏。この暑さめやらぬ九月五日、今年第二回目となる司祭評議会が司教館にて開催された。司祭評議会は司教の諮問機関であって決定機関ではないので、それぞれの議題について審議した結果を司教に答申するのが目的である。

今回の評議会の主な目的は、来年度の教区行事日程の決定であった。毎年恒例となっている行事を含め、現在予定されている行事の日程の調整が行われ、松永司教もこの日程を正式に承認された。決定された日程は後日別掲するので、これを参照に来年度の各小教区の行事予定を組んでもらいたい。

ところで、来年は二十一世紀の始めの年でもある。そこで、各小教区が二十一世紀に向けて、小教区を活性化するための目標を定めたらどうかと議論がなされた。評議員は各地区、各方面の代表によって構成されているので、まず、それぞれの立場から現在の小教区の現状が分析された。その中で共通して見えてきたものは、小学生までは教会に来るが、その後教会に来なくなる若者の問題、その一方で、司祭も信徒も急速に高齢化が進んでいる現状が浮かび上がった。一方で、各小教区ごとに問題点が異なるのも事実である。そこで、来年は司教が年頭に出される教区の年間テーマを参考にしつつ、小教区を活性化させる具体的な目標を、各小教区で決定し努力することが確認された。

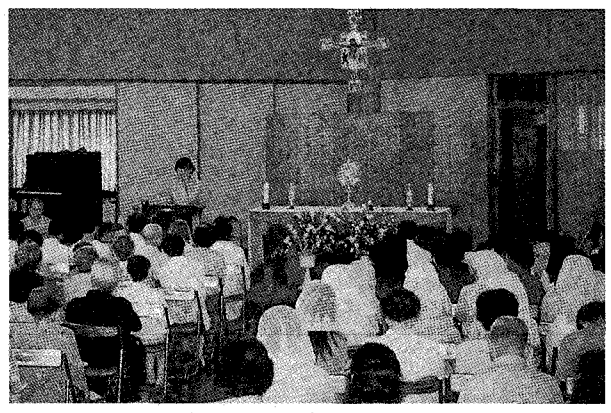
また、幼稚園の問題が今回討議された。現在、福岡教区としては宗教法人と学校法人の二種類の幼稚園があり、特に宗教法人の幼稚園は経済的に非常に困難な状況にあることが説明された。また、幼稚園を設立した当時と違い現代は延長保育、園バス、給食など幼稚園を取り巻く環境の変化、国の幼児教育の方針とのかねあいなどもあり、司祭が主任司祭と園長をかねることにも限界が見え始め、幼児教育そのものについても見直しが必要な時期ではないかと審議され、今後も検討すべき課題であると司教に答申した。

最後に、十一月三日に向けて準備が進められているカトリックフェスティバルの現状報告や、各種の情報交換が行われた。その中で、黙想の家の鈴木神父より、共同生活をしながらアルコール依存症と戦っているグループ（MAC）のための聖書研究を始めたところ、四十～六十人の参加があっていること、また、そのMACメンバーがお世話して路上生活者のために「パルテマイ」の家があることを知ってもらい、お祈りや、できればなんらかの協力をお願いしたいと紹介があった。

大聖年記念行事
二日間の聖体大会に四〇〇人
花岡山から健軍まで九キロを巡礼
熊本地区

一九九五年八月十五日、終戦五十年を記念して始まった永久聖体礼拝が五年を迎えるのと、大聖年に相応しい行事をめざし両日多くの参加者を得て行われた。初日は午後六時、花岡山殉教墓地に約九十人が参加して野外ミサ。ミサ直後、約七十人が九キロの道のりを健軍教会まで巡礼ナイトウォーク。健軍教会では午後八時から巡礼に参加できなかった人々の祈りが続けられていた。巡礼者の到着を待って聖体賛美式が行われ解散。

二日目の第一部は、福岡、山口、佐賀などから二百八十人が健軍教会に集まり、ご聖体を顕示した聖堂で祈りと賛美、沈黙による聖時間の後、手取教会の平田悠貴子さん、武蔵ヶ丘教会の今秋俵治さんが五年間の永久聖体礼拝を通して受けた恵みの証が行われた。第二部『ご聖体に生きる…殉教者と共に』をテーマに、第五回熊本地区聖体大会が九月二日・三日の


ご聖体を顕示し祈る参加者たち

時の話題
Sr.大野　恵子

あのう ちょっといいですか？

「あのう、ちょっといいですか？」と不安そうな女性の声。その一言が、ミサに参列する私の心を広げてくれた。

初めて教会に来たので「どうしたらいいのか分からない」と言う方の隣の席に座った。み言葉を聴き、聖歌を唱ううちに、すすり泣く彼女の思いが私に伝わり、胸が一杯になった。あれから六年、初めて教会を訪れる方々の隣に、どれだけ座らせていただいただろうか。その方々の、言葉にならない深く強い祈りに耳を澄ませ共に祈るうちに、この大都会の中に住む人々の嘆き、悲しみ、孤独感がとても重い大切なものとして感じられるようになった。

奉献者の勧告に「十字架を担う者、となることによって、彼らは、聖霊を運ぶ者、となり、訪れる人が絶えない。

大都会に住む彼、彼女らの嘆き、悲しみが十字架のイエスの「渇く！」と呼応して大きく響いてくる。現代に生きる私自身も涸れることのない水に深く渇いていることに気づかされた。多くの目覚めのチャンスをくれたこの人々にとても感謝している。これからも教会を訪れる多くの方の祈りから、新しいインスピレーションとメッセージを聴いていきたい。

今日もミサの中の目立たないところで、人々の出入りに心を配ってくださる方々と思いを一つにして……。

聖母訪問会修道女

2000年の平和旬間を祈る
アジアの平和への道のりを東ティモールから問う

八月六日（日）午後、カテドラル大名町教会において二十世紀最後の福岡地区「平和を祈る集い」が開かれた。第一部を「アジアの平和への道のりを東ティモールから問う」として、内戦の続く東ティモールを何度も訪れている林尚志神父（イエズス会）の報告を聞いた。

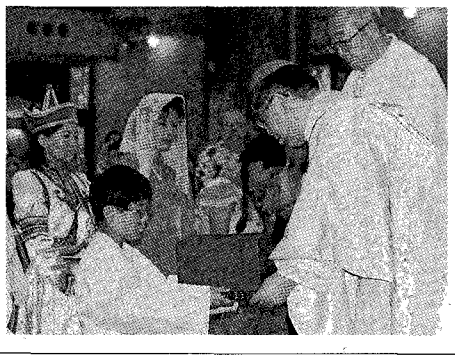
第二部は、福岡教区に滞在している諸外国人の信徒を含め約五百人の信徒が集まり「平和を祈るミサ」が行われた。今年は、各国の代表は、川添猛神父（崎津・大江・本渡教会主任）と五人の司祭の共同司式でミサが捧げられた。

ミサの中で川添神父は、天草島原の乱の陣中旗が潜伏キリシタンのご聖体を賛美するシンボルであったことを話した。

参加者からの感想に、花岡山のミサ、ナイトウォークなど企画がよかった。音楽やミサ中の説教がよかった。来年からも続けたいといった声が多く寄せられた。

今回の大会準備の中ですばらしい発見があった。津和野に流罪となり信仰の証し人となった高木仙右衛門の次男、源太郎から代々伝わっていたホスチアを焼く器具が高木家から本年八月に発見された。今年の大会ミサで使われたホスチアはこの器具によって焼かれた。

この明治時代から伝わる器具は大会の後、ゆかりの津和野教会に寄贈され展示されることになっている。


▶民俗衣装を着けて奉納する代表のみなさん

みちくさ

ユダヤ教の叔父さん達がエルサレムの「嘆きの壁」で頭帽子を頭のてっぺんにおいているのを見るのは、滑稽に思えた。だけど、いわれを教えられて妙に納得させられたものだ▼お前は第一の者ではない。お前の上に全能の神がおられるのだ、と云うことを忘れさせないように、と云うのである。禿げ隠しかと思っていたら、荘厳な哲学的神学的意義が与えられていたのだ。禿げ隠しもこうなると捨てたものではないのである。▼詩編のなかに神を称えることばは多いが、生活そのものの中で神を称えることを示しているのは、またこれまた格別のことと、言えよう▼詩編の「148編」に「天は神をたたえよ。天にあるものは神をたたえよ。…太陽と月は神をたたえよ。きらめく星座は神をたたえよ。…神のことばで造られた天にあるすべてのものは、神の名をたたえよ。…」とある▼こうなれば、神に最高の場を与えている者こそ、一人前として万物の仲間入りができることになる。あの叔父さんたちは、頭に小さな丸い帽子をのせることで、一人前になっていたのである▼考えてみれば、全能の神のもとに、地上に立ってこそ、人間の本来の姿が示される。あの小さい帽子がなくなったとき、あるべき重大なものが取り除かれ、調和が乱されているのである、と云うことも出来よう。これは大きな問題なのである▼日本には、この秋の季節の心とともに、「実るほど頭の低き稲穂かな」、と云う諺がある。どちらが物事を正しく伝えているか議論できるとしても、あの人々の考えと日本文化も結局、同じことを提示してたのであろうか。（M）

大会趣旨

大聖年にあたり、いま直面している問題を認識し、新しい時代の福音宣教を考えましょう。

ご降誕二〇〇〇年の記念すべき年に、教区信徒が一堂に会し、お祝いしようというのが出発点。次代を担う若者と、年を追う毎に増えている、滞日外国人とに留意し、祝いではあってもその場限りのものではなく、信徒の養成を組み込み、新しい出発に備えたいと考えています。

この行事にたくさんの方が進んで参加し、歓びを分かち合っていただきますようお願いいたします。

福岡教区大聖年行事実行委員会

日時 11月3日

大聖年記念行事……主催カトリック福岡司教区

カトリックフェスティバル

テーマ　語りかけよう心をひらいて

会場　久留米信愛女学院

◆日時　十一月三日
受付　九時
開会　一〇時

◆会場　久留米信愛女学院

◆催しもの

多彩なプログラムが準備され、四つの会場で次の催しものが進められます。

☆パネルディスカッション
『これから目指す教区のあり方』
二十一世紀への旅立ちのため

☆講演会
『召命について』
大神学生による講演

☆信仰体験報告
現実の生活を信徒としてどう生き、乗り切ったか、体験を伺いましょう。

☆子どもの広場（召命の集い）
これまで大神学校で行ってきた召命の集いの劇とレクレーション

の、重要な企画と位置づけています。

☆ベートーベンミサ曲
北九州記念混声合唱団

☆歌とトーク
本田路津子コンサート

☆各地区の出し物

☆休息コーナー
疲れたらお立ち寄りください

☆相談事コーナー
ゆるしの秘跡を受けることもできます。

☆バザー、書籍コーナー
カトリック関係の施設が出店する予定です。

☆食事コーナー

☆PRコーナー
修道会、団体の活動状況が展示されます。

ミサ

☆時間　十四時三〇分から
十四時から聖歌の練習などが行われます。

☆場所　晴天時　グランド
雨天時　大ホール

☆形態　司教ミサ
司祭、修道者、信徒が一つになって捧げます。今回のカトリックフェスティバルの中心行事はミサです。

ミサは私たちのあらゆる活動や生活の頂点であり、泉です。大会の締めくくりとして、全員参加のミサを目指します。

具体的には、福岡教区にいる滞日外国人の方の事を考慮し、聴覚に障害のある方のために手話通訳ミサとします。

そして、何よりも次世代の教区を担う子どもたちの心に残るミサとなるよう、各教会の子どもたちも様々な役割を果たせるようにしています。

10月22日（日）大神学校で14時から《子ども聖歌隊》の最後の練習があります。9月同様たくさん誘いあって参加しよう。

ご注意とお願い

会場までの交通機関、駐車場などの案内。

一、大型バス
来場時間＝8時～9時30分の間に到着して下さい。
退場時間＝17時～18時の間で発車して下さい。
降車・乗車の時間が限定されますので時間厳守でお願いします。
降車・乗車いづれも、久留米競輪第五駐車場で行います。但し、駐車は出来ません。
会場までは徒歩15分です。

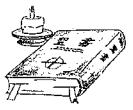
二、マイクロバス
久留米信愛女学院の会場前で降車・乗車できます。但し、駐車は、徒歩10分の県立久留米ろう学校に駐車して下さい。

三、乗用車
各小教区ごとに案内いたしていますので、担当者にお尋ね下さい。駐車スペースが少ないので各地区で調整させていただきますのでご協力お願いします。

その精神と信徒の役割

新しい福音宣教⑥

L.ベリオン神父



福音宣教とは何か、まず、それについて必要な知識を得ることです。福音宣教を行うために回心（反省と改革）することが要求されていることについては、既にお話しましたが、最後として、福音宣教が要求する精神と、福音宣教における信徒の立場と役割について、少し述べたいと思います。

その精神。「もし私があなたを洗わないなら、あなたは私と何の関わりもないことになる」（ヨハネ13・8）と。

仲間の足を洗う（奴隷の仕事をしている）イエスを見て反発したペトロに、イエスは説明をしました。「主であり、師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。…（私は）模範を示したのである」（ヨハネ13・15）と。

最後の晩餐の席で、イエスを通して神は人の前でひざまづきました。人の前でひざまづく神。十字架を目の前にして、イエスは「奉仕する」ということはどのようなことなのかを、自らの行動によって示し、それを教えて下さいました。

福音宣教の使命をおびている教会は、イエスに倣い人々に奉仕するように常に心掛けなければなりません。何故なら「私は仕えられるためではなく、仕えるために来たのと同じように」（マタイ20・28）、（あなた達も）「皆に仕える者」（同20・26）「皆の僕になりなさい」（同20・27）と命じられたからです。

その奉仕の精神無しには、福音は伝わらず証しされません。奉仕する方法は様々ですが、その精神を養い、活かすための努力を怠ってはいけません。

福音宣教における信徒の立場と役割については、第二バチカン公会議の「信徒使徒職に関する教令」を読むと何をすべきかがわかります。ところが、その文章は読まれているでしょうか。読まれて、習慣の重みや努力不足のために、死んだ文章になっているのか。それとも、意図的に無視されているのかわかりませんが、多くの信徒が抱いている素晴しい信仰、信徒が持っている能力と可能性が十分に活かされていないと考えると悲しく、くやしい思いです。

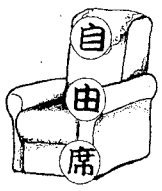
樹木のように生い茂る教会にするためには、信徒一人ひとりの努力が必要です。

教会の中で信徒の立場を積極的に認め、信徒がその役割を果たすことが出来るために、ふさわしい環境を作ることに力を注げば、教会、神の民はどんなにか豊かなものになり、いかに有意義に、イエスと福音が証しされていくかを新たに考えてはと思います。

福音宣教。今始まったことではありません。しかし、21世紀の日本で、この福岡教区で福音宣教が今から再び始まります。それに備えてもう一度考え、具体的な形で行動することは大聖年を祝うのにふさわしい事ではないかと考えます。

（黒崎教会主任司祭）

ワールドユースディに参加して



加藤　由紀

このワールドユースディに参加することになったのは、神父様から誘われたのがきっかけでした。申し込んだ後で、受洗もまだせず勉強不足であることが分かり、不安から自分に壁を造っていた気がします。

実際参加してみて、気持ちを引きずっていたのか、最初の数日間は素直に行動できませんでした。しかし、開会式、カテケージス、ローマ市内巡礼、教皇様との夕べのミサへと進むに従い、不安は消え去り、深い安心感を得たのでした。

開会式では、世界中から今まで目にしたことがない程多くの若者が集っていました。ともに、同じ教皇様のメッセージを聞き感動する。一体感を得ました。余りに感激して口をずっとあけていたらしく、隣のチェコの人に指摘されたこともありました。カテケージスで特に印象に残っているのは、森司教様の「人とのかかわりによって、よりキリストを知ることができる。」という言葉です。この言葉に初めは、動揺しました。かし、周りの皆のおかげで、これが自分の弱さであることに気付かされました。教皇様との夕べのミサでは、「あなた達は強い」とのメッセージが心に響いてきました。それぞれの人が恵みによって与えられた自分の自分の可能性を確信したのではないでしょうか？

いろいろな人との交流や自分を見つめなおすきっかけとなる場が与えられた贅沢な10日間でした。日常生活の中で、不安や恐れはつきものですが、共にいてくださるイエス様を思い起こしていくことができればと願っています。

（小倉教会求道者）

古川泰龍師の思い出

F・ソットコルノラ神父

一九八五年八月二十四日、本多正昭教授（当時、北九州産業医科大学教授）の招待で九州を初めて訪れた時、熊本県玉名市にある生命山シュヴァイツァー寺住職古川泰龍先生に、はじめてお会いしました。先生に出会った瞬間、目と目が会い心が通って、それまでのわたしの計画はすべて変わりました。同年八月二十四日の午後、わたしはすべてを変更し大阪をはなれて九州に移り古川先生と計画をたて、玉名郡菊水町にある山の上にシュヴァイツァー寺のキリスト教別院として祈りと諸宗教対話センターが建ちました。

古川師は、福岡刑務所の教誨師をされました。そこで、二人の死刑囚の冤罪を確信し、再審請求運動を起こすことを決断したのです。この決断は、それまでの師の活動をすべて停止し、日本全国を巻き込んだ弱者救済キャンペーンへと展開し、十五年間それに没入することになりました。おかげで、二人のうち一人を死から救出することができました。その後も、古川師は死刑廃止のために戦いつづけられました。

十五年のキャンペーンを終えると、青年時代に兵隊として過ごした中国に目を向けました。中国赤十字社と連絡をとり日中友好親善のために、南京の大虐殺事件の周知と慰霊のために働きました。戦時中、強制労働に駆り立てられて大牟田の炭鉱で働き、そこで死亡した五百人以上の中国人のために、玉名市の近郊にある小岱山に慰霊塔を建てました。また、中国へ親善と和解の巡礼団も引率しました。わたしもキリスト者の団体を連れて諸宗教の対話と協力の一環として巡礼に参加しています。

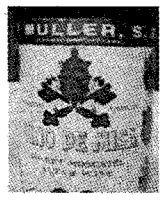
その諸宗教合同巡礼の中で、中国に対する友愛の具体的な形として身体障害児の施設を建設する提案があり、わたしは、ありがたくその提案を受け、実行に移しました。八年間の長い苦労のすえ、一九九七年十月二十三日、中国赤十字社の協力を得て北京近郊の房山に身体障害児施設は完成し、落成式には古川泰龍師も同席しました。師が中国を訪れたのは、それが最後となりました。

仏教とキリスト教という二つの事なる存在が、絶えず協力しあう中で、古川師は、諸宗教、特にキリスト教と仏教のあいだの対話促進に自信をもたれ、また積極的に貢献されました。

八月二十四日お見舞いに訪れた時、心からの微笑みをたたえていました。それはまさに最初の出会いと、同じ日の同じ目でした。翌日、偉大な人、わたしにとって大の友人が息を引き取られるとき、わたくしも、その傍にいることができました。

（生命山　祈りと諸宗教対話センター所長）

2000年　心をひらいて　10月9日
10：00開場　第10回　むなかたてんてんまつり
☆特別講演：「森は生命の学校です」　ライムンド・チネカ神父
10：30より　本館2階　会議室にて
☆ハンドベル演奏会／ゴスペルコンサート／地域こどもコーラス
☆食事コーナー／バザールコーナー／ちびっこ広場／もちつき
☆14：15～ミサ
★たくさんの、ボランティアグループと障害者の会や施設が出店し、みなさまのご来場をお待ちいたしております！！
福岡黙想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

イエスさまについて行こう。と！
夏期召命学校に25人が学ぶ

召命の家

恒例となった召命学校が、今年も七月二十八日から三十日まで「イエス様について行こう！」をテーマに召命の家で開催された。今年は、教会や学校などの行事と重なっていたにも関わらず、それでも五小教区から二十五人の小・中学生が参加した。四班に分けられた子どもたちと各班担当の神学生・シスターたちとすぐにうちとけ祈り、聖歌を歌い、ビデオを見て召命について分かち合ったりした。スケジュールには神学生・シスター・神父様からそれぞれの召命について話を聞く機会もあり、食い入るように耳を傾ける姿は印象的だった。室内で学ぶだけでなく、川遊びに出かけたり、バーベキューやレクレーションなどと、楽しさも一杯。特に二日目の夜に行われたキャンプファイヤーには、各班が趣向を凝らした出し物を披露し、スタッフたちの笑いを誘っていた。



最終日の日曜日、浄水通教会の主日のミサを、召命祈願のミサとしてもらい、子どもたちも全員参加して、松永司教司式のミサで「誰かが」ではなく、わたしがシスターに、ぼくが神父様になるようにとの司教の呼びかけは子どもたちにも響いたようであった。他の教会の仲間たちと仲良くなって、シスターや神学生、司祭との交流が出来たことが、子どもたちの心にいつまでも残ることを期待したい。

参加者の声＝二百万人という青年たちが『信仰』という一つの器の中で教皇様のメッセージとミサを体感したこと、また日本の教区、そして世界の青年たちとのふれあいなど…出会いのお恵みは感動でした。（野川智子）

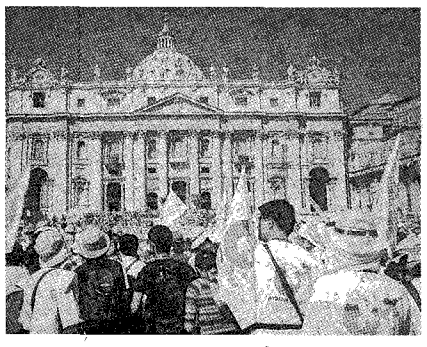
教皇様を中心とした世界の青年たちとの出会い、そして、日本全国の青年たちとのすばらしい出会いと深い交わり、そのどれもが自分を変えてくれるようなものばかりでした。これは終わりではなく、出会いを活かし多くの人に伝えて行けたらと思っています。（深堀伸一）

二面自由席に加藤由紀さん。

若者の大聖年
ワールドユースへ福岡教区から11人参加

この八月十五日から二十日までイタリアのローマで開催された第十五回ワールド・ユース・デー大会に福岡教区から11人が参加し、大きな感動と日本のカトリック青年としての意識と喜びを持って帰国した。

日本の司教団派遣の公式巡礼団としては、召命の家の青木悟神父、高宮教会所属の野川智子さん、大名町教会の深堀伸一さん、小倉教会求道者の加藤由紀さんが参加。出発前日の八月十日、四人は松永司教を訪問し激励を受けた。イタリア滞在中は野宿もありで寝袋持参である。しかし、二百万人という同じ信仰を持つ者との出会い、日本から参加の二百人の青年に司教団が示してくれたカテケージス、巡礼、ゆるしの秘跡、教皇との公式ミサなど感謝してあまりある体験だったと語っている。



小教区で終生誓願式…戸畑教会
一生幸せなシスターでいることが証です！

九月一〇日、北九州戸畑教会のミサで、コングレガシオン・ド・ノートルダム会員の終生誓願式が行われた。

立願者は、シスター・ガブリエラ斎藤雅代さん。仙台教区長溝部司教の着座式から前夜遅く戻られた松永久次郎司教が主司式をされ、「教会の中で修道生活は大切な存在。シスター斎藤にもっとも望むのは、自分を主に捧げ尽くすことにより、幸せなシスターとして証しをすること」との説教で、一同に深い感銘を与えられた。共同司式は、戸畑教会主任深堀勝人神父、フランシスコ会湯沢民夫神父、福岡司教館の田中重治神父。

深堀神父がこの日に備え、何週間も前から奉献生活の意義について一般信徒たちに説き、心を合わせて祈るよう導いて来られたおかげで、小教区を挙げての大きな喜びのイベントになった。式後、信徒代表から、松永司教とシスター斎藤とに霊的花束が会衆の前で贈られ、二一〇人の出席者が、心暖まる一致の体験を持った。シスター・ガブリエラ斎藤は、東京・板橋教会の出身。現在、戸畑の明治学園で、宗教と音楽を教えている。

小教区での修道誓願式は、この地方ではやや珍しいあり方だったため「公に一生を神に捧げるこのような式を、初めて見た



ので感激しました」と感想を漏らす参列者が多かった。

式後のパーティーも、司教様とシスター斎藤を囲み、一〇〇人余りの信徒や生徒達で盛り上がった。

司祭叙階五十周年
金祝にあたって

「あなた方が私を選んだのではなく、私があなた方を選んだのだ」（ヨハネ15・16）。

司祭、修道者の道に入っている者は、イエス様のこの言葉を読むたび毎に感謝せざるを得ないのです。

司祭に叙階され、今年で五十年になりますが、私をご自分のそばにお呼びになった神様を始め、またこの道に入ってから霊的指導、教え、祈りによって支えて下さった多くの方々、また信徒の皆さんに心から感謝いたします。

つまらない私なのに、どうしてイエス様は私をご自分のそばにお寄せになったのでしょう。

ラテン語もバスク語も分かっていなかった私が、どうして教会の事に興味を持ち、教会の儀式に喜んで参加し、大きな声でみなと一緒に歌っていたのでしょうか。もしかするとそれは、毎日家庭において、親子揃って朝、朝食の前に、夕方、夕食の前に祈っていたからではないでしょうか。その雰囲気の中で心の安らぎと喜びをもたらされていたからではないでしょうか。

また「御聖体の十字軍」という子ども向けの運動の中で、犠牲の精神と、人々への心くばり、また御聖体に対する信心を少しでも学ぶことが出来たからではないでしょうか。

小・大神学校を経て司祭になって五十年、この間、はかり知れない恵みをいただきました。

しかし、始めの時点では家庭と、小教区共同体の支えがなかったら、おそらく何も心に芽生えなかったでしょう。

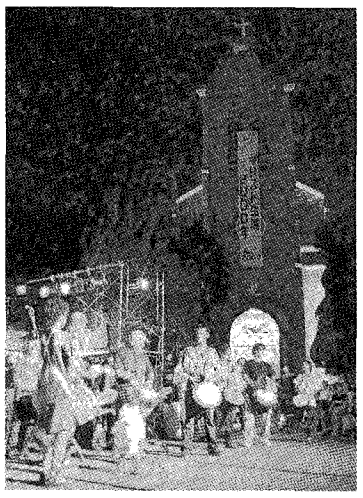
ところで、以前の金祝の司祭たちは、若い司祭たちに安心してバトンタッチが出来たのですが、今では後継者の司祭が少なくて金祝の喜びにも将来への不安の雲がかかっているのです。

イエス様について行こうとする者が少ない今の時に当たって、「収穫の畑で働く人を送って下さるよう、収穫の主に祈りなさい」と言われたイエス様の望みに応えるようにいたしましょう。また、そういう心を芽生えさせ、育てるような、神様と人々に対する心の開きのある暖かい環境を、特に家庭において始め、共同体において作るように心がけましょう。

ともあれ、神さまに感謝、皆さまに感謝。

（天神町教会主任　M・ラバルタ神父）

熊本・短期キリスト教講座 野外コンサートで開幕
教会から聞こえるボサノバに人々は釘付け



青年信者の減少が伝えられる中で、これからのカトリックを担う若者の奮起を促し、若者が自ら同世代の人々との交流を図るこの企画、関わったのは二五人あまりの青年。半年前から準備に取り掛かり、時に深夜に及ぶ打ち合わせが連日続いた。その成果もまた大きなものがあり

青年が主役「生命を祝おう！チャリティーコンサート」。熊本市内五教会合同の同講座は今年で十三回目を数え、大聖年を機に時代に即応した新たな宣教を模索しよう、との狙いから、その皮切りとなった。主役は各教会の青年会のメンバー。

六百人の大聴衆。ステージは、いま流行のゴスペルソングからポップスと、一般の市民グループ、信者の音楽仲間、あるいはセミプロクラスのボサノババンドと様々、応援をお願いした二日市教会の山元眞神父の、若者たちに語りかける楽しい司会は四時間に及ぶライブを一層充実したものにした。繁華街に在りながら普段静かな教会の庭から聞こえて来るビートの利いたエレキの音と思わぬコンサートに人々の反応は大きかった。信者でない多くの一般市民、青年たちが教会に足を踏み入れる結果となり、早くもキリスト教への関心、立ち返りを語る参加者からの電話が手取教会に入り始めている。短期キリスト教講座の本来の目的が確実に生きはじめている喜びを感じるスタートになった。

★カトリック司教がみた日本社会の痛み
森　一弘　著
常住　郷太郎　装画



日本社会の痛み　森一弘

バブル経済崩壊後、日本社会は経済の発展を最優先してきた歪みを一挙に噴き出している。

それらの歪みを家庭・学校・政治・宗教の視点から洞察し、今、私たちにとって大切なものは何かを読者と共に考える。

信頼できるリーダーのいない日本社会。そんな中で、この小さな書が、真剣に生きようとする方々の歩みを照らす光になれば幸いです……と著者は結ぶ。

本体　一四〇〇円
女子パウロ会　出版

◇　◇　◇

★モンゴル帝国とキリスト教
江上　波夫著



紀元13・14世紀、モンゴル帝国の時代に蒙古高原に住んでいた小部族オングト族の都の跡、オロン・スム遺跡の発見から調査に至る経緯と、景教（ネストリウス派キリスト教）、ならびにカトリック教会址や遺物の問題、更に景教の系統、フランシスコ会の宣教師モンテ・コルヴィノによってカトリックの信仰が伝えられるまでの、世界史的背景などを論じた三つの論文を日本語と英語の両文でまとめたものである。

サンパウロ　税抜　六五〇〇円

BOOK 読みは専科

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！

IUBILAEUM A.D. 2000

キリストは
きのうも
きょうも
永遠に！

イタリア大聖年巡礼の旅

日　　時：11月21日(火) ～ 30日(木)
同行司祭：伊東成晃神父（呼子教会主任）
主な巡礼地：ローマ、アシジ、フィレンツェ、シエナ、ピサ、ミラノ
参加費：２４８,０００円
申込先：伊東神父（呼子教会）
阪急交通社（担当：安藤）
☎092-722-0808：FAX092-734-2350
※この聖年の間、25年に一度開かれる4大聖堂の「聖なる扉」を訪れて祈りを捧げることは、非常に恵み深いことです。かつてこの日本にキリストの福音をもたらしてくれた宣教師たちの旅の出発点となった地をこの私たちが訪れることは、意義深く、「新世紀」を迎える私たちの信仰の船出ともなると思います。

ラバルタ神父様金祝のお祝

今年は天神町教会主任司祭で、パリ外国宣教会のM・ラバルタ神父様が１９５０年１２月２４日に司祭に叙階されて５０周年にあたります。司祭叙階記念日は１２月２４日ですが、天神町教会の保護者である聖ミカエルの祝日に近い１０月８日（日）９時より、金祝のお祝を実施いたします。これからも神父様がお元気で私どもを導いていただけますように、神父様のためにお祈り下さい。
尚、当日は駐車場がありませんので御出席下さる方は公共の交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。　天神町教会　信徒一同

東光町ルルドの集い

東光カトリック伝道所（博多区東光二丁目）では、毎月11日に「東光町ルルドの集い」を行っています。多くの方の参加をお待ちしています。
日　　時：毎月11日13時30分から
内　　容：召命を求めて、ロザリオの祈りとミサ
問合せ先：☎092-522-5139　松井忠之神父

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　10月

◇2日（月）～3日（火）　召命をともに祈る会研修
◇9日（月）　第10回むなかたてんてんまつり
◇14日（土）　和善の会（聖書マラソン）
◇16日（月）～20日（金）　福岡教区司祭黙想会
◇22日（日）～28日（土）　サレジオ会黙想

※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
力強く生きる木々と深い緑の中で十字架の道行きは心をいやしてくれます。
※今月は「むなかたてんてんまつり」があります。様々な障害を持った人々をサポートしているグループや支援ボランティアの方々からの出店があります。是非お出かけ下さい。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。

※祈りの集い
テーマ：私は永遠のいのちのパン
・10月12日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父
園田善昭神父
※第４回宗教者平和の祈り集会
日時：10月15日(日) 午後
指導：F.ソットコルノラ神父
講話：園田善昭神父
古川龍治氏（故古川泰龍住職の後継者・長男）
※中国への巡礼
日時：11月５日～15日
日中戦争犠牲者の慰霊のため、北京・南京等を訪れる巡礼。参加希望者はご連絡をお待ちしています。
［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

10月のこよみ　ロザリオの月

1日（日）　年間第26主日
新田原教会創立70周年記念式と堅信式
4日（水）　アシジの聖フランシスコ
†E.ラゲ［福岡司教館1929］
7日（土）　ロザリオの聖母
8日（日）　年間第27主日
司祭養成の集い［佐賀教会］
M・ラバルタ神父金祝のミサと祝賀［天神町教会］
福岡カトリック・パストラルケア研究会
9日（月）　むなかたてんてんまつり［福岡黙想の家］
15日（日）　年間第28主日
ディエゴ加賀山隼人列福祈願ミサ
ならびに堅信式［小倉教会14時］
16日（月）　福岡教区司祭黙想会［20日まで］
17日（火）　†J.グリーン［玉名教会1994］
18日（水）　聖ルカ福音記者
22日（日）　世界宣教の日［献金日］
湯川教会堅信式・西新教会バザー
23日（月）　†J.P.ドラビ［黒崎教会1967］
28日（土）　聖シモン・聖ユダ使徒
29日（日）　年間第30主日
新田原教会ふれあいバザー
生と老い、死を見つめる会［カテドラル14：00］
31日（火）　†ヨセフ糸永一［今村教会1992］
11月
1日（水）　諸聖人
2日（木）　死者の日
3日（金）　カトリック・フェスティバル［久留米信愛女学院］
5日（日）　年間第31主日
教区和田墓地ミサ（14：00）　鳥栖教会墓地ミサ

福岡

福岡パストラルケア研究会

日時：１０月８日(日) 14時～
内容：パストラルケアのこころ
講師：松永久次郎司教
場所：サン・スルピス大神学院
新館講話室
参加費：７００円

■ピエタの聖体礼拝
［日時］毎月第一金曜日13時～14時［場所］師イエズス修道女会聖堂（典礼センター・ピエタ）［内容］二十一世紀に向けて全ての人に恵みを求めて［申込み］☎０９２・５２６・９１７６シスター関口

召命祈願ミサ

日時：10月12日(木)
19時15分～21時
場所：サン・スルピス大神学院
司式：森山信三神父
主題：ロザリオの月
どなたでも参加出来ます。

■第2回和善の会聖書の集い
［日時］10月14日（土）10時～16時［内容］旧約全編をみる・詩編23［場所］福岡黙想の家［指導］松田清四郎神父［持参］聖書・三色マーカー・付せん紙［参加費］２５００円［問合先］FAX０９４０・３３・８４０９深堀道子

■典礼を学ぶ集い
［日時］10月15日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会［内容］典礼におけるしるしと象徴［講師］白浜満神父［参加費］６００円［問合先］☎０９４０・３３・８１２２井上

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］10月19日（木）毎月第3木曜日9時20分［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎０９２・５３３・２３２６小田部

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］10月22日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）

福岡地区納骨堂管理委員会から
清掃日＝10月22日(日) 8時～
墓地ミサ＝11月5日(日) 14時

■在世フランシスコ会集会
［日時］10月22日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って福音に生きる為に。ミサと学習・分かち合いなど［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎・次回11月26日

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］10月29日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会［内容］終末医療における音楽療法…アメリカのホスピスにおける体験を通して［講師］末次輝子氏［会費］５００円［問合先］☎０９２・７１３・８５２３大山：０９２・６０７・６９９２村尾

■美野島司牧センターのお願い
続いて、衣類・毛布のカンパをお願いします。男の赤ちゃん用品も［問合先］コース神父☎０９２・４３１・１４１９

北九州

■小倉祈りの集い
［日時］10月10日（火）13時30分～15時［場所］小倉教会［指導］マテオ神父［テーマ］詩編で祈る［問合先］☎０９３・４５２・１５５６安藤

■小倉祈りの集い
［日時］10月7日（土）14時～［内容］永遠の命を今生きる…いまは、この世のものだけではない…［講師］シスター鈴木秀子（聖心女子大学教授・聖心会会員）⑤10月13日（金）10時30分～と19時～［内容］わたしは神の愛を見た…3人の信徒が「証しびと」となって、神の愛を語る…［講師］高木和夫氏（島崎教会信徒）・有馬純也・美枝子夫婦（手取教会信徒）［場所］手取教会（会館2階ホール）［注意］10月7日（土）のみ、会場は熊本信愛女学院（体育館）［参加費］講座全体で１０００円［主催］熊本市内5教会
シスター竹内
■熊本短期キリスト教講座
④10月7日（土）14時～［内容］永遠の命を今生きる…いまは、この世のものだけではない…［講師］シスター鈴木秀子（聖心女子大学教授・聖心会会員）⑤10月13日（金）10時30分～と19時～［内容］わたしは神の愛を見た…3人の信徒が「証しびと」となって、神の愛を語る…［講師］高木和夫氏（島崎教会信徒）・有馬純也・美枝子夫婦（手取教会信徒）［場所］手取教会（会館2階ホール）［注意］10月7日（土）のみ、会場は熊本信愛女学院（体育館）［参加費］講座全体で１０００円［主催］熊本市内5教会

佐賀

■聖書を読む会
［日時］10月5日（木）朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［テーマ］聖パウロについて［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎０９５２・２３・４７５４［次回］11月2日（木）

■司祭養成の集い
［日時］10月8日（日）ミサ9時・集い10時30分［場所］カトリック佐賀教会［内容］司祭召命への旅＝ミサと集い＝［対象］信徒・修道者・司祭

熊本

■日本カトリック看護協会案内
［日時］奇数月第3日曜日14時半～17時［場所］熊本聖心病院⇩右記のように例会を行っています。［問合せ］☎０９６・３５２・７１８１熊本聖心病院

各地の教会バザール

10月22日（日）
西新教会バザー
10月29日（日）
新田原教会ふれあいバザー
11月12日（日）
大楠教会バザー

子ども聖歌隊練習日

日時：10月22日 14時から
場所：大神学校
対象：小学生・中学生
目的：11月3日のカトリックフェスティバルのため

募集　大聖年記念巡礼

日程：10月23日～25日
行程：福岡→天草→島原→長崎→出津→福岡
費用：43,791円
問合：☎092-801-5351（深堀）551-3973（笹渕）
主催：日カ連長崎教会管区

編集後記

少しは頭を冷やそうと9月号をお休みにさせていただきましたが、なんとも言えぬ異常なまでの暑さ。参りました。皆さんはいかがでしたか。
いよいよ秋本番、カトリックフェスティバルを始め、教会行事がめじろ押しの季節でもあります。準備に当たられている方は大変かと思いますが、共同体の絆を深める機会となるように祈っています。出来たら、それらの記事や写真も送っていただければ…とは都合のいいお願いでしょうか？行事や自由席への原稿は前月の10日までに郵便かFAXでお願いします。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

信仰の土地を拓いた人と、信仰の種を蒔いた人々を祝う
二つの教会が、その誕生を祝った
新田原教会
南粕屋教会

この大聖年は福岡教区創立七十二年にあたるが、幾つかの教会も四十年、五十年、七十年と記念すべき年を迎えている。9月17日に四十年を祝った吉塚教会巡回の南粕屋教会（主任硫黄隆二神父）は、終戦の炭坑町に信徒を捜しに来た宣教師によって始まった。また、10月1日に祝ったのは、トラピスト修道会の修道士を頼って長崎の五島から移住して来た信徒の、信仰の拠り所として七十年前に始まった新田原教会（主任竹森勇神父）。来年1月14日には行橋教会巡回の豊津教会が五十年を祝うことになっている。「もう一人のキリスト」となった人々の祝いの日である。

移住から70年の信仰を祝った新田原教会



力いっぱい感謝の歌を歌う子どもたち

10月1日は新田原小教区にとって幾つかの喜びが重なる記念すべき日であった。それはちょうど主日と重なる小教区の守護の聖人・幼いイエスの聖テレジアの記念日であり、またこの日は小教区創立七十周年に当たり、松永司教様の特別なお計らいにより、公式訪問と中学1・2年生四十人に堅信式をしていただくことになり、大聖年にふさわしい大きな喜びが小教区に訪れた。

堅信式と御ミサ終了後、小教区創立七十周年記念式典として、鐘楼の傍らに、天に高くそびえ、可憐な花を咲かせるようにと、花水木が植えられ、記念碑とともに大聖年の証しとして後世に伝えられるように小教区の更なる発展を願って、松永司教様の手による記念植樹が執り行われた。

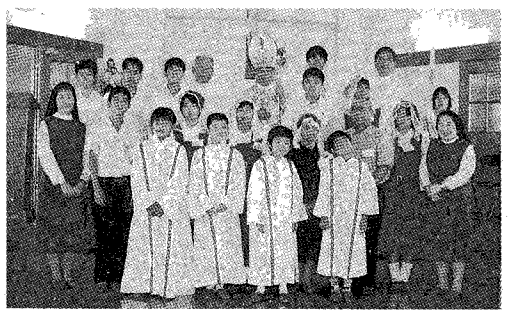
トラピストの分院として設けられたこの地に長崎・五島地方から移住してきた一握りの人達に、信仰のよりどころとして集まった布教所として発生した小教区が、数々の労苦や戦争・迫害に耐え抜き、パリ・ミッション会のご指導と、隣接する聖母訪問会や宮崎カリタス修道女会のシスター方の献身的な協力の元、千九百名に膨れ上がった小教区に、主の大いなるお恵みとご加護に感謝して、更なる信仰の発展を祈った。

南粕屋教会 宣教師の熱意に応えたひとびと

9月17日（日）、南粕屋教会（主任硫黄隆二神父、吉塚教会巡回）は、松永久次郎司教を始め、主任司祭不在の間、主任代行を務めた高見三明神父（サン・スルピス大神学院教授）、田中重治神父を迎え創立四十周年の記念ミサと式典を開催した。ミサの中で吉塚教会と合同での、堅信式も行われ、多くの信徒が集い、大きな祝福と喜びに満ちた式典となった。

四十年前、志免巡回教会として、戦後の国鉄志免炭坑時代に小さな民家から始まった。スカボロ会の若き宣教師、ヴィルネーブ神父は、志免炭坑の鉄道病院に勤める一歯科医の信者を探し出し、その病院を中心に布教を始めた。そして一人の看護婦の受洗をきっかけとして1959年に民家を買い取り11月3日志免教会が献堂された。

手狭になり、新しい聖堂の建築を希望する信徒たちと、スカボロ会の神父たちの熱意が祈りやバザーの開催を粘り強く行わせ、1994年12月11日、宇美線の田富に新聖堂の建設の運びとなった。田富に広い駐車場もそなえた教会が献堂された二年後、B・シュルツ主任神父が帰天し、スカボロ宣教会からオブ


喜びの受堅者と信徒のみなさん

福岡教区司祭黙想会 兄弟が共にいるのはなんと素晴らしいこと
黙想の家

福岡教区邦人司祭の黙想会が10月16日から20日まで、福岡黙想の家にて開催された。今年は指導者に高松教区長の深堀敏司教を迎え、松永久次郎司教、平田三郎司教をはじめ病気等を除く三十一人の司祭が参加した。

ロザリオで始まった今回の黙想会の冒頭、深堀司教は黙想会を一言で言い表わすならば「いこいの時」であると話した。これは、何もせずに無為に時間を過ごすということではなく、毎日の多忙な日常生活から身を引いて、神のまなざしの中に生きていることを、今一度想起するため、集中して観想し、そこから喜びを見い出すということである。この喜びこそがいこいの本当の目的であり、司牧者として、自分自身がこの喜びを持つ体験をすることが大切であることを説いた。また、自分自身が喜びを持っているからこそ、信徒をはじめ多くの人々にそれを分かち合っていける。その為に、神のまなざしを想起するとともに、現代社会の中で生きて行く上で司祭たちはどうあるべきなのかも示唆するものがあった。



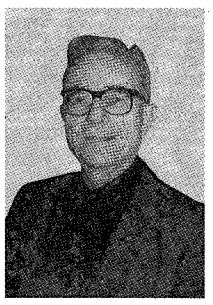
参加司祭たちも、指導者の話をもとに、ゆっくりとした時間の中で自分の信仰を見つめ直す良い機会となった。同時に、司祭として兄弟である者たちがこうして一同に集まり、同じ時を過ごし、主の食卓だけでなく、毎日の食卓を囲んだことは、普段、一人で生活している司祭にとって、司祭職に生きる喜びをかみしめ、お互いの親睦を深めるすばらしい時となった。

翌日のミサの中で、また、19日には、これまで福岡教区で活躍され帰天された聖職者たちのために、追悼ミサも捧げられた。

教区に偉大な足跡

徳山　登神父帰天

1948年来日以来、福岡教区、特に北九州地区で熱心な宣教活動に励まれたパリ・ミッション会のフランソア徳山登神父が10月16日、フランスの療養先で帰天された。享年78歳。徳山神父は1922年フランスのルーブイで生まれ、1948年6月29日司祭叙階、すぐに来日、北九州の小倉、黒崎、天神町、門司港教会で司牧にあたり、福岡のカルメル会のチャプレンも務められた。


徳山　登神父

1974年8月、日本に帰化され、F・トクベフから徳山登と改名された。書道も四段の腕前、なによりもユーモアと人情味に溢れる司祭だった。特に、「ペトロとニワトリ」という出し物は神父の十八番だった。1996年健康上の理由で引退、フランスで療養中であった。

高田　三郎氏帰天

典礼聖歌のモーツアルト、日本語のグレゴリオ聖歌作曲家として、典礼刷新特に、典礼聖歌作曲で人々に慕われていた高田三郎氏が10月22日（日）、心不全のため帰天。享年86歳。

11月19日 聖書週間 11月26日
マイ聖書でみことばに親しもう！

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】全ての人、とくに最も困窮している人々の福祉のための政治

【布教の意向】修道会の宣教精神

【日本の教会の意向】為政者の回心

時の話題

カルスト台地

杉本恵子

羊群原（ようぐんばら）、広谷湿原で有名な北九州の国定指定公園、平尾台。

すすきの穂が開きはじめ、急に秋らしくなったある日、野外ミサの場所探しを兼ねた山歩きをしました。

四方八方、好きな方向にキャンバスを立ててスケッチの筆を走らせているカルチャーグループ。秋空と雲をバックにしゃがみこんで野の花にピントをあわせている人。ナンバンギセル、ツリガネニンジン、ツリフネ草……私たちは、珍しい野の花を見つけながら、ハンドブック片手に心地よい散策。

永い永い年月、風雪に耐え、はぐくまれてきたカルスト台地の石灰岩、時を越えたおだやかな空間がこんな身近にあったことに、ことさら気づかされました。緑のなだらかな山肌にたたずむ石灰の羊の群れは、とても印象的です。

『わたしはよい牧者　わたしは羊を知り　羊はわたしを知っている』。よい牧者キリストは私たちのために命をささげてくださいました。私たち、小羊の一匹、一匹を絶対の存在として見ていてくださいます。「神のことばをきいて、そのみ言葉を生きることが第一。み言葉をよーく味わって下さい」と神父様はいつもおっしゃいます。そう、それなのに、自分は神のことばをどう聞いて、どう答えているんだろう。

目を耳をふさぎたくなる悲惨な社会の出来事に、こころは痛めても自分の範囲外のこととして沈黙してしまいます。平尾台の羊群の下に静かに眠るカルストはあたかも信仰の根強い台地のよう。私に問いかけるイエスのことばと、その答えが、あのカルストのように深く深くたくわえられますように。

（小倉教会信徒）

みちくさ

携帯電話の番号は？電子メールのアドレスは？最近では子どもの自己紹介でもやり取りされるようになった。確かに、街角で携帯電話をかける子どもの姿、電子メールをやり取りする子どもが増加している。もちろん、大人にとっては携帯電話は当り前、コンピューターを使えなければ仕事にならない時代となった▼最近の情報技術革命は急速に進んでいる。来月からは衛生放送もデジタル化され、テレビの在り方も変わろうとしている。現代はインターネットによって世界中の様々な情報を瞬時に得ることが出来る。十年前では考えることも出来ない状況である▼時代の流れについて行くのはお年を召された方には酷だという話しもよく聞かれる。しかし、三種の神器と言われた冷蔵庫や洗濯機、テレビは、今あって当然、ないことが考えられない世界になった。あの当時には信じられなかったことだろう。しかし、そういうものが存在する中で育った今の大人にとってはそれが生活の一部となっているわけである▼当時の大人たちはそれをおそるおそる使い始め、生活の中に取り込んで行った。今でも、高齢者がコンピューターを学び、使い始める姿が多々見受けられる▼最新の情報技術製品が当り前の中で育ちつつある子どもが大人になったとき、やはり世界は大きく変貌しているだろう。その変化が急速になっている現代。その中にあって、教会、宣教の姿とはどうあるべきなのだろう。聖書の世界も教会の組織が誕生したのも、今とはまったく違う状況の中であった。伝える方法、伝える組織の在り方をどこまで時代にあわせて行けばいいのだろう。（T）

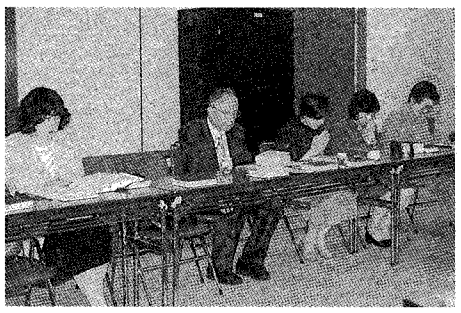
聖書に親しむ人々
み言葉はいつ どこでも どんな時も読める

「イエス・キリストは、きのうも今日も、永遠に変ることのないかた。」（ヘブライ13・8参照）。これは、今年の聖書週間の標語である。聖書の中のみことばを通してキリストに、そして御父に出会おうとする人々が増えている。聖書の親しみ方も様々な方法が工夫され、各教会で、あるいは信徒の間でもその取組は増えているようである。ここでは、その二・三の方法やブループを紹介する。

静かに広がる 聖書一〇〇週間

パリ外国宣教会のマルセル・ルドールズ神父は洗礼を受けた後の信徒の信仰教育を考え「聖書を一緒に読みましょう」と呼びかけた。大勢の信徒が応えて読みはじめ、グループが生まれた。手探りで始まった読み方が徐々に今のスタイルになってきたということである。「一〇〇週間」は、最初一〇〇回で読むようにしていたことから言われるようになったようである。

熊本の手取教会では、一回目の「一〇〇週間」が二年前に五十人参加で終了。現在二回目のグループが始まって一年半になり、毎週水曜日の午前と夜に集まっているそうだ。


大名町教会での聖書１００週間

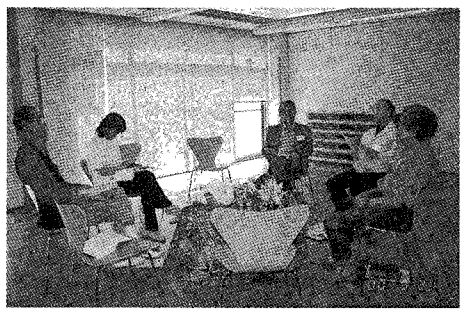
福岡では、吉塚教会がこの10月24日に第一回目を終了するということである。これまで、二年半毎週木曜日に集まり七人が今回の終了式を迎える。吉塚と巡回の南粕屋教会では、主任神父が病気で不在であった期間が長かった時、代理で来て下さった神父の聖書研究会に触発されて、不在の時も聖書に親しめる読み方として紹介されたのが始まりだということである。

大名町教会で行われている集いは三年ほど前に始まり、毎週火曜日の午後2時から行われている。終了まで今しばらくかかりそうだと言いながらも楽しそうに聖書を前にしている。どこの集まりも毎週休みなく集まるのは困難なことが多く、また、一〇〇週間で終わるには大きな努力がいるが、分かち合いながら楽しく読めるよろこびがあると、どこの参加者からも聞こえた声である。

研修会スタイルの聖書の親しみ方も

黙想の家を中心に、新しい聖書の読み方が広がっている。

「アシパプログラム（生活の中で読む聖書）」と「和善の会聖書の集い」である。アシパプログラムは、ＦＡＢＣ（アジア司教協議会連盟）によって、アジア的な「キリスト自身と共同体中心」の司牧成長の進め方として、参加者自身が「教会の新しい在り方」を探し体験できるように紹介されたものである。


復活したキリストを中心に分かち合う

福岡黙想の家では、名古屋にあったカトリック研修センターで行われていたプログラムが松田清四郎（コンベンツアル修道会）神父によって紹介され、セブンステップと言われる聖書の分かち合いの方法として広がっている。参加者はこの方法では祈りの雰囲気、自発性、自主性を大切にし、分かち合いなど個人の自由を尊重する読み方で、み言葉を解釈するのでなく自分の生活体験を見つめ、感じたことを心の中で思い巡らし、神さまに心を向ける。グループの独自の分かち合いを共有することで、交わりの喜び、学びがあり、み言葉を実践することにつながると語っている。

和善の会は、同じ松田神父によって紹介されたプログラムであるが、神がどのようにして人間を救いの道へ導こうとなさっているか、その救いの歴史を自分流に親しんで、み言葉の中に学ぶことだと思うと参加者は答える。また、聖体祭儀やみ言葉の祭儀の意味を深めること、キリストを識る、み言葉の種を蒔く人、洗礼の恵みを感謝する、仕える者などのテーマで祈ることから典礼と生活に橋を架ける試みとも言えると話している。

その他、各小教区の中で朗読会や研究会として行われているのも身近な聖書の親しみ方であろう。佐賀教会でもアレグリーニ神父の聖書を読む会が続いている。

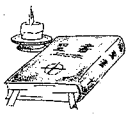
一人で、個人で毎日、三百六十五日で全聖書を読み通すことができるように作られたガイド冊子がある。松田清四郎神父開発の「聖書通読マラソン」である。全国に仲間が増え続けていると報告されている。

個人の自宅を開放して、近所の人と「とにかく旧約から新約まで読み通そう」という集いもあちこちで広がっているのは喜ばしい事ではなかろうか。

新しい福音宣教とは何か

新しい福音宣教⑦

G.ケルクマン神父



古い福音宣教とは、どのようなものだったのでしょうか。

私がヨーロッパで過ごした子ども時代（公会議の前でした）を思い返しますと、福音宣教のイーメジは、司祭と修道者が違う国に出かけて行き、イエズス様を知らない人々に福音を述べ伝えること、出来るだけたくさんの人々に洗礼を授けること、小教区または大教区を作って、その国民の司祭と修道者を育てること、つまり一言で言えば、その国で教会を創立することでした。子どもであった私たちは一生懸命わずかな小遣いの中から献金し、アフリカの子どもたちが洗礼を受けるように願いました。宣教地から戻って来た宣教師の話を感激して聴き入りました。様々な苦労を重ねた宣教師は英雄のように見えました。

この時代から四十年経ちました。その間、教会も世界も大きく変わりました。特にヴァティカン公会議以降、福音宣教についての考え方も大きく変わりました。神学研究も進み、以前に宣教地と呼ばれていた国々でも地元で発展しています。

各国の文化を尊重した典礼、教会建築、音楽、信徒活動などが進んでいます。若い教会が神学を大いに進展させました。

若い教会は福音宣教のために自ら責任を負い、主体的に活動しています。外国宣教師は指導するというよりも現場の教会をサポートする立場にいます。

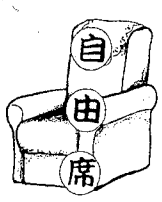
それだけでなく、古い教会、例えばヨーロッパ、と今まで「宣教地」と呼ばれた若い教会との区別がなくなりました。今ではヨーロッパはむしろ宣教地と言われています。たとえば東ドイツでは人口の十四％の人々（カトリックとプロテスタントを併せて）しか洗礼を受けていないそうです。

そして世界中の価値観も変わりました。人権、宗教自由、平等、無差別、社会正義、貧富の差などは今大きなテーマになっています。

このような世界の中にあって福音宣教のもつ意味をもっと深く考える必要があります。この変革のプロセスは新しい言葉の使い方に現われてきます。ミッションではなく「新しい宣教」、「社会の福音化」、「国際司牧」などの概念が用いられるようになりました。そして他の宗教に対する寛容、他の宗教との会話、他の文化の尊重が福音宣教の活動原則になっています。これらは福音宣教の方法の問題だけではなく、もっと根本的な新しい考え方、新しい神学を表わしているといえるでしょう。その新しい神学とは何かを次の号で皆様と分かち合いたいと思います。

その後、「新しい福音宣教」は日本の教会においてどんな意味があるのか考えましょう。

（イエズス会司祭・泰星学園教師）



ラバルタ神父様 喜びの金祝

横山　忠

F・ラバルタ神父様は１９２６年1月1日、ルルドに程近いフランスのバス・ピレネ県に生まれ、１９５０年12月24日パリ外国宣教会の司祭として叙階。フランスから見れば地球の裏側、文字通り地の果てに当たる北九州の地に「船でたどり着いたのが司祭叙階の翌年、１９５１年の5月12日聖霊降臨の前日でした」（ラバルタ神父様談）。その時から五十年、ラバルタ神父様の司祭叙階金祝のお祝いが10月8日（日）、松永司教様をお迎えして天神町教会で開催された。



当日は九十名近い来賓の方々を含め小さい聖堂は参列者であふれ、ラバルタ神父様に松永司教様、田中神父様、浦和教区東松山教会のラバルト神父様共同司式による記念ミサが捧げられました。ミサ中説教で司教様は「戦後の厳しい時に来日、宣教司牧され忍耐と忠実の模範を示された神父様の五十年はお恵みの年月であったと思います。神父様に続き自分を捧げようとする人が一人でも天神町教会から出るように努めて下さい」と神父さまの金祝を賛えられ、信徒の私たちに更なる信仰を促されました。ミサ後聖堂で祝賀会があり、教会学校の子どもたちが歌う聖歌「あめのきさき」はやがて参加者全員の大合唱となり感謝と喜びに包まれた一日でした。

天神町教会信徒

ガッザルディ神父様 金祝おめでとう

平川　喜美代

２０００年6月18日（日）伊万里教会では、ミラノ外国宣教会のガッザルディ・クラウディオ神父様の司祭叙階金祝の祝典が催されました。司祭を志し１９５４年宣教師として日本に赴任し佐賀の地に根を降ろし、信徒や神様を知らない多くの人人に神の愛、神の慈しみ、神様がどれほど私たち人間の救いを望んでおられるかを伝える為に働かれて早五十年の歳月が流れました。ミサは午前9時30分から行われ、櫻井神父様、トラピストのハイメ神父様、信徒はじめ神父様を慕う多くの方々が出席されました。櫻井神父様の説教の中では、小さい時から、司祭としてのガッザルディ神父様の後姿を見て育ち、教えられることが多く、いま現在の自分があるのも神父様のおかげであり、誇りに思っているということでした。

喜びが皆の心を一つにし、深い感動の中に御ミサは終わりました。

続いて隣接の幼稚園で祝賀会が行われました。幼稚園はこの大聖年、神父様の金祝とくしくも同じ年に創立三十周年を迎えて、一週間前に行われた父の日運動会では、毎日、サッカーをして遊んでくださる神父様にお祝いのくす玉割りと花束贈呈でなお一層の盛り上がりを見せました。祝賀会では信徒会長の富永さんのあいさつに続いて、幼稚園主任の吉村先生のあいさつの言葉、また日曜学校の生徒からの感謝の言葉、金メダルの贈呈、聖歌のプレゼント、花束贈呈、お祝いの手紙の朗読、各方面から寄せられた祝電の数々は神父様のお人柄をしのばせるものでした。終始和やかな心温まる祝典が終了しました。



伊万里教会信徒

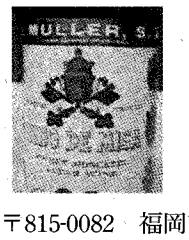
2000年待降節　黙想会と祈りの学校

① 12月１日(金) ～ ３日(日)　平山　高明　司教様［限定15名］
② 12月８日(金) ～ 10日(日)　マテオ神父
③ 12月15日(金) ～ 17日(日)　来住　英俊神父《祈りの学校》
④ 12月22日(金) ～ 25日(月)　ガブリエル神父／鈴木神父

①～③16：00受付～最終日15:30迄　／会費：12,000円
④　16：00受付～最終日昼食後迄　／会費：18,000円
※　部分参加をご希望の方はご相談下さい。

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

たわわに実る稲穂の中を行く
筑後平野の聖体行列
今村教会



去る9月24日（日）、今村教会では大聖年を記念して、第三回ふれあいフェスタ・オラシオまつりが行われた。昔行われていた聖体行列を復活させようとの信徒の熱意により、ミサ聖祭、聖体行列を中心にバザーやイベントを組み合わせ、祈りと相互のふれあいを通して、信仰の活性化と教会の維持に寄与しようと三年前に始められたものである。

午前10時、七人の司祭の共同ミサの後、聖体行列が開始された。司祭、シスターや信徒が他の教会からも多数参加し、すがすがしい秋晴れのもと、十字架を先頭にご聖体を中央にして総勢四百人ほどが、淡い金色の稲穂の中を、赤レンガの聖堂を望みながら、先人たちが必死に守り伝えて来た信仰を、今も守り続ける喜びと感謝を聖歌と祈りに込め、今村聖母園までのおよそ3キロを行列した。

聖母園の中庭に設けた仮祭壇で聖体賛美式が行われ、聖体行列は荘厳の中に終了した。

続いて行われた教会の広場でのバザーとイベントには地域の方々も大勢参加、和やかな交流の輪が広がった。大刀洗中学校ブラス部、久留米信愛女学院吹奏楽部、ゴスペル聖歌隊などの演奏や聖歌で祭りも大いに盛り上がり、喜びの内に終了した。

殉教者の列福祈願ミサ
――堅信式とともに――
倉会小教会

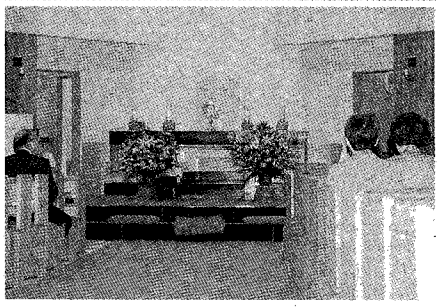


往還に沿って建てられた顕彰碑と説明板

大聖年である今年、ディエゴ加賀山隼人の殉教記念日である10月15日が、三年前から計画されていた10月の第二日曜日に重なり、列福祈願ミサが殉教日に捧げられることになった。さらに殉教者に倣い信仰の証を求め二十三名の堅信式も行われた。

今世紀最後の殉教日の列福祈願ミサはヨセフ松永久次郎司教司式のもと、司祭、修道者、信徒二百三十名余りが参加して捧げられた。松永司教は説教の中で、一日も早い列福を願い、信仰のために殉教した者の信仰に倣い、受堅者だけでなく、ともに集う信徒にも信仰の証人として生きるようにと諭した。

大名町教会の聖体大会



大名町教会の大聖年記念行事が9月24日（日）、「ミサ、お話し、聖体賛美の一日」として生命山のフランコ・ソットコルノラ神父を迎えて開催された。

ミサに続いて聖体が顕示されて永久礼拝が行われた。フランコ神父は講話の中で、ミサと茶道のつながりからミサの深さを諭した。最後に聖体賛美式が行われ、信徒も恵みに満たされた一日を喜びあった。

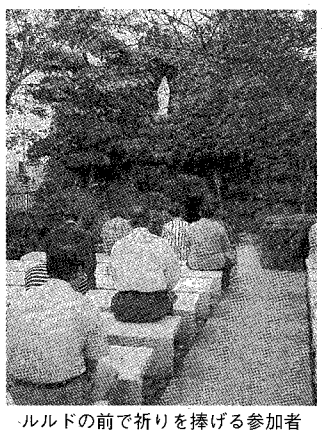
第39回クルシリヨ新田原教会で開催

第39回クルシリヨも順調に進み、感謝のミサに与かった参加者の皆さんが夫々ローソクを手に、明るい陽射しの中を懇親会会場へと渡り廊下を進む。ところがその時、突風とぱらぱらと突然の雨にローソクの灯が一瞬吹き消される一幕があった。

「なんだか洗礼を受けたような感じ」との一言が、参加者のその時の気持ちを全て言い表していたと言えよう。

スペインで始まり日本の各地で取り上げられてきたクルシリヨも、経済問題、価値観の多様化など様々な理由から開催する教区が少なくなっているが、今回の開催案内に応えてくださった人々の中にはシンガポール出身の方の参加申込、またフィリピンで以前にクルシリヨに参加された方からのボランティアの申出もあった。

1963年以降続いている福岡のクルシリヨを、ここで中断してはならないと、クルシリヨするのか予測できないが、第40回クルシリヨは開催されるでしょう。5月の予定に是非組み込んでおかれますようにと事務局は願っている。また、今回のクルシリヨに便宜を計ってくださった新田原教会の皆さんへの感謝も事務局から寄せられている。

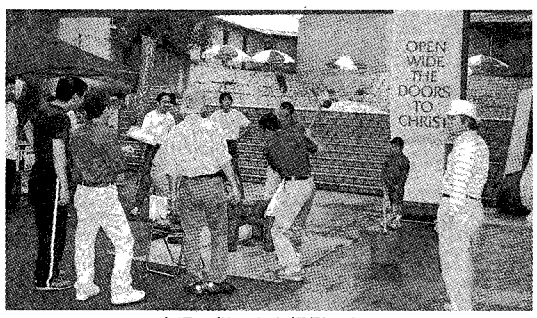


ルルドの前で祈りを捧げる参加者

てんてんまつりは今年も和気あいあい！

10月9日、むなかたてんてんまつりが「ジュビリー2000年　キリストは　きのうも　きょうも　永遠に！」をテーマに福岡黙想の家で開催された。今年はあいにくの雨で人出が心配されたが、二千人近い人々が訪れた。修道院と聞けば、一般にいうのが、この祭りの趣旨である。今年も多くのボランティアが賛同して祭りを盛り上げてくれた。自由ヶ丘南子供コーラス、ゴスペルコンサート、ハンドベル演奏、教会に音楽は欠かせない。美しい演奏で人々を神の元に招いていた。特別講演はライムンド・チネカ神父。神父は障害者と共に人工林を自然林に戻す作業を続けている。神父の話は私たちに自然を大切にする心を持つようにと改心を促した。

沿道を埋めていたのはお馴染みのお楽しみバザール。MAC（アルコール・薬物依存症リハビリ施設）のメンバーによる手作りテントのお陰で、雨にもかかわらず、安心して売買が出来たのは感謝である。このバザールの収益金はすべてボランティア活動に使われる。信者・未洗者を交えて、非営利グループのみが店を構えるんてんまつりならではの情景である。



ヘソ広場の餅つきも恒例になって…

叙階の秘跡に生かされて

福岡に来て六か月、司祭叙階から五か月が過ぎました。今夏の猛暑もなんとかのりこえ、とても過ごしやすい季節を迎えています。私にとって最初の任地である笹丘の皆さんに暖かく迎かえられ支えられながら、今日までたどりつけたというのが実感です。

西暦二千年ということで巷では「ミレニアム」という言葉が飛び交い、社会でも教会でも様々な行事が企画される中、私たちは時代のひとつの区切り目に生きているという意識をどこかで持っているように思います。これまで時には傷を負いながらもなんとか生き延びてきたこの世界は、これからどんな方向に向かって歩んで行くのでしょうか。歴史をここまで導いてくださった神様のご計画に、私たちは今後どのように応えていけるのでしょうか。そんな大きな時代の流れに合わせて「司祭叙階」というひとつの区切り目を向かえた自分の歩みを考えることがあります。

神様は私をどこに導いておられるのでしょうか。

いま外では幼稚園の運動会で子どもたちが元気よく走り回っています。この子どもたちが今の私の年齢に達するとき、世界はより良い場所になっているでしょうか。小さな人々が、大切にされ愛される社会になっているでしょうか。それとも残り少なくなった資源を奪い合い、強者が弱者を力で支配するような弱肉強食社会が来るのでしょうか。その頃まで生き延びるとしたら、私は世界が少しでも住みよい所になるために貢献できる司祭になっているでしょうか。

それとも気難しい（？）人間になっているのでしょうか。

すべては神の御手の中に……。しかし同時に、どちらを選ぶかの選択肢は今日を生きる私たちが握っているとも言えます。いろいろな意味で一筋縄ではいかない複雑な現代社会の中で、私たちがより良い世界を築くための選択をすることができるために、イエス様の福音は今日も私たち一人ひとりに向かって切実に訴えかけているのです。

「みことばに対してまた社会に対して、私の目を開け、耳を開いてください」そう祈る毎日です。

（笹丘教会助任　柴田弘之神父）

BOOK 読みは専科

★思い越し、物語れ
マルコ福音書のメッセージ
S・ファウスティ著
佐久間　勤　訳者

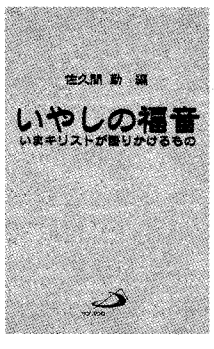


マルコ福音書は、弟子たちが師の言葉を聞き、彼の行う出来事を見ながらなかなか理解できない様子を繰り返し物語る。

本書は、このマルコ福音書を一節ずつ詳しく追いながら、弟子たちと同じように、少しずつ「自分の」信仰を深めていくように誘う。神が行われたこと、私の為に行われた事を思い起こすとそれは生き生きとよみがえり、よい便りとして他の人々に伝達するよう物語らざるをえなくなる。

本体　三〇〇〇円
女子パウロ会　発行
◇　◇　◇

★いやしの福音
佐久間　勤　編



新しいミレニアムに入る時代に生きて、わたしたちキリスト者はこう問われています。「キリストの福音は何をわたしたちに語りかけ、何をするように呼びかけているのか？」新たに福音を問い、わたしたちなりの答えを深めることが求められています。本書は、十三人の専門家たちが、福音について、福音を受け止める共同体について、福音がもたらすいやしについて、さまざまな角度からわかりやすく解説しています。

サンパウロ　税抜　二六〇〇円

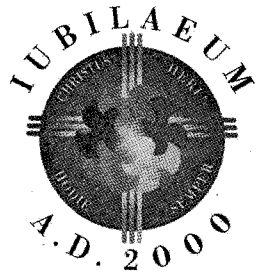
ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！



キリストは
きのうも
きょうも
永遠に！

福岡教区大聖年巡礼指定地

◎カテドラル大名町教会（中央区大名2-7-7）
◎小倉教会（小倉北区香春口1-3-1）
◎手取教会（熊本市上通町3-34）
◎佐賀教会（佐賀市中央本町1-17）
◎大江教会（天草町大江1782）又は、
　根引山の十字架の道行き（天草郡河浦町今富）
◎伊万里の聖母修道院（二里町大里甲1-41）
◎カルメル山の聖母修道院（福岡市西区今宿）
◎聖クララ修道院（小郡教会に隣接）
◎花岡山殉教者墓地（熊本市春日4丁目）

◆病人、独居老人、障害者、あるいは貧困や特別な困難の中にある兄弟姉妹を、その中におられるキリストへの訪問として訪れる時、巡礼となります。

※各巡礼地についての問合せは、教区事務所の青木悟神父まで。☎092-522-4059

聖書講座

キリスト降誕2000年の聖書週間
（11月19日～26日）を記念する

テーマ：『みことばとともに』
お話し：雨宮　慧　神父（東京教区司祭）
日　時：11月19日（日）13時～17時
場　所：カテドラル大名町教会講堂
参加費：1,000円
対　象：今回は、聖書に少しでも親しんだことのある方に、より深くみことばを読み、それに生きるための示唆をいただくことを願って開催します。
主　催：教区聖書委員会
申込先：☎092-522-4059：FAX523-2152
　司教館広報室（深堀）

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　11月

◇8日(水)　ミカエル会
◇11日(土)～12日(日)　山口・島根地区信徒養成委員会
◇14日(火)～15日(水)　日本聖公会
◇16日(木)～18日(土)　カトリック防府教会婦人部黙想
◇18日(土)～19日(日)　北九州レジオマリエ黙想
◇19日(日)～25日(土)　サッレジオ会黙想
◇26日(日)　聖母カテキスタ会会議

※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
　力強く生きる木々と深い緑の中で十字架の道行きは心をいやしてくれます。
※二面に広告いたしました「黙想会と祈りの学校」もお待ちしています。

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。

※祈りの集い
テーマ：私は永遠のいのちのパン
・11月9日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父
　園田善昭神父

※生命山の霊性
自　然：神はすべてを創り、人の手に委ねられた。
祈　り：陽が昇るところから、陽が沈むところまで。
静けさ：沈黙の中に神の言葉を聴こう。
交わり：信仰体験を分かつ。

[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

11月のこよみ　死者の月

1日（水）　諸聖人
2日（木）　死者の日　†S.アクワビバ（佐賀地区1984）
3日（金）　カトリックフェスティバル（久留米信愛女学院）
　†F.ボア（援助修道会1977）　文化の日
4日（土）　聖カロロ・ボロメオ（教皇様霊名の祝日）
5日（日）　年間第31主日
　教区和田墓地ミサ［14：00］：鳥栖教会墓地ミサ
9日（木）　ラテラン教会の献堂記念
12日（日）　年間第32主日
　糸島教会堅信式・創立10周年記念式
　大楠教会バザー
17日（金）　ハンガリーの聖エリザベト
19日（日）　年間第33主日　聖書週間［～26日］
　光丘教会堅信式
　司祭養成の集い［手取教会］
　雨宮神父の聖書講座［大名町教会13：00～］
21日（火）　聖マリアの奉献
　大神学院祭
22日（水）　聖セシリアおとめ殉教者
　†P.ポール［黙想の家1996］
23日（木）　†B.シュルツ［吉塚教会1996］　勤労感謝の日
26日（日）　王であるキリスト
　帯山教会堅信式
27日（火）　†S.ズワノニ［唐津教会1962］
30日（木）　聖アンデレ使徒
12月
1日（金）　†アシジ・F.伊東誠二［馬渡島1997］
3日（日）　待降節第1主日
　鳥栖教会堅信式
　宣教地司祭育成の日献金日

◆福岡

死者の月墓地ミサ

［日時］11月5日(日) 14時～
［場所］教区和田墓地［主催］福岡地区納骨堂管理委員会

■福岡パストラルケア研究会
［日時］11月5日（日）14時から［場所］大神学院新館講話室［内容］詳読会　病人訪問［参加費］無料

■ピエタの聖体礼拝
［日時］11月10日毎月第二金曜日13時～14時［場所］師イエズス修道女会聖堂（典礼センター・ピエタ）［内容］二十一世紀に向けて全ての人に恵みを求めて［申込み］☎092・526・9176シスター関口

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］11月16日（木）毎月第3木曜日9時20分［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・533・2326小田部

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］11月19日（日）14時～［場所］大名町カトリック教会4階［内容］遺族へのアプローチ(1)［講師］小早川晶医師（木村外科ホスピス長）［参加費］会員500円：非会員700円
※病院ボランティア募集中［次回］2001年1月21日（日）

■出会いの集い（カナの会）
［日時］11月23日（勤労感謝の日）10時～16時［場所］光丘カトリック教会［内容］語り合いとレクレーション［インストラクター］吉川信雄氏［対象］20歳以上の独身男女［会費］2000円昼食代含む［申込・問合せ先］☎092・771・0793前野（浄水通）・607・6992村尾（大名町）・716・9820平野（茶山）・943・4759各務（古賀）

■SE・CO薄紅葉の集い
［日時］11月23日（木）10時30分より［場所］篠栗・祈りの家［内容］ミサ・講話と高原散歩［講師］松井忠之神父［会費］不要［弁当］各自持参。弁当が必要な方は参加申込の時に申込可1000円［申込み］11月15日（水）まで☎092・512・0033Sr蔵

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］11月26日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）

■在世フランシスコ会集会
［日時］11月26日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って福音に生きる為に。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎・次回12月10日高宮兄弟会選挙集会

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］11月26日（日）14時～［場所］大名町カトリック教会［内容］メモリアルサービス［会費］会員500円：非会員700円［問合先］☎092・713・8523大山：09・607・6992村尾

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］11月14日（火）13時30分～15時［場所］小倉教会［指導］マテオ神父［テーマ］詩編で祈る［問合先］☎093・552・1556安藤

召命祈願ミサ

［日時］：12月14日（木）19時
［場所］聖スルピス大神学院

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］11月2日（木）朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～21時［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［内容］苦しみについての聖書の教え［講師］A・アレグリーニ神父［参加費］無料［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754
［次回］12月7日（木）

◆熊本

■司祭養成の集い
［日時］11月19日（日）ミサ9時・集い10時30分［場所］カトリック手取教会［内容］司祭召命への旅‼ミサと集い＝［対象］信徒・修道者・司祭

■日本カトリック看護協会案内
［日時］奇数月第3日曜日14時半～17時［場所］熊本聖心病院⇩右記のように例会を行っています。［問合せ］☎096・352・7181熊本聖心病院シスター竹内

アフリカ友の会支援

アフリカ友の会代表で、中央アフリカ共和国の首都バンギで活躍中の徳永瑞子さんの帰国報告会を開催します。
日時：11月12日（日）11時15分
場所：笹丘カトリック教会
主催：笹丘教会聖アウグスチノボランティア会
問合：☎092・761・4504（白壁）

編集後記

お気づきのように、「新しい福音宣教」のコーナは、今月号からイエズス会司祭で泰星学園の教師でもあるG・ケルクマン神父様が担当して下さいます。ご期待下さい。

編集で一番忙しい時に、司祭黙想会で自分は良い気分を味わっていました。編集部の皆さん、本当にお疲れさまでした。

帰ってきて、最後の編集にたずさわると、いきなり天国から現実の世界に引き戻された気分と言っては…まずいでしょうね。

何はともあれ、今月号も無事に皆さんにお届けできることを感謝しています。

福岡ホスピスの会がチャリティーコンサート

癒しのピアニスト鎧野泉氏が！
日時：2000年12月4日（月）
場所：福岡銀行本店大ホール
目的：ホスピス普及と市民病院支援
入場料：3,000円（全自由席）
チケット販売：ピエタ、パウロ書院

東光町ルルドの集い

東光カトリック伝道所（博多区東光二丁目）では、毎月11日に「東光町ルルドの集い」を行っています。多くの方の参加をお待ちしています。
日時：毎月11日13時30分から
内容：召命を求めて、ロザリオの祈りとミサ
問合せ先：☎092-522-5139　松井忠之神父

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 多田泰幸



マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。

トーゴ（1971）　「聖母子」　ボッチチェルリの切手

キリスト降誕　２０００年
カトリックフェスティバル

テーマ＝語りかけよう　心をひらいて
私たちはひとりではありません！



散っていた羊が一つに集められた　４０００人の野外ミサ！



アッ！司教さまだ。

11月3日、久留米市の信愛女学院において、大聖年を祝う福岡教区行事「キリスト降誕２０００年カトリックフェスティバル」が開催された。教区各地から子どもや滞日外国人など四千人が集まった。記念ミサの最後に松永司教は「祝いを共にした私たちはもう一人ではありません。神の国の建設のため力を合わせて前進しよう」と激励。

台風一過の秋晴れのもと、福岡教区主催の「カトリックフェスティバル」が久留米信愛女学院を会場に催された。このフェスティバルは、大聖年に何か教区として行事が出来ないだろうかという司教の呼びかけに教区信徒使徒職協議会が提案して始まった企画だった。日程の問題から、大神学院にて開催されていた召命の集いを合わせたものとなり、信徒協を中心に計画が進められた。しかし、規模の問題もあり、教区主催の行事として行われることになった。

松永司教の開会あいさつに始まり、様々な催し物が行われ、会場を訪れた四千人近くの人々の熱気は凄かった。中でも、このフェスティバルに大免償の特典がつけられたためであったかもしれないが、赦しの秘跡のコーナーにはたくさんの行列ができ、中には何十年ぶりに赦しの秘跡を受けたと感動的に話している方もいて、今回のフェスティバルの一つの大きな恵みとなった。今回の中心としてささげられたミサには松永司教・平田司教を始め六十人を越える司祭も信徒と集まった。各小教区から一名の子どもの侍者が司祭の横についたのを始め、予想をはるかに上回る子どもたちが聖歌隊として集い、これからの教区への明るい兆しを感じた。ミサの説教を担当した森山神父は、自分の体験から一人ひとりの信仰を振り返るよう促した。ミサの終わりに挨拶した松永司教は、一人では何もできない弱い者だが、こうして集った私たちはもう一人ではないと力説。参加者も心を打たれて無事閉幕し、決して一過性のお祭り騒ぎとはならない集いとなった。

献堂10周年
14人の堅信式と10周年を祝う
若い世代の家族が集う若い教会
糸島教会





今年創立十周年を迎えた糸島教会は11月12日（日）、祝別式以来初の松永久次郎司教の公式訪問を受け、創立以来主任司祭としての務めを果たしてきた平田三郎司教、糸島教会出身の牧山美好神父と親教会の西新教会出身の田中重治神父と共に創立十周年の祝いと十四人の堅信のミサが捧げられた。松永司教は挨拶の中で、ここに来て、まずカトリックの教会であると感じた と言われた。それは、ここには暖かく、和やかで、柔らかい、家庭的な雰囲気があり、平田司教の指導のもと良く成長してきたと絶賛した。また、教会の信者に若い家族、子どもたちが多いこと、そして子どもたちが教会に来るのが楽しいと言っているのは、本当に教会のあるべき姿がこの教会にあると信者を励ました。平田司教は自分が教区長を引退してから来た年寄りで、しかも車の運転もできず、主任司祭としての務めをちゃんと果たして来れなかったことをお詫びするとともに、信徒全員が今まで協力してくれたこと、そして今回の十周年も自分たちでしっかり準備したことに心から感謝の意を表していた。

糸島教会は17年ほど前、福岡の西新教会と唐津教会の間に教会がなくて不便であるという事で、西新教会の信徒であった生熊来吉先生（故人）宅で家庭ミサを月一回始めたことに端を発した。西新教会の巡回教会として、11年前に教区が現在の土地を購入し、１９９０年に建設された。平田司教も少なくとも二日に一回は現地を見に行くほどの熱の入れようだった。ちょうどその年の10月に平田司教の教区長引退が教皇より認められた。自分が見守っていた糸島教会に司牧者がいないのは耐えられないと司教は感じ、後任としてこられた松永司教に自ら志願して糸島の司牧をする事になった。初ミサが12月30日の聖家族の祝日だったので、聖家族にささげた教会にしようと全員で決めた。１９９１年4月28日に松永司教によって祝別され、29日には教会法上、準小教区として設立された。

終始和やかなお祝いであったが、これを機に、平田司教は糸島の司牧の現役を去ることを決意し、後任として櫻井尚明神父が着任予定となり、これからの歩みを進めることになった。

司祭異動

▽佐賀地区長＝C・ガッザルディ神父［伊万里教会主任兼任］9月25日付け▽熊本地区長＝F・マッケイ神父［武蔵が丘教会主任兼任］▽人吉教会主任＝H・オッカロール神父（手取教会）10月25日付け▽手取教会助任＝ヌエンスワン・ティエン（豊島教会）▽糸島教会主任＝櫻井尚明神父（大神学院）12月3日付け

尚、糸島教会で司牧にあたってこられた平田三郎司教は12月3日に聖母訪問会新田原修道院司祭の家へ移られる。

時の話題

ビジョンは、なに！

長濱　聰

西暦二千年、大聖年は残りわずかとなった。次の千年期へ新しいスタートを切るために企画されたカトリック・フェスティバルも閉幕した。福岡教区はこれからどこへ向かって進むのか、信徒の耳目はこの点に集まり始めている。五年後、十年後の福岡教区はどんな姿になっているのか。何を目指すのか。来年がどんな位置付けをされた年になるのか。教区の目標発表が待たれる。

ところが、教区報10月号の記事によると、どうやら教区全体で目指すものは決めないらしい。「来年は司教が年頭に出される教区の年間テーマを参考にしつつ、小教区を活性化させる具体的な目標を各小教区で決定し、努力すること」を確認し、司教に答申した、と司祭評議会の動きを伝えている。全体の目標を立てない理由は、「各小教区毎に問題点が異なるから」とされている。問題が多少異なるのは事実だろうが、まず共通の目標を示した上で、各小教区が状況に応じて取り組む、というのが採れないものだろうか。背景や今後の展開に明るくないままでの発言は控えるべきだとは思うが、新たな出発の年なのになぜ？というのが率直な感想である。

熊本手取教会では「将来構想委員会」が発足し、幅広く人材を募って、五年後、十年後の構想造りが進められている。同様の動きは北九州や他の地区にも起こっている。これの教区版を作ってみてはどうだろう。信徒の関心も高まるのではないだろうか。そして、教区の活動に計画性が増すのではないだろうか。

司教様の年間テーマを待ちたい。

（八代教会信徒）

みちくさ

今回のカトリック・フェスチバルでは赦しの秘跡を願う信者の列が続いた。このフェスチバルを宗教的雰囲気で包んだのもこの思いがけない現象だったかもしれない。一つのお恵みだったと思う▼第二バチカン公会議の結果だろうか、近頃赦しの秘跡の人気（？）はあまりパッとしないようである。年間、何回かの「共同回心式」の時を除いて、告白場は閑散としている。昔の聖週間のことなどを思いあわせると、今の状態がよいことなのか悪いことなのか、今昔の感に耐えない▼赦しの秘跡は神と魂の出会いの場とも言える。カトリックの特徴の一つとも言うことが出来よう。神の前に自分の過ちを認めて回心の真を示し、神の赦しをいただくのである。赦しの秘跡に群がる信者の姿を見て、カトリックの名を掲げるに相応しいフェスチバルであったと思った▼人は皆罪人である。日々赦しを願うべき者であると教えられている。神は、高ぶる者を低くし、へりくだる者を高められるお方である。人は自分の過ちを認める時、神に最も近いのである▼大聖年の全免償の特典が赦しの秘跡に人々を誘った理由の一つと云う人も少なくない。そうであろう。だけど何はともあれ神との和解の機会を得て、それに与った信者の心こそ賞賛すべきであろう▼信者の心には神との和解を求め、神の赦しを願う本当のカトリックの信仰が残っている。二十一世紀を前に、種々のことが大切であるが、神との平和に生きることが何よりも大切であり全ての基本と言えよう。フェスチバルで示されたカトリックの心が毎日の生活の場で、そして平常の司牧の要点として活かされるよう、願っていきたいものである。（M）

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】　人権の擁護と促進

【布教の意向】　子どもの人権の尊重

【日本の教会の意向】　新しい世紀への移行

フェスティバル開催に感謝のメッセージ

カトリック・フェスティバルが無事終了しました。実行委員会の方々をはじめ、また関係し、ご協力してくださった全ての方々に心からお礼申し上げます。二十世紀の締めくくりとして、カトリック教会の存在を示し、共に集う喜びをたしかめあえたことは、素晴らしいことだったと思います。

時ならぬ台風の訪れにもかかわらず当日は秋晴れの良い日に恵まれ、沢山の参加者を集めて、お祝いを挙行出来たことは誠に喜ばしいことでした。云わば、天の応援のもとに、喜びのうちに、信者であることを確かめ、一つの使命に生きていることを思い、力強さを確認しあえたことは、誠に美しいことだったと思います。これから後も何時までも、同じ心で同じ喜びをもって、同じ道を歩み続けて参りましょう。

二十一世紀はもうすぐそことなりました。新しい未来が待っています。希望をもって力強く前進して行きましょう。このカトリック・フェスチバルで確かめた信仰仲間と共に、この地上での使命を全うし、栄光の御国に向かって頼もしく進んで参りましょう。

福岡教区長　松永　久次郎司教

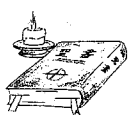
2・3日前からの空模様にハラハラしながらも、当日は秋晴れのすばらしいお天気に恵まれ、久留米信愛学院の各会場は信徒の皆さんでいっぱいになりました。カトリックフェスティバル開催は、皆さんにたいへん喜んでいただきました。詳しいご報告は後日行いますが、実行までに関わってくださった皆さん、特に会場を快く開放してくださった久留米信愛女学院の方々に深く御礼申し上げます。また、参加して下さった多くの皆様に実行委員として心よりお礼と感謝を申し上げます。

カトリックフェスティバル実行委員長　川島　晋一

新しい福音宣教とは何か

新しい福音宣教⑧

G.ケルクマン神父



マタイによる福音書の終わりにイエズス様が弟子たちにこう言っています。「あなたたちが行って、すべての民を私の弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」（マタイ28、19～20）

この聖書の箇所をここに詳しく聖書学的に説明することは出来ませんが、文法的に見れば、イエズス様は「すべての民を私の弟子にしなさい」という命令形を使っています。その後で「洗礼を授けながら」と「教えながら」という現在分詞を使っています。やはり弟子にするために二つの方法があるようです。「洗礼を授ける」と「教える」。

もちろん教会はいつも両方を大事にしてきましたが、時代によっては、「洗礼を授ける」、つまり信者をできるだけ増やして、具体的な教会を創立することに力を入れました。この宣教論は「教会を植える」と呼ばれていました。若い木と同じように教会を新しい国に植えて、大きくて強くなるまで大事に育てることこそ宣教活動であるという考え方でした。この考え方の代表的な姿は聖フランシスコ・ザビエルでしょう。もちん聖フランシスコ・ザビエルも福音を「教える」ことを決して忘れていなかったが、どちらかと言えば、「教会を植える」ことが第一の課題でした。宣教地でのザビエルはすぐにたくさんの人々に洗礼を授けて、いくつもの小教区を作りました。まもなく彼の後継者がセミナリオを創立して、日本人の司祭を育成しました。もちろん聖フランシスコ・ザビエルも福音を「教える」ことを決して忘れていなかったが、どちらかと言えば、「教会を植える」ことが第一の課題でした。宣教地でのザビエルはすぐにたくさんの人々に洗礼を授けて、いくつもの小教区を作りました。まもなく彼の後継者がセミナリオを創立して、日本人の司祭を育成しました。

たくさんの宣教師が文字通りに全世界に出かけて、このように福音宣教しました。今たくさんの国々に若い、強い、活発な教会があれば、それはこのような考え方を抱いた宣教師のお陰です。

しかしこの宣教論にいろいろな問題があります。あまりにもヨーロッパ中心主義ではないでしょうか。キリスト教とヨーロッパの文化を十分区別することが出来なかった宣教師もいれば、現場の文化を高く評価して、その国の文化に適用な形で福音宣教した宣教師もいました。

20世紀の後半に、若い教会には地元の司教がその任を受けたことで、「教会を植える」時期が終わったと言えるかもしれません。（イエズス会　司祭・泰星学園教師）

写真でつづるカトリックフェスティバルの名所の数々！



▶続々と会場に入ってくる参加者。各教会の旗をなびかせたり、各自リボンを付けたりはぐれないように工夫をして、福岡、北九州、佐賀、熊本など教区の隅々からバスや車で会場に到着する信徒たち。

▶前日から会場に入り、こども広場やミサのための祭壇つくりに、また、演劇も参加者を喜ばせた全員参加の大神学生。



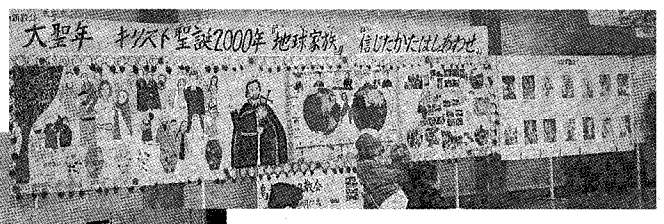
▶開会式の直後、ベリオン神父、山元神父、伊東神父、中村彰神父、Sr.井上のパネルディスカッション。テーマは「これから目指す、教区の在り方」。



▶各地の出し物で火の国おんどを踊る熊本地区のみなさん。



▶大好評だった水巻教会による餅つき大会。たくさんの行列ができ、つく人はヘトヘト。



▼北九州地区の出し物、小倉祇園太鼓の熱演。

▲出し物会場に堂々の作品を展示したのは鳥栖と多久の教会の子どもたち。60人もの子どもが参加した。



▼うれしそうに歌う子どもたち。



▼岡本指揮者（大名町信徒）のもと結成された子ども大聖歌隊。



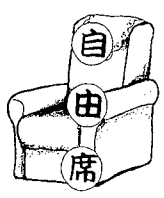
▲各教会から侍者も参加。チボリウムを捧げて奉仕。



◀4000人の信徒が共に集い、祈り、歌った野外ミサ。

たくさんの出し物があり、ここではその一部しか紹介出来ない。しかし、参加した者にとっては出会いがあり、語りかけがあり、本当に心を開く機会、きっかけとなった。

カトリックフェスティバルに参加できた！



和田　直子

今年はやはり「大聖年」「大、大ヨベルの年」にふさわしく、カトリックフェスティバルは「何かが違う！」集いでした。

実に多くのイベントが企画されどれに参加しようか悩む程。結局分刻みに会場をチョロチョロと移動することになりましたが、清々しい秋風に吹かれながらの移動時間も決して無駄ではなく、久しぶりに会う友人たちと「やぁー久しぶり」と目じりを下げて話すことができ、とても幸せな一日でした。

特に、一番の恵みは御ミサでした。森山信三神父様のいつものわかり易いお説教には感動しました。そして強く心に響いたのは、松永司教様の閉祭の時、開口一番の「私たちはもう一人ではありません」のお言葉でした。本当にそう感じました。これだけ大勢の人が、主の栄光を礼拝し賛美するために今日ここに集まり、今本当に一つの体、イエス様を頭に、一つになっている実感がありました。自分ひとりでは弱いけれど、本当にイエス様の木に自分が離れず繋がっている限り大丈夫だという安心感をあらためて感じました。

森山神父様の話の、「五つのパンと二匹の魚……多くの人が満たされた」。このフェスティバルでここに集まった全ての人が満たされたと思います。実行委員で早くから計画、準備された方々に本当に感謝します。今年これに参加できなかった人たちはもったいない。そう言いたいくらいです。

大聖年も「もう、たった二ヶ月しか残っていない！」の焦りを感じながら、これから気を引き締めなおしていこう思っています。

手取教会信徒

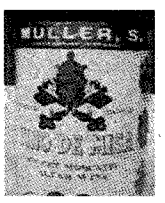
2000年待降節　黙想会と祈りの学校

① 12月1日(金) ～ 3日(日)　平山　高明 司教様［限定15名］
② 12月8日(金) ～ 10日(日)　マテオ・ベッター神父
③ 12月15日(金) ～ 17日(日)　来住　英俊 神父《祈りの学校：ロザリオを操る》
④ 12月22日(金) ～ 25日(月)　ガブリエル 神父／鈴木神父

①～③16：00受付～最終日15:30迄　／会費：12,000円
④　16：00受付～最終日昼食後迄　／会費：18,000円
※　部分参加をご希望の方はご相談下さい。

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

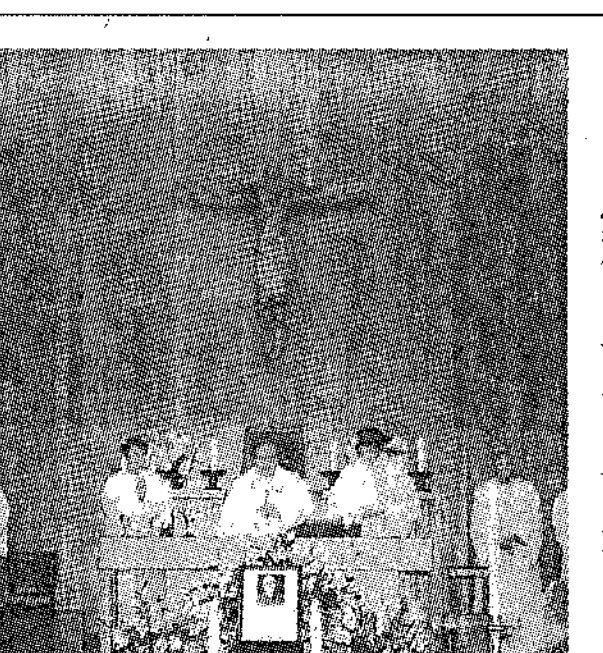
フランソワ徳山登神父追悼ミサ　3人の司祭と2人の信徒が思出を偲ぶ

小倉教会

10月16日に帰天されたフランソワ徳山登神父の追悼ミサが、神父が司牧に当たられた黒崎教会、天神町教会、八王子パリ・ミッション会九州本部にてささげられた。教区葬としても良かったのだが、むしろ徳山神父と関わりの深かった人、場所で追悼ミサがささげられる方が望ましいという事でこのような形となった。


別れを惜しむ信徒と司祭団

11月19日には小倉教会にて追悼ミサがささげられた。このミサに寄せて、松永司教は「日本を愛した活発な宣教師であり、特に貧しい人と共に歩む教会を本当に身をもって実践された方だった」と追悼のメッセージを送った。現在の小倉教会の聖堂は徳山神父が主任司祭であった1958年（昭和33年）11月、本国のフランスで献金を集めるなど、必死に資金を調達して建設した教会でもある。参加者の中には、戦後の混乱期で、本当に貧しかった自分たちの家族のことを心から思いやってくれ、物質的にも支えられた忘れられない恩人であり、本当に天国での安息をお祈りしますと感想を述べていた。

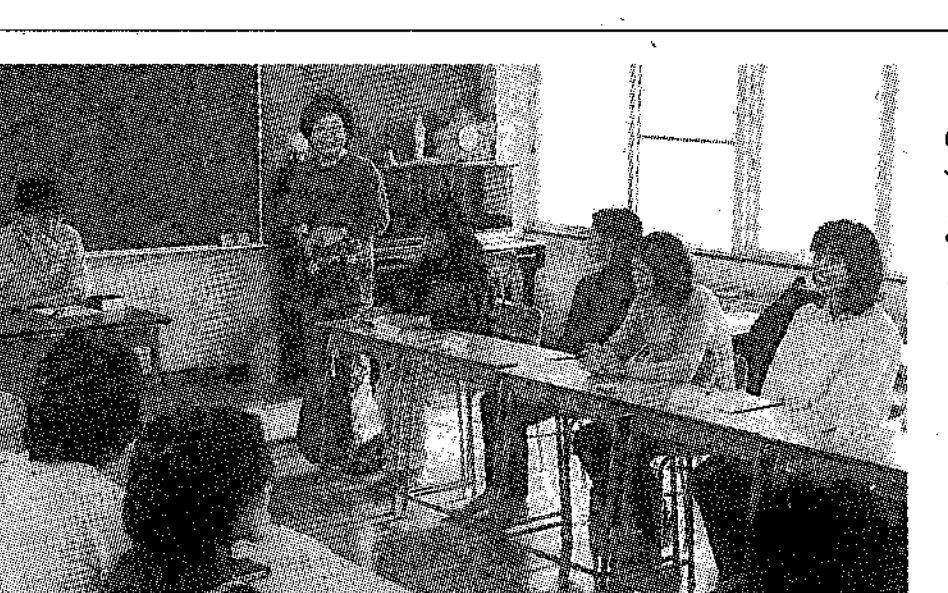


ヤングママ黙想会　テーマ　キリストのこころ

地区婦人会

10月30日（月）、福岡教区地区婦人会は恒例の「ヤングママ黙想会」を召命の家で行った。

この集いは、地区婦人会の構成メンバーは「福岡地区の全女性信徒」という会則がある。年間では教区行事の手伝いや奉仕活動、黙想会や研修会なども行われ自由に参加できることになっているが、子育て中の若い母親が参加できないこと、主日のミサにも参加困難な娘やお嫁さん年齢のヤングママに、子育て卒業の熟年組がベビーシッターになり一日をゆっくり神様と語らう時を提供しようと始まったものである。


ゆっくりと神様との語らいの時を持った若いお母さん

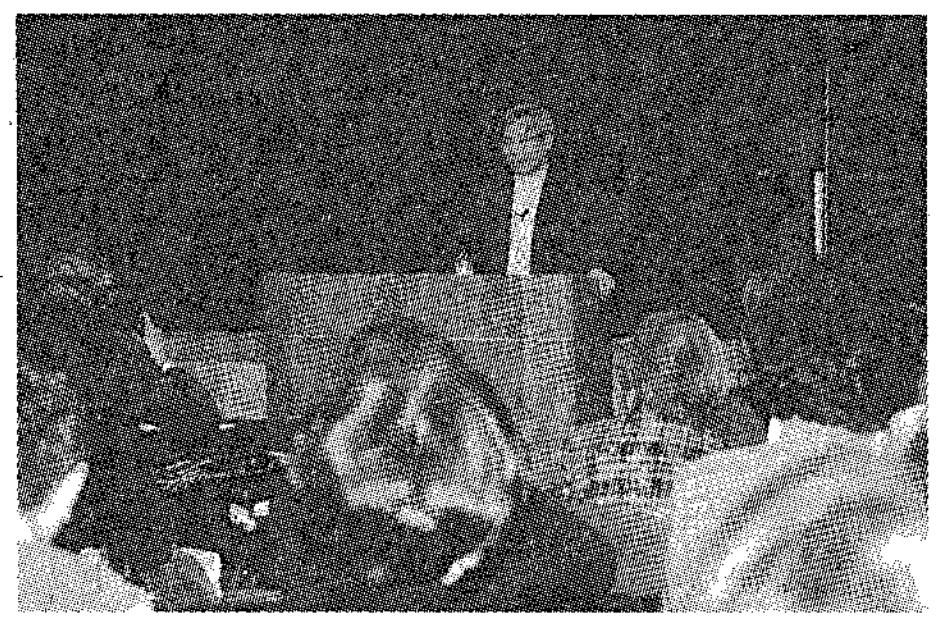
プログラムは午前中に講話、続いてミサ、昼食の後、分かち合いや質疑、ゆるしの秘跡となっている。今回は櫻井尚明神父を講師に「キリストの心」をテーマに講話があった。

午後の分かち合いで子どもの教会学校との関わり、地域行事との関わりの難しさを訴える人が多かった。それでも「ゆっくりミサに与られたことに感謝しています」、「神父様のお話を伺いイエズス様が示されたように、他人に対して思いやりのある子、苦しい時も自分のことばかり考えないで人のことも考えられる子に育てたい」などの感想が話されていた。「こんなに素晴らしい集いに参加者が少ないのは残念」という参加者自身の声に、最近は「ヤング」というネーミングに戸惑いながらという参加者もあるが、今回の十六人という人数に「これも少子化社会のせいでしょうか」と主催者は戸惑っている。

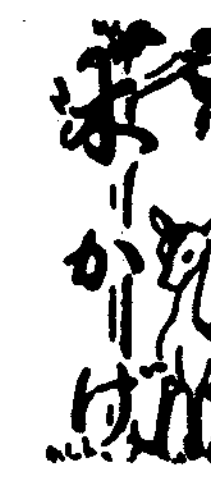
2000年度聖書週間　雨宮神父を迎え特別聖書講座

11月19日（日）、カテドラル大名町教会において教区の聖書委員会（委員長森山信三神父）は聖書週間に因み特別聖書講座を開催した。教区各地から、二百人近い参加者があった。

講師の雨宮慧神父（東京教区）はイザヤ書44章とフィリピ書2章について、文の構造を分析し、語彙の意味を確かめながら読み進むうちに、救いのメッセージが浮き彫りにされていった。聖書を読むに当たっての基本的な心構えとして、とにかくじっくりと聖書本分を読む事、すぐに注釈書を開いたり、教会の統一的な釈義を求めず自分に語りかけることばに耳を傾けること、聖書を深く読むには執筆年代、時代背景などある程度知識を増やしていくための『勉強』が必要なことなどが指摘された。


雨宮神父と参加者

「聖書を読んで人生の疑問への答えがいつもすぐに見つかることはないかもしれない、しかし生きる勇気と希望を必ずいただくことができる」ことを実感した講習であった。



あたらしいふる里で想う

福岡から大阪へ転住となって早くも6ヶ月になる。大阪に来たからには大阪を愛し、大阪人になろうと、ただ今、ボチボチながら「大阪学」を勉強中。町をよく知るためにも、教会の行事や集いをはじめ、地域のおまつりにも努めて出かけることにしている。

努力したからとて一朝一夕に大阪人になれるわけもない。

郷土愛をひきずっているからか。長崎県生まれとはいえ、東京や福岡で何年か生活すれば、そこが第二第三のふる里になってしまい、忘れがたくなる。方向は逆だけれど「東風吹かば匂いおこせよ…」と、管公の心境もちょっぴり。

心千々に乱れるほどではないが、プロ野球といえばホークス、高校野球では九州代表、大相撲となれば生月出身の隆乃若、そして魁皇らの成績が気になり、一喜一憂の日々。どうも、聖パウロのように「ひたすら前に向かってばく進」というわけにはいかないようだ。ふる里は遠くにありて…いや、やはり近くがいい、年のせいか。気を取り直し、遠からず大阪もわが愛する第四のふる里にしようと決意。

8月下旬、大坂教会管区司祭研修会があった。神学生を含めて30歳から79歳まで、一三四人が一堂に会した様は壮観であった。3泊4日、13分団による分科会と全体会がもたれ、21世紀に向けて教会のあるべき姿を模索するという、有意義な時を持つことができた。

二つの発見があった。その一。年齢順による参加者のリストを見たら、小生はなんと31番目（福岡では57番目）！福岡とは大違いでショック。

彼岸のふる里がぐっと近くなった気分だ。その二。同好の士（師）を一人得た。大学時代から「聖年の切手」を収集しているA神父様である。

大坂では聖書展が来年開かれる。福岡で手伝った聖書展を思い出し、二人で切手展をやろう、と話し合った。

神に感謝。

（聖パウロ会　百村等神父）

熊本信愛女学院百周年　体育祭・音楽会・講演会など記念行事

ショファイユの幼きイエズス会が経営する熊本信愛女学院が今年創立百周年を迎え、11月1日に記念式典が挙行された。当日はあいにくの雨にも関わらず、全校生徒、関係者や卒業者、県知事をはじめとする来賓の方々、松永司教、幼きイエズス会の総長、管区長などを迎え、会場となった熊本市民会館を熱気と人で埋め尽くした。これに先立ち、5月には記念体育祭、ならびに松永司教司式による記念ミサがささげられた。また、当日は記念式典に続いてアグネス・チャン氏を講師に迎えて記念公演が行われ、祝宴が催された。続く2・3日には記念の文化祭「華秋祭」も催され、盛大に百周年が記念された。


現在の信愛女学院正門とキャンパス

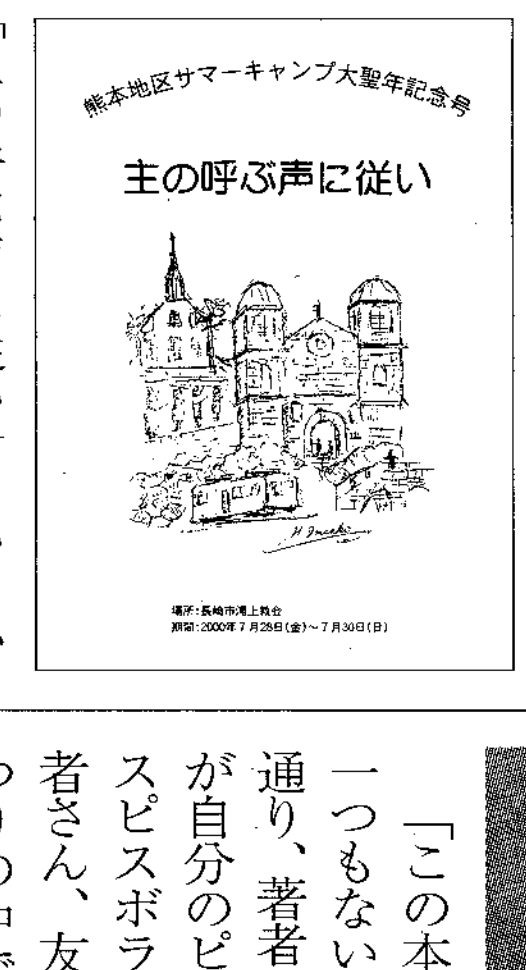
熊本信愛学園の創立者シスターボルジアは1877年（明治10年）、禁教令が解けたばかりの日本に派遣され、1894年（明治27年）に熊本に着任した。当時の熊本のらい病人の救護、貧しい子どもたちの保護を活動の主体としていた。その中で、1900年5月に現学園の全身となる「熊本玫瑰女学校」を創立し、校主・校長に就任している。当時、カトリック、そして外人に対する偏見など、厳しい環境の中でスタートした学校は、その後神様の恵みのもとに発展、1947年（昭和22年）学制改革で「熊本信愛女学院」と改称、現在に至っている。

学院関係者を始め、生徒たちも大聖年であり、二十世紀最後である今年、百周年という節目に自分たちが与れたことに感謝し、二十一世紀に希望を持って前進しようと決意を新たにしていた。

大聖年サマーキャンプ　実りが本になった

熊本

熊本地区信徒協では例年行ってきた子どものサマーキャンプが大聖年を記念し7月28日から30日までの3日間、引率者など七十七人が参加し「長崎巡礼」を行った。浦上教会のご好意で信徒会館に宿泊し、長崎市内と近郊の教会、26聖人殉教記念館、聖コルベ聖堂と聖母の騎士ルルド、如己堂などを巡礼。歩いて得た発見と喜びの感想や写真を「主の呼ぶ声に従い」という小冊子にまとめ出版した。



希望者には500円で販売できるということである。

［申込み・問合先］は、☎096・380・5686堺敬子

BOOK 読みま専科

★小石のひびき—C年
主日福音のキーワード
雨宮　慧　著



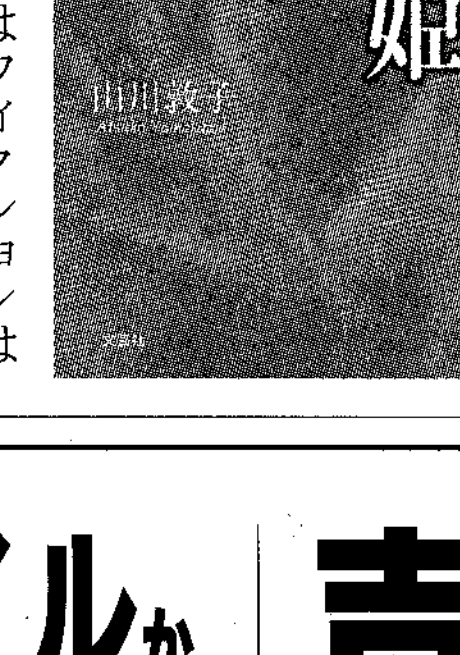
日曜日の福音から一語を選んで解説。一つの言葉を味わうと、次々に聖書の扉が開かれ、さまざまな視点で聖書を楽しむことができる。著者はA年のあとがきで「聖書の魅力は万華鏡にたとえられる」といっている。小さな紙片にあたるのは、聖書の一つ一つの言葉。少し視点をずらせば、まったく違った美しい世界が見えてくる。

聖書のもつ重みとそこから広がっていく思いがけないふくらみに尽きない興味を起こさせる小著である。

女子パウロ会　発行
本体　一一五〇円

◇　◇　◇

★逆かぐや姫
山川　敦子　編



「この本にはフィクションは一つもない」とあとがきにある通り、著者（久留米教会の信徒）が自分のピアノの生徒さん、ホスピスボランティアで関わる患者さん、友人知人や家族との関わりの中で起きたことを題材に、一般新聞の読者の投稿欄に「はがき随筆」などで投稿してきたものを一冊にまとめたものである。

文芸社　税抜　一〇〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

ご聖体の秘跡に親しみ ご聖体の心を活きる！

IUBILAEUM A.D. 2000

キリストは
きのうも
きょうも
永遠に！

2001年福岡教区行事

1月
1日（月）　新年ミサ［カテドラル10：00］
9日（火）　司祭新年の集い［浄水通教会11：00］
18日～25日　キリスト教一致祈祷週間
2月
6日（火）　司祭評議会［司教館別館10：30］
26日（月）　今村信徒発見記念日
3月
6日（火）　司教様霊名の祝い［浄水通教会11：00］
19日（月）　聖ヨセフ　松永司教霊名の祝日
4月
1日（日）　花岡山殉教祭
8日（日）　受難の主日［世界青年の日］
福岡教区司教座特別献金
10日（火）　聖香油ミサ［カテドラル15：00］
司祭叙階記念の祝い
13日（金）　聖金曜日　福岡教区司教座献堂記念日
15日（日）　復活の主日
22日（日）　菊池教会50周年記念ミサ
5月
2日～5日　クルシリヨ［黙想の家］
13日（日）　箱崎教会堅信式
20日（日）　世界広報の日　広報研修会
6月
3日（日）　聖霊降臨の主日
合同堅信式［カテドラル14：00］
6日（水）　助祭・司祭候補者認定式［大神学院］
26日～28日　福岡教区全司祭研修会
7月
8日（日）　二日市教会創立50周年と堅信式
8月
12日（日）　平和を祈る集い［カテドラル13：00］
15日（水）　教区墓地ミサ［和田墓地14：00／各地］
9月
4日（火）　2001年度第1回司祭評議会［10：30］
15日（土）　福岡地区信徒協研修会
23日（日）　カトリック国際協力の日
10月
8日（火）　むなかたTEN・TENまつり
15日～19日　福岡教区司祭黙想会［黙想の家］
11月
4日（日）　教区墓地ミサ［和田墓地14：00／各地］
21日（木）　聖マリアの奉献　大神学院祭
12月
2日（日）　待降節第1主日
宣教地司祭育成の日

クリスマスキャロルの夕べ　熊本

日時：12月22日(金) 19時から
場所：手取カトリック教会聖堂（鶴屋百貨店前）
※み言葉を聞き、クリスマス聖歌を歌い静かに主のご降誕をみんなで待ち望みましょう。

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　12月

◇1日（金）～3日（日）　待降節黙想会［平山高明司教］
ユースフルライフ・カウンセリングワークショップ
◇4日（月）～13日（水）　聖母訪問会黙想
◇8日（金）～10日（日）　待降節黙想会［マテオ神父］
◇15日（金）～17日（日）　祈りの学校［来住神父］
◇22日（金）～25日（月）　待降節・クリスマスの黙想
［ガブリエル神父・鈴木神父］
◇26日（火）～1/4日（木）　援助マリア修道会黙想

※二面に広告いたしました「黙想会と祈りの学校」もお待ちしています。

※新年1月5日（金）～11日（木）まで休館いたします。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。

※祈りの集い
テーマ：私は永遠のいのちのパン
・12月14日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父
古川和雄神父

※生命山の霊性
自　然：神はすべてを創り、人の手に委ねられた。
祈　り：陽が昇るところから、陽が沈むところまで。
静けさ：沈黙の中に神の言葉を聴こう。
交わり：信仰体験を分かつ。

［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

◆福岡

■福岡パストラルケア研究会
［日時］12月3日（日）14時から［場所］大神学院新館講話室［内容］現在医療と介護保険について［講師］輝栄会病院長中村吉孝先生［参加費］700円　介護保険についての質問時間も設けています。

■一日静修のご案内
［日時］12月8日（金）10時から15時30分［テーマ］二十一世紀を迎える私たちに求められていることは［講師］大神学院院長大山悟神父［場所］浄水通教会［企画］師イエズス修道女会［参加費］三千円（昼食費含む）［内容］黙想・反省・個人的いのり・ゆるしの秘跡そして派遣と祝福のミサで静かな待降節の一日を過ごしましょう。
［申込先］☎092・526・9176　Sr.関口

福岡市民クリスマス

日時：12月11日(月) 18時
場所：福岡市民会館大ホール
メッセージ：川野直人牧師
（久山療育園理事長）
賛助出演：ヴァイオリンの大倉めぐみさんと鈴木メソード教室福岡支部の皆さん
入場無料です。

■在世フランシスコ会集会
［日時］12月10日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会員選挙集会。ミサと学習［指導］片岡哲夫神父［問合先］☎092・843・5831岩崎・次回1月28日

召命祈願ミサ

［日時］12月14日（木）19時15分～［場所］大神学院［司式］岩永義人神父（本郷教会）と有志の司祭方［主催］召命を共に祈る会と大神学院

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］12月21日（木）毎月第3木曜日9時20分［場所］高宮カトリック教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・533・2326小田部

■第27回典礼聖歌講習会
［日時］1月14日（日）13時から［場所］光丘カトリック教会［講師］深堀純氏（大名町教会）［問合先］☎092・623・5023有馬

■第82回福岡結婚準備セミナー
［日時］1月17日（水）～2月10日（土）全8回毎水曜日と土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207　FAX552・5022

■福岡生と老い死を見つめる会
※12月は休会［次回］1月28日［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■福岡ホスピスの会勉強会
［次回］1月21日（日）14時～［問合先］福岡ホスピスの会☎092・737・3701

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。せっけん・ハブラシ等洗面用品。越冬炊き出しの季節になりましたのでそちらのカンパもよろしくお願いいたします。
［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］12月12日（火）13時30分～15時［場所］小倉教会［指導］V・マテオ神父［テーマ］詩編で祈る［問合先］☎093・452・1556安藤

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］12月7日（木）朝の部10時～11時30分：夕の部19時30分～21時［場所］佐賀教会信徒会館［内容］苦しみについての聖書の教え［講師］A・アレグリーニ神父［参加費］無料［テキスト］聖書［問合先］佐賀教会聖書を読む会☎0952・23・4754

◆熊本

■第64回熊本結婚準備セミナー
［日時］1月23日（月）～2月20日（火）毎月曜日と火曜日19時～21時30分［場所・問合先］手取教会☎096・352・3030　FAX352・1515

編集後記

20世紀最後の教区報です。大きな節目でもあり、編集に携われて感慨深さと責任感が心にわき出ています。この節目にフェスティバルの特集が組めたのも一つのお恵みでしょうか。
色々とあったこの一年、そして今世紀の締めくくり、また新世紀の扉を開けるミサを真夜中にささげる教会も多く、今回その時間も掲載しました。良き主の降誕と新年をお迎え下さい。

12月のこよみ

3日（日）　待降節第1主日
鳥栖教会堅信式
宣教地司祭育成の日（献金）
7日（木）　聖アンブロジオ†S.アクワビバ（佐賀地区1984）
8日（金）　無原罪の聖マリア
10日（日）　待降節第2主日
13日（水）　聖ルチアおとめ殉教者
14日（木）　十字架の聖ヨハネ
17日（日）　待降節第3主日
†M.コニリー［手取教会1990］
18日（月）　†J.マグラ［手取教会1976］
19日（火）　†パウロ青木功［西新教会1973］
20日（水）　†M.ソーレ［1917］
23日（土）　天皇誕生日
†A.ベニエ［1983］
24日（日）　待降節第4主日
降誕祭夜半ミサ［カテドラル20：30］
25日（月）　主の降誕
26日（火）　聖ステファノ殉教者
27日（水）　聖ヨハネ使徒福音記者
28日（木）　幼子殉教者
31日（日）　聖家族　大晦日

2000年降誕祭深夜ミサと年越しのミサ時間

教会	降誕深夜	年越し	教会	降誕深夜	年越し	教会	降誕深夜	年越し
福岡地区			本郷	18:30		鹿島	18:00	
糸島	20:00			21:00		唐津	20:00	
今村			吉塚	19:30		佐賀	19:00	0:00
大楠	20:00		南粕屋(巡)	19:30			20:00	
大牟田	17:30		老司	19:30	0:15	多久	20:00	
	20:00		北九州地区			武雄	20:00	
小郡	19:30		飯塚	19:30		鳥栖	19:00	
久留米	19:00	0:00	黒崎	19:00	0:15	馬渡島	19:00	
	22:00			22:00		呼子	19:00	
古賀	19:00	23:00	小倉	18:00	0:00	熊本地区		
	23:00			20:30		荒尾	19:00	
笹丘	19:30			23:00		大江		
浄水通	18:00		新田原	20:00	0:00	帯山		
	20:00		田川	18:00		菊池	20:00	
大名町	18:00	23:30	天神町	20:00		健軍	19:30	0:00
	20:30		戸畑	20:00		崎津		
	0:00		直方	19:00		島崎	19:00	
高宮	20:00	23:45	水巻	19:30		玉名	19:00	
茶山	20:30	0:00	門司	19:30		手取	19:00	0:00
西新	19:00		湯川	19:00	0:00		23:00	
箱崎			行橋	18:30		人吉	20:00	0:00
光丘	19:00	0:00	豊津		0:00	本渡	19:30	0:00
二日市	20:00	0:00	若松	19:30		水俣	20:00	0:00
美野島	国際ミサ		佐賀地区			武蔵ヶ丘	19:30	0:00
	18:00		伊万里	20:00		八代	19:30	0:00

※12月24日も12月31日も日曜日ですから、各小教区とも午前に主日のミサが捧げられると思いますので24日の夜半のミサと31日は年越しの深夜ミサを行われる教会についてのみ明記しました。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 多田泰幸